

男也會會誌

第十二年

特233

911

昭和十三年九月三十日



ONARIKAI

始





を
な
り
會
會
誌



第
十
二
号



目次

男也會第十二回總會寫真……………

男也會關東支部會寫真及寄書……………

男也會趣旨……………

教室業績一覽……………

男也會記事……………

第十二回總會記事……………

關西男也會記事……………

教室拔萃一覽……………

會計報告……………

男也會會則……………

通信談話欄

北支より……………	押味賢治…六	北支より……………	佐藤正太郎…一八
太原より……………	押味賢治…六	上海より「負傷せり」……………	鹽澤正俊…一九
山西省より……………	押味賢治…六	内地還送……………	鹽澤正俊…一九
山西省〇〇より……………	押味賢治…六	再び戦線へ(若松より)……………	鹽澤正俊…一九
德縣城ラマ塔の繪葉書……………	押味賢治…七	中支より……………	鹽澤正俊…一九
汾陽より……………	押味賢治…七	同第二信……………	鹽澤正俊…一九
天津より……………	多賀榮…七	同第三信……………	鹽澤正俊…一九
汾陽より……………	多賀榮…七	同第四信……………	鹽澤正俊…一九
汾陽より第二信……………	多賀榮…八	木村教授宛……………	太田嘉太郎…二〇

學會のあとさき……………	三	釜石より……………	川崎武夫…三
上洛軍より……………	三	札幌便り……………	羽生今朝雄…三
留守軍より激勵電報……………	三	北支便り……………	佐藤正太郎…三
京都より釜石に歸りて……………	三	古川より……………	佐藤つる子…三
洋行中獨逸ハンブルグより繪葉書……………	三	大邱便り……………	小山芳輝…三
……………		東北帝大醫學部滿洲國巡廻診療團……………	内山泰…三
……………		……………	軍醫豫備員として應召……………
……………		……………	同……………
……………		……………	同……………
……………		……………	應召に際して……………
……………		……………	佐藤儀英…三

感想、詩歌など

庭池……………	松岡茂…六	教室點景……………	八路…元
信濃だより……………	黒羽武…六	うめくさ……………	……………

行樂、漫談

身邊雜記……………	黒羽武…三	蠅の寝言(其の二)……………	沐生…三
銀座裏病院風景……………	○ ○ 生…三	二研の窓から……………	U 生…元
温泉素描……………	橋本生…三	忍びよる暗黒街……………	無記銘生…三

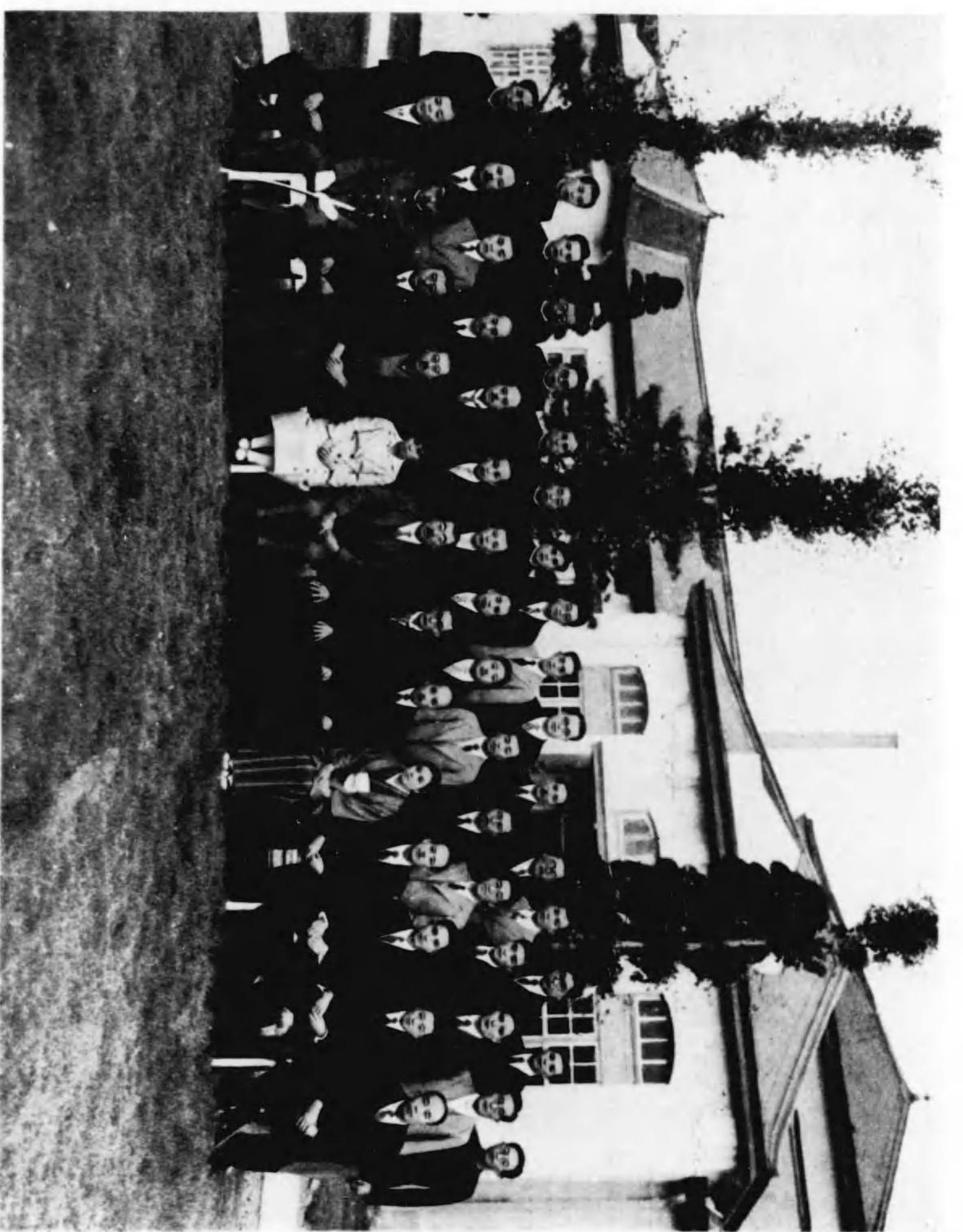
會員動靜一覽……………	……………	……………	……………
應召會員紹介……………	……………	……………	……………
新入會員紹介……………	……………	……………	……………
會員名簿……………	……………	……………	……………

1 齊藤虎雄……………	12 坂本鹿一……………	23 石崎芳郎……………	34 川利章……………
2 横山成治……………	13 名倉田有……………	24 永澤正三……………	35 櫻井前……………
3 赤星三郎……………	14 栗田同……………	25 萩原三郎……………	36 川重和……………
4 那須省三……………	15 松岡義雄……………	26 佐藤重久……………	37 橋本等……………
5 田代修藏……………	16 石山引今……………	27 伊藤重正……………	38 川重和……………
6 星村三先……………	17 山引今……………	28 伊藤重正……………	39 竹田久……………
7 木永三郎……………	18 引今……………	29 山加……………	40 佐川久……………
8 岩永三郎……………	19 今……………	30 加……………	41 佐川久……………
9 佐藤三郎……………	20 四ツ井……………	31 加……………	42 川久……………
10 遠藤三郎……………	21 内……………	32 加……………	43 川久……………
11 水島……………	22 内……………	33 加……………	44 川久……………

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44
---	--

1 5 3 4 2 6 7 8 9 10 11 15 12
 14 12 16 15 18 12 20 21 22 26 40 41 45 43 44
 30 31 35 33 34 32 36 31 32 36 40 41 45 43 44

11	水島	35	山田	22	藤田	44	藤田
10	藤田	31	藤田	35	藤田	43	藤田
9	藤田	30	藤田	31	藤田	45	藤田
8	藤田	18	藤田	30	藤田	41	藤田
7	藤田	18	藤田	28	藤田	40	藤田
6	藤田	17	藤田	38	藤田	38	藤田
5	藤田	16	藤田	31	藤田	31	藤田
4	藤田	12	藤田	30	藤田	21	藤田
3	藤田	14	藤田	32	藤田	28	藤田
2	藤田	13	藤田	34	藤田	22	藤田
1	藤田	15	藤田	33	藤田	24	藤田



會總同武拾第會世男・日念記年週武拾武第始創學校
 日拾月拾年武拾和昭

16 17 18 19 20 22
 11 12 13 14 15 21
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1 笹田 衛
 2 武藤 完雄
 3 内山 泰
 4 木村 先生
 5 井波 練四郎
 6 水島 輝文
 7 橋本 照治
 8 栗原 輝信

9 永澤 正三郎
 10 松岡 茂
 11 伊勢 重久
 12 佐藤 光永
 13 加藤 貞行
 14 品川 利郎
 15 加藤 貞雄
 16 加藤 政勝

17 川崎 武夫
 18 荒木 忠
 19 四ツ柳 正造
 20 奥田 美直
 21 山村 新之助
 22 森 良二



(テ於=清魚市都京・夜日二月四年三十昭昭) 會部支東關會也男

昭和十三年四月二日
 東京 關東支會
 會部支東關會也男
 謹啓
 敬啟者
 本會部
 於三月三日
 在東京
 舉行
 大會
 由是
 以來
 本會
 各部
 均極
 發達
 誠恐
 未週
 敬請
 諸君
 諒察
 此致
 敬禮
 關東支會
 會部支東關會也男
 謹啓

書寄ノ日當

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

17 川 沙 矢 夫
 18 川 木 忠
 19 川 崎 五
 20 川 崎 美
 21 川 崎 直
 22 川 崎 二

9 未 三 五 新
 10 未 三 五 新
 11 未 三 五 新
 12 未 三 五 新
 13 未 三 五 新
 14 未 三 五 新
 15 未 三 五 新
 16 未 三 五 新

1 新 川 田
 2 新 川 田
 3 新 川 田
 4 新 川 田
 5 新 川 田
 6 新 川 田
 7 新 川 田
 8 新 川 田

男也會趣旨

大正四年七月、東北帝國大學に新に醫科大學の開設せられしに當り、我教室も亦同年八月十日を以て片平町舊醫學専門部校舍より現在教室に移轉し來れり、即ち八月十日は實に恩師木村教授によりて我病理學教室の創始せられたる記念日なりしなり。

昨大正十四年夏、甫めて此日を卜して教室創立滿十周年の記念會を催したれども、之れ實に先生の御發意に因りて起れるものにして、生等の放漫なる、年々此牢記すべきの日を閑却し來りしを願て、寔に自責の感に不堪るものありき。況や十年の歲月を唯之れ吾等門下生の撫育にのみ過されし先生に對し奉りて、爾時また何等謝恩の舉にも想到せざりしに於ては、生等の不敏亦實に極矣と云ふべし。

茲に本年度再び此記念すべき八月十日を迎ふるに際し、深く前非に鑑る所あり、生等が先生に對する謝恩の實を形體化すべく、先づ其機關の設立を計らんとす。即ち、吾等一度教室員として親しく先生に師事せる門下生は固より、其他先生の御指導により御援助によりて之を徳とし、感謝の至情に於て相通する者一同、一致協力して其聯絡を不斷にし、相倚り相援けて以て恩師並に恩師を中心とせる我教室の隆盛ならんことを圖り、之によりて先生が御洪恩の萬分一にも報い奉らんとす。

惟ふに吾等の先生を徳とする所以は敢て喋々を要せずして各自の胸臆に聽くべし、熟々之を省察すれば、吾等の負ふ所、享くる所は、先生を視奉るに單に科學の師匠として敬して以て己む能はざるものあり。先生の生等に對するや實に嚴父の如く、或は慈母の如く、恩愛兩々至らざるなきを想へば、生等亦嘗に師弟の禮を執る而已を以て足れりとせず、當に子としての敬愛、子としての孝養を以て報い奉らんとするは、眞に之れ人としての感激の至情なるべし。乃ち茲に吾等が、恩師を父とする一大家族として、兄弟相睦み、忘る可らざる先生の御名を戴きて本會を組織せし所以なり。(大正十五年八月十日)



教室業績一覽

(自昭和十二年九月初
至昭和十三年八月末)

昭和十二年 (1937) (前號掲載ノ部ハ再録セズ)

〔邦文〕

▲所謂攝護腺肥大症ノ病理 (歐文抄録附) (日本泌尿器科學會雜誌、第二六卷、第一〇號)

▲剖檢材料ヨリ見タル腦腫瘍ノ頻度 (日本精神々經雜誌、第四一卷、第一一號)

▲Morbus Simmondsノ剖檢例、附、同病ノ概念及 (Glome)ノ分類補遺 (同右)

〔歐文〕

▲Regenerationsphänomene im menschlichen Pankreas bei partiellen Parenchymschwund.

“Mitteilungen über allg. Path. u. path. Anat., Bd. 9, H. 3.”

▲Metaplasie des Ausführungsgangsepithels im menschlichen Pankreas.

“ebenda.”

S. Yotuyanagi.

S. Yotuyanagi.

昭和十三年 (1938)

〔邦文〕

▲攝護腺ノ腫瘍 (日本醫師會雜誌、第一三卷、第五號)

▲創傷傳染ニヨリ多發性筋炎ト共ニ發セル右眼網膜炎ノ症例 (東北醫學雜誌、第二三卷、第五號)

▲介達性脈絡破裂ノ3例 (同右)

▲腸結核症生成ニ關スル實驗的研究 (同右)

▲格子狀肺 (Gitterlunge)ノ實驗的研究 (第I報)成因ニ關スル研究 (同誌、第二三卷、第一號)

▲創傷火傷等ノ局所的肝油療法ノ實驗的研究 (同誌、第二三卷、第二號)

▲頭蓋内血行障礙、特ニ腦出血、腦軟化 (日本精神神經學會宿題報告要旨)

(東京醫事新誌、第三〇八〇—三〇八二號)

四ツ柳正造
齋藤虎雄
齋藤虎雄
坂本真一郎
永澤正三郎
渡邊剛
木村男也
松岡茂他八名

▲腦出血及軟化ノ研究 (第I報)人腦ニ於ケル血管分布トソノ組織學的變化、特ニ高血

壓者ノ腦内血管病變 (日本病理學々誌、第二八卷)

▲腦出血及軟化ノ研究 (第II報)出血腦ニ於ケル血管ノ形態學的研究 (同右)

▲類脂肪體新陳代謝ノ形態學的研究、膽脂亞麻仁油飼養家兔ノ内外眼筋及心筋ニ就テ

(若手醫學專門學校雜誌、第二卷、第三號)

松岡茂
木村男
松岡茂
若山雅三

〔歐文〕

▲Über den primären Prostatakrebs, besonders über dessen Initialbefund.

“GANN, the Japan. Journ. of Cancer Research, Vol. 32, No. 8.”

▲Studien über die sogenannte Prostatat hypertrophie. (II. Mitteilung.)

“ebenda.”

S. Yotuyanagi.

S. Yotuyanagi.

▲家兔體表面積測定法 (第二三回總會)

▲結核性腸潰瘍ニ於ケル末梢神經ノ態度 (同右)

▲超短電波ノ家兔臟器ニ及ボス組織學的的影響 (同右)

▲眼ニ映ツタ歐米 (第一〇七回例會)

▲人間ノ腦幹前部ニ於ケル血管分布ニ關スル新知見 (第一〇八回例會)

▲膀胱腫瘍 (原發一〇例、續發四六例)ノ綜合研究 (同右)

▲容易ニ得難キ熱帶病々原ノ示説 (第一〇九回例會)

別ニ隨筆トシテ

▲三浦守治先生 附學生時代ニ憧レシ病理學教室 (東京帝國大學醫學部病理學教室五十年史下卷)

伊勢重久
佐久間正一
竹崎隆昌
參木錦司
加藤貞雄
松岡茂
川崎武夫
參木錦司
木村男也

男也會記事

男也會第拾貳回總會記事

○昭和十二年十月十日(日)教室創始第貳拾貳年記念男也會第拾貳回總會を開催す。會を五部に分つ。

第一部 議事(自午前十時於實習室)。

一、教室創始第廿五週年(木村教授御在職廿五年、男也會拾五年)記念事業に關する件。

其の一、記念論文集發行の件(前年度可決)。今回は右の實行委員長として現教室員四ツ柳助教授を推薦し凡て具體的畫策實行萬端を依頼する事に決定せり。

其の二、記念會誌發行の件(前年度可決)。木村先生教室及男也會に關する學問的以外の事柄を廣く蒐集して男也會々誌特別號を發行するは最も有意義にして万場一致可決を見たる所なるも今回は其の實行委員を定むるに至らず。其の具體案畫策實行は該當年度の幹事が之に當る事に決定。

其の三、既往論文別刷整理の件(前年度可決)。今回は其の實行方法に就きて協議す。昨年も今年も種々の提案ありしも、結局木村先生より實行委員の選定を仰ぎ先生の御指示を受けつゝ具體的實行に着手する事に決定せり。其の費用は勿論男也會にて負擔するものとす。

其の四、恩師の胸像を建立するの案ありたるも、之は以前より木村先生の豫防的御拒否ありしより其の實行は當分見合はずとなし、廿五週年には恩師の御許可あらば御肖像畫(油繪)を作製する事に決議せり。

二、廿五週年記念事業に要する費用騰出に關する件。
其の一、右記念事業には男也會基本金を流用支辨し得る件可決。

其の二、當教室に於て或は當教室に關係して成されたる論文によりて學位を得たる男也會員は金子を男也會へ寄附すべき内規をば有學位會員に徹底せしめ、早速督促募集に着手し之を記念事業費の一部に充つる事に決定せり。

其の三、更に記念事業費の一部としては後日一般會員より寄附金を募集する件可決。

三、會則改正の件。
其の一、會費値上の件(否決)。

其の二、幹事増員の件(可決)。即ち會則第六條「幹事四名ヲ置キ現教室員ヨリ二名(會計幹事、庶務幹事)更ニ教室外ノ先輩ヨリ二名ヲ推薦シ……云々」とあるは「幹事六名ヲ置キ現教室員ヨリ四名……云々」と改正。

四、役員改薦の件。本年度(自昭和十二年十月、至同十三年十月)幹事は左の如く決定せらる。

現教室員……松岡茂、橋本綱徳、石塚公雄、佐藤光永。
先 輩……岩本正樹氏、吉田重三郎氏。

第二部 祝賀式(自午後一時半)。組織實習室にて恩師出席せらるゝに及び松岡幹事開會を宣し、那須教授現教室員を代表し恩師の益々御健康にして寧ろ御齡に逆行せらるゝの感あり、殊に近年は年毎に學會の宿題報告を御擔當なられ、學會を御指導し居られることは教室員一同感謝感激に堪えぬところと祝辭を述べられ、更に男也會も年と共に基礎堅實となり、逐年隆盛におもむくことは御同慶に堪えぬと祝せられ、教室員の移動を略述せられ、日支事變へ應召の會員諸氏の武運長久を祈念し、會員伊東五一郎君の逝去を御報告せらるゝ等御挨拶あり。次で岩永幾太郎博士先輩を代表し、恩師の御健康を祝し、恩師の御偉業、御為人を稱へ、

男也會員として肩身の廣きを感じると體験を物語り、更に恩師の「病に處し、人を療し世を治ふ。是我が醫也」の御至言を拳々服膺するところあらん事を期すと述べて座す。終つて恩師徐に起られ、平素會員の方々の御期待に副ひ得ない事は非常に相濟まないと勿體なき謝意を述べられ「時局多端の折柄御遠路方々から御出で下されて文字通り感謝に堪えず、唯非常に有難うと云ふより何の言葉もない」意の御鄭重なる御挨拶あり、更に恩師より參列會員の名乗り上げを御希望あられ、各會員、數語よく自己の全貌を明にせり。

第三部 出征會員武運長久祈願(午後二時半於大崎八幡宮)。恩師は親しく内山講師、四ツ柳助教授、佐藤助手と共に大崎八幡宮に參られ、出征會員の武運長久を祈願せられ、參列會員一同は同時刻に起立八幡宮を遙拜せり。

第四部 記念學術集談會(自午後三時)。演者並に演題次の如し。

一、男性骨盤内動脈走行ニ關スル新知見 學生 栗田口省 吾君
二、攝護腺結節形成ト體質異常等トノ關係(生物測定學的處理) 學生 加藤 學君

三、Gitterlungeノ實驗的研究 永澤正三郎君
四、超短波發電裝置供覽 竹崎隆 昌君

五、標本供覽 内山 泰君
六、搏動性腫瘍ト骨囊腫 水島輝 文君

演舌の途中四時頃玄關前中庭にて一同記念撮影をなす。

第五部 懇親會(自午後七時)。一同宮古川に向ひ、會するもの爺様を初め四十名、會場には竹崎、横山、奥田の三會員の嬢々しき軍服姿が見られ、誠に軍國非常時に相應し。松岡幹事より開會の挨拶と共に遠來の勞を犒ひ、石塚幹事より祝電の披露あり。宴氣漸く舉る頃爺様「蜥蜴の雌雄」に關する御朗讀あり、抑揚洵に眞に迫るものありて一座頻々として歡聲上り、氣分顯著に發揚さる。酒氣漲るに及びて病理獨特の宴會を現出、し爆笑又爆笑、珍藝妙技百出支人啞然たり。十二時過ぎ盛會裡に終

る。本日の來會々員次の如し(順序不同)

岩永幾太郎、岩本正樹、内藤勝、星三藏、吉田重三郎、秋元東馬、赤星幸次郎、遠藤恭助、名倉順三、水島輝文、坂本眞一郎、立澤喜代治、田代修、前川重和、引地義男、石崎芳郎、萩原二郎、佐藤儀英、現教室員として、那須教授、内山、松岡、四ツ柳、山村、若山、齋藤、佐久間、横山、奥田、竹崎、永澤、荒木、橋本、伊勢、佐藤、川崎、飯塚、石塚外學生長田達郎、釜淵敏夫四十名
本日祝電を寄せられし方々(順序不同)
大庭國紀、佐藤義房、三井良造、桂島忠良、櫻岡純一、渡邊剛、渡邊武雄、赤沼順四郎、大庭三郎、藤原一郎、布施正、杉山一郎、笹田衛、井波鍊四郎、井坂四郎、芳賀武雄、栗原輝信、橋本照治、星勝吾、黒羽武、羽生今朝雄、北村雄二郎、増田桓一、猫苗代馨。
其他書面にて祝意を寄せられし方徳光美福氏以下十六名。

關西男也會記事(附學會記事)

昭和十三年四月京都市に開催せられたる第十回醫學會總會出席の爲め、木村教授以下十數名大學して上洛す。即ち

○三月三十日(水)夜行にて一同東京に向ふ。

○同月三十一日(金)東京驛にて朝食の後、木村先生は「つばめ」に、俸及學生共はそれより十分前の「臨時つばめ」に乗り込む。「臨時つばめ」三等車のやくざ連中は仙臺辯丸出しの歡歌雜笑にて時のうつろを知らざりしも、「つばめ」に獨りポツネンと座せられるならん爺様は嘸かし無聊ならんとて、富士が車窓に見ゆる頃、寄落書をなして爺様に贈る(圖参照)。夕刻、兩「つばめ」は京都驛安着、乃ち驛前に勢揃ひして自動車に分乘し、兼ねて依頼しありし前田榮治郎殿別邸に落ち付けるは午後六時に近し。
同別邸は東山栗田口なる閑寂の地にあり、二千坪に餘る大邸宅にして其

のかみモルガンお雪の住家なりしとか。家は和洋折衷の高樓、優美なる竹垣をめぐらす。その廣き庭園には山あり谷あり川あり池あり林あり、緑の松の間に満開の山櫻あり。古色蒼然たる東屋、茶室の配置よろしきを得て、そゞろに在りし古を偲ばしめ、その豪壯なる、一行を驚嘆せしめて止まず。洋館の二階及中二階が我々の部屋と定められ、その夜一同京洛の第一夜を安眠せり。この日の一行は、木村先生以下、松岡、山村、佐藤、川崎、奥田、荒木、伊勢、森、加藤兄弟、加藤(政)、品川(飯塚は親戚に泊す)以上十三名なり。

○四月 一日(土)醫學總會は本日より開かる。午前神經學會會場の下見聞をなし、後銘々隨意の行動をとる。この日仙臺より那須教授來洛、又内山、四ツ柳、永澤、更に朝鮮より栗原の諸氏入洛同宿す。

○同月 二日(日)愈々本日より各分科會催さる。木村教授、松岡助教授外八名擔當の「腦出血及軟化」に關する宿題は、午後二時より立命館大學(精神々經學會々場)に於て、木村教授により堂々二時間に亘り發表さる。堂に充つる聴衆寂として聲なし(教室記事参照)。

又本日木村教授は昨年發表せられたる宿題報告に對し皮膚科學會賞を授けらる(教室記事参照)。

三年間連續して宿題を擔當せられたる木村教授は、この日を以つて漸く重荷を降されたれば、馳せ参じたる近郷の男也會員と遠來の會員とは合同して、夕刻より關西男也會を開催す。

場所は名にし負ふ京都木屋町なる割烹魚清、酒は生粹の灘、之に配するに赤前掛の京美人、だらりの帯の京美妓。流石仙臺のつはもの共も陶酔恍惚として我を忘るゝものあり、されど宴漸く酣なるに及び、地金の百藝出で、愈々盛、京洛の麗人を啞然たらしめたり。其間、記念撮影及び寄書(口繪参照)をなして十時過ぎ散會。

本日の來會者次の如し(順序不同)。

木村先生、武藤完雄、井波録四郎、笹田衛、水島輝文、栗原輝信、永澤正三郎、橋本照治、内山泰、山村新之助、奥田美直、荒木忠、伊勢重

久、森良二、松岡茂、四ツ柳正造、川崎武夫、佐藤光永、その他學生、加藤貞雄、加藤政勝、品川利郎、加藤貞行、以上二十二名。(那須教授、飯塚豊三郎所用缺席。朝鮮の會員徳光教授並に赤沼助教も在京中なりしも所要の爲め缺席)。

尚ほ本日より宿舍へ同泊せしもの笹田、水島、橋本の諸氏あり。

○同月 三日(月)病理學會(帝大病理學講堂)に於て松岡助教の「腦出血」に關する報告あり。四ツ柳助教坂口賞を受賞(教室記事参照)本日、會員三井良造博士九州より遙々宿舍へ來訪、晚餐を共にす。

○同月 四日(火)腫瘍學會(帝大藥物學講堂)に於て四ツ柳助教の「攝護腺肥大症」に關する發表あり。本日、會員石崎芳郎氏來宿、一泊せり。

この日を以て醫學會の各分科會は全部終了し、翌五日は總會の一部を残すのみとなりたれば、この日頃を前後として、同宿の會員各々歸途につく。

尚ほ同宿舍に滞在の一週間、門限は大略十一時乃至十二時と定められたるも、洛陽の春につまされて遅刻する者尠からず。されど恩師木村先生には毎夜、全員歸宿する迄寢ね給はずして種々御世話せられ、俾共全部床に入るを見て甫めて就床せらるゝが常なりき。

省みれば、京都市宿舍難の折柄、三月三十一日より四月五、六日迄數日間、右別邸に悠々滞在して足翼を延ばし、もの二十一名の多きに登り、總延日數にすれば實に八十有一日の永きに亘る。左に宿泊の榮を得たるものゝ名を記して以て、我々の爲め此の優麗なる別邸を貸與なし給はりし前田榮治郎殿並にその斡旋に御骨折り下されし木村先生に對し、一同茲に滿腔の謝意を表す。

内山泰、松岡茂、四ツ柳正造、山村新之助、笹田衛、栗原輝信、永澤正三郎、水島輝文、橋本照治、石崎芳郎、佐藤光永、川崎武夫、奥田美直、荒木忠、伊勢重久、森良二、加藤貞雄、加藤政勝、品川利郎、加藤貞行。以上

教室記録抜萃

(自昭和十二年九月 至昭和十三年八月)

●昭和十二年 九月一日(水) 病理標本示説學士試験開始。

○同月 二日(木) 會員陣内軍醫少佐、隊付に轉任せらる。

○同月 四日(土) 會員鹽澤軍醫中尉步兵第廿九聯隊留守隊付となり、赴任の途來訪。

○同月 五日(日) 待望の木村教授著「小病理學總論」(下巻の上)發行さる。

○同月 六日(月) 那須教授御親戚の御不幸の爲め御歸省(十日御歸室)。

○同月 七日(火) 會員軍醫中佐原田嘉元博士出征の通知あり。

○同月 八日(水) 會員江幡軍醫大尉より上海附近戰況詳細來信。

○同月 九日(木) 石巻日赤病院より出張解剖の依頼あり、四ツ柳助教授、石塚助手、學生加藤貞雄君出張(即日歸室)。

○同月 十日(金) 川崎副手所用歸省(十三日歸室)。

○同月 十三日(月) 樋渡清子雇員を拜命、入室。

○同月 十四日(火) 標本示説開講。

○同月 十五日(水) 病理紀要第九卷第三號發行。

法醫軍に野球挑戦、我軍快勝。

休暇中伸びるが儘にまかせられたる夏草の深きに折角のゴロ、さつぱり奏功せず、爺様三疊手鏡に消えるボールの行衛を捜す事、實に忙しくも目醒しき活躍をさる。運びたる女房丁度よく遂に我が軍門に降したり。

爺様二研黑板書○光永は女房さがしに芳勞をし。○女房とは○○をする相手なり。

○鐵草鞋さがした女房丁度よし。○かした捕手一寸まいに驚天し。(飯塚君?)

○同月 十七日(金) 征途の會員佐藤正太郎君より長文電報あり。

玄海の波を乗り切る船は揺るゝとも士氣旺盛、命何もの吾が兵は歌歌雅笑に船を

は濡らす。搖ぎなき亞細亞の建築かんこそいでや吾等が腕でと張り切る少年もありたり(正太郎)。

○同月 十八日(土) 會員渡邊剛、水島輝文、栗原輝信三君の論文教授會通過。

○同月 廿五日(土) 會員鹽澤軍醫中尉若松より出征。對法醫野球戰九對五にて快勝。

○同月 廿六日(日) 會員横山成治君に動員令下る、(廿九日步兵第四聯隊に應召入營、後仙臺陸軍病院附となる)。

○同月 四日(月) 木村教授盛岡市に御出張(七日御歸室)。

○同月 五日(火) 會員池田恭三君、弘前歩兵第卅一聯隊に應召の通知あり。

○同月 六日(水) 雇員麥倉かつ子願に依り職を解かる。

○同月 十日(日) 男也會第十二回總會(別項記事参照)。

○同月 十五日(金) 男也會第十二回總會に於ける決議事項をプリントにし會員に發送。

○同月 十六日(土) 午後一時より中央講堂に於て解剖體察舉行せらる。木村、那須教授、教室員一同參列。

木村教授八戸市に開催の東北外科集談會へ特別講演の爲め午後九時三十分發列車にて御出發(十八日御歸室)。御演題「病理解剖學上より見たる蟲様突起炎」。

○同月 十九日(火) 四ツ柳助教所用歸省(廿七日歸室)。

○同月 廿日(水) 會員菊地武雄博士來訪。

○同月 廿一日(木) 爺様二研黑板御掲書。

Weist Du, warum man das Tor "種子關" nennt?

Ja wohl, das virginnelle Hymnen ist bisher von keinem der

Weltmäner durchgedrungen worden !
Ein für einiges Hymen ! Die schmale, scharfe aber ganz harte
P des Japanners hat dasselbe doch durchbrochen !

○同月廿二日(金) 清澄、爽氣漲る秋空、絶好の野球日和なるにより恒例のH・E 野球戦舉行。

朝検屍二體來れども爺様の御細かな御心遣により難なく片付き、午後二時教室出發八木山に向ふ。健康の秋、天高く迄高く、天地清爽云はん方なし。E軍主將木村教授、H軍主將那須教授の交誼和氣満々裡に行はれ、戦の幕は切つて落さる。兩軍の攻防共に物凄く、接戦に接戦を重ね、夕闇迫る頃十六對十一にてE軍の勝。戦後爺様始め一同徒歩にて、いかり壽司に引上げ歌談爆笑、ビールを抜き、非飯を煩張る。この座向に融和、女軍の鋭鋒に應酬する等、朗かな零團氣に満され一同午後八時歸室、爺様早く立ち退けと囁叩きを持たれ廻り歩かれたれば倉皇として歸宅せり。兩軍のメンバー次の如し。

(E軍)	塚崎 政 間 藤 貞 敏 本
	飯 石 加 佐 爺 加 森 渡 荒
(P)	C IB IIB SS LF CF RF
(H軍)	崎 光 村 須 田 澤 川 塚 渡
	川 佐 山 那 奥 永 品 石 越

○同月廿三日(土)廿四日(日) 兩日に亘り大町頭宮城縣醫師會館に於て第廿二回東北醫學總會及び臨床醫學大會開催。教室よりの口演者並に演題次の如し。

一、家兎體表面積測定法

伊 勢 重 久 君

二、結核性腸潰瘍に於ける末梢神經の態度

佐 久 間 正 一 君

三、超短電波の家兎臟器に及ぼす組織學的影響

竹 崎 隆 昌 君

○同月卅日(土)卅一日(日) 兩日に亘り在仙官廳高等官懇親野球試合(於評定河原帝大球場)。爺様終始ベンチコーチャーとして士氣發揚に努められ、最後には投手として出場せられたり。醫學部は三戰二勝、病理

よりの出場者、木村教授、松岡、四ツ柳、奥田、竹崎等。

○十一月一日(月) 木村教授東京三浦良幹氏急病の爲め御上京(八日御歸室)

○同月二日(火) 宇都宮陸軍病院に應召中の會員黒羽武君午後九時半來訪、食堂に於て歓迎會を開く(三日夜退仙)

○同月三日(水) 東京三浦良幹氏逝去。六日告別式執行せられ男也會より弔電及び花輪を捧げ、會員水島輝文博士代表會葬せり。

○同月六日(土) 出征中の會員鹽澤軍醫中尉 附近の戦闘に於て右眼に迫撃砲彈破片創を受けたるも元氣旺盛なる旨來信。

○同月十六日(火) 本日より廿三日(火)に至る八日間東部防衛司令部各府縣に於て防空演習實施の爲め燈火管制行はる。二研、ミクロトーム室、食堂の各窓に黒カーテンを備へ、管制時の業務遂行に遺憾なきを期したり。

○同月十七日(水) 本日附會員栗原輝信博士朝鮮總督府醫官に任ぜられ、高等官七等に敘せらる。

○同月十八日(木) 石巻赤病院より出張解剖の依頼あり、松岡助教授、佐藤助手出張(即日歸室)。

○同月廿二日(月) 爺様二研黑板御揚書。

老爺の徹底に隨稿あり、名づけて女人禁讀君子不誦と云ふ。塵に埋るゝ事十數年今何處にかあらん。

夫れとは事異り、隻身者不可考、孺子雖不可計算、曰「軍は今回の燈火管制の成績を大略昭和十三年八月廿八日を中心とする前後一週間に待たんとす」是如何。

○同月廿八日(日) 石塚助手所用歸省(十二月一日歸室)。

○十二月二日(木) 戦地負傷の會員鹽澤軍醫中尉廣島陸軍病院に轉院。

○同月三日(金) 松岡助教授祖母君危篤の爲め歸省(十三日歸室)。

○同月八日(水) 會員荻原二郎君來訪。

○同月十日(金) 病理組織實習終了、食堂に於て茶話會を催す。會員立澤喜代治君引卒の下に名取郡學校醫團來室見學。長野縣上山田温

泉陸軍療養所勤務中の會員黒羽武君來訪(十一日退仙)。

○同月十一日(土) 本日附木村教授勲二等に陞敘せらる。

會員岩本正樹博士仙臺陸軍病院に應召せらる。

○同月十四日(火) 會員永澤正三郎君仙沼公立病院に赴任せらるゝ事となり、夕刻より食堂に置酒し、送別會を開く。

○同月十五日(水) 永澤君午前八時卅五分發列車にて赴任出發せらる、一同驛頭に見送る。

○同月十八日(土) 冬季標本整理。終了後食堂に於て茶話會を催す。

○同月廿七日(月) 二研、ミクロトーム室、食堂の大掃除をなす。終了後學生會館に於て忘年会、南京陥落祝賀會を開く。スキ焼に牛飲馬食、氣焰を擧ぐ。

○同月卅日(木) 本日より當番を定めて休暇に入る。

○同月卅一日(金) 本日附木村教授東北帝大圖書館醫科分館長を解かれ、那須教授其の後任となる。

●昭和十三年 一月一日(土) 寒氣稍々厳しくも靜穩にして雪も降らず、皇軍大捷の新春は瑞氣彌が上にも立ち軍め皇國日本の躍進を壽ぎ、洵に軍國の春にふさはし。恒例の如く、午前十時一同補手室に參集、祝賀の盃をあぐ。菰冠を飾り、錫を焼き、蜜柑をむく處和氣霽々として爺様始め郎黨氣焰大にあがり、漸くにして容姿(?)と變り娘達の晴姿に調和し云はん方なし。

○同月二日(日) 爺様より數々の御馳走を頂き午後二時頃より全教室員裝飾されたる食堂に集ひ新年の挨拶を交し勝春を壽ぐ。

伊勢、佐藤兩君考案の福引に抱腹轉倒、「オイトコ」、舞踊果ては浪花節等々氣勢をあけて七時頃終る。

○同月三日(月) 剖検屍第一號來り、四ツ柳助教授執刀。

○同月六日(木) 業務始め。

○同月十二日(水) 病理總論開講。

○同月十五日(土) 會員永澤正三郎君の論文教授會通過。

○同月廿日(木) 四ツ柳助教授、伊勢副手軍醫豫備員として仙臺陸軍病院に入隊(二月四日退營)。

○同月廿四日(月) 宮城縣女子師範學校生徒七十名來室解剖見學。

○二月七日(月) 海外留學中の參木助手歸朝(四日)本日歸室。外遊談に花が咲き盡くるところを知らず。夕刻食堂にて歓迎會を催す。列國の狀態、ナチスの醫學等更に心臓の強きあたりを聽く。

○同月八日(火) 參木助手一旦歸京。

○同月九日(水) 會員鹽澤軍醫中尉來訪。右眼彈創治癒經過頗る良好の由、教室員一同と實談に花が咲く。

○同月十四日(木) 本年卒業豫定の長田達郎君二研入室。

○同月十五日(火) 荒木、川崎、飯塚、石塚四君軍醫豫備員として仙臺陸軍病院に入隊(三月二日退營)。

○三月一日(火) 會員菊池武雄博士急逝せらる。

○同月二日(水) 滯京中の參木助手歸室。

○同月三日(木) 故菊池武雄博士遺骸に防腐劑注入、午後二時參木、石塚兩助手、鈴木補手教授院丁佐藤儀平氏宅に出張。

○同月四日(金) 午後四時より中央講堂に於て第百七回東北醫學會例会開催、病理より「眼に映つた歐米」と題して參木助手口演。

○同月六日(日) 故菊池武雄博士の告別式午後二時より新寺小路善導寺に於て執行せらる。木村教授を始め教室員有志參列。男也會より花輪代及び弔詞を捧ぐ。

弔 詞

昭和十三年三月一日、本會々員從六位醫學博士菊池武雄君突如長逝せらる。惟ふに君は明治廿七年函館市に生れ、幼にして天賦の稟資に秀で函館中學卒業以來風に志を醫學に樹てて第二高等學校を経て、東北帝國大學醫學部に入學し大正十一年優秀なる成績を以て卒業するや直ちに杉村外科に入局し、助手に任せられて三

星霜、君が生來の學究心と天賦の器用とは頓に臨床家として造詣を深うせしめ外科

なる御發育を護らん。我等亦只管それを希ふのみ。
昭和十二年三月六日
東北帝國大學醫學部病理學教室内
男也會代表 松岡 茂 謹白

○同月七日(月) 雇員福島良治君嚴父告別式午後二時より新寺小路阿彌陀寺に於て執行、教室より川崎副手、高橋はる子、菊池補手参列。

○同月八日(火) 病理標本示説終講。

○同月十日(木) 東北帝大司書吉岡孝二郎氏母堂逝去、木村教授並に教室を代表し石塚助手焼香。

○同月十二日(土) 教室員若山講師、横山副手の學位論文教授會通過。

○同月十四日(月) 會員荻原二郎君來訪。

○同月廿日(日) 此日頃日本精神神經學會宿題報告準備の爲め教室内騒然たり。爺様連日深更迄準備に御専念さる。

○同月廿九日(火) 會員荻原二郎君八戸病院を辭し、關口外科教室に入室せらる。

○同月卅日(水) 木村教授京都の學會へ御出發。同日松岡助教授、佐藤、川崎、飯塚、森、伊勢、奥田の諸君及び學生等も出發。

○同月卅一日(木) 那須教授、四ツ柳助教授京都に向はる。本日付長田達郎君副手を囑託せられ、黒羽助手依頼本官を免ぜられ副手を囑託せらる。

○四月一日(金) 爺様始め學會軍より快信あり、京都に於けるその往昔モルガンお雪の愛の巢に入りて元氣旺盛なる由、誠に心強し。留守隊一同爺様の明日行はるべき宿題報告に榮光あらん事を祈りたり。

○同月二日(土) 午後二時より京都立命館大學講堂に蓋を開けたる第十回醫學部第廿三分科會たる第卅七回日本精神神經學會に於て、木村教授、松岡助教授外八名擔當の「頭蓋内血行障礙特ニ腦出血、腦軟化(病理的方面)」と題する宿題は木村教授により堂々と報告さる、流石の大講堂立錫の餘地なく、滿場友として咳拂一つ聞へず聴衆を傾聴せしめ、百

學の進歩を極めて、其の技術は業に擅たり。仍ち同十四年聘せられて八戸病院副院長外科醫長の席に就き、仁醫の術を施す事多年其令名は日と共に世に聞えたり。君は學生時代より恩師木村先生の徳を慕ひ、大正十五年吾が男也會の創設さるや卒先して會員となり、本會の發展に資する所大なりき。而して君が宿年の學究意と恩師を思慕するの情とは昭和四年遂に君をして我が病理學教室に馳せしめ、大學院學生として只管斯學の探求に精進せしめたり。
君の體軀大ならずと雖もその性や洵に豪壯明朗にして、舊弊に勝はれず、新奇に漏れず、上司に阿らず、後進を侮らず、只管自己の信念に向つて勇往邁進せり。其の學問探究に當りても君の信條は常に進み、終始一貫、何人よりも早く出勤して研究室に閉ぢ籠り、屈せず掩まず汝々として學究に没頭せり。斯くて一日の豫定を終るや、午後四時と云ふに悠々歸宅して家庭の人となり敢て周囲を省みず。この一事以て君が一徹せる學究態度を知るべきなり。
されば君が在室僅かに二年なりと雖も、その間「尿道副腺に關する研究」、「攝護腺肥大症の組織學的並に統計的研究」、「腎臟結核の研究」等幾多の廣汎なる業績を完成し、人智未踏の學理を開發して斯學の進歩に貢獻せる處甚大なり。宜なりその業績は醫學部教授會の齊しく認むる所となり、昭和七年十月醫學博士の學位を授與せらる。

昭和六年大泊病院に聘せられて醫官に任ぜられ、醫の恩惠薄き樺太の地に君が仁醫の術を及ぼすや、其圓熟せる技能と豊富なる學識と一貫せる信條とは萬人の絶讃を集め、徳望益々市井に聞え、斯くて從六位高等官四等に叙せられて最近に至りぬ。君は又他面、家庭を思ふの情洵に厚く、夙に樺太の地が子女の保健、教育に不適當なるを悟り、家人を遠く仙臺に移して愛兒の教育に當らしめ只管その健全なる成長を希ひて止まざりき。更に又本年に至りては自らも臨病院を辭して來仙し、愛兒の保育に當る傍ら近くは外科病院を開かん豫定なりしと云ふ。君が完璧なる技能を思ふときその發展や亦期して待つべきもの多かりき。
然るに何たる運の戲ぞ、其の業未だ結に就かざるに、而も自ら愛撫措く能はざる子女と夫人とを残して君は卒然として死を選びたり。御遺族の御悲傷や言語に絶すべく、我等亦得難き志士を失ひ、本會としても比し難き先覺を喪へり、御家庭の爲め斯學の爲め洵に惜みても猶餘りあり。

されど君が生前の一徹せる信條は必ずや君が御遺兒の魂に宿り、永へにその健全

枚に垂んとする圖表を掲げ、酒々二時間に亘る大發表は斷然本學會の金字塔として絶讃を博したり。

夜は京都「魚清」に於て上洛男也會員懇親會を催す(別項記事参照)。尙ほ本年學會に於いて昨年の木村教授の「人類に於ける Spirochaetosen の病理學的研究特に梅毒に就て」の宿題報告は唯一優秀なるものとして皮膚科學會賞を受けられ、四ツ柳助教授の宿題報告「所謂攝護腺肥大症の病理」は坂口賞を受け、夫々斯界に燦然たる光を投げたり。教室の譽これに過ぐるものなく、一同大に鼻を高くせり。
學會留守隊は此の朝京都の爺様宛「出血に色増す今日(京)の集ひかな」の祝電を打ちて後娘達慰勞會を兼ね作並温泉に行樂す。

丸長旅館に上り、山のいで湯に浸り、生ビールを抜き、レコードを聴き、或は山徑の散策等に一日を愉快に過し、夜歸仙。
参加者 參木留守隊司令官、石塚參謀長、長田實戰主任、安藤、高橋、今野、及川、北村、佐原、橋渡等の女軍俊英。

○同月六日(水) 會員京城大助教授赤沼順四郎博士來訪。

○同月七日(木) 那須教授を始め松岡助教授、佐藤助手歸室。

○同月九日(土) 四ツ柳助教授、川崎、飯塚君等歸室。

○同月十日(日) 木村教授學會より御歸仙後始めて御出發。

○同月十二日(火) 病理標本示説開講。

○同月十四日(木) 病理總論開講。參木助手所用上京(十六日歸室)。

○同月廿日(水) 法醫軍に挑戦し今シーズン始めの野球試合を精神科前グラウンドに於て行ふ。三對二の接戦で幸先よき凱歌を擧ぐ。

○同月廿二日(金) 會員鹽澤軍醫中尉來訪。

○同月廿五日(月) 午後四時より食堂に爺様の皮膚科學會賞及び四ツ柳助教授の坂口賞の賞状が飾られ、爺様より娘達其の他に見事な京土産が贈られ、且つ學會前の多忙によく働かれたと感歎に勞を稿はれたり。教室員も陪席し爺様の温き御心情に感激す。

更に午後七時より木村教授、四ツ柳助教授學會授賞祝賀會、長田、山崎、

上野三君入室歡迎會、永澤、若山、横山三君學位獲得祝賀會、參木助手歸朝歡迎會、川崎君送別内祝を宮古川に開く。爺様より御鄭重なる辭を盡したる慰勞の御言葉あり、勿體なさに一同感激恐縮す。
時局柄愛國行進曲、露營の歌の踊等あり例によつて例の如く大に歡を盡し十二時散會。
參會の芳名次の如し(順序不同)。

岩木正樹、吉田重三郎、引地義男、今井龍雄、秋元東馬、立澤喜代治

横山成治、永澤正三郎、増田桓一、石崎芳郎、前川重和、猪苗代馨、

佐藤儀英、山崎正志、栗田口省吾、堺鶴二郎、櫻田章、栗田豊、新入教

室員として長田達郎、山崎敬、上野哲直、現教室員として那須教授、

松岡、四ツ柳、山村、奥田、齋藤、竹崎、佐久間、荒木、森、伊勢、

橋本、參木、川崎、飯塚、石塚、學生加藤貞、加藤政、品川等。

○同月廿六日(火) 山崎副手達和にて本日より一ヶ月間缺勤さる(六月一日より出勤)。

○五月四日(水) 對法醫軍野球戰十三對十三にて引分け。

○同月十日(火) 雇員橋渡清子耳鼻喉科に轉勤。會員鹽澤軍醫中尉再出征。會員荻原二郎君秋田縣本莊町由利組合病院へ赴任せらる。

○同月十二日(木) 山梨縣女子師範學校生徒四十名來室見學。

○同月十三日(金) 川崎副手達和にて缺勤さる(廿一日より出勤)。

○同月十四日(土) 對小兒科軍野球戰八對七にて快勝。

○同月廿日(水) 午後四時半より食堂に置酒し、新設の山形縣置賜病院長及び外科醫長に就任せる若山講師、佐久間副手の送別會を催す。

○同月廿一日(土) 若山講師、佐久間副手午前九時十五分發列車にて米澤市に赴任、一同驛頭に見送る。

○同月廿五日(水) 春季對醫局野球リーグ戰第一回基礎對婦人科戰午後一時半より精神科前球場にて開かる。七對一にて基礎軍大勝。病理より

の出場者、橋本、伊勢、佐藤、飯塚等。更に三時半より醫學部高等官チ

ームと病理軍對戰十三對十二にて病理軍の勝利。

○同月廿七日(金) 午後四時より中央講堂に於て第百八回東北醫學會例會開催、教室よりの口演者並に演題次の如し。

一、人間の腦幹前部に於ける血管分布に關する新知見

加藤 貞 雄君
松 岡 茂君

一、膀胱腫瘍(原發十例續發四十六例ノ綜合研究) 川崎 武 夫君

○同月廿八日(土) 佐沼實科高女生徒四十名來室見學、廿八日、廿九日の兩日に亘り在仙官廳高等官懇親野球試合舉行(於評定河原帝大球場)。醫學部は三戰二勝、病理よりの出場者、木村教授、松岡、四ツ柳、奥田、竹崎等。

○同月卅日(月) 對小兒科軍野球十一對八にて敗戦。

○同月卅一日(火) 本日附山崎敢君副手を囑託せらる。

○六月一日(水) 川崎副手本日より關口外科に見學に轉ず。

○同月三日(金) 對法醫學軍野球戰 八對六にて敗る。

○同月四日(土) 病理各論學士試驗。

○同月十五日(水) 恒例春季H.E.野球戰決行。

梅雨時獨特のハツキリしない暗いお天気なるが雨は朝十時頃上り、西風さへ吹き來りそんな空模様、運動部長電話で状況を偵察したりして俄然決行を宣言。午後一時半八木山に向ふ。二回目頃より雨となり、ドロングゲームかと危まれ、粘土に足を奪はれ、オーバースラン等々の珍技續出、未曾有の試合を遂に七回戦迄張り切り通し、十七對九にてE軍の大勝。E軍主將齋藤素晴しい安打二本を要飛ばされ、斷然異彩を放ち殊勳甲なり。終りて雨の中をいかり、番司に引上げピールを抜き、傾盆、噴、噴等談笑二時間八時半頃歸室、當日のメンバー次の如し。

(E軍)	勢 光	政 田	棟 貞	田 塚 浦
	伊 佐	加 長	益 加	奥 石 松
(P)	C	IB	IIB	SS
(H軍)	木 塚	岡 川	崎 本	崎 村
	松 品	川 橋	山 森	山 村
	松 川	橋 山	森 山	村 松
				審判 四ツ柳

○同月十八日(土) 病理組織學士試驗(三日間)

○同月廿一日(火) 春季醫局對抗野球第二回基礎對加藤内科戰、四對零にて基礎軍敗戦。病理よりの出場者、橋本、奥田、佐藤、飯塚等。

○同月廿二日(水) 本學創立記念日。午後丘の上にて對法醫學軍野球戰、接戦又接戦八對八にて引分け、終つて記念日を祝し、食堂にて生ビールに喉を潤し、珍談、漫談、Y談續出、俵達餘勢抑へ難く、一番丁に流れ出でたり。後は知る人ぞ知る……。

○同月廿五日(土) 教室員齋藤虎雄君の學位論文教授會通過。

○同月廿八日(火) 徴兵検査にて歸省中の長田副手歸室、第一乙種合格となる。

○同月廿九日(水) 川崎副手突如釜石市立病院に赴任することとなり夕刻より食堂に置酒送別會を開く。

○同月卅日(木) 川崎副手午前八時卅五分發列車にて赴任、一同驛頭に見送る。

○七月一日(金) 午後二時より食堂にて教室現業員業務分擔を定む。

○同月二日(土) 中央講堂に於て滿洲國に派遣の醫學部診療團の壯行會あり、有志參列。

○同月初頭 會員増田桓一君暫時御生家にて診療に従事せらるゝ爲め歸省。

○同月四日(月) 病理標本示説學士試驗開始(四日—十三日)

○同月六日(水) 松岡助教三男を擧ぐ、非常時下洵に心強し。

○同月八日(金) 夜十時滿洲國に派遣の診療團教室に挨拶に來訪。食堂にてビールを抜き壯途を送る。木村教授親しく臨席せられ御親情を吐露せられて激動鞭撻の辭を贈らる。後十時五十分發列車に木村、那須教授を始め教室員一同見送る、内山講師は本診療團班長として元氣横溢壯途に就かる。

○同月九日(土) 會員佐久間正一君の學位論文教授會通過。對小兒科野球戰。

○同月十一日(月) 釜石市日鐵病院勤務たりし上野哲直君本日より研究生として二研入室、同日付副手を囑託せらる。

○同月十五日(金) 山崎副手父君急病にて歸省(廿八日歸室)。

○同月十六日(土) 參木、石塚兩助手、飯塚副手山形市篠田病院に出張解剖(翌日歸室)。

○同月十八日(月) 對三年學生軍野球戰、十六對八にて病理軍敗る。

○同月十九日(火) 對三年學生軍野球復讐戰、十五對九にて見事快勝、終つて食堂に於てビールを抜き交馳す。

○同月廿日(水) 名古屋醫大學生九名來室見學、標本庫を見學し驚嘆す。

○同月廿三日(土) 齋藤邦彦臨時研究補助として入室。

○同月廿六日(火) 夏季標本整理、終了後食堂に於て慰勞會を催す。

○同月廿七日(水) 對三年學生軍野球戰、十一對十にて惜敗。

○同月廿八日(木) 雇員北村富子香椎カリエスにて關口外科に入院。

○同月廿九日(金) 午後四時より中央講堂に於て第百九回東北醫學會例會開催、教室より「容易に得難き熱帯病々原の示説」と題して參木助手口演。

○同月卅一日(日) 本日附飯塚豊三郎君正式に研究補助を解かれて副手を囑託せられ、齋藤邦彦研究補助を拜命。山崎副手再度歸省(八月十三日歸室)。

○八月一日(月) 那須教授峨々温泉へ避暑に御出發。

○同月七日(日) オリパス會社技師顯微鏡修理其の他サーピスに來室。

○同月八日(月) 木村教授突如左上肢神經痛を患はれ御苦痛激しく終日御臥床、教室員極度に憂鬱となる、黒川、石川兩助教の手當を受けられ、娘達三人交代にて徹宵御看護中上げたり。

○同月九日(火) 爺様御いたわしくも御苦痛氣に二研に見えらる。飯塚副手所用歸省(十八日歸室)。

○同月十日(水) 事實上の教室記念日なるも本年は行樂を見合はず。

○同月十一日(木) 會員宮城縣衛生技師三浦光君、志田郡志田橋診療所に赴任の爲め挨拶に來訪。

○同月十四日(日) 爺様此日頃左上肢を吊され、見る眼も御痛はしき限りなり。

爺様二研黑板曰「頭陀袋西へ越く用意哉 ○孟蘭會徘徊にけり頭陀袋 ○老ひ遷けし身に頭陀袋似合ひけり ○頭陀袋ソロリと來ては眺めけり大口小口キャンデーシャブル」

○同月十五日(月) 石塚助手所用歸省(廿二日歸室)。

○同月廿一日(日) 診療團班長として渡滿中の内山講師元氣瀟灑として歸室。

○同月廿五日(木) 小樽市に開業中なりし小澤厚君研究生として新研入室、同日付副手を囑託せらる。

○同月廿六日(金) 午後一時半より小澤君歡迎野球戰を催し、夕刻より食堂に置酒し歡迎顔合せ會を開く。

○同月卅日(火) 那須教授御登壇。會員佐藤儀英君に突如動員令下り午後七時廿五分發列車にて羅南へ出發せらる、教室より佐藤、石塚等驛頭に見送る。



會計報告

備考 會計ハ通常會費、懇親會費及寄附金ノ三項ニ分チ、支出モ亦其ノ性質ニ從ヒテ各項ニ歸屬セシメタリ。債券及其利息ハ最後ニ記入セリ。

●昭和十二年度 (自昭和十二年九月一日起至昭和十三年八月三十一日)

第一項 會費

收入之部 其一 (昭和十二年會費)

金貳百拾六圓也 (但シ參圓宛七十二人分)

田代(修)、新井、中井、鬼川、惠崎、田中館、黒羽、陣内、鈴木、渡邊(剛)、櫻岡、日野、青木、一本杉、三井、芳賀、大家、引地、小山、井波(星)、星(三)、杉山、名倉、浦上、今井、大庭(國)、内山、水島、赤星、岩水、坂本、内藤、立澤、萩原、佐藤(義)、藤原、徳光、井原、寺島、岩本、佐藤(儀)、桂島、武藤、笹田、百川、近藤、那須、遠藤、松岡、四柳、若山、山村、佐久間、奥田、荒木、竹崎、伊勢、永澤、橋本(綱)、横山、齋藤(庸)、秋元、吉田、石崎、飯塚、川崎、佐藤(光)、石塚、前川友常、菊池(武)。

收入之部 其二 (十一年度迄ノ未納會費本年追納ノ分)

金參拾六圓也 (括弧内ハ年度ヲ示ス)

内譯 金貳拾壹圓也……鈴木(四、六一一)

金拾貳圓也……菊池(武)(七一〇)

金參圓也……赤星(一)

會費收入合計 (其一、其二) 金貳百五拾貳圓也

支出之部

金貳百拾參圓五拾八錢也

内譯 金拾四圓九拾六錢也

金貳圓五拾錢也

金壹百貳拾六圓也

通信費
電報料
會誌印刷費

一四

同發送費

案内、通知等印刷費

原稿用紙代

花三浦良幹氏(ノ)

故菊池武雄氏香典

大崎八幡玉申料

木村經三氏見舞

同自動車賃

寫真代

水引、奉書、卷紙等

債券保管手数料

差引殘金

金參拾八圓四拾貳錢也

金拾參圓五拾錢也

金拾圓也

金九拾八錢也

金壹圓貳拾錢也

金拾參圓五拾錢也

金拾圓也

金九拾八錢也

金壹圓貳拾錢也

金拾參圓五拾錢也

金拾圓也

金九拾八錢也

金壹圓貳拾錢也

金拾參圓五拾錢也

金拾圓也

金九拾八錢也

宮古川宴會費

宮古川女中謝禮

當日ノ茶菓代

麥酒一打代

中食代

右之通保管ス

昭和十三年八月三十一日

保管者 松岡茂
幹事 石塚公雄

金參圓九拾八錢也

第三項 寄附金

收入

金八百九拾參圓也

内譯 金貳拾圓也

金拾圓也

金壹百圓也宛

金五拾圓也宛

金四拾八圓也

金參拾圓也

金貳拾圓也

金拾圓也

金五圓也

金五圓也

支出 無し

第一、二項ノ殘金及寄附金ヲ合シテ

金九百參拾五圓四拾錢也

別ニ利息

金壹百貳拾四圓五拾五錢也

内譯 金貳圓四拾五錢也

金五拾四圓八拾參錢也

金九圓四拾五錢也

前年度ヨリ繰越ノ現金

金貳千四百圓六拾九錢也

總計

現金(現在高) 金參千四百五拾六圓五拾四錢也(銀行及郵便預金トス)

債券(額面總高) 金壹千四百貳拾圓也 (勸業銀行ハ依託保管)

同發送費

案内、通知等印刷費

原稿用紙代

花三浦良幹氏(ノ)

故菊池武雄氏香典

大崎八幡玉申料

木村經三氏見舞

同自動車賃

寫真代

水引、奉書、卷紙等

債券保管手数料

差引殘金

金參拾八圓四拾貳錢也

金拾參圓五拾錢也

金拾圓也

金九拾八錢也

金壹圓貳拾錢也

金拾參圓五拾錢也

金拾圓也

金九拾八錢也

金壹圓貳拾錢也

金拾參圓五拾錢也

金拾圓也

金九拾八錢也

金壹圓貳拾錢也

金拾參圓五拾錢也

金拾圓也

金九拾八錢也

宮古川宴會費

宮古川女中謝禮

當日ノ茶菓代

麥酒一打代

中食代

男也會會則 (昭和十二年十月十日 於第十二回總會改正)

- 第一條 名稱 本會ハ男也會ト稱ス
- 第二條 組織 本會ハ一度東北帝國大學病理學教室ニ於テ恩師木村先生ノ御薫陶ヲ受ケタル門下生、及ビ先生ヲ德トシテ本會ノ趣意ニ賛スル者ヲ以テ組織ス
- 第三條 目的 本會ハ恩師木村先生ヲ中心トスル大家族主義ノ下ニ會員相互ノ連絡及親睦ヲ圖リ、以テ先生ニ對スル謝恩ノ實ヲ舉ゲ、更ニ專門科學ノ向上發達ニ努ムルヲ目的トス
- 第四條 事業
 - 第一項 毎年一回總會ヲ開キ、恩師ノ御指導御叱正ヲ仰ギテ知識ノ向上ヲ圖リ、謝恩ノ意ヲ表シテ會員相互ノ親睦ヲ新ニス
 - 第二項 毎年一回會報ヲ刊行シテ會員ノ動靜消息並ニ業績ヲ發表ス
 - 第三項 適當ノ時期ニ於テ木村先生及ビ會員各自ノ純科學的業績乃至經驗ヲ抄集シテ記念論文集ノ刊行ヲ期ス
- 第五條 會計
 - 第一項 本會ノ資金ハ會費及會員有志ノ寄附ニ因ル
 - 第二項 會員ハ滿一ケ年間ノ經費トシテ會費金參圓也ヲ納出ス
 - 第三項 本會ノ資金ハ會費ヲ以テ經常費トシ、寄附金ヲ以テ基本金トス。基本金ハ總會ノ協賛ヲ經テ本會ノ目的ニ掲ゲタル事項ニ支辨ス
 - 第四項 毎年一回會計報告ヲ爲ス
 - 第六條 役員 幹事六名ヲ置キ、現病理學教室員ヨリ四名(庶務幹事、會計幹事)更ニ教室外ノ先輩ヨリ二名ヲ推薦シ、其ノ任期ハ一ケ年トス。但シ重任ヲ妨グズ以上

本會ノ事務所ヲ東北帝國大學醫學部病理學教室内ニ置ク



通信談話欄

○山西省より

押味賢治

教室の先生方初め皆々様御變りございませぬか。私も出發以來規律正しき軍隊生活にて大變肥りました。時々敵軍の飛行機が飛來しまして爆撃を受けますが、支那軍の投下は殆んど當りません。北支の山々は早や白雪で眞白です。御貴地は未だ温かで、野球など賑かし盛んな事です。御貴地は日初めて慰問袋が當りまして、四十、五十のい、オヤヂが大喜びで飛び廻つてゐます。愈々當地より七十里ある代州へ行軍することになりました。廿日には當地を離れます。さよなら

○北支より

押味賢治

(二二、一一、四、着信)

○太原より

押味賢治

愈々冬も眞近に迫り申し此の手紙御落手の頃

は御貴地にも積雪を見る事と拜察仕候。中略。今日まで殆んど手紙を受取り不申居候處、今夕一度に入手致し嬉しく拜見仕候。中略。當太原市へは十一月十七日入城仕り、電燈ラヂオが有りまして、初めて文明人らしき生活を始め申候。既に御通信申上げました通り、入城當時支那人の一人も見えなかつた太原に、今では二万人位住民が入り込み候も、商店街は全く爆撃されまして、何時恢復致す事やら見當も付かず、それでもどしどし宣撫工作は進捗しまして、やがて自治政府も出来る筈に有之候。多賀君は○部隊に居り隔日に會ひ申し、教室の話等出で、懐しく御座候。昨今南京陥落を目前に控えまして、北支戦線は既に休戦状態に有之候。中略。私共は近々中に又河南省○に向けて出發し、最後の御奉公致す考へにて、着々準備に取掛り申候。若し凱旋し候はば、澤山の物語も可有之候も、とても手紙には書き盡せず、其の節に譲る可く候。拾月十日の男也會にも御祝電を打ちたく存じ候も、それも適ひ申さず候。下略。

(二二、一一、二二、三、着信、松岡宛)

○山西省○より

押味賢治

太原にて約三ヶ月待機の姿勢にありました友軍各部隊も紀元の佳節二月十一日を期して、一齊行

動開始となりまして、私共も南下、十三日當○を正午頃から攻撃開始致しまして、午後三時半には既に南門の一角に突撃路を作り、此處より四時頃突撃しまして、五時半頃には内部掃蕩を終りました。同時に私共も入城しましたが、飛行機の空爆、砲聲は股々として轟き渡り、實に物凄き限りでした。敵は約五六千にて約五、六百の屍體は城壁の周圍や市街上にごろ／＼轉がり未だ手足を動かして居るものもあり、野犬が多数屍體を喰ひ散らして、實に見るも凄惨の極でした。我軍は戦死僅かに三名、負傷二十名にて調期的な大勝利です。この平遙は人口約一萬五千位の商業田舎都市ですが、その城壁の立派なものには目を見張りました。直ちに歩兵の一線部隊は○攻撃の爲、前進しましたが、昨夕陥落の情報が入りまして、實に第一線歩兵部隊の勇猛果敢なる戦闘振りを後方の丘より觀まして、今更乍ら驚き入りました。諸先生初め皆々様には、四月の學會を控えられ御多忙の事です。こゝ數日中にはどしどし／＼南下しまして、黄河の水を見る日も間も無い事です。未だ朝夕は零下十度位になりましたが、北支は春が早く訪れる相ですから樂になりませう。又後程面白い戦闘ニュースが有りましたら御通信します。皆々様御機嫌よう。(二月十四日)

○汾陽より

押味賢治

木村、那須兩先生初め諸先生並皆々様には益々御健勝に互らせられ、日夜御精勤の御事と存じます。

野球に、勉強に精の出る事と思ひます。只今○方面へ移動中でありませぬ。又落付き次第御通信致す事にして失禮します。(二三、五、二三、着信)

○德縣城ラマ塔の繪葉書

押味賢治

拜啓、御無沙汰しました。内地は愈々好氣節に入りまして、皆々様益々御壯健の事と存じます。

御無沙汰して居ります。一昨日○方面より當地に參りました。二三日で色々内地で見られる所へも行つて來ました。又明日は財布をすかんびんにして南下します。又原隊に復歸して本隊の後を行軍で追ひます。(二二、一〇、二三、着信)

○汾陽より

多賀 榮

拜啓、其の後は久しく御無音に打過ぎ申譯ござ

いません。

木村、那須兩先生始め諸先生には益々御健勝御勉學の事と存じます。小生も出征以來至極健かにて御奉公して居りますから他事乍ら御休神下さい。押味先生にも太原駐軍中は度々お逢ひして教室の事共に花を咲かせましたが、去る二月十一日行動開始以來共に南進別れました。先生の部隊は平遙に居るとか聞いて居ります。小生は先遣隊附となり十五日〇〇、十七日〇〇と政略入城以後西方に向ひ、二十四日〇〇二十七日は黄河に着きました。大黄河も、この邊は兩岸は絶壁をなし、河幅は六百米、中央三百米は濁流が流れて居ります。三月四日汾陽に歸り駐屯して居ります。又二三日中には出動する事になつて居ります。内地にてはそろそろ木の芽も出る頃でせうが、此處では春は未だくの様です。天津の話、北平の話等澤山散かい事もあります。何時になるか、歸つてから面白い所をどつさり致します。先づは御無沙汰お詫び旁々近況お知らせまで。

(十三、三、三〇、着信)

○汾陽より第二信

多賀 榮

拜啓、全く御無沙汰してすみません。相變らず元氣で御勉強の事と存じます。此方も暑さ酷しいです。困つたものです。こゝ汾陽で偶然押味君と一緒に毎日く悪事を働いて居りましたが、彼氏はこの二十五日此處を去り、南方に向つた

す。私淋しいあります。

現在は中國語も食事、〇〇舉行に關する事項は一人前で不自由は感じません。好姑娘も相當居ります。當地では専ら寫眞衝向上を計つて居ります。全部日光燈、電燈無から致方ありません。雜誌や新聞で上手な寫眞を看々され面白くもないかも知れませんが……寫眞十二葉同封

- 1、支那馬車
- 2、纏足、これでアバウトが良くなるとか一度味ひたいと思つて居りますがその機を得ません。
- 3、半島姑娘軍も前線へく時は弾の下まで突進して來ます。
- 4、支那人：實は多賀先生の支那服姿。



- 5、支那人のストルーマ：相當のものでせう。
- 6 宿舎の姑娘張嬢、寫眞よりも實物は確かに「好」。「完了慶」そんな事ありません。兵隊が言ふ事を聞かなくなりませう。
- 7、押味先生と一緒に。押味先生宿舎屋上

一八

8、三月三日、雪中行軍にて。



- 9、四月二日石樓縣に向つて進軍。黄河上流の支流。
- 10、押味先生と別れる日。天主堂修道院を看々して。
- 11、汾陽城外にて。馬上

の多賀部隊長。

12、近ごろ、洋式大支關にて。

木村那須兩先生始め諸先生によろしく。お暇の折お便り下されば喜びます。若山先生も芽出度學位を獲られたと長陵45で拜見、喜んで居ります。時節柄御身大切に。(七月二十九日發信四朔宛)

○北支より

佐藤 正太郎

九月二十二日釜山出發、汽車輸送により天津より更に西方の豐臺に二十六日到着、同夜は豐臺北部に宿營、二十七日早朝豐臺出發、爾後は乘馬行軍、二十七日夜は馬家莊に宿營、翌早朝同地發、二十八日夜は辛店莊宿營、翌早朝同地發、二十九

馬の屍も亦屢々見られ候。昨日(三十日)は初めての猛雨に接し候。現在には既に山並は見えず、見渡す限りの平野に候が、その平原が一樣に薄曇りに覆られ、ひしひしと迫る冷気が感ぜられ續いて猛然な勢にて雷が鳴り響き、稲妻亦縦横に駆け廻り、雲黒々と寄せ集ると見ればさつとばかりに顔や手に痛さを感じさせる様の大粒の雨が横掃りに降り始め候。約三十分も續き候。流石に大陸の雨は違つたものと、とんでも無いところまで感心致し候。

亂筆亂文御免被下度候、御判讀被下度候。

(二二、一〇、一一、着信)

○上海より「負傷せり」

鹽澤 正俊

本月上旬上海上陸以來元氣に奮闘してゐる。次に人間の神経も太くなつて來る。個性も感情も亦變つてくる様に思はれる。二十日正午〇〇宅にて敵迫撃砲彈の爲右眼に負傷し、化膿し、視力無し、兵站病院に後送されしも元氣旺盛病床に横たはつてゐても戦線の傷者が氣になつてならない。近く亦第一線に歸還の豫定。

木村先生外諸先生の御健在を御祈申上ます。

(二二、一一、六、着信)

○内地還送

鹽澤 正俊

皆々様益々御健在御研究に御多忙の事と存じます。

す。小官武運拙く上陸後僅か半月にして負傷後退上海兵站病院にて加療致し居りました處、不意内地還送と定められ、十一月二十五日無念にも廣島陸軍病院に入院致しました。角膜の砲彈破片も抽出、既に潰瘍も治り今は唯醫を殘すのみにて視力も〇、二出し居ります。自分の隊は江陰を攻略して居るらしく、かゝる報道を受けるにつけ、後送せられしを残念至極と思つて居ります。再び戦線に出られる日の早きを念じて居ります。

(二二、一一、二、着信)

○再び戦線へ(若松より)

鹽澤 正俊

先日は不意參上致し御迷惑を掛け申し候。愈々小官内地還送以來の念願も達せられ、十日戦地へ向ひ得るの機到達し、欣快至極と存候。戦地に向ひましては僅かながら實戰の經驗に鑑み、且諸先生の精神を體し、萬全の戰線勤務を致す覚悟、素より生還は期せず、來年四月靖國神社の花の下にて再會を期すべく約束申上候。出發の爲多忙につき、出發の御報告迄。(二三、五、九、着信)

○中支より

鹽澤 正俊

御無沙汰致しました。木村先生始め諸先生には益々御研究に御多忙の事と存じます。小官不意轉任の命を拜し任地へ向け出發致し御挨拶も申し上げず失禮致しました。十二日涇川神社を參拜〇〇港を中航、七日間の航行を續け十八日〇〇へ到着

一九

日夜は固城鎮宿營、翌早朝同地發、三十日夜は徐水の西北方約三軒孤庄營といふところに宿營、これが現在地に候(支那地圖を携けて御覽被下度、平漢線に沿ひ、南進中に候)豐臺よりは既に三十里に候。宿營地にては何れも比較的清潔なる支那民家を選定して宿泊致し候も、何分土質にて作られたる家屋に候へば通風採光等日本家屋には到底比べ物に不成候。其の上、不潔なる事も想像以上にて、初めは吐氣を催ふす様の事も有之候も、現在にては大分慣れて大して意に介せざる様に相成候。南京邊は宿營前除糞粉を用ひ候爲、どうやら此の襲撃は免れ候。一番困り候は豫て噂には聞き居り候も用水及び飲料水に候。何處にても井戸水に候が、其の水は多くは白濁を呈し、然らざる場合にも、或は臭氣を有し、或は煮沸に際し白濁泡沫を生ずるなど、仲々に堪へ難きものに候、初は兵等にて、之が飲用に際し、吐氣を催し嘔吐せるものも有之候。現在にては然し是にも大分慣れて、餘り嫌な顔もせず飲用する様に相成候。飲料水は勿論全部煮沸して用ひ居り候。ビール、サイダーを求めるとや切に候。行軍中初めは眠々たる山並を右手に眺めつゝ南進致し候。天氣は幸ひ晴天續きにて、土砂の飛散するには閉口致し候も、これは午後のみにて、午前中は適當に濕氣を帯びた道路上を氣分も宜敷く行軍致し候。道路の傍を流れる堰の向ひ側に腹這になりて倒れ居る支那兵、露出せる手は既に一部腐蝕して骨の見え居るが、其の儘に投げ棄てられあると見れば、或は道路上に仰向けに打倒れ居るも見られ候。行軍間支那兵のかゝる無慘なる屍骸は約十體も見られ候。

致しました。長江の濁流に浮ぶチャンの漁船、岸の新緑亦支那ならでは見られぬ情景であります。左手に師團の苦戦せし〇〇砲臺の攻撃の跡を眺め、轉た感懐無量、昨日南京の戦跡を弔ひました。未だ戦場の整理出来ず、血腥いものがあります。光華門の破壊の跡を見ても苦戦の様が思はれます。本日愈々〇〇に向ひ進軍します。〇〇會戦には参加出来る様にと念じて居ります。元氣益々旺盛。(二三、五、二八、着信)

○第二信

十九日南京古戰場を弔ひ〇〇に上陸直ちに北進仕り候。支那の汽車もなか／＼面白く工兵軍曹の驛長も亦面白味有之候。〇〇まで北進せしも徐州陥落と共に殘敵所々に現はれ、前進不能と相成り只今暫時警備につき居り候。徐州會戦に遅れたるは残念至極に存じ候。當地は相當の都市に有之候も破壊相當度及び、家屋内は穢く内地人の到底住み居らるゝものに無之候。支那の子供を備ひ居り、分らぬ支那語と手眞似にて使用致し居り、矢張り可愛らしく、憎めぬもの有之候。暑さはひどく、内地の眞夏に比すべく、蠅、蚊は内地に比なく、水は穢く困り居り候。唯河の周還の緑は亦美麗そのものに候。暇をみて。(二三、六、七、着信)

○第三信

拜啓、陽春の候、木村先生始め諸先生御勉強研究

遊ばされ居り候哉、御病氣御快癒の段切に奉祈候。次に小生方一同以御蔭様無事に消光龍在候間、御安心被下度候。

先日は第十一年男也會々誌御惠賜賜はり、難有拜見仕候。御師弟の御情義厚き事父子の如く、御團結の美しきこと家族と異らず、誠に羨望に不堪候。而して愚弟聲も存命致したらんには、其の御席末に列せさせて頂かれしかと考へ、今更何の御報恩も致し得ざりしを熟と亡弟も泉下に於て遺憾に存ずると共に、御男也會の年々健全なる御發達を成され、幾多有益なる御研究御事業を成され候事を、喜び居り候事と存じ候。小生も衷心より喜びと敬意とを以つて拜見致し候。而して將來も幾久しくいや榮えに榮えさせられんことを念願申候。

就而は誠に些少には候へ共、別紙郵券亡弟に代り呈上致度候間、御受納被下候はば本懐の至に奉存候。右御禮券々如斯御座候。其内時下御自愛專一に奉願候。 敬具 昭和十三年二月八日

○學會のあひまひ

○上洛軍より

●前略、昨夜は遅く、わざわざ御見送り下され恐縮に存じます。今朝無事着、是れから又西下します。教室の一同とは上野驛、東京驛食堂で一緒になり、又別れて西下します。不在中何卒よ

に益々御多忙極め居らるゝ事と推察仕り居り候。降りて小官上陸以來一ヶ月半至極健在勤務仕り居り候。上陸後一戰闘致し候も、僅か一晝夜の攻撃にて落城仕り上海戦線のそれに比すれば物の數ならざる感有之候。只今安徽省中央壽縣に警備仕り居り候。然れども今は支那の雨期に會し、半月餘も太陽の顔を見ざる状況にて道路は泥濘と化し、のみならず河川の氾濫物凄く、日に／＼水深一尺餘を増し居り、只今でさへ道路は水に没し、通行不能と相成り居り候。山より見れば四方水にて、見渡す限り一物無き景況を呈し居り候。實に内地にては想像だも許さず、見る者をして啞然たらしめ候。居る町は相當大なる都市にて城壁に取り囲まれ大きな家屋有之候も、支那家屋の故床は無く、石敷或は土間にて四疊半ならずも疊が悉く思はれ候。然れ共机寢臺等は内地に見られざる立派な木を用ひあり候。蚊帳、衣類、寝具等は總て品にて間に合せ、支那服装等實に面白き様を呈し、寫眞器有之候へば撮影など面白からんなど考へ居り候。食器はチャンコロの物、茶碗と云ふより井と云ふ方適切と思はれ、始めは嫌らしく思ひ候も、今では平氣にて使用、手當り次第の候。慰問品なども手に入らざる現況、以つて戦線の様子御推察被下度候。酒は何時も要求致し居り候も渡らず、配給ある節もほんに著にて嘗る程度にて、野球の後のビールの味なども／＼。この間の如きは泥濘膝を没し、或は胸迄の浸水中を行

軍、實にその困苦たるや體驗者のみの知り得るものと思はれ候。然れ共その困苦を征服の魄の心良さも亦味はざるもの國外にて、無上の喜悅を感じる次第。或は戦死者に合掌し、或は捕虜の處置等變化極まり無き生活、誠に想像だもつかざる状態に御座候。内地には暑氣を制しての研究に、運動に、アルコールに思ひ出さる事も數々有之候も、戦する身の小生には一寸疎遠き事と相成り候。くだらぬ事を記し近況報告仕り候。ロソックの下で。(二三、七、一一、着信)

○第四信

昨秋上海受傷後送入院中は格別なる御高配を賜り、且再出征に際しては多大なる御配慮を忝うし厚く御禮申上候。不肖正俊、八月一日部隊兩角部隊附を免ぜられ、部隊軍醫部々員を被仰付中山部隊にて勤務仕る事と相成候。上陸後日淺く第一線勤務を無爲再び遠ざかり、師團衛生勤務の大御所參るは最も苦痛不安とする所に候へ共、一意専心熱意を以つて職責を遂行する覺悟に候へば、何卒倍舊の御指導と御鞭撻の程伏而懇願奉候。(二三、九、一一、着信)

○木村教授宛

太田 嘉太郎

拜啓、餘寒厳しく御座候處、皆々様には御機嫌よく被爲涉候哉、御伺申上候。又經三様には如何

ろしく御願します。

(卅一日朝 東京驛にて 老爺) 卅一日午後、臨時ツツメ並ツツメで一同京都着。一行十三人。同宿賑やかな事です。留守をよろしく御願致します。サヨナラ。京都市東山区粟田口湯居町。廣道三條上九角前田別邸内 男也。 軍中先發やくさ軍より本陣親仁様へ



●夜遅く御見送り有難う存じました。昨日は満員にて殆んど眠れず飲み通し、話し通しにて東京に着きました。特急「つばめ」には松岡先生初め十三名、至極元氣にて乗り込み、東海道をひた走りに京都に向ひます。櫻も桃も満開です。軟い光線が春を充分満喫させてくれます。シャ／＼の御同行にて予定通り爺様同伴、午後五時頃「愛の巢」に闖入りました。川崎。モルガンお雪のものとの愛の巢の廣い庭の中の池の中に眞白い鯉が居る。これを國際の「戀」と



(伊勢先生撮影)

云ふたのは仙臺病理のやくぎ共である。庭には杉こけが生えて櫻が咲いてゐる。 松岡。爺様の宿題報告も無事終了、皆々肩から荷を下した氣持ちです。夜は「魚清」にて慰勞懇親會を致しました。笹田、武藤、井波、水島、栗原諸先生出席にて盛會至極でした。電報有難く拜見しました。 一同。

○留守隊より激動電報

出血にイロますキヤウの集ひかな。バト留守隊

○京都より釜石に 歸りて

橋本照治

橋本照治突然上洛に際しては皆々様にも要らぬ御心配を相かけ、何時も乍らの煩冠形式で済ませて参りました。皆々様には確に厄介物でしたのでせうし、あの腦出血標本の一寸新しい標本ではあるまいかと考へられ、自然と苦笑せざるを得なかつたと思ひます。其れに反し私にとつては、ハトに御世話になつてゐると同じ氣分で、何年振りで、H-E戦の後廣瀬川を眺めて、向山の東洋館あたりで、あつさりといふ氣分、今少しでデメリ度く成ると言ふあのフライングな氣分に浸り誠に嬉しう御座いました。

物騒面で女好きと來てゐるので、大阪城内では何時の間にか諸迷士に捨てられ、言葉通ぜぬ口惜しさに、色んなプランも水の泡、結局晝間から道頓堀といふ歌の文句所でアサヒの泡と煙を吹き飛ばし、昔物珍らしく聴えた、剛さん、錦さん、水さんなんかの話を思ひ出させる、何とかさん、何番さんとか噂する、メトロンとか、メロンとか一寸仙臺の三越位の建物の中に、金の星のジャズバンドなんかが真似てゐるとそつくりな、煩き音楽が聞えたりして追ひ出し喰ふまでデメツて來ました。そして松島ノルデンを拜して休みました。翌五日は神戸までと思ひましたが、その元氣も無く、甲子園グラウンドを見、奈良へと足を延べ、二千年前の國史を漸く思ひ出し乍ら、六、七

ヶ所特急にて拜し、更に熱田神宮に武選長久を祈り、名古屋にては工業の盛なるに驚き、名古屋城を見、期せずして聲無き凱旋の遺骨を迎へ、整然たる軍人さん、愛國婦人會、國防婦人會の人々の誠情の中に立混り、思はず貰ひ泣き致しました。次に名古屋大耳鼻科教室を見學、七日上京、そろ／＼懐具合も淋しくなりましたので直ちに歸郷の途に着き夜中仙臺齋、針久支店五等室に寝込みました。仙臺齋で四ッ脚先生をお見かけしました。が、混み合ひの中故、そのまゝ別れて終ひました。あの晩はしばらく振りでタケノコを御賞味になり、ゆつくりお休みになられた事でしたらう。翌朝早くお伺ひするかなと助平根性も湧きました。が、すると一日遅れるし次第に自分の體で無くなつて來るし嫌な所でも向はねばと苦笑しながら出發九日午後六時釜石に安着しました。

煩冠形式は十月十日に必ず行つて償を致しますから何卒悪しからず。年のせいも小生漸く今日から出勤です。(四月十六日)

○洋行中獨逸ハンブルグ より繪葉書

參木 錦 司

諸先生御一同様、十月一日より小生當市に参り目下熱帯病理學研究所に通學致し居り候。十二月中旬アメリカに渡り、二月日本に歸國の豫定に御座候。

大聲呼酒坐高樓 豪氣欲吞五大洲

二三

一寸丹心三尺劍 振拳先試倭人頭
日支事變益々進展、鴉を馳せて北支の地に活動せんと心勃々に御座候。
"Japan muss leben und wann wir sterben müssen."
進め進め國家を擧げて。

(一一、一二、一三、前信)

○東京より美人繪葉書

水島君に一寸知らせた許りに今夜はヒドイ目に合つて居ます。然し此の葉書は私が見付けたので、如何ですか。(渡邊)

銀座に出て來ては築地の旦那に到底敵いません。このフォートはナベさんの誰かに似てゐるそうです。二人共大いに酔つとるです。(水島)
三月十七日

○赴任地釜石に着いて

川崎 武夫

拜啓、小生儀出立に際しては早朝にも拘らず、皆々様の御見送りを戴き誠に有難く感謝仕り居り候。

在室中の自己を顧み洵に慚死たるもの有之候。幸ひ皆々様の御高庇に依り、兎も角現在に至り候事、萬々感銘に耐へず候。今遠く教室の事共を想起し、改めて懐しさを感じ居り候。當釜石は誠に不便なる所にて、仙人峠は恰も孤島の如く、陸路

○五所河原便り

増田 桓 一

○暑中御伺ひ申上ます。皆々様御元氣で野球に、御研究にお盛んのことと拜察致し居ります。夏は矢張り暑い方が氣持が良い様で御座います。時ちやんだの、雀さんだのの鼻の汗が思ひ出されます。千代、デコ、ヘコ、金ちゃんの面々もお變りありませんか。エプロンの背中が膨れます。坊や君と一緒にエヘラ／＼とお醫者様をやつてゐます。野球も出來ないですが目の廻る様な忙しさに、暑さを忘れて居ります。二研の先生方よ、暑さに負けず、夜も晝も内も外も勉も遊も御盛んならん様。

惠崎 毅

○桓一院長先生の命で無理して一筆。暑中御伺ひも、今夏の私にとつては涼し過ぎて困ります。皇軍將兵を思つた譯ではありませんが、亞熱帯産の坊やですから、親爺様の御言葉の様に、一時は外國に行つた様に、東北津輕には全く弱りました。通譯を數知れず院長先生、看護嬢に頼み、此頃はモチヨコチャ、ハラコヤム、カネガサ等大勉強中……御元氣で。(七月三十一日)

○釜石より

川崎 武夫

拜啓、御無沙汰致し居り恐縮に存じます。

二三

○北支便り

佐藤 正太郎

殘暑お見舞申上ります。其の後全く御無音に打過ぎましたが、諸先生には相變らず、御達者にて御研究の御事と御慶び申上ります。私もお蔭様にて達者で働いてゐます。時節漸く産界も忙しく、月千二、三百頭を治療致して居ります。明日から競馬、病的な頭を以つて大穴を狙つてゐます。敬具。(八月十四日)

こんなに長い間御無沙汰を申し上げやうとは夢

を遮断致し居り候次第にて、活氣ある市とは申條淋しき極みに候。赴任早々診療を強いられ、多忙なる終日を送り候まゝ、多少とも氣も紛れ居り候へ共、身の廻りの不自由には殆んど辟易仕り候。教室にては愈々試験開始にて、皆々様御多忙の事と存し上げ候。本日は出仙の上野先生と面會仕り浦山しくも感ぜられ候。先づは取り敢ず御挨拶迄如斯御座候。草々不備。(七月四日)

○米澤置賜病院より

佐久間 正 一

其後は御無沙汰、毎日手術等で夜遅くまでかゝるので、室に行つては寝る切り、何とも御無沙汰して相済みません。貴兄等の仕事も進んだ事です。小生も毎日病人で日を送つてゐるが本職だから氣が張つてゐる。入院患者は十七名、外來四五―五十名位だね。相當まあやつてゐる積りだ。どうしてもクリニケルはクランケ相手でない元氣が出ないね。而し田舎町だ、仙臺の一番丁プラ見たいなものも無いのでつまらぬ。出るにも外科は時折の飛入り患者が有るので困る。然し八月中には出仙したいものだ。土曜の午後行つて日曜に歸らねばならない。助手が慣れて來ると宜しいが、外科は盛岡醫專第一回卒業生の内山君が居りますので二人でやつてゐます。

(七月二十五日新研宛)

く有りましたが、昨日今日湿度が増して来ましたので、むん／＼する暑さには閉口致して居ります。今度此處で幾日位警備につきますか又將來どの方面に向ひますか、今の處未だ見當がつかません。沁陽に於て。

五月三十一日
木村先生御侍史

○古川より

佐藤つる子

花は風ですつかり散つてしまひました。これからは葉を見る季節となります。先日は別刷お送り下さいましてありがたう存じます。分らないながらも眼を通して居ります。そしてあれこれと考へてます。

經三様お暖かくなりましたのに、早くお元氣になることの出来ませう様心から切に祈ります。奥様もお元氣のこと、存じます。經三様の御看護に心身共にゆるくないこと、存じます。先生の御健康を祈ります。先は御禮まで。

四月二十九日
木村男也先生御侍史

○大邱便り

小山芳輝

拜啓、酷暑の初益々御清涼の段奉大賀候。其後

致しました。それは先づ第一に軍隊が共産軍であつて、思想的統一を持つてゐる爲か、その戦闘精神が旺盛でありますこと。第二山嶽地帯を利用する得意のゲリラ戦術。第三地方民心を巧に掌握して居ること。こんな事で河北省とは全然別個の感懐かせる連中の戦ひ振りで御座いました。どの部路に行つても共産主義宣傳ビラ、抗日宣傳ビラが一杯張り廻らされて居る事が殊更に目立ちました。追へば逃げ、手を緩めると又やつて来る、少しもかまはずにおくと押し寄せて来る。凡そうるさいこと限り無しであります。今居ります〇〇附近は既に三月上旬友軍〇〇によつて一度掃蕩された處であります。今尙便衣隊、土匪それの討伐では〇〇部隊が數十名の犠牲者を出しました。山西をうろつき廻つてゐる支那軍も未だ相當有る筈でありますから完全な平定迄には未だ可成りの日数を要するものと考へられます。然し蔣介石が全力を注いで頑強な抵抗をなした徐州も我が皇軍に依つてもろくも陥落致しましたから、どんなに我がも連中の命数は見えすいて居る様に思はれます。黄河以北は鐵道が全部皇軍に依つて占領されて居りますので、現在の態勢を維持する事のみによつても連中は自滅する外無いと考へられます。五月二十四日頃より當地では梅雨の微候が見えて参りました。稻妻、雷雨が襲つて来ましたが、此頃は曇雨霪霪の上、一日おき位に降雨が有ります。氣温は日中大體九十度前後、せんだつてまでは雨無しの暑さで御座いましたので凌ぎ易

にも思つて居りませんでした。彼方へ動き此方へ動きし、何處かの警備に着いてどつかり腰を落付けると、何を爲すのも物憂い變な倦怠に襲はれ、終ひかうした失禮を連續する破目に陥つて了ひました。申譯も御託も申し上げ様か御座いません。昨年十二月六日に山東省臨清出發その後南下して(三地方、地名省略)の敵と交戦、次いで(四地方地名省略)を通つて〇〇に北上二月六日まで此處で警備に着きました。二月七日〇〇出發、河北〇〇戦としての山西出動に參加致しました。(四地方地名省略)で敵を撃破、二月十九日には山西省の山嶽地帯の眞中に大きく開けた路安平野の中心都路安城を攻略して之を落城せしめました。二月二十日路安出發太原より鐵道沿線に沿ひ南進して来る友軍〇〇部隊に呼應するため、臨汾支隊となつて一週間のうち三日の徹夜行軍をなし臨汾に到着、臨汾を陥落せしめて南下の〇〇部隊と完全に聯繫、充分作戦効果を奏しました。三月四日臨汾出發、東進して路安に向ひ三月十日の陸軍記念日は路安で迎へました。此處に四月二十六日まで駐屯して、四圍の平定討伐を行ひ、二十七日同地出發南下、軍の徐州攻撃に備へて黄河北岸の警備につくため〇〇〇〇〇〇の線に分駐(五月三日)その間今まで徐州陥落の頃黄河北沿岸〇〇に出動示威工作をなし、今再び〇〇〇〇附近に集結して警備について居ります。〇〇出發以來當騎兵部隊だけで五名の戦死二十名の戦傷者が出ました。各部隊總合すれば相當数の犠牲者が出て居ります。小生は至つて元氣で勤務致して居ります。山西省山嶽地帯の戰鬥では豫想以上の苦戦難戦を

は御無沙汰のみ申上げ御申譯無之失禮の段御寛恕被下度候。

先生には益々御勇健に亘らせられ御研究に御指導に寧日無き御奮闘を御讃けのこと、存候。又御餘暇には張切る教室員を御相手に炎天の下熟球に御熱狂青年を凌ぐ御精力振りを發揮せられ時下非常時に相應しき健康増進忍苦鍛錬を御實行の御事と唯々敬服の他無之候。

朝鮮も合併以來早三十有餘年を経過致し、今や内鮮人の融和は益々強固と相成候。朝鮮志願兵制度制定も全く其の現れに他無候。三十餘年吾等先輩の拂はれし偉大なる努力は今や結實の秋に達候其統後の熱誠は誠に涙ぐまじき程にて幾多の美談美譽は枚擧に遑無き有様に候。内地軍隊が鮮内を通過し口を揃へて感激致し居る次第に御座候。支那事變發生以來在鮮内鮮人は事ある度毎に又學校にては始業時間の初めに一同起立皇國臣民の誓詞を齊唱致し皇國臣民たる榮譽ある自覺を一層強調致居候。皇國臣民の誓詞とは

- 一、我等ハ皇國臣民ナリ忠誠以テ君國ニ報ゼン
 - 二、我等皇國臣民ハ互ニ信愛協力シ以テ團結ヲ固クセン
 - 三、我等皇國臣民ハ忍苦鍛錬力ヲ養ヒ以テ皇道ヲ宣揚セン
- の三ヶ條に御座候。
- 内地も御同様と存候が當地にても精神總動員聯盟、勤勞報國隊等々の聯盟を結成致し病院も之に加盟致候。同一團體にて各種の結成に参加致し居る有様に候。醫事は今夏休暇を利用して三年生のみ林道開發の勞働に従事勤勞奉仕を致し好成

續を収め候。一般男女中等學校生も夫々勤勞報國隊を組織致し活動仕り候。醫學生も斷髮、禁酒、禁煙を斷行致候。今や上は知事より下は道府廳の一雇員に至るまで斷髮勵行致し居候。然し病院方面は未だ戰時制を致すもの少候。此他下駄履登應等々非常時氣分をそゝり居り候。本夏より夏期半ドン制を廢止致し候こととて午前八時より午後四時までの勤務に御座候。

ソ滿鮮國境に一時不穩の雲たゞよひ候節は一寸緊張を感じ候ひしも、日本帝國の前にはソ聯も鐵袖一觸の状態にて今や暗雲去り平穩と相成候。當朝鮮と内地との關係は可成古來より緊密な關係を示し居ることは既に史上に明かな處に御座候が就中人類學的に北鮮は身長も高く頭蓋骨等の形態學的關係より滿洲人に近く候。反之南鮮は身長も低く頭蓋骨等の形態も吾國西人に甚だ良く酷似致し居る由にて一寸興味を覺え候。又一新羅王我尻を喰へ」と喝破致候調伊金難の遺跡も大邱の近くに有之、新羅王の或者は内地人なりしと云ふ點、或は所々に遺存致す加藤清正朝鮮征伐の遺跡等多々有之候。就中支那事變により我國の大陸政策は驚く可き短時間内に著々完成の域に到達しつゝある現下の狀況と、秀吉時代文化低き頃既に大陸政策を企圖し萬難を排して渡洋朝鮮征伐を敢行致候ひし其偉業と思ひ合せ誠に感慨無量に候。

先日蔚山に参り清正築城の蔚山城趾に残る本丸、追手門等の遺名、更に崩壊せる城壁の石垣を見感懐深く覺え候。春は櫻花咲き亂れ、ありし日の偉業をたゞえ居候。小生も吾を忘れ櫻花の蔭に千古の夢を秘めて寢る苔蒸す岩に無限の感激を覺え、

しばしば去り兼ね候次第に御座候。當地は盆地に相成居候關係上大陸的影響を最も強く受け、鮮内有数の暑さを示し居候。七月末は室内にても晝夜ブツ通しにて百度内外を示し候。周圍の事物は何れも體温よりも遙に高く候ことと不快にて睡眠も妨げられ候。従つて室外の暑熱は百二、三十度を示し其の上一ヶ月餘も一滴の降雨無之候ことと相當のものに御座候。鮮人等は多くはゴザと木枕とを携帯して屋外道路上に寝り居候。又自動車道路の眞中に大の字なりに寝り或は軌道のレールを枕に夜を明す者多く、ために自動車汽車に撞殺せらるゝ者少なからず新聞の三面記事を賑はし居候。

診察方面にては當地に参り一年餘に候が可成な味ある症例に比較的多數遭遇致し又治療上、二三次工夫致し候ことも有之此點のみ多少得る處有之候ひき。

先便にて御送り申上候ひし標本は最近解驗致候ひし腫瘍患者中少く興味を覺え候他御教示賜はり度く御多忙中失禮とは存候ひしも敢て御送り申上候ひし次第にて失禮の點は平に御海容被下度候萬一御餘暇有之候節は診斷名のみにて御教示に預り候はば幸甚に御座候。

其の中金順譯は當醫學病理解驗教室にて再三検査の結果オステオブラストームと診定致候物に候。而て臨床上腫瘍は高血性を出血性を示し候者に候。デンケルカーレルの大教科書にも上頸竇乃至鼻部のミエロームは僅か一例の報告致居候由にて耳鼻喉科的には珍稀のものに候が果して眞のミエロームに候や此點先生の御教示を仰ぎ其上にて發表致度

き所 存に御座候。

又吳松姫は救生に候が其病變の高度に候こと一寸類例少く候故普通寫眞同封申上候間御高覽賜はり候はば幸甚に御座候。之も腹痛とのことに候が尙一度御指導御教示の程御願申上候。

最後に金成守に候が之は骨膜下に増生致し骨部に緊密に接着しつゝ發育致居候て出血性に乏しく候ひき。之は基底細胞癌ならんとのことに候も、診断つきかね居るものに候故、誠に恐縮に候が之亦御叱教賜はり度願上候。

腫瘍患者は甚多く候も、多くは貧困者に候て治療は完全を期し難く遺憾に存居候。多くは手術治療のみにて光線療法を施行致さず候。此他頸部の大なる定型的リーゼンツエレンザルコム例をも診察致候。

時下氣候不順の折柄、切角御自愛の程祈上候。末ながら御令室様にもよろしく御恩澤の程御願申上候。

八月廿日

木村男也先生 御侍史

○東北帝大醫學部滿洲國 巡迴診療團

第三班長 内山博士通信

内山博士が巡迴診療の非常に御多忙中に詳細御報告下されしもの。例の御連筆にて或は御醫員の寫し誤りもある可く、親仁様さへ滿洲の線無(讀めない)通信として二研に御出しになつ

不清潔にあきれ申候。昨日二十支里(三里餘)を六時間あまりを費し、荷馬車と洪水の中を小舟でやつと克東驛にたどりつき、夕刻北安鎮に到着、須藤清五郎氏に迎られ、小生は一夜同氏宅に、班員は近所の滿洲旅舎にとまり候。布團の御蔭で小生の風邪も今朝は大いに輕快致し候。當地方四十日來降雨續きの由、黒河國境視察は線路不通の爲中止、當地にて診療を行ふ事に致し候。北滿龍江省北安鎮須藤公醫方。

○第五信 八月十八日發信

見物の日程を短縮十六日大連發扶桑丸にて只今午前十時門司寄港神戸上陸の上歸任仕るべく候。餘は着仙の上拜趨申上べく候。敬具。門司にて。

○軍醫備員として應召し

石塚 公雄

謹啓 恩師先生には其の後御壯健の御事と御慶び申上げ候。陳者、御多忙中の處突然入隊の爲暫時御暇を頂き恐縮の至りに御座候。毎日特別の事も無之、何時も教室の事が眼前に髣髴として参り候。御蔭様にて無事勤務致し居り本二十三日伍長の肩章にかわり候も、突如戰地に在る衛生兵が交代の爲め歸還する事となりし爲本院の兵舎を明渡し宮城野原分院に移轉を命ぜられ申候。電鐵宮城野原の近々にて乳銀杏がすぐ窓外に見え、飛行機格納庫跡かと存せられ候。現在○○名の戦傷患者入院中にて明日より患者診療に當らしめるとの分院長(清水軍醫少佐)の話に候。去る日曜月曜の

た位故、觀望記の點數重にも陳謝します。(係) 第一信 七月十三日發信

拜啓 深甚なる御配慮を拜謝して、清津より團長は新京に参り交渉するの要あり直行、團は豫定通り北行牡丹江を過ぎ、林口にて密山行と別れ昨十二日折務省第一次移民彌榮村に参り候、折返し降雨激しく、車を駈らんに車軸を没する惡路



(内山博士御診察の圖)

は、部落視察を障へられたる替りに、直ちに村内の宿泊所に入り村病院長(花吹出身)藤巻氏に衛生状態を、村助役山崎氏(岩手縣下閉伊郡)に移住當時の慘憺たる苦闘振の座談會を催はし候。本日は學校病院役場に参りて出發、佳木斯濱、直ちに省公省、陸軍病院和田部隊を慰問、見學致し候夕刻九時なほ夕闇の内を松花河畔に散步歸宿致し候。佳木斯札幌ホテルにて。

二六

○第二信 七月十六日發信

彌榮村、佳木斯の視察を終へ、十四日夕刻牡丹江にて全團集合、直ちに第一班とともに西行、哈爾濱に第一班と分れて西行をつづけ、第二師團の苦戰跡、昂々溪にて猛雨の内にて乗換、夕刻當地、班員無事一夜休息致し候。藤原氏は出張留守にて日程もまた定らず、本日晝過同氏歸任の後打合となる模様候、本朝は各方面に挨拶に廻る豫定に候。(齊々哈爾濱日の丸旅舎にて)

○第三信 七月二十四日發信

齊々哈爾濱到着の一時前昂々溪乗換(第二師團奮戰の地と建札あり)に際し滿洲らしい豪雨、覆盆の如きを經驗致し候。その二三日前よりの雨に省内鐵道不通、道路車馬を通せざる處隨所に生じ日程を三度編成替の事となり、まづ齊々哈爾濱の戸口調査を軍と警察に協力して行ひ、又市内にて治療を實施、二十一日やつと地方に出られる様になり此地に参り候。克山病は今は見られず、しかし Herzhyptertrophie, Atyhmie, Pulsus irregularis usw. は屢々中年婦人に見られ候。藤原君の行政手腕は仲々見上げたるものに候。市營阿片吸飲所、烟者戒煙所等目新しきものを齊々哈爾濱に見申候。今日は道路不通により船と荷馬車で克東縣に行く筈に候。(旅行は二週間で倦きるのが小生の癖、困りたる男に候)龍江省克山にて。

○第四信 七月二十七日發信

克東縣城は人口一萬餘日本人十二名降雨の中の二日間の診療に約四百名を見候。その内にカツシソベック、二例を見るを得候。食べ物に氣に合はぬものない男も此地では味はともかくあまりの

二日間臺ノ原に行き教練あり敬禮から指揮法迄總ざらへを致し候。最早峠を越し残る處六日間にて三月二日午前九時除隊の豫定に御座候。新兵の張り切りたる敬禮に遭ひ、どきまき恐慌し、左手をあげたり、無帽で擧手の禮で答へたり、新兵に笑はれ、やはり俄か作りの伍長殿にて威張れる處の騒ぎに無之候。何卒今暫く御暇を頂き度く伏而懇願奉り候。餘寮尙嚴しき折柄先生の御健康を御祈申上候。敬具。

二月二十三日

恩師先生 御侍史

石崎 芳郎

謹啓 餘寮酷しき折、先生には益々御健康の事と存じます。小生二月十五日入營以來御無音に打過ぎ誠に申譯御座いません。本日より宮城の原分院に移轉を命ぜられ一同九十三名大町をぞろ／＼歩いて参りました。宮城野原の東端元飛行機格納庫の跡で分院とは申せ非常に廣いです。川崎君と私は同一の班で毎日交代に食事當番、雑巾掛けをやつて居ります。食事にも漸く慣れました。頭髮を短く刈つた代りに鬚を生やして居りますが、除隊迄には物になりさうです。

二月二十三日

木村先生 御侍史

川崎 武夫

拜啓 先生には毎日御多忙の御事と存じます。永い終日教室の事共が險に浮んで参ります。今日は本院より宮城野原分院に移されて來ました。愈

々伍長にされましたが分院には兵が少い爲め、一向得意の答禮も出來ません。除隊は三月二日朝との由で御座います。無事勤めて参ります。

二月二十三日

木村先生 御侍史

○應召に際して

朝鮮○○部隊本部

見習士官 佐藤 儀英

謹啓 向秋冷之候益々御清穆之段奉賀候。陳者此度不肖應召に際し多大なる御饒別を賜り且つ出發に際し御多忙中にも不拘熱誠なる御見送りを辱ふし、英爽心より御禮申上候皆様の御援助により五日無事入隊致し候間御安心被下度日本男子と生れ國家の干城の一員となり得たことは之れ男子の本懐と欣喜致し居り候粉砕身以つて國恩と皆様の御高援の一端に報じ度念願致し居り候。右乍簡單御禮申上候。拜具。(九月五日)





感想、詩歌など

庭池

松岡茂

四月上旬醫學會の朝、京都市粟田口なる前田榮治郎氏別邸に滞在す。同邸はその昔モルガン博士の住家なりしとか、廣き庭あり。

- 朝の陽が及びて區劃る庭池の面に白きほこり見せたる
○木漏れ陽の當りまぶしき池面の塵うごかして朝の風ふく
○庭面を敷きうづめたる杉香がためたく朝の足をぬらしり
○池縁の緑き杉香ひた／＼に浸して眞澄の水増しにけり
○池面に低く垂れたる一叢のこよめ櫻が夕べ明るも
○西洋間の朝のめざめに動物園の獅子の吠え聲透り来るなる

金剛寺月住亭

- 谷向きの小さき庵やその昔を説きつゝ僧のつゝましく居る
○ふきさらしの谷の庵や床の間の壁に軸物の揺れあとしるし

舊友、宮本忠孝軍醫少佐歸朝す

- 日をちよめて軍醫宮本が歸朝りしといふ日本の軍事いまだ多端なり
○命受けてけふ歸朝り來し君が上に期する所多し國民吾等は
○同君の家を訪ねし事ありしが相惜一家留守なりき
○忠孝が書きたる門札うす古りて我が手の届く高さにはあり
○門札は友が筆なり手をのばしてさはりても見つ留守を來ぬれば

偶感

二八

- 忘れ果てし幼な友達の面容などふと眼に浮ぶ朝のめざめや
○遠き日の友が齡経て今日あらん面容はとも想像されず
○男の子を得しよるこびは言に出さず事變記念日顯微鏡見てゐる (七月六日三男生る)

信濃だより

黒羽武

- 梅雨曇るこの里山にこだまして郭公來啼く頃となりたり
○美簀刈る信濃路に聞く郭公の聲は杜都と變らざりけり
○千曲川に夏ざり來れば河原なるつけばの小屋の目にめづらしき 註、つけば、釣人の休息所
○千曲川に水嵩ませるこの日頃、つけばの小屋の小さくし見ゆ
○傷癒えし白衣の勇士運送りつゝ青葉の確水越えて吾が來ぬ
○ふるさとを心戀ふるにや傷兵の黙して向へり山のみどり
○早春の枯草山とおもひしが今日見る青葉や確水嶺の夏
○確水嶺の齒車の軋りひびかひて雨雲こむるさみだれの頃

○時の間に確水は過ぎぬこゝにして上野原淺間はるけし

○右に見え左に見えし淺間嶺の姿は車窓にまだ見えてゐる

○信濃路は梅雨曇りせりひむがしの上毛野原陽のあきらけき

橋本桐徳兄慰問來訪、輕井澤に遊ぶ五首

○風薫る朝とおもひしに香掛の唐松原は灰の降るなり

○火山灰踏みて行くなる夏山の若葉トかけに汗にじみ來ぬ

○から松の林の道に足とめて聞く鶯はしみて涼しも

○九十九折の道窮まりて中空の青葉とよもし瀧落ち來る (千ヶ瀬)

○戸隠の雪の嵐夕あかり茜さしつゝ更科暮るゝ

○暮れなづむ千曲川原に一人居て魚つるらしきひとは誰が子ぞ

○みちのくの伊達の山邊に妻をおきて信濃の國ゆわが戀ひわたる

○物なべて變りし日にも戲かしきわが師の教へ忘れざりけり

俳句

教室點景

八路

朝

朝の窓白き光のバラヒンにエオジンに染みし白衣を着つゝ慣る

日暮れ

たそがれのメスはかそけく陽をよべり

夜

水洗の水の溢るゝ音に慣る 巡視の灯夜の挨拶をかはし去る

芝生

春

朝も來て銀杏の梢芽吹きたるモルモット命おとろふ春の雷あえかなる牡丹の花に黙し居る

夏

朝の蟬草むらに來て搏かず

野球

眞夏ひる白きラインは地を截れり夏のそらフライは高く上れるよ蓬髪の子らはおのおの地にいこふ

うめくさ ... 古川柳

古へ Samen は腎臓にて生成せらるゝものと思し由、而かも übermässige Ejakulation に因りて ein schwerer krankhafter Zustand を招來するものと考へ、之をば「腎虛」と呼びたり。「はり〜」は腎虛の様に云ふ。(戸塚博士に據る)

- 助兵衛と云ふ人腎虚を病み始め
○腎虚をば固つ苦しい奴が病み
○女房の顔見てごほり〜せき
○解禁をしたのでごほり〜せき
○打ち返す病氣女房は消えたがり
○女房をとつてのけての治療なり
○よそで減りますと内儀は醫者へ云ひ
○醫者殿は女房が立つと意見云ひ
○ 註 細君には氣の毒だがまだ〜と。
○ 註 女房が美人だと薬が利かぬ道理なれば。
○地黄丸晝はのみつゝ夜は消え
○ 註 地黄丸は腎虚の薬。
○水向けをするはへらした女房なり
○ 註 主人腎虚にて死したれば。



行楽漫談

身邊雜記

黒羽 武

(一)

嘗て人生の不幸に遭ひ、恩師の御前に慟哭して人情の薄さを嘆き、見知らぬ人のみ懐む、遠き世界の涯にも行かまほし、と告白した者である。爾來放縱に身を任せ、學業を放棄、恩師の御苦慮、内外の不信、壓感をよそに、沈淪暗晦する事數歳。漸くにして改悛の情湧き起れる折しもあれ、突如襲ひ來れる、境遇の激變は、一瞬にして親友知己の傍より身を奪ひ去り、未知の世界に投入した。

兎角、浮世は儘ならぬ。この機會にして、二、三年も早く到來せしならむには、無益の思案を勞する事無く、心氣も一轉し得たであらう。漸くにして疼痛が去つて、安眠を得かけた頃、突然揺り起されて、目を醒まされた様なものである。然し

考へて見れば、よき試練であつたと云はなければならぬ。色々の事を見聞、體驗し、謬れる觀念を是正し得た事も少くない。この點に於ては洵に有難き經驗である。

實際人は同じ生活を續けて居る限り、眞の反省は期し難い。別な角度から眺めた以前の生活こそ全く驚くに堪へる。教室に在る限り教室の有難さが、わからないのである。

人を使ふ地位に立つて始めて昔の非を悟る。勤務に大切な事、一に眞心、二に服従。蔭日向無く、命令は直ちに實行、わが手足の如くに忠實に用を果してくる部下は最も信頼するに足る。軍隊は階級の差別が厳しい。敬禮は軍紀の生ずる所、殊にやかましい。廊下で摩連へば何回でも、念入りに敬禮される。私共教室に居つた頃、朝一回先生に御挨拶すれば、飯の迄は廊下でお遣ひしても、その都度、特別に敬禮はしなかつた様に思ふ。顧みて甚だ、奇異の感に打たる。然し軍隊の方が正しいのである。

上官は必ず Negativismus である。白だと思つたら、黒だと主張するに限る。少くとも白と斷言

はすべきで無い。僭越である。白の様でもあり、黒の様でもある位の處で、上官の、裁決を仰げば、白となるに決つてゐる。然し斯く知りつゝも、なかくむづかしい。

(二)

宇都宮に於ける勤務は、短時日であつたが骨折、彈丸抜きの手術を多く経験した。前者は應急處置後の陳腐骨折部か縫合してゐるのを、觀血的に矯正するもので、後者は、取り残した破片の摘出である。この外、癩痕剝離術による機能障礙の除去も甚だ屢々で一般内地勤務の主なる仕事は、此等に盡きる。神經の手術や、整形手術は、専門家の手に、委ねられる。

戰場の特異性は處々成立する事であると思ふ。破片は身體の、あらゆる個所に竄入存在して居る。同僚の一人は相當の外科醫であつたが「身體の如何なる部分にも、刀を下す自信を得た」と稱してゐる。手術の腕を磨くには、絶好の對象であると思はれる。

院長がX線に造詣深く、立體的に位置を明示して下さるので、術者は其の指揮を仰いで刀を進めさへすればよい。斯る場合、X線の威力は實に100%である。

破片と一口に云つても彈片のみならず、色々な物があるので、例へば衣服の襟片、ボタン、瓦礫、木片等各種の者が證明され、貫通銃創でも彈道内に此等の物が残存して、化膿を來すのである。盲管で全彈が直達性に入つたものは、化膿の危険が少ない。従つて急いで取らなくともよい。

組織骨肥大をも豫防なし得る。然し乍ら骨が炎症を伴ひ、殊にその中に骨片でも存すると温泉は忽ちに化膿を促して來る。この事は必ずしも、温泉の弊害とはならない。寧ろ完全なる外科手術を示唆する上に於て、甚だ有利なる自然の妙機であるとさへ思ふのである。

複雑骨折のあと、多數小骨片が存在したり、また多くの留彈破片が散在して、除去し切れぬ様なきとき温泉によつて化膿が促進せられ、場合によると膿孔を作つて自然に排除されて、治癒してしまふ例を多數に見た。勿論再手術を要したものである。

關節の骨性硬直に對しては、温泉は無効であるが、之に反して癩痕性癰腫は温泉並に理學療法に依つて著しく改善せられるものである。此の種のものは戰傷後遺症に於て最も利用價値の大なる所以である。固着性癰腫、神經包圍に依つて生ずる疼痛、最近發生の蟹足腫は温泉による結締織の膨化溶解によつて著しく軟化緩和される。筋萎縮もそれが神經幹の切斷に因するものに對しては温泉も無能であるが、之に反して反射的機能性萎縮或は長期間の不動状態から來た筋萎縮は、温泉によつて著しく改善せられ、上下肢の周徑は増加し、筋の緊張力はよく恢復するものである。神經痛と神經炎(疼痛或は麻痺の様式に於ける)並に或る種の知覺異常、各種形態の慢性ロイマチスは温泉が最も効果を擧げ得る。

然し温泉療法の効果を述ぶるに際しては、如上局所作用のみならず、全身に及ぼす一般作用を忘れる譯には行かぬ。即ち温泉は全身のあらゆる機

能に刺戟を與へ、一般の血行を治癒にし、神經中樞を緊張せしめ、體質状態を著しく好轉せしむるものである。

當所は標高も比較的高く空氣が清澄であるといふ意味合ひで、諸種の内科患者も收容する。症狀固定後の胸膜炎、治療期にある肺門淋巴腺炎が主で、肺癆は御免を蒙つて居る。

(四)

所長は私共と同學、東北の御出身であるが、事變前は長くこの近くに開業せられ、地方名聲も噴々たる御方である。私は相變らず吾儘で無反着な日を過して居るが、御逢限の前には赤子も同然で、敢て御咎めも無く、御寵用を得て居るのは、眞に先輩なればこそである。一度次の様な御論しを受けた事がある。

黒田如水、豐太閣に問ひて曰く「閣下は如何にして今日の御地位を得られしや。」答へて曰く「余は未だ嘗て之を考へたる事無し。余はたゞ己に與へられたる職責を遂行したるのみ」と。

世の中は上を見ても、下を見ても際限が無い。數日前の新聞は、醫局に居た同級生の一人が、戰死せるを報じ、同一新聞の別な頁には、矢張り同級生の數名が、螢雪の功成りて學位を授與せられた記事掲げて居る。與へられた運命、現在の境遇に甘んじ、之に順應して生活するより外に、仕方が無い。他方に於ては禍を轉じて福となす心構へも必要であると思はれる。

浮世離れて奥山すまひ、戀も情氣も忘れて、こんな所に遁樂して居るのも、何かの因縁であらう。

反之、介達性に竄入したものの、例へば一度土に當つて撥ね返つて入つた様なもの、手榴彈の破片などは、化膿を再發する頻度が大きい。我々の同志が、かゝる摘出物の細菌學的檢索をして居るのによつて、土中にある嫌氣性菌の存在を檢出し得ると云つてゐる。故に斯る破片は可及的摘出した方が合理的である。破片の周圍の肉芽組織に鐵反應、鉛の檢出なども試みて居る。鉛彈ならば勿論、摘出すべきである。私の友人は、非常に習練を積んだ結果、今では寫眞を見ただけで、彈丸の性状、化膿の有無を判定なし得るに至つたと云つてゐる。

(三)

私自身は、さしたる手術の習練も積み得ず、昨年の暮れ、當地に赴任してから、半歳以上にもなる。此處では創傷治療後の觀察をして居る。温泉療法は今や軍陣醫學と外科に於て、確固たる市民権を有するに至つた。

戰傷後遺症に對して、温泉療法の有効なるは、既に論争の餘地なきところであるが、それを完成する爲には、他の水治療法、按摩療法、理學療法、電氣療法、チアテルミー等併用の必要なる事は申す迄も無い。これは最近の世界戰爭と、その結果の齎らせる賜物である。然し戰傷を温泉によつて治療した事は、太古以來の事である。

温泉の生體に示す反應の一つとして異物排除作用を擧げる。温泉は假骨による疼痛を緩和するためとか、無力性惡性肉芽の癩痕形成を促進する事などに對して、非常に効果がある。また忌むべき

憂しと見し世ぞ今は戀しく、一度時間空間の距りを得て、あらゆる物が、過去のヴェールの彼方に、美しくも、いみじくも見ゆる。悲哀は薄らぎ、樂しき思ひ出のみ残つて居る。高山名嶽は遠望するに如かず。嶺に登れば巨巖突兀たる富士の高根も、東海の空に臨めば、はじめて白扇倒しまに懸る山容の秀麗さがある。今しみんと私はむかしの苦難を顧みる餘裕が與へられた様な氣がする。待屈と云へば待屈、やるせ無いと云へばやるせ無。然し氣は心、心一つの持ち様で、若し夫れ名聞、聞達を求めず、風流雅懷を旨とするなら、山紫水明の郷、敢て沈魚落雁耻花閉月の風情に乏しとせぬ。

恩師はじめ諸學兄の御多幸を祈りて擲筆す。
(昭和十三年七月三十一日記)

銀座裏病院風景

東京 ○ ○ 生

特有なウナリ聲を立て、サイレンが飛んで來る。そのまゝ四つ角を、信號無視で突破して行くなら、何處かで火事なんだろうが、之が病院の玄関に横付けになつて尙も、ウーウと餘韻を引張つて居るとなると、其れは眞白な救急自動車だつたと事が決まる。物見高い街の人間共は砂糖を見付けた蟻の様に集まる。其の中を、車の扉がボンと開いて擔架のまゝ、紅に染つた人間が現はれ出る。此邊で見物人の一半は、ははあつてな顔をして立去るが、しつこいのは支關の中を覗いた

り窓に廻つて延び上つたりする。然し中では、むくつけき親仁の碎けた手だの足だのを、さつさと片付けて行く丈けの事、序幕にサイレンが鳴つたとて、後まで面白いとは限らない。

處が之が、新橋あたりの綺麗どころが御怪我を遊ばしたと少し違ふ。何時か酔はらいのお客が、屹度彼女達が「嫌だわ、こわいわ」と云つたのに、無理無禮に運轉をやつたのだらう、忽ち事故を起して、乗つて居た丈けの人間がガラスで傷ついてやつて來たが、血染めの御座敷着なんだから、野郎の方なんか傷が重くなつて後廻しになる。此んなのは夜中に起されても、誰も眠いなんて云はないやうだが、起され序でもう一つは或る夜の十二時半の事だ。見ると診察室の上にも醒めるやうな花やかな存在、彼は先づ病氣が何であるかと云ふ事を考へる前に其者が何種類に屬するかと云ふ事を思索した、Staphylococcus には持味が違ふし、Walters には衣袋が下の下まで安つぽくない、結局後で判つたが銀座一流のカフェーのクキンさ。之が、入院手術後、毎日、日と時間を案配してはA氏B氏C氏……を呼び出しては御小遣ひをおねだりする手練のあざやかさ、そんな上其處らの旦那すぢも御用心！御用！

まだある、○劇ダンシング、チームのダンサー達がよく足を捻挫して來る。君達なら遙かなる舞臺の上でしか眺められぬあの足に、始終さわつてゐるんだと、若い醫局員が其の悪友を羨しがらせたと云ふ話もあるんだが、あゝ如何して斯くも

下らぬ風景許り飛び出して來るのかな、世は非常時であるぞよ。そこで非常時意識を取り戻す爲めに次の時局佳話を付け加へて、罪ほろぼしと出やう。

昨日だつたが戦地の思ひ掛けぬ人から繪葉書を受取つて愕然とした、五十歳位の工兵少尉なのだが、胃の半分しかない男が戦争に行つてゐるから驚いたのだ。○生が田舎の病院長時代、腹腔腫物―胃腸―で胃の切除をやつてある男だ。切除標本は丁度其頃(一年半前)教室で調べて貰ひ、參木、松岡兩氏に膜様癌の診断を受けてあつて、病理教室にも因縁浅からぬ人間である。幸ひ再發もないとは云へ、斯うした手術の後には、平靜な生活でさへ、全く健康とは行かぬ勝ちなのに、半分の胃袋で戦線に立つ、實に悲壯な勇氣ではないか。驚嘆すべき精神力ではないか、懦夫をして、起さしむる悔ありとは此事であらう。さらば此邊で彼の多幸を祈りつゝ筆を擱く。(十三、九、三)

温泉素描

橋本 生

私は元來旅を好み、そして旅へ出れば必ず温泉を探して歩く。

旅と云つたところで、名所遺蹟を探らうなんて殊勝な心構へは毛頭無い。只漠然と足の向く儘氣の向く儘に暇の許す限り歩き廻るだけ。旅先の知らぬ土地で聞く耳慣れぬ言葉訛り、珍らしい風習、さう云つたものには私は限らない愛着を覺

える。

だから暇さへあれば、旅を想ひ、温泉を考へる。

時間を繰り、各地の旅行パンフレットを讀み乍ら、何時實行出来るか當の無いプランを樹て、は忘我の境をうろつて居る。

中學の何年の頃だつたらう、初めて牧水の

幾山河越へ去りゆかば淋しさの

果てなん國ぞ今日も旅ゆく

を讀んだ時の感傷が、今でも旅へ出る毎に、鮮やかに蘇つて來る。

鐵道へ入つてから氣輕に出かけられる様になつて、もと／＼人一倍強い旅行慾、放浪癖が輪に輪をかけて熾烈になつて來た様だ。

尤も、勤めがあつてみれば、どうせ旅をしたとて、二日の暇しか無い、従つて二晩夜汽車で強行軍せざるを得ない事もある。昔から汽車では殆んど眠れず、眞赤な眼をして歸つて來るので、何の爲の旅だ、まるで苦しみに行く様なものぢやないか、と笑はれるがそれでも自分では結構満足して來る。

が、それ程の旅も究意の處、温泉を探すのが目的だ。

どんな旅のプランを樹てるにしても、私は必らず温泉を考慮に入れる。だから私の場合、旅は温泉への必然的過程であり、副的條件であると云つた方がより適當かも知れない。

勿論、一概に温泉と云つたところで、鹽沓的な歡樂郷を慾する者もあるだらうし、閑寂な幽遠境を望むものもあるだらうし、従つて一つの温泉の

印象も各人の個性と好みに依つて皆違つて來る。

温泉本來の意義から云へば、勿論靜養湯治が主であるべきではあるが、四六時中、重苦しくつき纏つて居る生活苦を逃れ、温泉にたまさかの憩ひを求めめる都會生活者にとつて、劇しい労働のあひ間に半年に一度、一年に一度の慰安を求めめる農村生活者にとつて、温泉が所謂特を脱いだ命の洗濯場として、享樂の對象にされるのも亦已むを得ない事であらう。

従つて時を逐ひ日を経るに従つて、温泉地は次第に昔乍らの本然の姿を失ひ歡樂化されて行く。

成程、仄かな湯の香りに包まれてう／＼とした寢入りばなを最終の列車で着いた女の拵高い嬌聲に起こされたり、遠くの座敷から忍びやかな三味の音が聞こえて來たり、同じ様な浴衣姿がぞろ／＼明るい夜の街を散歩してたりするのも棄て難い温泉情緒ではあらう。

が、温泉は矢張り昔の儘の、古ぼけた宿の軒を湯煙りの這ふ様な所謂「いで湯」であり質朴さと閑寂さとを備へた湯宿であつて愜しい――少なくとも私はさう希ふ。

だから今迄歩いてみてぶつかつた温泉の印象を、そこはかと無く書きとめてみたところで、結局は私の主観から割り出した、謂はゞ獨りよがりの乏しい記録になるかも知れない。が勿論會員各位の旅行の參考になど、大それた氣持で書くのではない。只教室員として何か書かねばならぬ破目に押し込まれ、苦し紛れにもするだけの事。そこは何卒不惡。放談休憩

小原鎌倉

白石川の上流が宿の前で殿んで、可なり廣い淵をつくつて居る。泳ぎたい衝動しきりなるものがあつたが、病み上りの身がどうにも怖ろしく、跳込塚の赤い鐵棒が嶺に障る程畏れしかつた。

夕餉を終へて獨り風呂に浸つてたら、透る様な尺八の音が漆々となる瀬音にまじつて、或は高く或は低く響いて來る。吹手だらうか、薄暮迫る眞向ひの山の中腹にポツンと浮いた白い浴衣がとて

巖

無性に嬉しい氣持で恩師の傍で過した數日。私には一番憶ひ出多い温泉だ。

名残りの夕焼が眼の前の崖を赫々と染める頃、長い滞在ですつかり顔馴染になつた人達が、歸るとて前の坂路を馬の背に揺られ乍ら、振り返り振り返り登つて行く。それを宿の前から、二階の欄から手を振つて送る。

しみじみとした湯治風景。

青根

綺麗なので名高い管の湯に、湯垢が多く佗しい氣持、だがぶらりと出た散歩の途中、板圍ひの浴場から素敵な咽喉の「相馬流れ山」が開こえて、思はず足が止まつたつた。

鳴子

途中から降り出した雨で切角の雪がピシヤ／＼床を延べに來た番頭の、夜中には雪に變るでせう……との言葉に一樣の望みをつないで寝たつたのに、朝になつても未だ止まぬ。何日も前から張り切つてただけに、ぶちのめされた氣持。

手籠りに凭れ、ぼんやり不味いパットの煙をふかしたら、眼の下の雪融け道を、赤い蹴出しが丹前と相合傘で通つて行つた。

花巻

路の両側に文化住宅まがいのチャチな貸別荘が竝んで郊外の新開地と云つた感じ。室の窓外の植込みの新緑が、電燈の光に映えてひどく鮮やかだつた。

湯

米代川を挟んで、東北一と謂はれる豪華な別館と本館が對立して、磨き抜かれた渡り廊下が、まさか溪流の上を渡つてゐるとは思はせない。室の造作も調度も成程東北一か、だがそれだけの話、女中の不愛想さ、番頭の不作法さ、別館の風呂のケチ臭さ、食はせるものゝ間拔さ、何もかもが頼の種、こんな山の中へ来て飽だの、アスパラガスだの、カッレツだのを食はせられたとて喜ぶ馬鹿があるだらうか。

餘り不愉快なので、翌朝豫定を繰り上げて驛へ出る途中田圃路で遭つた四五人通れの酌婦等の、眩しい様なお天道様に曝された顔の、何と世にも佻しい顔だつた事か。

瀧見

共同浴場から立つ湯煙りが、白々と瀧見川の河面に靡いて、夜の明け切らぬ中から朝市が立つ。モンペを穿いた近在の百姓連中が、自炊の浴客に取りたての野菜を轟くのだ。どたら姿の浴客が爽やかな朝の空気を胸一杯に吸ひ乍ら、思ひ思ひに素見して歩く。

場のも其の一味。〇〇の膏血を絞つた金で何が視察だ、畜生！いゝ餡をしやがつて。

燃え上る欲瀆に頭がぐら／＼して了つて、お蔭で切角樂しかつた二日間の憶ひ出に、眞暗な終止點を打つてしまつた。

蔵王高湯

坂路の両側に階段状に宿屋が竝んで、硫黄泉だけに温泉氣分頗る濃厚。人柄も至つて醇朴。道を聞けば仕事を止めて迄態々案内してくれる。心の底から親しめる温泉だ。私は湯治場としての夏の高湯も好きだが、雪に埋もれた冬の高湯はもつとい。

この正月、蔵王にスキーに出かけて、半郷から馬籠に揺られて四時間。目指す高見屋が満員で断られ、冷え切つた身體を漸やく、無理に開けてくれた辻屋の一室にくつろいで、頬張つた晝飯の美味かつた事。手製の凍豆腐をほつ／＼切つて、丸のまんまの大きな椎茸と一緒に入れてくれたお汁も嬉しかつたし、思ひ懸けぬ「すゞこ」の鮮やかな赤い色も楽しかつた。

夜、ヒュー／＼荒れる吹雪の音を聞き乍ら、炬燵を圍んで明日を氣にしつゝ、遅く迄宿の息子の話を聞いた。山形辯でポツリ／＼語つてくれる冬山の遭難の話、捜索の話、早春の山で自殺した男の因縁話、等々今猶耳の底にこびりついている。

飯坂

千人風呂への途中、銘酒屋の女に掴まつた友達をこつそりスナップしておいて、到々皆で晩飯を奢らせた。

深々と罩めた湯煙りに、知らずに競泳して行つ

大事な客を逃すまいと懸命な狩高、山形訛り、何とか彼とか云つて値切らうとする東京辯、笑ひ聲、泣き聲、朴齒の音、駒下駄の音等々、一しきり朝の空氣がざわめく。

其の春、伯母に先立たれて淋しがつてる伯父の、何よりの好物なのを憶ひ出して、乏しい財布をはたいて朝市で買つた「なめこ」を送つたら、思ひ懸けぬ小遣ひを送られて、何杯かのコーヒーに化けたつけ……十年前の懐しい憶ひ出。

蕨

青森から十和田への途中、自然林に抱かれてボツンと立つた一軒宿、酒仙桂月終焉の地。其の閑寂さ、素朴さ寔に愛すべし。宿の左手後に、在りし日の桂月が書を前に獨り盃を撫したであらう。八疊に六疊の簡素な餘材庵が、小さな沼を前に今猶其儘に残つてゐる。

浴舎には素晴らしく澄んだ湯が、板圍ひの浴槽の底から滾々と湧いて溢れるに任せてゐる。食膳に源鰯、蕨、山葡萄、椎茸等、山のものばかりを出されたのもこよなく嬉しいものだつた。

朝、葉末の滴に浴衣の裾の濡れるのを氣にし乍ら、後の山路を二丁程行つてみたら、露の單めた原始林に包まれて、群青色の葛沼が漣一つ立てず深々と眠つてた。何と云ふ幽邃さ、何と云ふ神秘さ。

若し誰かに今迄歩いた温泉中何處が一番好きかと訊かれたら、私は何の躊躇も無く言下に蕨!!と答へるだらう。歸途、ふと見たら宿の前の沼に、可憐な赤い水蓮の花が二つ三つ、雨に濡れ乍らボツカリ浮んでた。

土湯

案内する女中に次いで降りる段々。立單めるいで湯の煙。之は素晴らしいと喜んだのも東の間婆さんばかりが浴槽のふちに目白押しに竝んで、おまけに隣りの則の臭が漂つて来る。這々の體で一風呂浴びたきりで退却。如何な温泉好きの私でも之には敵はず到々一度入つたきり。

室の下を流れる荒川の潺々たる響が、浅い眠りの枕を揺がしてゐた。

野地

土湯から浅雪を踏んで山道三時間。四月も末の眞晝間だと云ふのに、黒い雨戸を閉め切つて世の中から置き忘れられた様な一軒家が、雪の丘の上に未だ昏々と眠つて居た。

聖倉

土湯を出る時、昨日雪崩で鴛倉温泉が押しつぶされ、お内儀さんと息子と女中二人が死んだらしと聞かされて来たが、現實にぶつかる迄こんなにも凄しいものとは思はなかつた。

廣い山の傾斜面が一面、崩れた雪と泥。宿の前の最近出来たドライブウェイを越えて遙に各谷底迄続いている。旅館は見れば無く押しつぶされて残つた湯どのが半壊の儘白い煙を上げてゐた。

百人からの捜索隊が右往左往して、路の片隅に先刻見付かつたと云ふ女中二人の骸が、苞に包んで置いてあつた。こゝで一同合掌低頭。不慮の災禍に逝つた二つの靈に、心から冥福を祈つたこと

鹿が發見しての鹿湯が訛つて酸ヶ湯となつたのだと云ふ。場所は八甲田の懷で、高燥三千尺の塵外境、三日一まわりで湯治効能顯著、而も周圍の風光絶佳と來てるが、惜しむらく宿が如何にも安つばいせよこましくて、ごちゃ／＼して、而も湯治客は皮膚病患者が多いさうな。

こゝの子寶授けの名湯「ふかし湯」の前に、子寶授けの御本尊、木製の男神が祭られてるさうだが、筆者残念乍ら未だ參拜の機會を得ない。

上の山

眞夜中ふと眼が醒めたらひどく頭が痛い。スキでへと／＼にへたばつてた處へ、氣のおけない仲間同志なのが嬉しくて、飲めもしないのを無理して飲んだせいだらう。一風呂浴びて來てやらうと廊下に出たら昨夜寝る迄は確に開いてた筈の隣室に赤い草履とスリッパが竝んでゐる。變だな——と思ひ乍ら風呂場へ降りて行つたら、半白の美髯を貯へた男が外に人氣の無いのを幸ひ、ゼンゲリッソを相手にふざけ散らしてゐる。嬌聲が森閑とした浴場の高い天井に反響して……。

チエツ胸糞悪いと思つたが、持ち前の意地つ張り根性がむく／＼頭を擡げて、一旦歸りかけたのを廻れ右、態と荒々しく入つて行つた。其の時の慌てた恰好、餘りの可笑しさにニヤッと笑つてやつたら、流石にコソ／＼上つて行つた。態々見やがれ。

翌朝女中に聞いたら、東北視察旅行と稱して來た關西〇〇會議員の一行が、夫々一人づつ、衝へ込んで各室に時化込んだのださうな。隣室のも風呂

だつた。

横向

土湯峠から望んだ毅然たる磐梯の靈容。椴原湖だらうか、微にキラ／＼光つてた。

午後一時横向着、途中炊爨に適當な場所が見付からずリユツクに入れた儘背負つて來た米と味噌で、飯を頼んで早速風呂にとび込んだ。明るい浴槽に透明な湯が滾々と溢れて、不圖見た窓越しに、もう五月だと云ふのに何時の間にかチラ／＼雪が舞つて居た。

設備も何も無い。今の世の中に未だこんなにも鄙びた温泉があつたのだらうかと不思議に思ふ程世離れた簡素な温泉だ。

此の雑語を切つて、此の靴を開けて、此のキヤベツを切つて、茶碗を皿を鍋を貸して、水を、炭を、火を持つて來て……と散々我儘を云つて迷惑をかけていざ勘定となつて女中を呼んだら、五十錢戴きますと云ふ。安いなと思ひ乍ら五十錢の五人、五五の廿五と二圓五十錢渡したら、怪訝な顔をして引込んで行つたが、間もなく戻つて來て多過ぎましたからと二圓返して來た。吃驚して間違はないかと訊いたら、お一人前十錢ですからと眞面目くさつてゐる。

擬て歸らうとして土間に降りたら、ぐしや／＼に泥だらけになつた筈の靴が乾かしてあり、靴下はちゃんと洗濯してある。全くこつちが慌てゝ了つた。何と云ふ純情、何と云ふ朴訥さだ。私は今迄こんな人の質朴さ、親切さに胸を打たれた事は餘りなかつた。思はず眼頭が熱くなつた。さつきの貳圓をホンの御禮心にと、無理に置い



て外へ出乍ら見送つてくれるお内儀さんに、五人
で聲を揃へて叫んだ事だつた。

「小母さん、又来るぞーッ」

岩代熱海

浴槽は小さく沸かし湯とか、量も妙い。些か期
待外れだつたが疲れてたので、直ぐぐつすり寝込
んで了つた。

翌朝眼を醒したら、山鷲が啼いてゐた。戸を繰
つてみたら、眞向ひの發電所のある山の新緑が、
痛い程目に鮮やかだつた。

五百川の清流を其儘池に引いた、此處の庭が素
晴らしい。

東山

滴る様な翠巒眉に迫つて、嵐氣頗る濃やか。
室付の女中が箱はどうしませうと訊く、箱つて
何だいと云つたら、お人が悪いと脱された。この
女中は男つて必らず藝者を呼ぶものと思ひ込んで
るらしい。事實翌朝になつて、殿方三人でお出で
になつて御酒も召上らず、藝者も呼ばず……とひ
どく感心(寒心だつたかな)してた。

暮迫る頃、縁から眞下に見える瀧壺で番頭が岩
魚を釣つた。見てると面白い程よく釣れる。

風呂はとても快適、浴槽は綺麗だし大きいし、
湯がどしどし流れてた。

歸りに覗いたピンボン室で、氣障な奴が下手を
相手に得意になつて選手風を吹かして居る。他人事
乍らチョイト横に障つてあしらつて、相棒と打合
ひしてたら何時の間にか消えて無くなつた。

寝やうとしてたら、近くの宴會場から本調會津
盆踊り唄が聞える。嫌いでもない事として耳をすま

してる中にどうやら覚えて了つた様だ。

げんじよ見たさに朝水汲めば

姿かくしの霧が降る。

誰か来たよ垣根の外に

鳴いた鈴蟲音を止めた。

湯の上

會津の奥、猿でも出て来さうな處。雪が未だ止
まぬ。季節外れの眞冬の事として外に客が居ない。
森閑とした天地の間に瀧音のみ高い。

招かれて降りて行つた茶の間に、素敵な電氣蒸
音器が傲然と据えられて、炬燵にもぐつて香り高
いリプトンを馳走になり乍ら、聞いたメンデルス
ゾーンのヴァイオリンソナチエルト。大クライス
ラーの醸すたゆたふ様な繊美な音律が、音もなく
降りしきる雪空に融けて行つて……

何度も聞いた曲乍ら、時が時、場所が場所、思
ひ懸けぬ事だつたせいだらう。何と感銘の深かつ
た事か。

藤の名所とか季節には山藤の花がきつと浴槽に
も散り込んで来る事だらう。

鹽原

金色夜叉で名高い清冽藤川の、河原の石が黝々
と秋の雨に濡れてゐた。回廊橋を過ぎる頃から、
雨に洗はれた紅葉が色を増して目に滲みる様な美
しさだつた。

鬼怒川へ抜けると山路を行く程に、登る程に
雲煙の去來愈々慌だしく、晴れ間を縫ふて現はれ
る燃える様な峯々。
橋の下に雨をよけて胸一杯に喫ひ込んだバット
の煙。

漸やく見付けた飯場小屋で飲んだ葡萄酒が、冷
えた空つ腹にジーンと滲みていつたつけ。

鬼怒川

疲れた足をひきづつて電車から降りたら、トタ
ンにぞろり一列に並んだ客引きの包圍攻撃。何處
迄も置いて喰ひ下つて来るしつこさに遂怒鳴つて
了つた。

鬼怒川ホテルのイルミネーションが、夜空に馬鹿
に映えて居た。

一風呂浴びて足を揉んでたら、藝者か酌婦か黄
色い聲が、サノサ節を唄つてた。

上山田

小諸なる古城の畔——と詠んだ詩人藤村。少年
の頃、夢に書いて憶懷れてた信濃路。其の信濃路
に眩しい様な五月の陽が燦々と降つて、千曲川の
岸に陽炎がゆれて居た。雲雀は啼いて居たかし
ら。

教室の黒羽見習軍醫が長髪もいたについて威張
つてゐた。眞晝の畦路を三三五五、打連れて散策
する傷病兵の白衣姿。微笑まじき風景點描だ。

鹽壺

浅間が盛んに灰を降らしてた。白樺を使つたバ
ンガロウ風の宿が如何にも東京人好みで、えらく
愛嬌のいゝ此家のマダムを、友人上りと見たは僻
目か?

内湯とは名ばかり、浴客は皆幾つかある共同風
呂に集る。ひどく時代めいた構へが氣に入つて入
つてみたら、右も左も白髪と禿頭、漆黒?なのは
乃公獨り、何とはなしに氣不味くて、居たままれ

なくて蒼煙と逃げ出す。

夕飯を食つてぶらりと出た散歩の歸り、闇の中
を誰にともなく後に置いて話しかけて来る女、外
に人が居ない筈と氣が付いて振返つてみたら闇に
咲く、花とも云へない花だつた。

此處の名物栗羊羹。栗羊羹と申ししても多
御座んすが、此處のは栗ばかりで製つた正真正銘
の栗羊羹。

どんなに美味いかとこつそり食べてみたが、し
つこ過ぎて感心せぬ。

湯之川

田圃の中に出來た荷並、大火後復興の新聞地
風景。

トラビスト修道院の前の、坂道を降りて來たら
チャペルの鐘が鳴り出した。

振り仰いだ尖塔が夕映えにキラ／＼光つて、澄
んだ鐘の音が何時迄も空中に餘韻をひいて居た。

洞窟湖

藍色の湖を隔て、遙か遠く、緩やかな裾野をひ
いたマツカリヌブリが八月の蒼穹にはつきり浮び
上つて、湖心にボツカリ浮んだ深緑の中島が、其
の形のせいだらうかひどく童話的だつた。

湯の量がとても多い。マイル張りの豪華な浴槽
が鄙びた親しさは無かつたがモダンイズされた樂
しさを與へてくれた。

登別

飯を食ひ乍らからかつた女中の、冗談から駒が
出て神様と同格にされた。

誰にも云へない女の病氣、デッセンスズ・ウテ
リ。去年拜んで貰つた神様に當てられて吃驚した

蠅の寢言(其の二)

仔細事 沐 生

「あゝ眠かつた。山上の白雲わが懐きに似たり
か。あゝ、いゝ心持に寝た／＼」と顔を擧げた
ころを見ると顔の禿げ上つた鼻下にチョビリ鬚を
はやした前歯と眼珠の飛び出たヒットラー總統に
一寸似た所のある男である。

机の上の雜然と散らばつた紙片をあれや、これ
やと寢惚眼で探してゐるが指先が顫へて仲々つか
めない。机の側に伸縮自在の鐵棒の先に小さい盆
が附いてゐるものがあつてその盆の上に徳利が一
つのでゐる。眼玉先生はこれを「伸縮自在の臺
盆」と自らよんでゐる。手を延していきなり徳利
をとつて一寸眼玉をむき出して底の方をのぞいて
見たが酒が入つてないのを見るとこん度は念の爲
倒しにして振つて見た。それでも未だ合點が行
かぬと見えて徳利の口をチュー／＼と吸つて見
た。感々無いと見ると壁のボタンを押した。すると
とチュー／＼とまるで足の短い牝犬が下駄で
も履いて歩く恰好で入つて來たのがこれ亦丈の低
いやせ細つたきたない爺さんで手には重さうに一
升瓶をかゝへてゐる。瓶をそこへ置いてかへらう
とする。「ホレ!一寸待つてネーカ」と「ネー
カ」を一種異様の「アクセント」で呼んで眼玉先
生自ら顫へる手付で徳利に酒を注ぎ込んで一杯に
徳利の口に溢れた奴をサモ惜しさに口元へ持つ
てゐつてチュー／＼と吸ひ込んでから破れ薬罐に燭
をして「ホレ、一杯飲んで行け!」と茶碗に注い

で爺さんに與へると「ハッ！御走馳でござんす」と爺さんはペコンと腰の邊から上半身を曲けてお辭儀をしてさうまさうに砥める様にして飲んでゐる。何でもこの二人の人間はよつほど仲が良いらしく亦酒が飯よりも好きだと云ふ様に見える。

「未だ學生の實習は終らネーカ」と先生は眼玉をむき出して云ふと爺さんが「未だでござんすべー」と答へた。「ドレ！」と云つたかと思ふとフア／＼と彼は室を出て階段を降りて行つた吾蠅も彼氏の肩にとまつてついて行つて見ると成程この教室の中央にデツカイ室があつて何でも百名足らずの人間が三月離人形の様に上段、下段と並んでゐて各々ビカ／＼光る金筒の様なものをのぞき込んでゐる。吾蠅はこんな金筒の様なもので硝子のカケラをのぞき込んで一體何が見えるのか不思議で合點が行かなかつたのだが後になつて物議の仲間から聞いた所によるとこの金筒眼鏡こそは非常に吾蠅共にとつて恐るべきもので吾々の大好物である微菌がこの眼鏡の俥力に引つか／＼つて人間共とその正體をつかまれてから「一體この微菌を運搬するけしからぬ奴は誰だ」と意外にも探索網が吾蠅共及びそれ以來あの恐るべき魔の團扇なるものが現れたのださうな。

それはさておき先生はこの離人形の間を縫ふてフラリ／＼と行きつ戻りつ時々汚い白衣のポケットからスルメの尻尾をだして噛りながら歩いてゐると突然離人形の中の一人が「先生！この標本の中に Parasitoid が見えませんが」と云ふと先生はギョロと眼玉をむき出してその眼鏡をのぞかうともせず「馬鹿！そこに見えんてネーカ」

お前等はそんな蟲ツ子の卵なんか採してゐるから偉くなねんだよ」と半分口の隅からはみ出してゐるスルメを引つばつてゐる。一通り離人形の間を縫ひ終ると赤元の二階へ上つて行く。椅子にドツカと腰をかけるや否や猪口の燗さましの酒をチュ／＼と飲んでバツトに火を點けて口をフアーとあけて吐き出してゐる。この先生は一體前齒が飛び出してゐるので煙草の煙は口を閉ぢても前齒の蔭からスイ／＼と出てゐる。誰かこの先生に「姥櫻」と云ふ綽を奉つた事がある。花（鼻）より葉（齒）が先に出るると云ふからださうな。

すると其處へどこから現れたか頭髪をモヂヤ／＼とした瘦せ顔こけた一人の男がやつて来て姥櫻先生の前へドツカと腰をかけた、手には何やら紙片を持つてゐる。「どうだ。こゝから先がどううも浮はネー」と云ふ。

一體紙片に何が書いてあるのか、何が浮はネーのかと思つて姥櫻先生の肩越しにソイツとのぞいて見ると

「一杯一杯又一杯、兩人對酌花開く」と讀まれた。この瘦せこけ先生はこの文句を考へるのに随分頭を使つたらしく口の中でモゴ／＼「一杯一杯……」と盛んに繰返し／＼讀んでは「どうだ名句ダベ」と云つてゐる。すると姥櫻先生は一寸窓外を眺めてから頼る指に筆をとつてその下に「我酔ふて眠らんと欲す、君須らく去れ、明朝意あれば筆を抱いて來れ」とつけ加へて側の藤椅子の上にゴロリと横になつたかと思つたら軒をかき始めた。吾蠅はウツカリ肩の處にそのまゝとまつ

て居らうものならつぶされてしまふ所だつたがヒヤリと體をかわしてスキと姥櫻先生の飲み残した盃の縁にとまつて人間共が斯くも珍重するこの液體は一體何物かと恐る／＼吸つて見た。吸つて居た時がどれ位の時間だつたかわからぬが吸つて居る間にいつの間にか腦髓の底の方が妙にシビれて来たなと思つた時から後は何も判らない。眼を覺して見ると今の前まで藤椅子の上で軒をかいてゐた先生はとつと起き上つて亦何やら頼こけ先生とガヤ／＼と話合つてゐる。

「酒はやつぱり蠅の酒が美味い。徳利なんでものは駄目や。蠅と云ふ奴は内に酒あれば立ち、酒無き時は立ち得ず横になる。俺れ見たいなものさ、お前！古の東湖の詩「愛蠅吟」を知つかあや」姥櫻先生はこゝろは眞顔になつて仲々無敵かしいことをしやべり出した。

「蠅や／＼吾れ汝を愛す。汝嘗て熟知す頼氏の賢。陋巷に追隨して樂みを改めず。蓋ぞ美録を得て天年を終らざる。天壽命あり汝の力に非らず、功名亦驥尾に附す。

蠅や／＼吾れ汝を愛す。汝又嘗て豊公の憐みを受く。金裝標幟軍に従ふの日。一勝すれば一を加へ百且つ千。千強向ふ處功敵なし。叱咤忽ち握る四海の權。蠅や／＼吾れ汝を愛す。悠々たる事變幾變遷。亟聖至樂誰れか復た離かん。太閤の雄圖何ぞ忽焉たる。獨醒深時の吟を用はず。只長醉して謫仙に伴はん。

蠅や／＼吾れ汝を愛す。汝能く酒を愛して天に醜せず。消息盈虛時と興に移る。酒有る時危坐し、酒無きとき顛ぶ。汝危坐するとき吾れ未だ

酔はず。汝まさに顛ばんとする時吾れ眠らんと欲す、一醉一眠吾が事足る。世上の窮通何處の邊。

つてんだ。お前なんか知るメー」頼こけ先生はさも感心した様に目を細くして一つ一つ頷いてゐる。成程吾蠅にもこの詩の文句はむづかしくて何がやら判らぬが、斯う歌ひ終つて姥櫻先生が陶然とさもうれしさに破顔一笑冷へ切つた猪口の酒をチビリと甜めてゐる所は、武士の佛があつて益々その存在が不思議にも思はれ今時分の人間にしてはチト變つてゐる哩と思つた。

窓外は既に夜の幕がおりて秋の月が澄み切つた空に懸つてゐる。ガランとした大きな室の中に姥櫻先生はスタンドの電氣をつけて椅子の上に相變らずあくらかいてゐる。室の中には机が五ツ、六ツ置いてあるが主が居ない。壁のところと云はず室の中央と云はずデカイ書棚がいくつも立ち並んで洋書がギツシリとつまつてゐる。その隅のところに赤らんだ顔の半面をスタンドに照らされて、太閤の雄圖を夢に書いてゐる古武士の様なこの先生の姿は一幅の畫の様だ。酒中八仙の圖だ。若し吾蠅にして人間同様猪口を片手にあの黄色い液體を飲むことが出来たら一度はこの姥櫻先生の相手になつて見たいと思つた。吾蠅とて酒中の譜は知つてゐる。只悲しいかな人間共の様に筆に書いた口に表したりする事が出来ない。酔へば硝子窓の隅や障子の隅であのブン／＼と言ふ胡弓にも似た音を出して習ひおぼえた李太白の詩位は吟ずる事もある。

「青天月ありて、このかた幾時ぞ。われ今盃をとめて一たび之に問ふ。人は明月に攀ぢんとするも得べからず。月行つてかへつて人と相隨ふ。皓として飛鏡の月圓にのぞむが如く、綠蕪滅盡して清輝發し、但みる青海上より來る。むしろ知る曉の雲間に向て没するを。白兎藥を掃き秋また春。蟾蜍栖して離れととも隣りす。今人古時の月をみず。今月かつて古人を經照す。古人今人流水の如し。ともに明月を觀る皆此の如し。たゞねがはくば當に歌ふべし。酒に對する時、月光ながく金樽裏を照らす。」

と酔歩高吟すると突然「ウルセー、蠅奴!!」と百雷たちまち落下していきなり魔の團扇が降つて來た。蠅なるが故に逃げらなむが故にこの吾蠅の粹吟も人間共には只のやかましい羽音にしか聞えぬのか。百變つもの眼玉から悲憤の涙をゴロリ／＼と流してみたが必竟「蠅は蠅である」と感じ、窓の隙間からスキと外に飛び出してあやふく蜘蛛の巣に引つかかるのを一足飛びに冲天高く舞ひ上つた。

さつきから姥櫻先生のお残りをちよい／＼頂戴してゐたので足元、いや羽元が思ふ様にならな。サン／＼と降る星月夜の秋の大氣を酔ひ覺めの水を吸ひながら眞黒い大屋根の上からボーと一箇所だけ燈の付いた窓の所をふり返つて見ると相變らず窓硝子に猪口持つ大きな手の影法師がうつてゐた。

名月や居酒飲まん頼冠り。
追記 姥櫻先生も、頼こけ先生も、牝犬の様な爺さんも、今はみんな故人となられた。吾蠅から

申せばみんな懐かしい人達ばかりである。感傷の秋に今は「みまかれし」この方々を深い追憶で思はれる。さぞや三途の川に船を浮べられ、この名月を眺められながら相變らず「歌々たる金波の裏。空しく睡る鷓鴣樓」と唄つておられることと思ふ。暴言多謝。

實筆者、皇紀二五九八、九、一五、名月の夜、脱稿。

二研の窓から
U 生

時は初秋である——
二研の窓から青い空と白い生理教室と緑の芝生を眺めながら、ウツトリとしてペンを取り上げた。

僕が横濱から來て二高に入學したのが大正十五年、卒業して仙臺を去つてから早や十年近くなつて居る。昭和十三年七月、再び自分を懐かしい仙臺の生活に見出したことは意想外に嬉しい。嘗て精力を持て餘して（學問には此の精力を1%位しか利用せず、従つて學業劣等であつた）、東一番丁や近郊を我物顔に横行したり調歩したり扱ては酔行（？）したりした事を回顧すると、想ひ出と共に微笑やら苦笑が自づと湧き上つて來る。苦笑に屬する症例の筆頭は確か夜中の一時頃だつたと記憶するが、一友人（二高生）と共に酔後放歌して歩いて居た時の大事件である。

下宿に歸る爲北五番丁の角まで來た時左方の家

の小窓が開いて、甚だ瘦せた貧弱な男が其處から顔を出して「一寸！」と我々を呼び止めて置いてから「歌は止めて呉れませんか、安眠妨害ですから」と言った。此方は酔つて居たので其の男のひどく丁寧な言ひ方が逆に頼に觸つて僕は思はず「馬鹿者！出て来い」とやつて了つた。すると「一寸待つて下さい、今出て行くから」と其の男の顔が小窓から引込んだ。間もなく玄関がガラ／＼と開いた様子なので、「何の」と高を括つて歩き過ぎた我々も思はず振り返つたが、次の瞬間僕はゴクリと生唾を飲み込んだ。其の支那から出るは／＼次々と屈強な無類漢風の男が合せて十人許り、其後は判り切つた事、僕は頭を十位殴られて傍の小川に投げ込まれて了つた(Poisonous anast)此の連中が我々に追ひ付く前に友人は一目散に逃げたが、僕は「何様！」とばかり其の場に昂然と踏み止まつて連中が追ひ付く迄待つた有様は國定忠治も斯くやと思ふ許り。それでも衆寡敵せず此の忠治は簡単にノサれて了つたのである。幸に怪我一つ無く(瘤は Wristle に非ず)強情に川から這ひ上つたら、其の連中に散々囁きされ(寝るる奴も居た)漸つと下宿に歸つた。

それでも懲りずに相變らず呑んだが其の後決して此の家の前を通らなかつた。其の内に二月ばかりすると僕に實力を示した此等の連中は夜逃げをしてすつたので其の家の前を大威張りで歩いた。此の事件は苦笑に屬するものだが、十年過ぎた今では却つて微笑と共に想ひ出の種となる。此の事件を除けば凡て數限り無き微笑と共に楽しく想ひ出す事ばかりである。淡いロマンス！も有れば

忍びよる暗黒街

無記銘生

西歐の暗雲將に急ならんとしてゐる時、東亞には既に歴史の何頁かを塗替へつゝあり。然し風塵未だ去りやらず。東部防空司令官の名により防空演習實施を布告する。茲に於て我教室にても一研よりの司令飛ぶや怒ちにして準備成り敵機の來襲を待つ。高射砲、高射機關銃こそ無けれ、我に親爺さんの繩叩きあるを知らずや。敵機何すれぞ。いでや一撃の下に叩き落されん。

燈火管制！W.C.も亦燈下火管制！闇黒の廊下手擦り、足擦りに進むも又面倒なりと思ひ切り踏み付けた瞬間下腹をいやと云ふ程蹴る奴あり。不屈者と叫べど、それは印刷物と標本を載せた机の

(オホン！)、囊中缺乏して天を仰いで歎息した事もある。是等は會員諸氏と重復(?)するならん事を懼れて割愛しませう。(激い——例へば、E染色済みの様な——ロマンスをお持ちの方々、天を仰がぬ方々には失禮！)

現實に戻つて十年間文化の波に洗練され來つた仙臺市を眺めると其の進展に一驚する。僕は文化と言ふ事には識見も何も無いので専ら建築物と交通と娯樂機關に子供らしい眼を墮る。三越も出來れば藤崎も負けず劣らず堂々となつたし、諸官廳も殿として更生し、新しい大建築物は「あれは何？」と聞かねば判らぬ。近郊の發展と共に市電やバスの擴張等昔日の比では無い。當時やつと市電が出來て稀らしいので矢張り乗つたのを憶えて居る。娯樂機關も大規模となり近代的の活動館、大カフェ、大喫茶店等誠に一流都市として眼に映ずる。此の間にあつて芭蕉の辻等餘り變らぬ街頭を見るのは實に堪しく、不圖した傾丁が昔の儘であつたりするのが堪らなく懐かしい。郊外に近い方を夕方散歩するとボーッと露が立ち罩めた様に通りの光が霞んで、風呂を焚く石炭の臭ひが昔其の儘の仙臺の雰圍氣を醸し出して呉れる。學校の事を最後に書くのは恐縮ですが、自分が親爺様に教養されてバト入室して以來感ずるのは教室員諸氏が皆極めて勉強家で其の身を持つるに嚴、而も餘暇あれば名物野球に親爺様を始め賑々として興ずる様の露々たる和氣。是等を感じるにつけても自分は堅確一番、親爺様の袖に纏り教室の方々に後押しされて有意義なる生活を送らせて頂く事を感謝せねばならぬと思ふ。野球と言へ

角。
燈火管制！燈下燃清！薄？好勝！
× × × × × × ×

暗黒街を暗黒のバス走る。「次は東一番丁藤崎前でございます。折から肉付のよい中年美人が乗り込んで來た。後方の坐席へ腰を下したかと見るまにドンと大音を立て、腰掛けた所は床板である。傍の客「怪我はしませんか、床板が抜けなくてよかつたですね」。彼女「オホホ……腰掛と思つてつい腰下しましたら……」。

完全なる燈火管制の下に敵機は見事撃退せられたりと。然し暗黒を利用して活躍するもの、防護團、交通整理隊、警官、吾平、そしてスパイとラッダー。闇の繁華街をガウンを着たらしい二人の紅毛人が何やら喋り乍ら歩いて行く。その後からお手々？肩？彼と彼女。それからあちらの角にも、こちらの通りに。若人よ、實戦にも斯く然豪膽たれ。

「光が洩れてます、消して下さいさあ！」防護團員必死の活動には敬服に價す。然し嚴重に過ぎて「え、面倒だ、寝てしまへ」。之が警戒管制、非常管制とは何處にも相違が無い。微々たる遮光燈にも入笠しく叫ばれる。警戒管制は空に反映せざる程度にて可なりと聞くが、叫ぶもの少し履き違ひではなからうか。

お先眞暗に標彈、裏家に落ちて火事となつた。砂は何處だ、水の所在？燃え上るを頭上に見ても、

軒並、足下暗く近付き難きに火元は遠慮せず。長期戦憂て暮す、一年續いたら口が乾上るだらう。

燈管下石崎先生勇躍應召、親爺さんを始め多数〇〇驛に見送る。勇なり、壮なり、只感極まりて萬歳あるのみ。

防空演習最高調に達す。今晩は改めて暗黒の巷に狀況觀察の重大任命を受けて出發した。此處は平常にも燈管實施區域のS.S.觀察者も相當に多く見受けられる。或る角の殘置燈の下に同行の〇〇氏放尿に及びしに、恰も何處より現れて來たのか一人のダークエンジェル、
「誰です？其處におしつ、こしてるのは、いけませんね、こちらにいらつしやい」
彼の側に寄り沿ふが如き姿態にて怒つてる？私も興味を覺えて歩み寄り、片手をポケットに、片手は彼の背を引き乍ら
「おいおい、そこに放尿してもいゝのか、お前は何處だ」
彼女は我が意を得たりと焦き込み乍ら云つた。
「それ御覽なさい。だから私が始めから云つてるんぢやないの」
私は彼女に向を更へて。
「お前もお前だ、こんな處まで出て來てはいけません」
「ハイハイ、どうも済みませんが、以後氣を付けます」
彼女は私を刑事とでも思つたらしい。平身低頭

ば精神平らかならざる時や世俗に疲れた時は其の打棒芽えず、覇氣を缺く事斯くの如く甚だしとは思はなかつた。僕は中學時代迄野球をやつた事がある。練習次第に依つては職業野球にも出られるかも知れぬと言ふ夢(?)を先夜見た。何時も親爺様は御齡に似合はず(失禮)サードからファストへ好投されてランナーを刺殺されるが、球が良く固くものだと思つて感心する(!!)
今や二研の窓からは奇麗に刈られた芝生が清々と眼に映り、爽やかな秋が——氣持のよい秋が——楽しい生活と共に深まつて來るのを涎々と感ずる。(二三、九、一八)

始めの意氣はどこへやら、お詫びをして漸く傍から離れて暗に消えた。
月の片影だに無く勿論雨上りで星一つ見えず。常にさへ暗黒街の細き通り。百鬼夜行、辻斬強盗今や遅しと待ち構へて居たが、國民精神の緊張は恐しきもの、時々衰意と生優しき姿態の隣も誘ふもいと身震はしく、貴醜芳しき脂粉も腦裡に魅せられ、怪しくも酔ふが如く、吸はるゝが如く。偶々戸口の隙間に特にほの白きものが感じられた。
「ちよつと、用があるわよ」
これで何人目だらう。何と用のある人ばかりが多い所だらう。
「何用だね？」思ひ切つて聞いて見た。
「いゝから一寸いらつしやい、いゝことを教へて上げませう」
二人の觀察員は側に寄つて行つたと見る間に、相棒の彼はいきなり引込まれてしまつた。残された私も危く同じ運命に陥ることに餘儀なくされた。待てよ、二人で引込まれては服がポロン／＼になつても離されなくなることは必定。振り切り漸くの思ひで逃げ得たが、いや彼女等の力のあることには驚いた。
或る古老らしい。「ホイ／＼と拍子と人拂ひとを取り乍ら、杖を頼りに歩いて來た。ダイク、エンジェルは兩側から一齋に呼び出した。
「ちよつといらつしやい。お〇〇さん」
これも燈火管制なればこそか、その後から四五人の兄い連。

それから幾秒？分？過ぎた。然し時でないこと

丈は確かである。突然
「おい、○さん。助けて呉れ！」
救ひを求むる聲が何處からか聞えて来た。絹を
裂く様々と云ひ度い、が確かに聞覚えのある聲だ。
いでや男子と生れ、人の難を見て救はざるは義な
きなり。私は奮然起ち上つた。

「おい、たす……」
あつ！彼氏だ救はんとして我を忘れ、勢よく虎
穴に入つた。が又々捕縛となる所を危く身を離
した。
「友達が入つてゐるのに自分だけが入らないなん
て、ほんとに薄情者」
一人の天女より、私は遂に薄情居士の稱號を賜
つた。

「返せ！」「返さない！」「よこせ！」「
「やらない」、中では盛に押問答數刻、遂には暗
夜の大雨陣となり、組みつ組まれつの蝦蟇口争奪
戰が始つてゐたのであつた。仕方がないから歸り
に寄ることゝし、彼女をして中を改めさせること
に互に譲歩點を見出して漸く彼女等を納得させ
た。そして彼女がマツチを付けた時、夜目にも光
る彼女の顔は眉目秀麗、暗にも稀なる、蘇州の美
人の面影があつた。

「どうだ？幾ら入つてゐる？」
「アラッ！二錢よ」。返す彼女の手には力がな
かつた。然し他の彼女はそれだけでは承知出来な
かつた。
「歸りに本當に寄つてくれる？」
「うん」、と私は腰と力を入れて答へてやつ
た。彼女は一段と腰をひそめて言つた。
「××子と云つて頂戴ね」
(二三、九、一六)

編輯後記

◇：恩師木村先生と共に松岡幹事が本年度日本精
神神経學會並に日本病理學會に於て宿題報告を
擔當せられ其の報告論文執筆のため日夜文字
通り御多忙を極めて居られるため本誌の編輯を
小生に委ねられましたので慣れぬ手付で御つた
泥鰌がこんなものになりました。

◇：一昨年度日本結核病學會の宿題報告並に萬國
地理病學會の一部及び昨年度日本皮膚科泌尿器
科學會の宿題報告を當教室に命ぜられ、當時教
室にあつて木村先生御指導の下に夫々その一部
の御手傳ひを下された方々の論文をこのたび木
村先生の御言葉により本誌の附録として掲載し
ました。尙ほ附録論文の部は特に四ツ御助教
が御多忙中を御校正、御加筆下さいました事を
深謝します。

◇：前號まで會員各位の名稱が「イロハ順」であ
つた爲め索引に可成不便がありましたので本年
から「A.B.C.順」に改めました。
◇：昨年號に「會員動靜一覽」の頁を設けました
ところ會員各位より大變好評を博しましたので
本年も亦可成その移動の正確を期して編輯して
見ました。今後御移動がありましたらその都
度本會冠御一報頂けば幸甚です。

◇：日支事變勃發以來既に一ヶ年以上を経過し皇
軍の意氣は正に天を衝き連戰連勝の有様です。
本會員の内、出征御活躍の方々も多數にのぼり
ました。彼地、其他よりの御活動の有様を本誌
の爲にお便り下さいましたので本誌の通信欄は
前號に比し特に賑ひ続後の我々も更に身のしま
るものがあります。皇軍の必勝と出征諸君の御
健康、御奮闘を祈つてやみません。

◇：年々會員の増加に伴ひ本誌の隆盛も度を加へ
て参りました。本誌を立派なものに仕上げるのに
は偏へに會員諸君の御協力に待たねばなりま
せん。次號にも尙一層御感想なり御隨筆なりを
御寄稿賜はらば幸甚です。

◇：本年は小生が蓄積ながら本誌編輯の任に當り
ました。が實際は教室員各位の御助力を得且つは
各自、分擔御校正の勞を賜りました所多く、特
に松岡幹事、四ツ御助教を始め佐藤、石塚兩
助手橋本綱徳氏の御加勢を得た事、並に畏友笹
氣印刷所主、笹氣幸助氏が幾多の犠牲を拂つて
御筆力下さいました事に對し深く感謝の意を捧
げます。

◇：男也會々員にとつては待ちに待たれた十月十
日も數日に迫りました。會員諸兄の御來望を御
待ち申し上げます。
(皇紀、二五九八、九、二七 參木記)

會員動靜一覽 (自昭和十二年九月 至昭和十三年八月)

- | | | | |
|-----------|--|----------|---|
| 松原 順 三氏 | 名倉と御改姓になられ、昨年九月岩手醫專教授に
なられました。 | 萩原 二 郎氏 | 本年三月八戸病院を辭され、關口外科教室で御勉
強中でしたが五月秋田縣本莊町由利組合病院外科
に赴任されました。 |
| 桂島 忠 良氏 | 第一生命保險會社保險醫として御勤務中でしたが
昨年十月岩手縣久慈町九戸病院長に轉任せられま
した。 | 百川 長次 郎氏 | 北海道にて御開業中でしたが、この程青森縣女鹿
澤村へ轉居御開業なさいました。 |
| 池田 恭 三氏 | 秋田縣船川港町に御開業中のところ昨年十月弘前
歩兵第卅一聯隊に應召されました。 | 若山 雅 三氏 | 一昨年十月本學講師となられ、耳鼻科を實地御勉
強中でしたが、五月新設の山形縣置賜組合病院長
として赴任されました。三月には論文が教授會を
通過しました。 |
| 黒羽 武氏 | 昨年八月宇都宮陸軍病院に應召されましたが十一
月長野縣上山田温泉の陸軍温泉療養所付として轉
任せられました。 | 佐久間 正 一氏 | 研究生として長らく御勉強中でしたが愈々業成り
五月若山院長と同じ置賜病院外科醫長として赴任
されました。尙七月には論文が教授會を通過しま |
| 岩本 正 樹氏 | 昨年十二月仙臺陸軍病院に應召され、傷病兵の治
療に縦横の敏腕を揮はれて居ります。 | 佐藤 正 三氏 | 病理解一般特に呼吸器病理研究の爲め文部省在外
院に赴任されました。 |
| 那須省 三 郎氏 | 昨年七月に醫學部長の重荷を下されましたが十二
月卅一日付木村教授の後任として醫學部圖書分館
長になられ、益々御元氣でいらせられます。 | 佐藤 正 三氏 | |
| 永澤 正 三 郎氏 | 大學院學生として長らく御勉強中でしたが十二月
に氣仙沼公立病院副院長外科醫長に赴任されまし
た。一月には論文が教授會を通過しました。 | 佐藤 正 三氏 | |
| 佐藤 正 三 郎氏 | 小兒科教室で御勉強中でしたが昨年末古川片倉病
院に赴任されました。 | 佐藤 正 三氏 | |
| 參木 錦 司氏 | 病理解一般特に呼吸器病理研究の爲め文部省在外
院に赴任されました。 | 佐藤 正 三氏 | |

した。

田中館力也氏 六月頃五所川原町西北病院より、北海道常呂郡佐呂間村武士診療所に轉任されました。

増田桓一氏 御研究の業成り一昨年十月より熊谷内科にて實地御勉學中の處一時御健康を害されて御静養中でしたが御元氣になられ、現在は暫時御生家に於て診療に従事されて居られます。

惠崎毅氏 一時母校に歸られ御勉強中でしたが六月頃再度來仙され現在五所川原町増田病院に赴任されて居られます。

川崎武夫氏 教室員として長い間御勤務、非常な御勉強振りでしたが愈々業成り六月初より關口外科にて實地御勉強中のところ同月末に突然釜石市立病等外科に赴任されました。

内山泰氏 今夏本學部より滿洲國に派遣せる診療團に班長として七月九日勇躍渡滿され、約一ヶ月餘り仁術に乏しき滿洲國民の診療或は移民及び本學出身者等との交離に大なる足跡を印せられ、八月末に元氣横溢歸室されました。

大庭三郎氏 七月より八戸市の現住地に御開業になられました。

三浦光氏 宮城縣々廳衛生課に御勤務中でありましたが本年八月同課所屬の志田郡志田橋診療院々長となられました。

江幡廣松氏 出征中で愈々御元氣の由です。

鹽澤正俊氏 上海派遣軍〇〇部隊付軍醫大尉として敏腕を揮つて居られます。

友常武雄氏 一昨年羅南へ入營され本年早々除隊される豫定でありましたが、事變勃發に伴ひ彼地に殘られ盛に活躍して居られる由です。

四四

原田嘉元氏

昨夏北支に御出征されましたが此の程御歸還、東京第二陸軍病院長として敏腕を揮つて居られます。

渡邊剛氏 長らく高崎市綿貫病院に於て、その圓熟せる技能を讃へられて居りましたが、今度東京市世田ヶ谷區太子堂町に御開業になられました。

佐藤儀英氏 市内岩本病院に御勤務、昨年九月華燭の典を挙げられ、平和幸福の御家庭を營まれ居られました。

石崎芳郎氏 關口外科教室に於て御勉強中でしたが、突如本年九月十四日動員令下り、軍醫豫備員として小倉陸軍病院に應召されました。

陣内朽索氏 昨年北滿〇〇〇に出征されましたが、現在も相變らず、同地方で活躍せられて居ります。

横山成治氏 昨年九月軍醫少尉として仙臺陸軍病院へ應召勤務でありましたが、本年三月論文が教授會を通過し現在も相變らず同院で傷病兵の診療に當つて居られます。

押味賢治氏 昨夏應召せられ、現在北支派遣軍〇〇部隊〇部隊付として御出征中です。

佐藤正太郎氏 北支派遣軍〇〇部隊〇〇部隊付

佐藤儀英氏 朝鮮羅南〇〇部隊〇部付

鹽澤正俊氏 中支派遣軍〇〇部隊〇〇部隊付

多賀榮氏 北支派遣軍〇〇部隊〇〇部隊〇部付

友常武雄氏 朝鮮羅南歩兵第七十三聯隊

横山成氏 仙臺陸軍病院

應召會員紹介 (昭和十三年九月廿日現在) A・B・C順

- 江幡廣松氏 上海派遣軍〇〇部隊〇〇部隊付
- 原田嘉元氏 東京第二陸軍病院長
- 岩本正樹氏 仙臺陸軍病院
- 池田恭三氏 弘前歩兵第卅一聯隊軍醫
- 石崎芳郎氏 小倉陸軍病院
- 陣内朽索氏 滿洲國海拉爾〇〇部隊付
- 黒羽武氏 長野縣上山田温泉、陸軍温泉療養所
- 押味賢治氏 北支派遣軍〇〇部隊〇部隊付

新入會員紹介 (自昭和十二年九月至昭和十三年八月) A・B・C順

- 栗田口省吾 盛岡組合病院。 十三年八月入會
- 釜港敏夫 田名部病院。 十三年八月入會
- 加藤學 熊谷内科教室。 十三年八月入會
- 栗田豊 山川内科教室。 十三年八月入會
- 前川重和 耳鼻科教室。 十二年十月入會
- 長瀬秀雄 産婦人科教室。 十三年八月入會
- 長田達郎 現教室員。 十三年三月入會
- 小澤厚 現教室員。 十三年八月入會
- 櫻田章 山川内科教室。 十三年八月入會
- 堺鶴二郎 小兒科教室。 十三年八月入會
- 上野哲直 現教室員。 十三年七月入會
- 山崎敢 現教室員。 十三年四月入會
- 山崎正志 山川内科教室。 十三年八月入會

四五

以上十三名

會員名簿

(ABC順)

昭和十三年九月現在

氏名	原籍	在室期間	勤務先	現住所
青木富男	長野	自大九、一七	郡山鐵道診療所	福島縣郡山市晴門田鐵道官舎一四號
新井寛治	栃木	自大十五、一七	業	神奈川縣鎌倉町小町四二八
有村正勝	鹿兒島	自大十四、三	滿鐵病院	滿洲四平街滿鐵病院內科
阿部忠雄	東京	自大十三、一六	逝去	(大正十五年四月廿七日)
赤星幸次郎	秋田	自大十四、三	業	埼玉縣川越市相生町
秋元東馬	北海道	自大十四、三	同	仙臺市東三番丁一五一
赤沼順四郎	北海道	自大十五、三	業	朝鮮京城府梨花町九七
荒木忠	廣島	自大十、二	現	教員 仙臺市北七番丁八五
栗田口省吾	栃木	自大十三、三	盛岡(組合)病院	盛岡市紙町組合病院內
嵩敏	和歌山	自大十五、三	業	和歌山縣新宮市上本町七七
遠藤恭助	岩手	自大十五、三	業	宮城縣氣仙沼町笹ヶ陣四二
江幡廣松	茨城	自大十二、三	軍	出征中
惠崎毅	佐賀	自大十四、三	增	田病院 青森縣五所川原町増田病院
藤原一郎	秋田	自大十四、三	業	日本橋病院 東京市本郷區西片町一〇にノ六號
布施正	山形	自大十二、三	業	釜石市立病院 岩手縣釜石市々々立病院內

氏名	原籍	在室期間	勤務先	現住所
原田嘉元	東京	自大十四、二	業	東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ五一〇
芳賀武雄	青森	自大八、一	業	弘前市品川町
橋本照治	福島	自大八、一	業	釜石市々々立病院 岩手縣釜石市尾崎町
橋本綱徳	宮城	自大九、一	現	教員 仙臺市東一番丁九〇
羽生今朝雄	福島	自大十二、三	業	北大農學部畜産科教室 札幌市北六條西十丁目、武智方
星騰吾	宮城	自大十三、四	業	宮城縣古川町大柿字七日町五五
星三藏	宮城	自大十五、四	同	(八戸病院) 青森縣八戸市鳥屋部町二
星野香澄	群馬	自大十三、三	業	東京市衛生課 東京市杉並區永福町三五四
日野本男	北海道	自大十三、三	業	北海道札幌郡江別町
引地義男	宮城	自大十二、三	現	教室 員 仙臺市東四番丁三五
伊藤茂樹	京都	自大五、四	業	京都府與謝郡加悦町
岩永幾太郎	佐賀	自大十三、七	業	福島市杉妻町四
一本杉虎二	廣島	自大十四、八	業	門司市丸山
井原義定	長野	自大十三、九	業	東京市品川區南品川六丁目一四六三
泉山幸吉	青森	自大十四、二	同	樺太豊原町大通南四丁目二
井波鍊四郎	石川	自大七、一	業	兵庫縣武庫郡住吉村甲南病院舎宅
井坂四郎	茨城	自大九、七	住	友 鑛 醫院 北海道空知郡歌志内村神威
伊東五一郎	青森	自大十五、三	業	秋田縣船川港町西本町(應百中)
池田恭三	秋田	自大十三、二	業	

(醫博) 岩本正樹 佐賀 同 仙臺市元寺小路一四六(應召中)

石崎芳郎 長崎 關口 仙臺市北六番丁四二、太田方(應召中)

石塚公雄 山形 現 教員 仙臺市跡付町三、石川方

伊勢重久 宮城 同 仙臺市南材木町二七

(醫博) 今井龍雄 山形 耳 仙臺市北一番丁一一八

猪苗代馨 宮城 關口 仙臺市河原町六九

飯塚豊三郎 秋田 現 教員 仙臺市跡付丁三、石川方

陣内朽索 佐賀 軍 滿洲海拉爾秋山部隊附
(留守宅、東京中野、上高田一ノ二七四)

(醫博) 近藤正俊 岐阜 杏雲堂病院 東京市牛込區原町三丁目六四

小峯理作 埼玉 開 業 埼玉縣浦和市仲町二一六五

木村清壽 茨城 逝 業 宮城縣小牛田町

木村誠 宮城 開 業 秋田縣角館町

(醫博) 木村久雄 山口 逝 業 東京市世田ヶ谷區東玉川町一五八

(醫博) 鬼川光 秋田 同 業 青森縣弘前市代官町四

北村雄二郎 東京 同 業 北海道中川郡豐頃村茂岩市街

(醫博) 菊池精三 茨城 逝 業

(醫博) 菊池武雄 北海道 逝 業

(醫博) 菊池正三 岩手 逝 業

木内弘 開 業

(醫博) 上山喜明 鳥取 開 業 靜岡市淺間町二〇

日下仁 福島 逝 業 (昭和五年八月三十日)

黒川鷹揚 佐賀 開 業 長崎縣佐世保市常盤町五八

(醫博) 栗原輝信 群馬 更 業 朝鮮全羅南道小鹿島更生園

黒羽武 栃木 現 教員 長野縣上山田温泉、陸軍療養所(應召中)

(醫博) 桂島忠良 宮城 久慈組合病院 岩手縣九戸郡久慈町組合病院

加藤岩根 栃木 逝 業 (昭和三年八月三十日)

(醫博) 小山芳輝 和歌山 大郎醫專教授 朝鮮大邱府東雲町一一五

川崎武夫 茨城 釜石市々立病院 岩手縣釜石市々立病院

釜港敏夫 青森 田名部病院 東京市大森區田調布二ノ八五二

加藤學 東京 熊谷内科 仙臺市東二番丁一一六

栗田豊 宮城 山内科 仙臺市北七番丁六四、笹井方

(醫博) 百川長次郎 青森 開 業 青森縣南津輕郡女鹿澤村大字増館

(醫博) 森繁春 佐賀 滿洲醫科大學 滿洲奉天葵町四六

森良二 青森 現 教員 仙臺市北三番丁一〇〇

(醫博) 松岡茂 山口 現 教室員(助教教授) 仙臺市支倉通一

(醫博) 松本梅楠 和歌山 開 業 和歌山縣日高郡南部町南道

名倉順三 埼玉 岩手醫專教授 岩手縣岩手醫學專門學校

増田桓一 靜岡 熊谷内科 仙臺市北三番丁一二二

(醫博) 水島輝文 兵庫 自昭六、一三月 東大整形外科 東京市大森區田園調布三ノ一二七

(醫博) 三浦弘 宮城 昭三、四 軍 東京市杉並區阿佐ヶ谷四ノ四〇二

(醫博) 三浦光 栃木 自昭七、八三月 宮城縣衛生課 宮城縣志田郡敷玉村志田橋診療所

(醫博) 三井良造 山口 自昭七、六月 古河鑛病院 福岡縣鞍手郡小竹町古河鑛業所社宅

(醫博) 參木錦司 栃木 自昭八、三月 現 教室員 仙臺市堤通四三

(醫博) 松井仁 北海道 自昭三、十一月 開 業 北海道旭川市三條通九丁目左十號角

(醫博) 武藤完雄 茨城 自昭三、十一月 兵庫縣立病院 神戸市神戶區中山手通六丁目一二

(醫博) 前川重和 和歌山 自昭五、七月 現 教室員(教授) 仙臺市北八番丁六七

(醫博) 那須省三郎 和歌山 自昭七、十二月 開 業 東京市板橋區中村町一丁目一二二

(醫博) 中井龍彦 茨城 自昭七、十二月 開 業 東京市板橋區中村町一丁目一二二

(醫博) 中村嘉木 新潟 自昭七、十二月 開 業 東京市板橋區中村町一丁目一二二

(醫博) 中瀬隆造 大阪 自昭七、十二月 開 業 東京市板橋區中村町一丁目一二二

(醫博) 內藤勝 德島 自昭七、十二月 開 業 東京市板橋區中村町一丁目一二二

(醫博) 永澤正三郎 青森 自昭十、四月 產 婦 人 科 仙臺市越路二〇ノ六五、本田方

(醫博) 長瀬秀雄 長野 自昭十、四月 開 業 神奈川縣鎌倉町材木座上河原一四三七

(醫博) 大家國紀 福岡 自昭十、四月 開 業 宮城縣古川町十日町

(醫博) 大家武夫 福岡 自昭十、四月 開 業 青森縣八戸市小中野新地

(醫博) 大庭三郎 福岡 自昭十、四月 開 業 東京市瀧ノ川區西ヶ原町九二九

(醫博) 折本勝治 東京 自昭十、四月 開 業 東京市瀧ノ川區西ヶ原町九二九

(醫博) 奧秋盛大 青森 自昭六、十二月 開 業 福島縣田村郡移村

(醫博) 尾崎慶藏 宮城 自昭七、三月 逝 去 (昭和十年一月十五日)

(醫博) 押味賢治 北海道 自昭八、十二月 現 教室員 〇〇へ應召出征中

(醫博) 奧田美直 宮城 自昭十、一月 現 教室員 仙臺市清水小路四一

(醫博) 萩原二郎 長野 自昭十、至昭十二三月、學生時代 由利組合病院 秋田縣本庄町由利組合病院

(醫博) 長田達郎 宮城 自昭十三、四月 現 教室員 仙臺市大町五丁目新丁五、加藤方

(醫博) 小澤厚 山梨 自昭十三、八月 同 業 仙臺市木町通三四

(醫博) 瀨ノ口涉 鹿兒島 自昭十三、十一月 逝 去 (昭和十一年四月十七日)

(醫博) 齋藤次右衛門 宮城 創立當時ノ研學生 開 業 宮城縣氣仙沼町

(醫博) 齋藤虎雄 宮城 大五、六研學生 再自昭四、一月 現 教室員 仙臺市角五郎丁一〇七

(醫博) 櫻岡純一 岩手 自昭六、六月、七月、八月、九月、十月、十一月、十二月 八 戸 病 院 青森縣八戸市鍛冶町、北村新三郎方

(醫博) 相良彦威智 沖繩 大六、七、七醫科 大學學生用代 逝 去 (大正七年十一月十日)

(醫博) 佐藤隆房 栃木 若 千、十一月 花 卷 病 院 岩手縣花卷町川口町

(醫博) 佐藤義房 栃木 若 千、十一月 八 戸 病 院 青森縣八戸市類外中居

(醫博) 佐藤つる子 宮城 自昭十二、三月 小 兒 科 仙臺市宮町三五

(醫博) 佐藤光永 福島 自昭十二、三月 現 教室員 仙臺市支倉通二四、千坂方

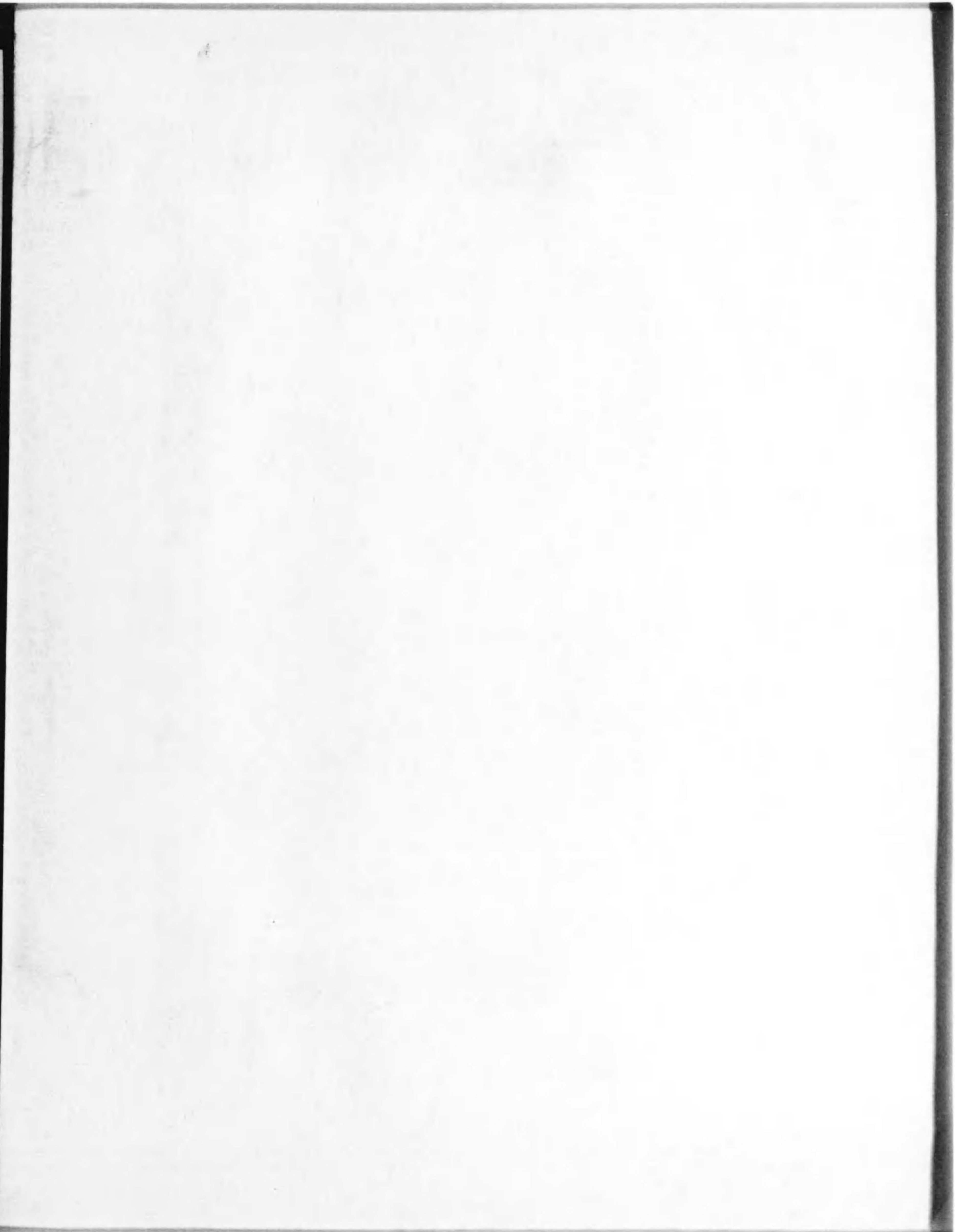
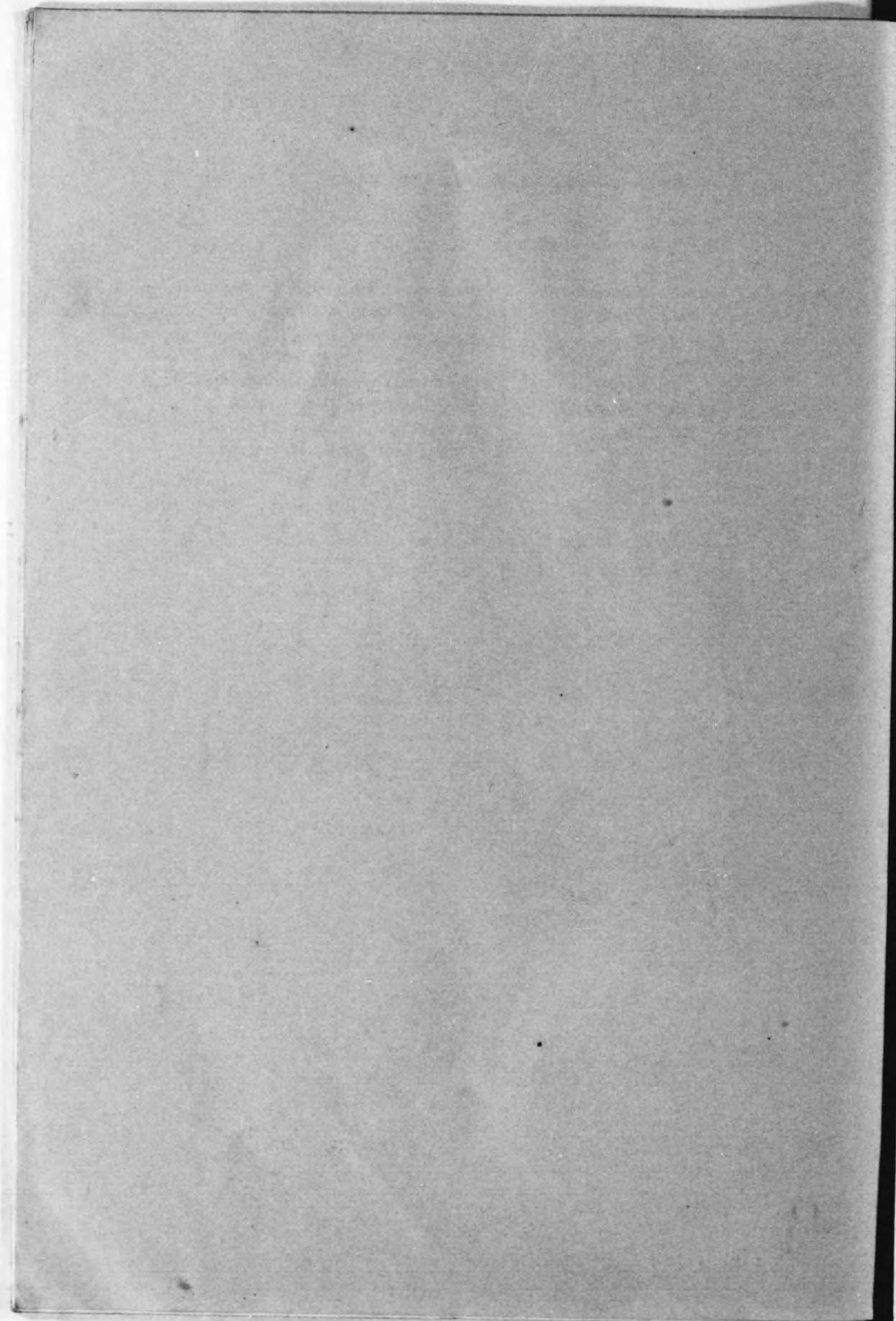
(醫博) 佐藤儀英 福島 自昭十、至昭十二三月、學生時代 岩 本 病 院 朝鮮羅南川村部隊本部(應召中)

(醫博) 佐藤正太郎 秋田 自昭十二、四月 現 教室員 弘前野砲第八聯隊より〇〇へ出征中

(醫博) 笹田衛 青森 自昭八、五月 兵庫縣衛生課 神戸市灘區國玉通四ノ六八一

(醫博)	坂本真一郎	秋田	自昭十二、四月	飯田	宮城縣氣仙沼町柏崎八七
(醫博)	佐久間正一	福島	自昭十三、七月	置賜組合病院	山形縣米澤市置賜組合病院
(醫博)	櫻井藤吉	宮城	自昭十一、五月	糸魚川齋藤病院	新潟縣糸魚川町劇場前齋藤病院内
(醫博)	鈴木善松	宮城	自大七、四月	業	宮城縣中新田町十二軒町
(醫博)	杉山一郎	秋田	自昭八、四月	同	青森市米町
(醫博)	鹽澤正俊	長野	自昭十、至同十二、三月	軍	出征中
(醫博)	櫻田章	宮城	自昭十三、三月	山川	仙臺市船丁三
(醫博)	堺鶴二郎	宮城	自昭十三、三月	小兒	秋田市立診療所
(醫博)	德光美福	大分	自大八、九月	京城帝大教授	朝鮮京城府東四軒町四八
(醫博)	友常武雄	茨城	自昭十一、四月	入營	朝鮮羅南步兵第七十三聯隊
(醫博)	立澤喜代治	宮城	自大九、七月	業	宮城縣名取郡増田町
(醫博)	寺島禮三	山形	創立當時ノ研學生	逝去(昭和三年一月一日)	
(醫博)	寺島清七	長野	自大十二、三月	岡谷市々立病院	長野縣岡谷市々立病院内
(醫博)	田代修	東京	自大八、六月	業	東京市世田ヶ谷區玉川奥澤町二ノ五二六
(醫博)	田代雪江	東京	自大十二、六月	同	(知命堂醫院) 神奈川縣三浦郡葉山町
(醫博)	高橋濟二	千葉	自昭三、六月	業	青森市浦町字橋本九五
(醫博)	竹崎隆昌	宮城	自昭六、八月	現教室員	仙臺市北七番丁九六
(醫博)	多賀榮	岐阜	自昭十一、二月	山川	科 金澤歩兵第七聯隊より〇〇へ出征中

(醫博)	田中館力也	青森	自昭十二、五月	武士診療所	北海道常呂郡佐呂間村武士
(醫博)	浦上丹治	宮城	自創立當時	業	東京市王子區赤羽町一丁目二〇三
(醫博)	鶴飼哲	東京	自大八、十二月	逝去(昭和九年十一月廿五日)	
(醫博)	梅田真一	岐阜	自大八、四月	業	東京市豊島區巢鴨七丁目一八八〇
(醫博)	内山泰	新潟	自大十、七月	現教室員(講師)	仙臺市土橋通一〇
(醫博)	上野哲直	山形	自昭十三、七月	現教室員	仙臺市北七番丁七八
(醫博)	渡邊武雄	秋田	自昭五、十二月	業	秋田縣能代港町上町四六
(醫博)	渡邊剛	東京	自昭六、五月	業	東京市世田ヶ谷區太子堂町四三六
(醫博)	若山雅三	栃木	自昭二、三月	業	仙臺市東一番丁一六
(醫博)	吉田重三郎	青森	自昭五、五月	業	仙臺市北八番丁一七二
(醫博)	四ッ柳正造	北海道	自昭四、三月	現教室員(助教授)	仙臺市北八番丁一七二
(醫博)	横山成治	福島	自昭六、一月	同	仙臺市北四番丁一一一(應召入營中)
(醫博)	山村新之助	福島	自昭四、五月	同	(講師) 仙臺市東一番丁一〇
(醫博)	矢部要三	栃木	昭四一五學生時代	業	東京市豊島區池袋二丁目一〇四六
(醫博)	山崎正志	北海道	自昭十一、六月	山川	科 仙臺市北七番丁四二
(醫博)	山崎敢	岐阜	自昭十三、四月	現教室員	仙臺市北六番丁一〇九



男 也 會 會 誌

Onarikwai Kwaisi

(附 錄)

第 12 年

昭和13年(1938)10月10日發行

目 次

原 著

結核特ニ肺, 喉頭及ビ腸結核ノ統計的觀察.....	萩 原 二 郎...1
先天性早期微毒脾ノ病理.....	長 田 達 郎...9
胎兒ノ肝及ビ脾ニ於ケル Oxydasereaktion	長 田 達 郎...19
人屍肺壞疽病竈ニ於ケル細菌ノ分布ニ就テ.....	山 崎 正 志...24
肺壞疽ノ統計的研究.....	堺 鶴 二 郎...32
附. 壞疽病竈ノ組織學的區分ニ就テ	
胎兒臟器ノ重量統計.....	栗 田 豐...39
先天性早期微毒ニ於ケル肺病變.....	栗 田 豐...50
萎縮腎ノ鐵反應.....	櫻 田 章...56

男 也 會

Onarikwai

仙 臺

Sendai

追記

KATÔ, Stud. med. MANABU, Zur Statistik der sogenannten Prostatahypertrophie. Mit 20 Tabellen und 2 Figuren im Text.

NAGASE, Stud. med. HIDEO, Kritische Betrachtungen über die besonderen Prostatadrüsen in der direkten Umgebung der Urethra. Mit einer Tabelle und einer Figur im Text.

AWATAGUTI, Stud. med. SYÔGO, Beitrag zur Kenntnis der Arterienverteilung im männlichen Becken mit besonderer Berücksichtigung der Blutversorgung der Prostata. Mit 15 Tabellen und 8 Figuren im Text und 2 Tafeln.

YOTUYANAGI, S., KATÔ, M., AWATAGUTI, S. und NAGASE, H., Kritisierung der arteriosklerotischen Entstehungstheorie der sogenannten Prostatahypertrophie. Mit 3 Tabellen und 3 Figuren im Text.

以上攝護腺問題ニ關係セラレシ諸兄ノ論文ハ不日 Mitteilungen über allgemeine Pathologie und pathologische Anatomie ニ掲載セラル、筈ナル故、本誌ニテハ省略セリ。

結核特ニ肺、喉頭及ビ腸結核ノ統計的觀察

(挿入表 16)

東北帝國大學醫學部病理學教室 (主任 木村教授)

學生 荻原二郎

Stud. med. Zirô Ogiwara

緒言

結核病ノ統計ニ關シテハ、曩ニ恩師木村教授ハ大正7年11月15日迄ニ得タル剖檢總數535例ニ就テ仙臺市結核豫防會發會式ニ御講演セラレ、又内山助教授ハ大正4年7月ヨリ大正14年10月4日ニ至ル10ケ年間ノ1650例ニ就キ發表セラレタリ。更ニ最近陣内一等軍醫ノ主トシテ胸膜炎ニ關スル統計的報告アリ。然ルニ恩師木村教授ハ結核病學會ニ於ケル宿題報告ヲ御擔當セラレルヤ、余ニ掲題ノ事項ノ檢索ヲ命ゼラレタリ。蓋シ其ノ御意圖ハ肺結核病型ト喉頭及ビ腸結核ノ發生トノ關係ヲ闡明スルニ在リ。勿論斯カル目的ニハ嚴密ナル生物測定學的處理ヲ必要トスレド、其ハ後日ニ譲リ、本編ニ於テハ主トシテ算術平均ヲ以テ問題ヲ取扱ハント欲ス。

統計的觀察ニ當リ戒心ス可キハ統計材料ガ動々モスレバ一方偏在的ニ蒐集セラル、事ナリ。然ルニ吾教室ニ於ケル剖檢屍體ハ大學附屬醫院ノミニ止マラス、廣ク之ヲ開業醫家ニ仰ギ得ルヲ以テ、特殊ノ疾患ニ偏スルコトナク、社會一般ノ疾病ヲ普遍的ニ蒐集シ觀察シ得ル便宜アリ。故ニ上述ノ如キ誤謬ニ陥ルヲ避ケ得。

一般的觀察

結核率。本教室開設即チ大正4年8月10日以來昭和9年12月31日ニ至ル期間ノ剖檢屍體數ハ胎兒、死産兒等ヲ除キ3504例ニシテ、男子ハ2045例(約60%)、女子ハ1459例(約40%)ナリ。

第1表 結核率

性別	剖檢數	結核屍數	%
男	2045	877	42.89
女	1459	574	39.34
計	3504	1451	41.41±0.82

其ノ中身體何レカノ局所ニ進行性、治癒性或ハ潜在性結核竈ヲ有スルモノハ1451例ニシテ、剖檢總數ニ對スル百分率ハ41.41±0.82ナリ。結核屍1451例中、男子ハ877例、女子ハ574例ニシテ、兩性ニ於ケル結核率ハ夫レ夫レ42.89%及ビ39.34%ナリ

(第1表)。

第 2 表 結核率ノ比較

調査者	調査總數	結核屍數	%
Necker	591	547	92.55
Burckhardt	1452	1221	84.1
Reinhart	460	369	80.21
Naegeli	508	406	79.9
Schlenker	100	66	66.0
Beitzke	901	463	51.4
大村	499	240	48.96
今	718	351	48.9
倉島, 福田	743	362	48.7
香掛(記録)	1074	519	48.3
内山	1650	785	47.6
Lubarsch	2777	1264	45.4
平野, 徐	6926	3005	43.4
陣内	3090	1318	42.65
高橋	2352	985	41.86
荻原	3504	1451	41.41±0.82
藤浪	2011	831	41.3
藤田	2011	826	41.07
永松(實査)	520	188	36.2
Risel	362	126	34.8
永松	200	68	34.0
平田, 高原	400	135	33.8
山口	900	290	32.2
大野	2017	546	27.1
香掛(實査)	605	317	25.4
永松(記録)	4000	1003	25.0
岡村	643	158	24.5

232 例 (15.92%) = シテ最高率ヲ示シ, 次位ハ 21~25 歳 = シテ 227 例 (15.64%), 三位ハ 26~30 歳 = シテ 172 例 (11.85%) ナリ. 即チ 20 歳ノ前後 10 ケ年間 = 最高率ヲ示シ, 年齢ノ増加ト共 = 減少ス (第 3 表).

肺病變ノ分類. 肺ノ結核性病變ヲ Kraus = 從ヒ分類セリ. 即チ肺 = 結核性空洞アルモノ, 結核結節内 = 崩壊ヲ有スルモノ, 氣管 = 潰瘍アルモノ等ヲ開放性トシ, 上ノ所見ナキモノヲ閉鎖性トセリ.

開放性肺結核. 即チ肺 = 結核性空洞ヲ有シ重篤ナル病變ヲ示セルモノハ 617 例 = シテ, 結核屍數 = 對シ 42.52 ± 1.29% ナリ. 16~20 歳ハ最大率ヲ示シ, 其ノ關係ハ大體前項 = 於テ論ゼルト同様ナリ. 結核屍數ヲ基數トスル開放性肺結核率ハ男女夫レ夫レ 42.87% 及ビ 41.59% = シテ, 殆ンド差無シ (第 4 表).

尙諸家ノ剖檢總數 = 對スル結核屍數ノ百分率ハ第 2 表ノ如ク, 高キハ 92.55, 低キハ 24.5

= シテ, 其ノ間絶大ナル差アリ. 蓋シ檢索材料ノ出所及ビ檢索標準等ノ影響セン所大ナル = 非ザルカ.

結核屍ノ年齢. 男女ヲ通ジ, 16~20 歳ハ

第 3 表 結核屍ノ年齢及ビ男女別

年齢	男	女	計	結核屍總數 = 對スル %
1-5	30	31	61	4.20
6-10	22	15	37	2.55
11-15	56	37	93	6.45
16-20	111	121	232	15.92
21-25	129	98	227	15.64
26-30	118	54	172	11.85
31-35	75	53	128	8.82
36-40	78	39	117	8.10
41-45	71	36	107	7.37
46-50	33	20	53	3.65
51-55	42	16	58	4.0
56-60	32	17	49	3.38
61-65	35	13	48	3.31
66-70	21	9	30	2.07
71-80	20	12	32	2.21
81以上	4	3	7	0.48
計	877	574	1451	

頸部臟器特ニ喉頭結核

頸部臟器特ニ喉頭結核ノ發生病理ハ古來學者 = ヨリ種々論議セラレタリ. 即チ空氣中ノ泡沫ト共ニ吸入サレタル結核菌ノ直接寄生(原發性), 肺結核 = 際シ含菌喀痰ノ附着 = ヨル自家接種, 血行或ハ淋巴道ヲ介スル轉移性感染等ガ肯定セラル. 原發性喉頭結核ハ極メテ稀有ニシテ, 喉頭結核ハ殆ンド全ベテ續發性ト看做サル. 就中現今ニテハ含菌喀痰ノ自家接種ガ最重要視サレ, 血行性乃至淋巴道性感染ノ如キハ無視サル, ガ如キ状態 = 在リ. 此ノ點 = 就キ余ハ統計的檢索ヲ進リ些カ論ズル所アラントス.

1) 頸部臟器結核率. 結核屍 1451 例中, 頸部臟器結核ヲ有スルモノハ 420 例 = シテ, 結核屍總數ノ 28.95% ナリ. 年齢的 = ハ 15~25 歳ノ 10 ケ年間ガ最多ヲ占メ, 其ノ關係ハ一般結核屍 = 於ケルト同様ナ

第 5 表 頸部臟器結核率

リ. 又女子ハ男子 = 比シ僅カ高率ヲ示セリ (第 5 表).

年齢	1-14	15-25	26-50	51以上	計	結核屍總數 = 對スル %
男	30	89	108	14	241	27.48
女	25	95	56	3	179	31.18
計	55	184	164	17	420	28.95

2) 頸部臟器結核例 = 於ケル肺所見. 頸部臟器結核例 420 中, 肺 = 結核性空洞ヲ有スル所謂開放性

肺結核ヲ伴ヘルモノハ 329 例 (78.33%) = シテ, 反之肺 = 結核性空洞ナキ所謂閉鎖性肺結核ヲ伴ヘルモノハ 91 例 (21.67%) ナリ (第 6 表).

3) 開放性肺結核例 = 於ケル頸部臟器結核. 肺 = 結核性空洞有リテ, 頸部臟器 = 結核性病變ナキモノハ 288 例 = シテ, 開放性肺結核例ノ 46.68%, 總結核屍ノ 19.85 ± 1.05% ナリ. 又頸部臟器 = 結核性病變ヲ有スルモノハ 329 例 = シテ, 其ノ百分率ハ 53.32, 總結核屍 = 對スル比率ハ 22.67 ± 1.10% ナリ (第 7 表).

4) 閉鎖性肺結核例 = 於ケル頸部臟器結核. 肺 = 結核性空洞ナク頸部臟器 = 結核性病變アリシモノハ 91 例 = シテ,

第 4 表 肺 = 結核性空洞ヲ有スル例

年齢	男	女	計
1-5	8	11	19
6-10	0	6	6
11-15	16	14	30
16-20	62	57	119
21-25	61	51	112
26-30	63	26	89
31-35	45	27	72
36-40	39	20	59
41-45	27	9	36
46-50	8	6	14
51-55	14	2	16
56-60	10	5	15
61-65	13	3	16
66-70	6	1	7
71以上	4	3	7
計	376	241	617

第 6 表

頸部臟器結核例 = 於ケル肺所見

肺所見	例數	%
開放性結核	329	78.33
閉鎖性結核	91	21.67
計	420	

第 7 表

開放性肺結核例 = 於ケル頸部臟器結核

頸部臟器結核	例數	%
+	329	53.32
-	288	46.68
計	617	

閉鎖性肺結核例ノ 10.91%, 總結核屍ノ 6.27 ± 0.64% ナリ (第 8 表), 91 例中, 比較的肺病變重

第 8 表
閉鎖性肺結核例ニ於ケル頸部臟器結核

頸部臟器結核	例數	%
+	91	10.91
-	743	89.09
計	834	

篤ト思ハル、乾酪性氣管枝肺炎ヲ伴フモノ 23 例, 肺ノ病變比較的輕症ト思ハル、モノ 68 例アリ, 其ノ比ハ略々 1:3 ナリ. 更ニ 91 例ニ於ケル頸部臟器ノ病變ヲ細別セバ第 9 表ノ如シ.

考察. 以上 4 項ヲ通覽センニ, 全身ノ臟器, 組織等ノ一部ニ結核性病變ヲ有スルモノ

、實ニ 3 割ハ頸部臟器結核症ヲ有ス. 後者ハ又開放性肺結核例ノ半數ニ認メラル. 此ノ事實並ビニ頸部臟器結核例ノ 8 割ガ開放性肺結核ヲ伴ヘル事實ハ, 頸部臟器結核ト開放性肺結核間ニ或程度ノ陽性相關ノ成立スルヲ示唆ス. 然ルニ肺ニ空洞アリ, 生前多量ノ含菌喀痰ヲ咯出センナラント推定セラル、例ノ約半數ハ頸部臟器ニ何等結核性病變ヲ示サズ. 又閉鎖性結核ノ約 1 割ハ既ニ頸部臟器ニ著明ナル結核性病變ヲ來セリ. 然モ其ノ 3/4 ハ肺ニ於ケル結核性病變ガ輕微ニシテ, 尠ク共多量ノ含菌喀痰ヲ咯出セリトハ想像シ得ザルガ如キ例ナリ. 由之觀之, 頸部臟器結核ノ發生ヲ擧ゲテ含菌喀痰ノ自家接種ニ歸セントスル現今學說ノ主流ニ些カ疑念無キ能ハズ. 換言セバ, 吾人ハ頸部臟器結核ニハ血行性或ハ淋巴道性轉移ニ因ルモノ、存在スルヲ推定ス.

腸 結 核

腸結核ノ發生機轉ニ就テハ, 頸部臟器結核ニ於ケルト同様, 近時嚥下サレタル含菌喀痰ノ自家接種乃至管内傳播ガ主役ヲナスト見做サレ, 血行性感染ノ如キハ微々タルニ過ギズト一般ニ信ゼラル. von Behring 以來ノ所謂原發性腸結核 (即チ管内感染) ノ問題ハ暫ク置キ, 余ハ茲ニ續發性腸結核ニ關シ統計的觀察ヲ試ミン.

1) 腸結核率. 結核屍 1451 例中, 肉眼的ニ腸結核ヲ認メシハ 809 例ニシテ, 其ノ百分率ハ 55.75 ± 1.30 ナリ. 一般結核屍及ビ頸部臟器結核例ニ於ケルト同様, 腸結核モ亦 15~25 歳ニ最モ頻數ナリ (約 45%). 又女子ハ男子ニ比シ稍々罹患率高シ (第 10 表).

第 9 表
閉鎖性肺結核例ニ於ケル頸部諸臟器ノ結核性病變

喉頭結核	26
扁桃腺結核	28
氣管結核	8
喉頭及ビ扁桃腺結核	9
喉頭及ビ氣管結核	6
氣管及ビ扁桃腺結核	4
喉頭, 舌, 扁桃腺, 咽頭及ビ懸壺垂結核	1
喉頭, 食道, 扁桃腺及ビ咽頭結核	1
喉頭, 扁桃腺及ビ咽頭結核	2
喉頭及ビ咽頭結核	1
咽頭, 扁桃腺及ビ食道結核	1
舌及ビ扁桃腺結核	2
食道結核	2
計	91

第 10 表 腸 結 核 率

年 齡	1-14	15-25	26-50	51以上	計	結核屍數 ニ對スル %
男	62	191	182	37	472	53.82
女	50	172	103	12	337	58.71
計	112	363	285	49	809	55.75
%	13.84	44.87	35.23	6.06		

2) 腸結核例ニ於ケル肺所見.

第 11 表參照.

3) 開放性肺結核例ニ於ケル腸結核. 肺ニ結核性空洞ヲ有シ, 然モ腸結核ヲ來サザリシモノハ 107 例ニシテ, 結核屍總數

ニ對シ 7.37 ± 0.69%

ニ相當ス. 爾他ノ數

值ハ第 12 表ニ示ス.

4) 閉鎖性肺結核例ニ於ケル腸結核.

肺ニ結核性空洞ナク,

然モ腸ニ結核性潰瘍アリシモノハ 299 例ニシテ, 腸結核總數ニ對シ 35.85%, 結核屍總數ニ對シ 20.61 ± 1.06% ナリ (第 13 表). 299 例中, 肺ニ空洞無キモ, 肺病變ノ比較的高度ナリシモノ 75 例, 肺病變ノ輕微ナリシモノ 224 例ニシテ, 其ノ比ハ 1:3 ナリ.

閉鎖性肺結核ニ併發スル腸結核中, 15 歳未満ノ幼若

年者ハ實ニ其ノ 29% ヲ占メ (第 14 表), 是ヲ一

般腸結核ニ於ケル同年期ノ比率 (第 10 表ニテ 14%) ト比較セバ, 實ニ其ノ 2 倍ヲ超ユ. 此ハ甚ダ注目ス可キ事實ナリ.

5) 含菌喀痰ヲ咯出スル機會ノ最モ尠キ條件

下, 即チ肺ニ結核性空洞無ク, 頸部臟器ニモ何等結核性病變ヲ認メズ, 然モ腸結核ヲ證明セシハ 247 例ニ達シ, 其ノ腸結核總數ニ對スル百分率ハ 30.53% ナリ (第 15 表ノ A 欄).

6) 肺ニ空洞アリ, 含菌喀痰ノ通路タル頸部臟器ニ結核性病變ヲ來サズシテ, 且ツ腸結核ニ罹患セシモノハ 189 例ニシテ, 其ノ比率ハ 23.36% ナリ (第 15 表ノ B 欄).

7) 周知ノ如ク, 腸管系ニ於ケル結核性病變ノ最好發部

第 11 表
腸結核例ニ於ケル肺所見

肺 所 見	例 數	%
開放性結核	510	63.04
閉鎖性結核	299	36.96
計	809	

第 12 表
開放性肺結核例ニ於ケル腸結核

腸 結 核	例 數	%
+	510	82.66
-	107	17.34
計	617	

第 13 表
閉鎖性肺結核例ニ於ケル腸結核

腸 結 核	例 數	%
+	299	35.85
-	535	64.15
計	834	

第 14 表
閉鎖性肺結核+腸結核例ノ年齡別區分

年 齡	1-14	15-25	26-50	51以上	計
例 數	87	131	63	18	299
%	29.10	43.81	21.07	6.02	

第 15 表
諸種ノ要約下ニ於ケル腸管系結核

要 約	例 數	腸結核總數 ニ對スル %
A	247	30.53
B	189	23.36
C	61	7.54
D	263	32.51

位ハ小腸ノ下部ナリ. 然ルニ小腸ハ健全ニシテ, 結核性病變ガ大腸ニノミ發見セラル、ガ如キ例

モ然ク稀ナラズ。余ノ統計ニテ61例, 7.54%ヲ示セリ(第15表ノC欄)。

8) 結核性蟲様突起炎。其ノ罹患例數ハ263ニシテ, 罹患率ハ腸結核總數ニ對シ32.51%(第15表ノD欄及ビ第16表), 結核屍總數ニ對シ18.13±1.00%ナリ。第16表ニ示サル如ク, 大

第16表 蟲様突起結核

結核罹患部位	例數	%	腸結核總數ニ對スル%
蟲様突起+小腸+大腸	201	76.43	24.85
蟲様突起+小腸	36	13.69	4.45
蟲様突起+大腸	18	6.84	2.22
蟲様突起	8	3.04	0.99
計	263		32.51

腸, 小腸ト共ニ蟲様突起ヲ胃ス場合最モ多シト雖, 孤立性蟲様突起結核ハ8例, 即チ蟲様突起結核總數ノ3.04%, 腸結核總數ノ0.99%ニテ發見セラレタリ。

考察。第1乃至4項ニ表示セル成績ヨリ腸結核モ亦, 頸部臟器結核ト同ジク, 開放性肺結核ト一定ノ順相關ヲ有スルヲ識ル。且

ツ第12表ヨリ, 其ノ相關度ハ頸部臟器結核ニ於ケルヨリ大ナルカノ如ク思惟セラル。然ルニ第13表ノ成績ハ其ノ逆ヲ示ス。即チ腸結核ニ於テ特ニ大ナル相關ガ成立ストハ看做シ得ズ。

上述ヨリ, 吾人ハ腸結核ノ發生ニ對シ, 含菌喀痰ノ嚥下ニ由ル自家接種ガ重要ナル役割ヲ演ズルヲ認定スルニ吝カラザレド, 又腸結核ハ全ベテ自家接種ニ因ルトナス近來ノ學說ニ幾多ノ反證ノ事實ヲ擧ゲ得(A~E)。

A. 生前齡ク共多量ノ含菌喀痰ヲ喀出セザリシナラント思考セラル、閉鎖性肺結核例ノ實ニ36%ニテ既ニ腸結核ノ併發ヲ見ル。且ツ其ノ3/4ハ肺ニ於ケル結核性病變ノ極メテ輕度ナルモノナリ(第13表)。顯ツテ腸結核例ヨリ觀察センニ, 其ノ37%ハ閉鎖性肺結核ヲ伴ヒ(第11表), 或ハ其ノ31%ハ閉鎖性肺結核ニシテ且ツ頸部臟器ニ結核性病變ヲ缺如セルモノナリ(第15表ノA)。最後者ノ如キハ含菌喀痰喀出ノ機會最モ寡キモノ, 或ハ機會殆ンド無キモノト看做シテ大過ナカラン。他方胃液, 特ニ鹽酸ガ嚥下セラレタル生菌ヲ一程度迄死滅セシムル作用ヲ有スルハ衆知ナリ。以上ヲ綜合シ, 猶且ツ全ベテノ腸結核ハ自家接種ニ因ルトナスハ, 果シテ妥當ナリヤ。

B. 自家接種論者ハ往々, 幼若年者ガ含菌喀痰ヲ屢々嚥下スル故, 腸結核ニ罹患シ易キヲ説ク。然ルニ余ノ成績ニテハ, 閉鎖性肺結核ヲ有スル15歳未満ノ幼若年者ガ特ニ著シキ高率(一般腸結核ニ於ケル比率ノ2倍)ヲ以テ腸結核ニ罹患スル事ガ識ラレタリ(第4項)。此ノ一事ハ, 蓋シ絶對自家接種論ニ對スル一大痛撃タルヲ免カレズ。斯カル腸結核コソ, 結核感染後比較的早期(從ツテ思春期以前)發來スル Generalisationsstadium (Rankeニ從ヘバ第二期或ハ Huebschmannノ Frühgeneralisation)ニ多量ノ結核菌ガ血行ヲ介シテ腸管系ニ到達シ, 病變ヲ惹起セルモノト解セラル可シ。是ニ類似ノ現象ハ吾人ガ結核性腦膜炎ニ於テ熟知セル所ナリ(但シ發生病理ガ兩者共, 完全ニ同一トハ限ラザル可シ)。

C. 稍々強辯ノ嫌ヒ有レド, 開放性肺結核ニ於ケル全ベテノ腸結核ガ自家接種ニ因リ發生スル

ナラバ, 其ノ際含菌喀痰ノ通路タル頸部臟器ニ著シキ高率ニ於テ結核性病變ヲ惹起シ居ル理ナリ。然ルニ余ノ統計ニ於テ, 腸結核例ノ23%, 189例ニテ開放性肺結核ヲ有シ, 然モ頸部臟器結核ヲ伴ハザルモノヲ見ル(第15表ノB)。其ノ開放性肺結核ニテ腸結核ヲ來セル者510例(第12表)ニ對スル比率ハ37%ナリ。以上ノ成績ハ絶對自家接種論ニ些カ不都合ナルモノナリ。

D. 自家接種論ニ於テハ, 腸内容ノ最初滯留スル部, 即チ小腸下部ニテ感染ガ行ハレ, 從ツテ腸結核ハ同部ヲ最好發部位トナスト説述セラル。然ラバ孤立性大腸結核(小腸ニ何等ノ結核性病變無キモノ)ノ如キハ一ノ例外ト看做サル可シ。然ルニ余ハ61例ノ多數ニ於テ斯カル症例ニ遭遇セリ(第15表ノC)。蓋シ例外ト稱スニ困難ナラン。

E. 蟲様突起ハ消化ニ關與セザル部ニシテ, 其ノ内容ノ新陳代謝ハ極メテ緩漫ナリ。從ツテ自家接種ノ機會最モ寡ク, 或ハ殆ンド無キモノト看做サレ得。然ルニ其ノ結核罹患率ハ甚ダ高く, 腸管結核例ノ33%(263例)ニ達セリ(第15表ノD)。且ツ其ノ大部分ハ小腸或ハ大腸ニ於ケル結核性病變ガ淋巴道ニヨリ蟲様突起ニ派及セルモノナリ(第16表)。又如上ノ理ヨリ, 孤立性蟲様突起結核ノ8例ハ血行性轉移ニヨリ胃サレタルモノト解ス可キナリ。

上述ノ諸事實ヨリ, 余ハ絶對自家接種論ヲ排シ, 腸結核ハ少カラザル率ニ於テ血行性感染ニ因リ發生スト思考ス。

總括

- 1) 剖檢總數3504例中, 男子ハ2045例(約60%), 女子ハ1459例(約40%)ナリ。
- 2) 結核屍數, 即チ身體ノ一部ニ何等カノ結核病竈ヲ有セルモノハ1451例ニシテ, 剖檢總數ニ對スル百分率ハ41.41±0.82ナリ。男子ノ結核率(43%)ハ女子ノ結核率(39%)ヨリ稍々大ナリ。
- 3) 結核屍ハ20歳ヲ中心トスル10ケ年間ニ最モ多シ。同様ノ關係ハ開放性肺結核, 頸部臟器結核及ビ腸結核ニテモ成立ス。
- 4) 開放性肺結核, 即チ肺ニ結核性空洞ヲ有スルモノハ結核屍ノ42.52%ニシテ, 其ノ男女別罹患率(以下全ベテ男女別結核屍數ヲ基數トシテ計算)ハ殆ンド差無シ(43及ビ42%)。
- 5) 頸部臟器結核ハ結核屍ノ28.95%ニ發見セラレ, 其ノ女子ニ於ケル罹患率(31%)ハ男子ノ夫レ(27%)ヨリ稍々大ナリ。
- 6) 結核屍數ニ對スル腸結核率ハ55.75%ニシテ, 女子(59%)ニテ男子(54%)ヨリ稍々高率ナリ。
- 7) 閉鎖性肺結核ニシテ腸結核ヲ併發セルモノハ15歳未満ノ幼若年者ニ特ニ著シク高率ナリ(一般腸結核ニ於ケル比率ノ2倍)。
- 8) 孤立性大腸結核及ビ孤立性蟲様突起結核ハ夫レ夫レ61例(腸結核總數ノ8%)及ビ8例

(1%) = テ證明セラレタリ。

9) 頸部臓器結核並ビニ腸結核ノ發生病理ニ關シ、含菌喀痰ニ依ル自家接種ガ重大ナル意義ヲ有スヲ認容スルモ、該疾患ノ發生ヲ擧ゲテ自家接種ニ歸セントスル學說ニ贊シ得ズ。余ハ幾多ノ統計的事實ヲ擧ゲテ絶對自家接種論ヲ反駁シ、併セテ該疾患ガ少カラザル率ニ於テ血行性感染ニ因リ發生スルヲ説ケリ。

稿ヲ終ルニ臨ミ木村先生ノ御指導、御叱正ニ對シ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表ス。

先天性早期徵毒脾ノ病理

(挿入表 4 及ビ挿入圖 2)

東北帝國大學醫學部病理學教室 (指導 木村教授)

學生 長田達郎

Stud. med. Taturô Osada

緒言

先天性徵毒ニ於ケル脾臟ノ研究ハ、肝臟ノ場合ト同ジク、多クノ學者ニヨリ試ミラレ、從ツテ病理組織學上ノ知見モ亦少カラズ。然リト雖、本病ニ於ケル脾臟腫大ノ原因、特有ノ組織學の所見等ニ就テハ見解ノ區々タルモノアリ。余ハ此ノ度木村教授御指導下ニ以上ノ諸點ヲ研究シ、些カ新知見ヲ有スルニ至レリ。

研究材料及ビ方法

研究材料トシテハ、1931 年ヨリ 1936 年迄ノ胎兒約 400 例中ヨリ、*Spirochaeta pallida* ヲ證明シ、且ツ徵毒病變ノ確實ナルモノ 34 例ヲ撰出シ、更ニ非徵毒兒 20 例ヲ對照トセリ。標本ハ先ヅ肉眼的ニ精細ニ觀察シ、次イデ Paraffinschnitte トナシ、鏡檢セリ。各例ニテ吾教室標準法ニ從ヒ *Spirochätenfärbung* ヲ行ヒ、必要ニ應ジテハ、*Bielschowsky* 氏小網纖維染色、*Giemsa*färbung 等ヲ施セリ。

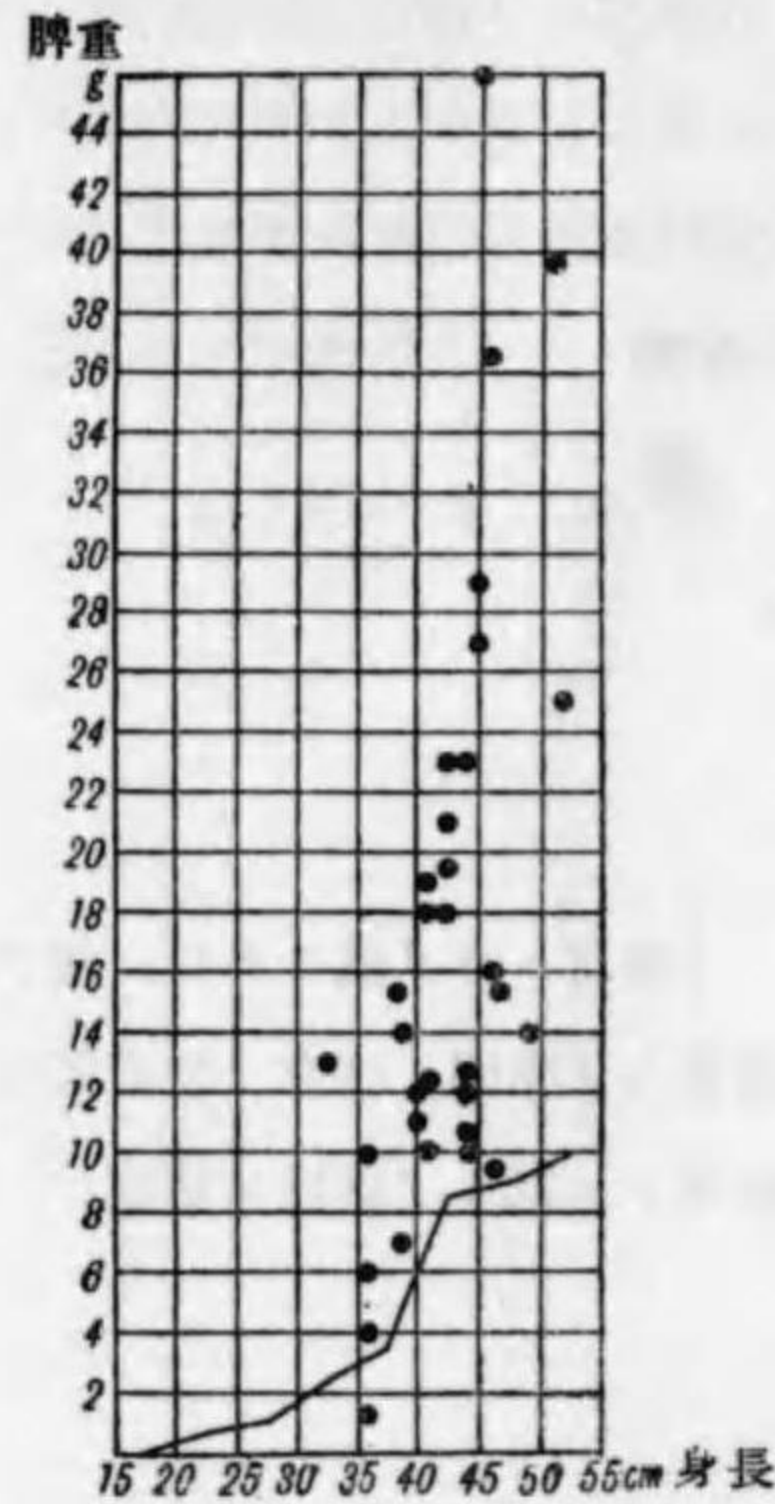
研究成績及ビ考按

肉眼的所見 1) 重量。先天性徵毒ノ際、脾臟ノ腫脹増大スル事ハ、重要所見ノ一トシテ、古來注意セラレシ所ナリ。サレド其ノ頻度並ビニ程度ニ關シテノ見解ハ猶區々タリ。Heubner ハ本病ノ最モ屢々且ツ通常ナル病理解剖學的所見トシテ、骨軟骨炎及ビ脾腫ヲ記載シ、Birch-Hirschfeld ハ本病胎兒 142 例中 97.8% ノ骨軟骨炎及ビ脾腫ヲ證明セル事ヲ報告セリ。Hecker モ亦全檢索例ニテ脾臟重量ノ増加ヲ見タリト報ジ、又 Lubarsch モ 332 例中 88% ニテ脾腫ヲ認メタリ。然ルニ Casteus ハ 791 例中 384 例ニ脾腫ヲ證明セルノミナリト。而シテ脾腫ノ平均重量ハ一般ニ非徵毒性胎兒ニ於ケル平均脾重ノ約 5 乃至 6 倍ナリト云ハル。Lubarsch ハ脾腫ノ極限ヲ 55 乃至 60 g トセルニ對シ、Ziegler ハ 100 g ヲ主張シ、且ツ平均重量 22 g ヲ以テ先天性徵毒性脾腫ノ標準トセリ。

却説、第 1 圖ニ示セル如ク、余ノ徵毒脾 33 例中 32 例 (檢索例 34 中、1 例ハ記録喪失)、即チ 97

% ハ栗田學士ガ約 800 例ニ就キ計測セル正常脾臟ノ平均重量曲線ノ上方ニ位シ、唯 1 例(研究番

第 1 圖 微毒性脾臟ノ重量



下方ノ曲線ハ正常脾ノ平均重量 (栗田學士ニ依ル)

性脾周圍炎或ハ他臟器トノ癒着ヲ證明シ、Lubarsch モ亦材料ノ約半數(46.4%)ニ於テ被膜肥厚ヲ認メ、且ツ 1 例ニテ被膜ニ護膜腫様結節ヲ發見セリト記載ス。Wätzen ハ本病脾 25 例ニ於テ被膜直下ニ Spirochaeta pallida ヲ發見シ、其ノ中 8 例ニテ肥厚セル被膜組織中ニ、又 5 例ニテ被膜表面ノ附着物中ニ是ヲ證明シ、該脾周圍炎ハ本病原體ト直接關係アルヲ確認セリ。Schneider ハ本病初生兒ニ 7.7%、乳兒ニ 37% ノ脾周圍炎ヲ認メ、1 例ニ於テ肥厚セル被膜中ニ Spirochaeta pallida ヲ證明セリ、且ツ氏ハ Huebschmann ガ脾周圍炎ヲ續發性感染ニヨルモノトセルニ對シ反對セリ。

余ハ 33 例中(總檢索例ハ 34 ナレド、中 1 例ハ死後變化ノ爲メ染色不良ナリ、故ニ是ヲ除外ス、以下同斷) 6 例ニテ被膜肥厚ヲ認メ、其ノ百分率ハ 18% ニシテ、先人ノ成績ニ比スレバ低率ナリ。肥厚セル被膜組織内又ハ其ノ周圍ニ細胞浸潤ヲ認メズ、又 6 例中 2 例ニテ被膜下ニ Spirochaeta pallida ヲ證明セリ。被膜ノ肥厚ハ必ズシモ被膜表面ニ於ケル纖維素析出ト平行セズ、被膜肥厚例ニシテ纖維素析出ヲ來セルハ唯 2 例ニ過ギズ、他ニ纖維素析出アルモノ 8 例存スルモ、被膜肥厚ハ認メルヲ得ズ。是等ノ例ニテモ、被膜ニ細胞浸潤無シ。要スルニ脾周圍炎ハ必ズシモ頻回ニ發來ストハ限ラザレド、先天性微毒ノ重要所見ノ一ナルハ勿論ニシテ、其ノ成因ニ關シテハ、本病病原體及ビ其ノ毒素ノ直接間接ノ作用ノ結果タル事ハ言フ俟タズ。

號 5) ノミガ正常値以下ナリ。其ノ最大ナルハ 45 g (研究番號 26) ニ達シ、平均重量ハ 17.5 g ヲ算ス。周知ノ如ク、脾ハ諸種ノ原因(例ヘバ細菌感染、鬱血等)ニ因リ敏感ニ其ノ容積並ビニ重量ヲ増加スル臟器ナレド、余ハ上述ヨリ尠ク共胎兒及ビ初生兒ニテ著明ナル脾腫(或ハ 17.5 g 以上ノ)ヲ見レバ、先天性早期微毒ヲ疑フ可キナルヲ信ズ。

2) 硬度、表面及ビ剖面。本病ノ際、硬度ヲ増スモノ可成リ多數ナリ。色澤ハ一般ニ紫藍色ヲ呈シ、表面ハ概ネ滑澤ニシテ、皺襞ヲナセルモノ少シ。猶少數例ニテ被膜ノ纖維性肥厚ヲ認メ、或ハ遠藤博士ノ所謂先天性微毒性腹膜炎ノ部分現象トシテ、表面ニ纖維素ノ析出ヲ見ルコト稀ナラズ。剖面ハ總ジテ暗赤色ヲ呈シ、淋巴濾胞ヲ著明ニ認メタルモノ比較的少ク、不明瞭ノモノ過半數ヲ占ム。梁材ハ濾胞ニ反シ稍々明瞭ナルモノ多ク、且ツ屢々膠様白色ニ肥厚セリ。

顯微鏡的所見(第 1~4 表參照) 1) 被膜。本病ニ於ケル脾臟被膜ノ炎性肥厚ハ諸學者ニヨリ注意セラレシ所見ノ一ニシテ、Hasland ハ先天性微毒脾 58 例中 24 例ニ於テ纖維

第 1 表 先天性微毒脾ノ組織學的所見(其ノ 1)

研究番號	剖檢番號	性別	妊娠月	身長 cm	被膜		梁材ノ肥厚	鬱血		濾胞發育不全	髓增生	竇被細胞		小網纖維增生	造血像					
					肥厚	纖維素析出		竇擴張	充血			膨大	作用		髓內	梁材內	結節形成	造血細胞	巨核細胞	Plasmazellen
1	18'34	女	8	33	-	+	-	++	++	+	++	+	++	++	+	++	+	++	+	-
2	33'33	女	7	36	+	+	+	+	-	+	+	-	+	+	++	-	+	+	-	+
3	4'33	男	7	36																
4	57'32	男	6	36	+	-	+	+	-	+++	+	-	+	+	+++	+	+++	++	+	+
5	49'35	男	7	36	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-	
6	28'36	女	8	37	-	-	+	+	+	+	++	-	+++	++	+++	-	+++	+++	-	+
7	83'36	女	7	38	-	-	+	-	+	+	+++	+	+++	+	+++	++	+++	+++	-	+
8	45'33	男	9	38	+	-	+	+	-	++	+	-	+	+	+	-	+	+	-	+
9	2'35	女	8	40	-	-	-	+	-	+	+	-	++	+	+++	+	+++	++	-	++
10	3'35	男	8	40	-	+	-	+	-	++	+	+	+	+	+	-	+	+	-	+
11	75'36	女	8	41	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	++	+	++	+	+	++
12	76'36	男	8	41	-	-	-	++	+	+	+	++	+	+	+	-	+	+	-	+
13	34'32	女	10	41.5	-	-	++	+	-	+++	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-
14	44'36	男	9	42	-	+	-	++	++	+	++	+	++	++	+	+++	++	++	-	+
15	71'36	女	9	42	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-	
16	39'33	女	9	43	-	-	++	+	+	++	++	-	+	++	++	-	++	+	-	-
17	37'31	女	9	43	-	+	+	+	-	+++	++	-	+	++	+	-	+	+	-	-
18	60'31	女	10	43	+	-	+	+	-	++	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+
19	1'35	男	10	44	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+++	+	+++	++	+	+
20	8'31	女	7	44	-	+	+	-	-	+	+	-	+	+	+++	+	+++	++	-	+
21	13'31	女	9	44	-	-	+	+	-	+	+++	+	+	+++	+++	+	+++	+++	+	++
22	7'32	女	9	44	-	-	+	+	-	++	+	-	+	++	++	-	++	++	+	+
23	33'36	男	10	44	-	-	+	+	-	+++	+	-	+	+	-	+	+	-	+	
24	7'31	女	9	45	-	+	+	+	-	+	++	-	+	++	++	+	++	++	+	+
25	18'36	男	9	45	-	-	++	++	++	+	++	-	+	++	++	+	++	++	+	+
26	21'34	女	10	45	-	+	-	++	+	+++	+++	-	+	+	+++	+	+++	+++	-	++
27	23'36	女	10	46	-	-	+	++	++	+++	++	+	+	++	+++	+	+++	+++	+	+

第1表 先天性微毒脾ノ組織學の所見(其ノ2)

研究 番 號	剖 檢 番 號	性 別	妊 娠 月	身 長 cm	被 膜		梁 材 ノ 肥 厚	鬱 血 充 滿	血 管 充 滿	濾 胞 發 育 不 全	髓 增 生	濾 胞 被 細 胞		小 網 織 維 增 生	造 血 像					
					肥 厚	纖 維 素 析 出						膨 大	喰 用		髓 內	梁 材 內	結 節 形 成	造 血 性 細 胞	巨 核 細 胞	巨 大 核 細 胞
28	56'36	男	10	47	-	-	-	+	+	+	+	+	++	+	+	-	+	+	++	+
29	39'34	男	9	47	-	+	-	+	++	++	+	+	+	+	++	+	++	++	-	+
30	11'36	女	10	47.5	-	-	++	++	++	+	+	-	+	+	++	+	++	++	++	+
31	7'36	女	10	49	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	++	+	++	++	-	-
32	5'35	女	10	49.5	+	-	+	+	-	+++	+	-	+	+	+	-	+	+	-	-
33	29'34	男	9	51	+	+	-	+	-	++	++	-	+	++	+	-	+	+	-	-
34	36'35	男	10	51.5	-	-	+	+	-	+++	++	-	+	+	+	-	+	+	-	+

第2表 非微毒胎兒脾ノ組織學の所見(其ノ1)

研究 番 號	剖 檢 番 號	性 別	妊 娠 月	身 長 cm	被 膜		梁 材 ノ 肥 厚	鬱 血 充 滿	血 管 充 滿	濾 胞 發 育 不 全	髓 增 生	濾 胞 被 細 胞		小 網 織 維 增 生	造 血 像					
					肥 厚	纖 維 素 析 出						膨 大	喰 用		髓 內	梁 材 內	結 節 形 成	造 血 性 細 胞	巨 核 細 胞	巨 大 核 細 胞
35	16'36	男	6	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	15'35	男	6	28	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37	29'35	女	6	31	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
38	17'33	男	7	32.5	-	+	+	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+
39	39'35	女	7	37	-	-	-	+	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	-
40	40'36	男	7	40	-	-	-	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+
41	24'34	女	10	42	-	-	-	-	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	+	-
42	1'36	女	10	43	-	-	-	-	-	-	+	-	-	+	-	-	+	-	+	+
43	57'33	男	10	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
44	12'31	女	10	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
45	41'33	男	10	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
46	25'36	男	10	47	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-
47	30'32	女	10	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
48	5'35	女	10	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
49	14'32	女	10	50.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第2表 非微毒胎兒脾ノ組織學の所見(其ノ2)

研究 番 號	剖 檢 番 號	性 別	妊 娠 月	身 長 cm	被 膜		梁 材 ノ 肥 厚	鬱 血 充 滿	濾 胞 發 育 不 全	髓 增 生	濾 胞 被 細 胞		小 網 織 維 增 生	造 血 像							
					肥 厚	纖 維 素 析 出					膨 大	喰 用		髓 內	梁 材 內	結 節 形 成	造 血 性 細 胞	巨 核 細 胞	巨 大 核 細 胞		
50	40'35	男	10	51.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	
51	58'32	男	9	52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
52	19'36	男	10	52	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
53	19'35	女	10	57	-	-	+	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
54	19'34	女	10	57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3表 先天性微毒脾ノ鏡下所見綜括

材 料 別	所 見 程 度	被 膜		梁 材 ノ 肥 厚	鬱 血 充 滿	濾 胞 發 育 不 全	髓 增 生	濾 胞 被 細 胞		小 網 織 維 增 生	造 血 像						
		肥 厚	纖 維 素 析 出					膨 大	喰 用		髓 內	梁 材 內	結 節 形 成	造 血 性 細 胞	巨 核 細 胞	巨 大 核 細 胞	
微 毒 例	-	27	23	12	2	16	0	0	17	0	0	0	16	0	0	21	9
	+	6	10	17	24	11	19	19	15	27	22	14	16	14	16	10	20
	++	0	0	4	7	6	6	11	1	4	10	10	1	10	13	2	4
	+++	0	0	0	0	0	8	3	0	2	1	9	0	9	4	0	0
	陽性例	6	10	21	31	17	33	33	16	33	33	33	17	33	33	12	24
對 照	%	18	30	64	94	52	100	100	48	100	100	100	52	100	100	36	73
對 照	陽性例	0	1	3	2	4	0	2	3	4	1	0	0	1	0	5	4
	%	0	5	15	10	20	0	10	15	20	5	0	0	5	0	25	20

2) 梁 材. Lubarsch, 牧野, 鹽見等ハ梁材ノ肥厚ヲ報告シ, 特ニ Lubarsch ハ是ガ本病脾腫
ノ一因タルヲ強調ス. 余モ亦梁材ノ肥厚ヲ 21 例, 64% ニテ證明セリ, 但シ此ノ中ニハ梁材ガ多
少水腫様ニ肥厚セル例モ包含セラル. 肥厚セル梁材内, 或ハ特ニ血管周圍ニ若キ結締織ガ増生シ,
中ニ諸種ノ白血球, 組織球等ガ發現ス. 是等ハ好ミテ血管周圍ニ蠟集スル傾向ヲ有シ, 特ニ多量
ノ細胞浸潤ヲ來セル 局所ハ恰カモ粟粒護膜腫ニ類セル像ヲ呈ス. 叙上ノ所見ハ既ニ牧野, 鹽見,
Schneider 等ノ報告セル所ニシテ, 特ニ最後者ハ梁材内細胞集團ヲ目シ, 増生性ヨリハ, 寧ロ浸
潤性ノモノナリト説述セリ. サレド余ハ, 該細胞ノ配列狀況, 新生結締織, 特ニ血管ニ對スル態
度等ヨリ, 是ヲ増生性ト看做スノ妥當ナルヲ信ズ. 精細ニ檢索セバ, 該細胞群中ニ淋巴球アリ,

分葉核白血球アリ、更ニ其ノ幼若形、即チ骨髓細胞並ビニ骨髓母細胞ノ出現セル事尠カラズ、又時ニ Normoblasten ヲ認ム (Giemsa-Präparat)、即チ斯カル 局所ニテハ造血ガ營爲セラレ居ルト看做サル可ク、余ハ 17 例、52%ニテ然ルヲ見タリ。造血細胞ハ概ネ孤立性ニ他細胞間等ニ介在シ、脾髓ニテ遭遇スルガ如キ結節狀造血竈ヲ形成セズ。

3) 淋巴濾胞. Schneider ノ述ベシ如ク、余モ亦微毒脾ノ全例ニテ淋巴濾胞ノ發育不全ヲ證明セリ。勿論其ノ程度ニ種々アリ、高度ナル際ハ濾胞ハ極メテ小、其ノ數モ減少シ、發見シ難シ。是ニ反シ輕度ナルモノハ正常濾胞トノ鑑別稍々困難ナリ。孰レニセヨ、余ノ全例ニテ濾胞ノ發育不全、換言スレバ Lymphopoese ノ阻害ガ認メラレ、是ハ微毒性病機ノ旺盛ナル時期ニ特ニ著シク、或ハ尠クモ Granulopoese ノ旺盛ナル爲メニ抑制セラレタル状態ニ在リ、然シ又微毒兒ニテ長ク生命ヲ保チ、微毒ヲ克服シ、或ハ輕微ナル微毒ニテ、Myelopoese ガ比較的旺盛ナラザルガ如キ例ニアリテハ、時ニ Lymphopoese ガ比較的強ク現ハル、場合アリ。以上ノ成績ハ Lubarsch ガ本病脾ノ淋巴濾胞ガ増生ヲ營ミ、脾腫ノ重要原因ヲ爲ストセル成績ト全然離反ス。但シ此ハ或ハ材料ノ相違ニモ歸因スベキ所アラン。

鹽見ハ本病脾ノ淋巴濾胞ニ胚芽中樞ヲ有セザルモノ多ク、時トシテ認ムルモ、小網細胞ノ増殖ヲ來シ、或ハ硝子様變性ニ陥ルト報告ス。所謂胚芽中樞ハ余ノ例ニテモ概ネ之ヲ缺キ、唯 2 例ニテ認メラレタルノミ、主トシテ淋巴母細胞及ビ所謂上皮様細胞ヨリ成レリ。元來所謂胚芽中樞ノ正常構造乃至機能ニ關シ、未ダ識者ノ見解ガ合致スルニ至ラズ、或ハ淋巴球ノ再生部位トナシ (Flemming ノ胚芽中樞説)、或ハ諸種ノ Schädlichkeiten ニ對スル反應部位ト看做ス (Hellmann ノ反應中樞説)、又最近小野教授及ビ其ノ門下ハ淋巴濾注中樞説ヲ提唱ス。事情斯クノ如キガ故、余ハ深ク本問題ニ論及スルヲ避ケ、茲ニ單ナル事實ノミヲ記スニ止メン。

濾胞中心動脈ニ於テハ、Baumgarten ハ granulierende Meso- und Endoarteritis ヲ報告シ、Hecker ハ動脈外層ニ於ケル細胞浸潤ヲ報ゼリ。後者ニ對シ、Lubarsch ハ其ハ炎性細胞浸潤ニ非ズシテ、濾胞ニテ新生セル淋巴球ガ中心動脈外層ニ進入セルモノナリト反駁セリ。Baumgarten、Thomsen 等ハ Syphilispirochäten ニ因ル直接變化トシテ血管壁ニ發現スル病變ハ増殖ヨリ浸潤ノ方多キヲ述べ、但シ中心動脈壁ニ淋巴球ノ浸潤セルハ炎性ニ非ザル可シト稱ス。余ハ上述ノ如キ中心動脈ノ高度ナル病變ニ遭遇セズ、唯 1 例ニテ動脈壁ノ輕度ナル肥厚ヲ見タルノミナリ。因ミニ同例ハ所謂胚芽中樞ヲ有セシモノナリ。

4) 脾 髓. 脾髓ハ多少共鬱血ヲ示シ、靜脈竇ノ擴張ヲ來セルハ 94%ニモ及ブ。更ニ重要ナルハ Orth、Kaufmann、Thomsen 等ノ記載セル髓増殖 (Pulphyperplasie) ニシテ、余ノ全例ニテ確認セラレタリ。即チ靜脈竇ガ多數新生シ、同時ニ髓細胞ノ著明ニ増殖セル所見ナリ。小網組織モ増殖シ、特ニ其ノ纖維ハ新生セル靜脈竇周圍或ハ實質全般ニ強ク増殖シ、且ツ Nikolajeff

ノ云ヘル如ク、結締織化セルニ非ズヤト思ハル、モノ數例アリキ。又竇内被細胞ハ屢々 (約半数、即チ 16 例) 膨大シ、全例ニテ多少ニ拘ラズ喰作用ヲ示セリ。

脾髓ニ於ケル最モ重要ナル病變ハ造血竈ノ胎殘或ハ其ノ機能昂進ナリ。脾ガ特ニ胎生前半期ニ造血作用ヲ營爲スルハ既ニ萬人ノ承認スル所ナリ。余ガ正常脾ニ於ケル造血狀況ヲ識ラント欲シ、前記 20 例ノ對照以外ニ、更ニ 100 例ノ正常脾ヲ蒐集シ、是ニ諸種ノ染色並ビニ Oxydasereaktion ヲ併用シ、獲タル成績ハ第 4 表ノ如シ。即チ正常脾ニテ造血作用ノ最盛期ハ身長 21~30 cm ノ

第 4 表 脾内造血機能ノ消長

身長階級 cm	15—20	21—25	26—30	31—35	36—40	41—45	46—50	51—55	56—60	計
+++					(3)	(2)				0 (5)
++				(1)	(1)	(5)	(3)			0 (10)
+	1	5	6	1	(4)	(9)	(3)	(2)		14 (18)
±		5	9	9	2	1	2	1		29 (0)
-		2	5	10	16	17	18	6	3	77 (0)
計	1	12	20	20 (1)	18 (8)	19 (16)	20 (6)	7 (2)	3	120 (33)

全ベテ例數ヲ示ス、括弧内ハ先天性微毒脾

時代ニシテ、是 W. Fischer 等ノ説述セル所ニ略々合致ス。猶此ノ時期ニ陰性 7 例ヲ算スレド、是等ニテモ Myelopoese ガ全然缺如セルニ非ズ、極メテ輕微ニシテ發見シ難キカ、或ハ高度ノ Lymphopoese ニ依リ陰蔽セラレタルガ如キモノナリ。正常脾ニ反シ、微毒脾 (表ニテ括弧内) ニ於ケル造血能ハ 41~45 cm ヲ頂點トシテ最盛期ヲ示シ、即チ 15 乃至 20 cm ノ身長發育ニ相當スル遲延ヲ來ス (造血竈ノ胎殘)。且ツ其ノ程度モ亦正常ヨリ遙カニ高度ナリ (造血機能亢進)。

組織學的ニ造血像ハ主トシテ Myelopoese ニシテ、骨髓細胞或ハ骨髓母細胞ガ發現ス。是等ハ或ハ孤立散在スレド、又屢々多數集リ、結節狀病竈ヲ成ス (表ニテ結節形成)。更ニ強靡大下ニ精査スレバ、前記細胞間ニ Normoblasten 等ノ混在セルヲ發見シ得、然シ erythropoetische Elemente ノミガ結節狀ニ集簇スルヲ見ル事無シ。恩師木村教授ノ命名セラレタル造血性巨態細胞 (hämatopoetische Riesenzellen) ハ全例ニテ發現シ、概ネ高度ノ造血機能ヲ發揮セル部ニ認メラレ、又巨大核細胞 (Megakaryozyten) ハ 12 例、36%ニ證明セラレタリ。

多クノ學者ハ微毒脾ニ於ケル Plasmazellen、或ハ其ノ増加ヲ重要視シ、例ヘバ Lubarsch ハ造血組織、Hämosiderinablagerung 及ビ Plasmazellen ノ出現ヲ本病脾髓ノ重要所見ト看做ス。余ノ成績ニテハ過半数 (73%, 24 例) ニテ Plasmazellen ヲ證明セルモ、本細胞ハ先天性微毒脾トハ限ラズ、對照例ニテモ發見セラレタリ (20 例中 4 例)。蓋シ其ノ發見ハ微毒脾ノ診斷上絕對的

ノ價値無キハ明カナレド、其ノ多量ナル場合、微毒ノ疑ヒ濃厚ナリ。

5) 脾腫ノ原因。既述ノ如ク、先天性微毒ニ際シ殆ンド毎常多少共脾腫ヲ來ス、此ハ周知ノ事實ナリ。サレド其ノ原因ハ未ダ闡明セラレズ、猶論議ノ存スル所ナリ。Schneider ハ脾腫大ノ原因ハ Syphilisspirochäten ノ直接作用ニ因ルヨリモ、間接ニ種々ノ因子ガ共同シテ作用スルニ在リトナス。Lubarsch ハ脾腫ヲ次ギノ3型ニ分テリ。1) 脾腫大及ビ硬化ハ本態的ニ鬱血ニ因リ、淋巴性成分ハ増加スルモ、支持組織ノ増殖ナシ。2) 梁材及ビ小網纖維ノ肥厚ヲ伴フモ、炎衝性ノ變化ナク、特ニ oxydasehaltige Zellen ノ群集ナシ。3) 淋巴濾胞ノ増殖、増大ガ主トナリテ腫大ヲ來ス。又 Thomsen ハ鬱血及ビ髓増殖ヲ以テ脾腫大ノ原因トナス。

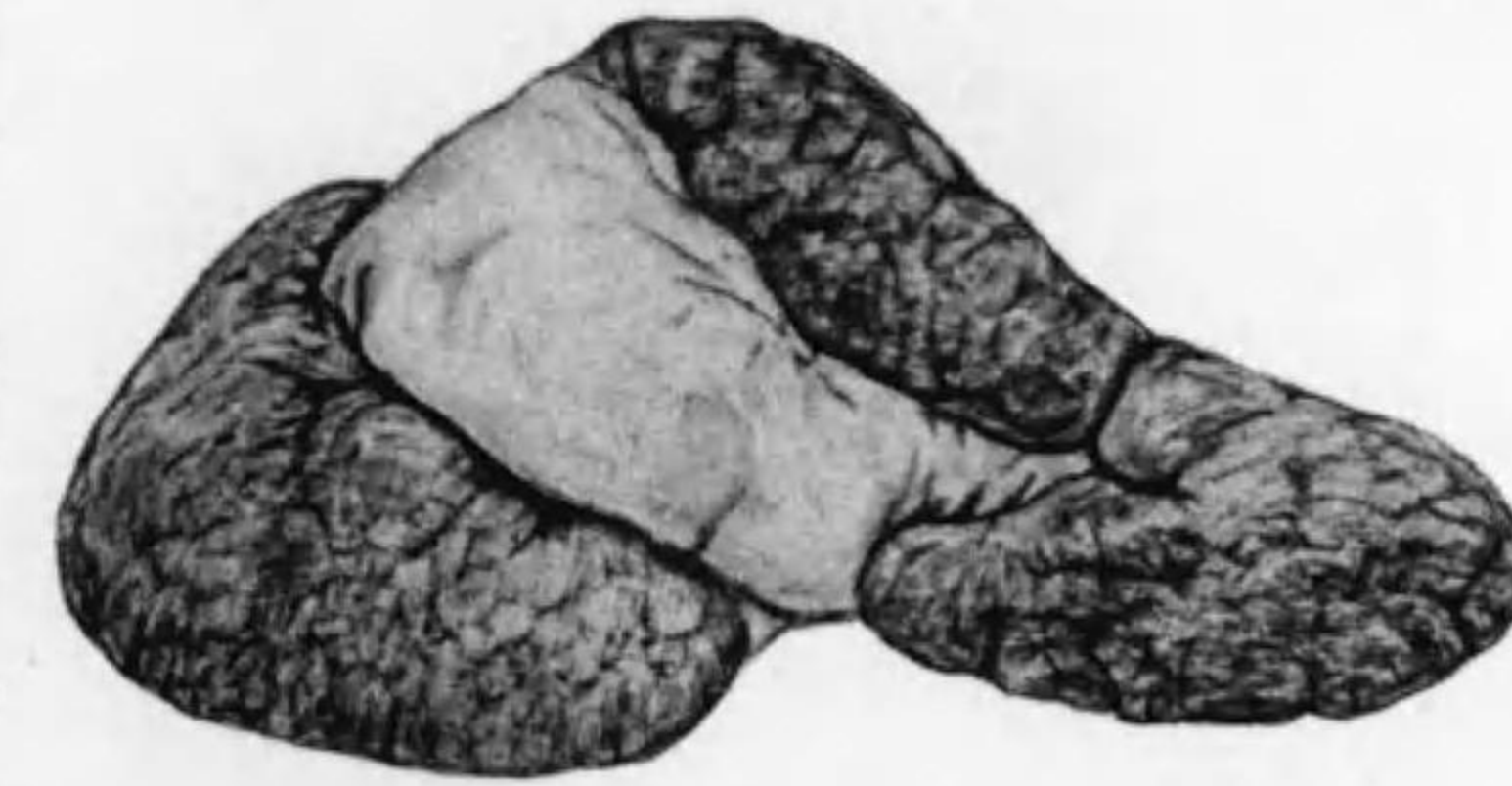
余ノ成績ハ本質的ニ Lubarsch ノ見解ニ相反スル點アリ。即チ彼ニテハ Lymphopoese ガ脾腫大ノ重要原因ト看做サルハ、我ニテハ常ニ淋巴濾胞ノ發育不全ヲ證シ、尠ク共 Lymphopoese ノ亢進ハ未ダ1回モ經驗セズ。又氏ハ oxydasehaltige Zellen ノ増加ヲ認メザルモ、余ノ例ニテハ常ニ造血機能ノ亢進ヲ伴ヒ、該細胞ガ著明ニ増加セリ(余ノ他ノ論文參照)。余ノ成績ハ寧ロ Thomsen ノ夫レニ近似シ、余ハ脾腫ノ原因ハ主トシテ脾髓ニ於ケル病機ニ求ム可キヲ信ズ、即チ1) 鬱血、即チ靜脈竇ノ擴張、2) 髓増殖、特ニ靜脈竇ノ増殖、竇内被細胞ノ膨大、小網組織ノ増殖及ビ其ノ纖維ノ新生並ビニ肥厚等及ビ3) 造血組織ノ胎殘或ハ其ノ増加ノ3者ナリ。猶ニ以外ニ被膜及ビ梁材ノ肥厚ガ個々ノ例ニアリテハ與リテカアルモノト思考スレド、此ハ微毒脾ニ必發ノ病變ニハ非ザルナリ。

6) 肉芽腫及ビ護謨腫。脾ニ於ケル肉芽腫乃至護謨腫ハ文獻ニモ稀ニシテ、Schneider ハ之ヲ微毒病原體ガ多量ニ存在セザル事ニ歸ス。猶氏自身ハ粟粒大壞死ヲ乳兒及ビ死産兒ニ各1回見タリト云フ。Lubarsch モ粟粒大壞死ヲ記述シ、Thomsen ハ粟粒大膿瘍及ビ粟粒護謨腫ヲ記述セルモ、Schneider ハ後者ヲ濾胞様増生ナラントセリ。眞性護謨腫ハ更ニ稀有ニシテ、古來多クハ單例報告トサル。Lubarsch ガ記述セル2例ノ如キモ、成人護謨腫、或ハ他臟器ニ於ケル先天護謨腫ト甚ダ趣ヲ異ニセリ。猶脾ノ先天護謨腫ハ動脈内膜炎ニ因リテ生ゼル梗塞ト混同サレ易シ(Kimla, Lubarsch, Schneider)。

肉芽腫及ビ護謨腫ノ別ハ、前者ハ中胚葉性成分或ハ mesenchymale Elemente ヨリ成ル肉芽組織ガ高度ニ増殖シ、是ニ護謨腫性壞死ノ伴ハザルモノ、後者ハ周知ノ如ク中央ニ壞死在リ、周邊部ニ肉芽増殖ヲ來セルモノナリ。成人ノ獲得微毒ニテハ典型的ノ肉芽腫ニ遭遇セズ、僅カニ消化管系統ニテ其ノ亞型ニ接スルノミ。是ニ反シ、胎兒微毒ニテハ種々ノ臟器ニテ稀ナラズ、寧ロ眞性護謨腫ヨリ多シ。又胎兒ニ於ケル護謨腫性變化ハ獲得微毒ノ夫レト大ニ異ナリ、概ニ壞死ノミ顯現シ、肉芽増殖ハ僅微ナリ、且ツ壞死ハ多數、散在性ニ發來ス。斯クノ如ク先天微毒及ビ獲得微毒ノ兩者ニ於ケル病變像ニ顯著ナル差違アルハ、一部ハ Syphilisspirochäten ノ多寡、特ニ實

質性臟器内ニ於ケル Gedeihen ノ如何ト關係アルナランモ、又大ニ實質及ビ間質(胎兒ニテハ Mesenchym)ノ反應相(Reaktionslage)ノ如何ニ基因セルナル可シ、特ニ胎兒ノ mesenchymale Elemente ハ Spirochätentoxinニ敏感ニシテ、容易ニ反應性増殖ニ陥リ、其ノ極度ニ進行セルモノハ肉芽腫ニ迄發展ス。

余ハ上記ノ如キ肉芽腫及ビ護謨腫ヲ各1例經驗セリ。肉芽腫例(研究番號5)ニテハ第2圖ニ示セルガ如キ表面ノ帶狀陷沒ニ一致シ、被膜ガ著明ニ肥厚シ、同部ヨリ紡錘狀細胞ヨリ成ル肉芽組織ガ内部ニ放射狀ニ侵入セリ。血管新生高度ナラズ、又壞死ヲ缺ク。護謨腫例(研究番號14)ハ鏡下ニテ始メテ發見セラル、ガ如キ小ナル壞死竈ガ卒然トシテ脾髓ニ2個發見セルモノニシテ、周圍ニ極メテ少許ノ肉芽組織ガ存ス。



第2圖 脾肉芽腫
研究番號 5, F Nr. 49, 1935, 7 月, 男

結 論

- 1) 先天性微毒胎兒ハ殆ンド全ベテ脾臟ノ腫大ヲ來ス(97%)。故ニ胎兒或ハ初生兒ニテ著明ナル脾腫ヲ見バ、先ヅ微毒ヲ疑フ可キナリ。
- 2) 先天性微毒胎兒ノ脾臟ニ於ケル組織學的病變ハ極メテ複雑、多岐ナリ。サレド其ノ主要病機ハ脾髓ニ在リ。即チa) 鬱血乃至靜脈竇ノ擴張(94%)、b) 髓増殖(100%)、特ニ靜脈竇ノ増殖、竇内被細胞ノ膨大、小網組織及ビ小網纖維ノ新生並ビニ肥厚及ビc) 造血組織ノ胎殘或ハ其ノ増加ノ3者ニシテ、造血竈ニテハ主トシテ Myelopoese ガ營爲セラレ、是ニ Normoblasten ヲ混ジ、所謂造血性巨態細胞モ亦毎常確認セラル。以上脾髓ニ於ケル病機ハ全ベテ脾腫ノ原因タリ。
- 3) 淋巴濾胞ハ發育不全ニ陥リ、即チ Lymphopoese ハ阻害セラル。概ネ所謂胚芽中樞ヲ缺キ、唯2例ニテ是ヲ認メタルノミ。
- 4) 梁材ハ過半数(64%)ニテ肥厚ヲ示シ、此處ニモ屢々造血像ガ發現ス(52%)。
- 5) 稍々稀ニ被膜ノ肥厚(18%)及ビ其ノ表面ニ於ケル纖維素ノ析出(30%)ヲ見得。
- 6) 以上ノ外、余ハ肉芽腫及ビ護謨腫ヲ各1例經驗セリ。前者ハ mesenchymale Elemente ガ Spirochätentoxinニ反應シテ高度ノ肉芽増殖ヲ來セルモノニシテ、壞死ヲ伴ハズ。後者ハ脾髓内ニ卒然トシテ小壞死竈ガ發見シ、是ニ僅微ナル肉芽増殖ヲ伴ヘルモノナリ。

稿ヲ了ヘルニ當リ、恩師木村教授及ビ増田桓一博士ノ御指導並ビニ御叱正ニ深謝シ奉ル。

主要文献

- 1) Aschoff, L., Pathologische Anatomie, Bd. 2, 8. Aufl., 1936.
- 2) Derselbe, Verhdlg. d. dtsh. pathol. Gesellsch., 6. Tag., 1903, S. 205.
- 3) v. Baumgarten, Virchows Arch., Bd. 97, 1884, S. 1.
- 4) Birch-Hirschfeld, Arch. f. Heilk., Jg. 16, 1875, S. 16.
- 5) Lubarsch, O., Handb. d. speziell. pathol. Anat. u. Histol. v. Henke u. Lubarsch, Bd. 1, Tl. 2, 1927, S. 373.
- 6) Masuda, K., Transact. Soc. Pathol. Japon., Lib. 27, 1937, P. 611.
- 7) Schneider, Verhdlg. d. dtsh. pathol. Gesellsch., 23. Tag., 1928, S. 7.
- 8) Thomsen, O., Pathologisch-anatomische Veränderungen über die kongenitale Syphilis bei dem Fötus und dem neugeborenen Kind, 1928.
- 9) 木村男也, 皮膚科泌尿器科雑誌, 第42巻, 昭和12年, 213頁.

胎兒ノ肝及脾ニ於ケル Oxydasereaktion

(挿入表 3 及挿入圖 2)

東北帝國大學醫學部病理學教室 (指導 木村教授)

學生 長 田 達 郎

Stud. med. Taturô Osada

緒 論

胎生前半期ニ於テ肝ノ主要ナル造血臓器ナルハ、Neumann (1874) 以來一般ニ知ラレタル所ナリ。同様ニ脾モ亦造血機能ヲ有セ共、是ニ關シテ明細ナル記述寡シ。他方先天性早期梅毒胎兒ノ肝、脾等ニ極メテ頻回ニ造血竈ヲ發見スルハ周知ノ如シ。サレド斯カル造血組織ノ出現ノ意義ニ就テハ今日猶論議ノ存スル所ニシテ、或ハ發育不全ノ結果、本來ナレバ退化消失ス可キ造血組織ガ永ク胎殘セルモノト思考シ、或ハ造血機能ノ亢進ト看做ス。

故ニ余ハ上記ノ問題解決ノ一助トシテ、肝及脾ニテ慎重ニ Oxydasereaktion ヲ施行シ、1) 正常ノ胎内生活時 (非梅毒胎兒) ニ於ケル oxydasepositive Zellen ノ形成、即チ顆粒性細胞造成 (Granulopoese) ノ消長ヲ追及シ、2) 是ト先天性早期梅毒兒ニ於ケル顆粒性細胞造成トノ比較ヲ試ミタリ。

實驗材料及ビ實驗方法

實驗材料ハ 1933 年ヨリ 1936 年迄ニ剖檢セラレシ胎兒ニシテ、肝 168 例及脾 160 例ナリ。其ノ詳細ハ第 1 表ニ示セル如ク、特ニ梅毒兒ノ決定ニ當リテハ、全身ノ各臓器ヲ諸種ノ染色下ニ精査シ(増田、

第 1 表 實驗材料

身長階級 cm	16—20	21—25	26—30	31—35	36—40	41—45	46—50	51—55	計	
肝	非梅毒性		16	28	29	28	19	21	9	150
	梅毒性				1	5	5	5	2	18
脾	非梅毒性	2	15	25	26	26	18	21	8	141
	梅毒性				1	5	5	5	3	19

笠原、栗田、長田)、鍍銀法ニ依リ Spirochaeta pallida ヲ證明セルモノノミヲ梅毒兒ト認定シ、普通染色標本ニテハ梅毒ノ疑ヒ有ルモ、鍍銀法成績ノ陰性ナルモノハ全ベテ檢索例ヨリ除外シ、他ク迄モ檢査成績ノ

正確ヲ期セリ。非微毒兒ト雖、概ネ母體ニ何等カノ疾患アル爲メ人工流産ヲ施セルモノカ、或ハ種々ノ原因ニ因リ早流産ヲ來セルモノナリ。故ニ是等ノ要約ガ胎兒ノ顆粒性細胞造成ニ多少共影響アラム事ハ否定シ得ザルモ、假密ナル意味ニテ正常ナル胎兒ヲ多數蒐集スルハ不可能ナル故、茲ニテハ假リニ非微毒兒ヲ正常胎兒ト看做セリ。

全例ニテ 40 μノ凍結切片ヲ作製シ、Gräffsches Verfahrenニ則リ、Oxydasereaktionヲ行ヘリ、但シ Alpha-Naphthol 及ビ Dimethylparaphenyldiaminbase ハ共ニ 0.5%ノ溶液トシテ使用セリ。標本染色後可及的速カニ鏡檢ス。Leitz 製顯微鏡ヲ用キ、常ニ同一擴大下、即チ Objektiv 7, Okular ×4ニテ檢索セリ。

肝ニテハ毎常目測ニテ顆粒及ビ長サノ等シキ Glissonsche Scheide 内並ビニ完全ナル肝小葉内ノ oxydasepositive Zellenノ數ヲ、又脾ニテハ等大ノ淋巴濾胞周圍並ビニ等範圍ノ脾髓内ニ於ケル oxydasepositive Zellenノ數ヲ各例ニテ 4 回宛計測シ、其ノ算術平均値ヲ前記ノ 4 局所 (Glissonsche Scheide, 肝小葉, 淋巴濾胞周圍及ビ脾髓)ノ oxydasepositive Zellenノ數値ト看做セリ。

實驗成績及ビ考按

肝臟 各例ニ就キ求メタル肝小葉内及ビ Glissonsche Scheide 内 (表ニテハ小葉間結締組織)ノ oxydasepositive Zellen (顆粒性細胞)ノ數値ヲ胎兒ノ身長階級 (間隔ハ 5cm) 毎ニ平均セバ、第 2 表ヲ得。因ミニ表ニテ計ノ欄ノ數値ハ小葉 + Glissonsche Scheide ナル肝實質ノ構成單位内ニ於ケル細胞數ヲ示ス。

第 2 表 肝ニ於ケル顆粒性細胞數ノ身長階級別平均値

身長階級 cm		21—25	26—30	31—35	36—40	41—45	46—50	51—55
非微毒肝	小葉間結締組織	20.9	23.7	24.6	23.3	26.3	22.2	22.1
	小葉	2.6	3.2	4.3	4.5	4.4	4.3	3.2
	計	23.5	26.9	28.9	27.8	30.7	26.5	25.3
微毒肝	小葉間結締組織			18.5	15.8	23.6	35.0	30.0
	小葉			3.8	4.7	7.1	7.0	7.0
	計			22.3	20.5	30.7	42.0	37.0

更ニ第 2 表ヲ圖示セバ、第 1 圖ヲ得。實線ハ非微毒性肝、點線ハ微毒性肝、曲線 L ハ肝小葉内細胞數、S ハ Glissonsche Scheide 内細胞數、G ハ兩者内細胞數ノ合計ナリ。微毒例及ビ非微毒例ノ兩者ニテ、曲線 L ト S トノ間隔極メテ大ナリ、換言セバ Glissonsche Scheide ニハ顆粒性細胞ガ甚ダ多キモ、肝小葉内ニハ少シ (前者ニテ後後ノ 3~10 倍、表参照)。是曩ニ勝沼ノ報告セシ所ト完全ニ一致ス。

曲線 G ヨリ、正常ニテハ顆粒性細胞數ハ身長 21 cm ヨリ漸次ニ僅カニ増加シ、31~45 cm 間ニテ最大數ニ達シ、以後ハ再ビ漸減スルヲ識ル。然ルニ微毒肝ニテハ 31~40 cm 間ニテ細胞數甚ダ寡ク、曲線ハ正常ノ遙カ低位ニ在リ、後急峻ニ上昇シ、正常曲線ト交叉シ、46~50 cm 間ニテ頂點ニ達シ、正常ノ 1 倍半以上ノ數値ヲ示シ、以後ハ再ビ低下ス。

Glissonsche Scheideニ於ケル顆粒性細胞ノ消長 (曲線 S) ハ全ク前述ト同様ナレド、肝小葉内ニ於ケル夫レ (曲線 L) ハ稍々趣キヲ異ニス。即チ細胞數ハ正常ニテハ 31~35 cm 間ニ其ノ極點ニ達スルモ、微毒例ニテハ此ノ期ニハ猶少數ニシテ、正常ノ下位ニ在リ、後遞増シテ、41~45 cm 間ニテ正常ノ 2 倍近クニ及ビ、以後モ減少スル事無ク、胎生ノ末期迄略々同位ヲ保ツ。

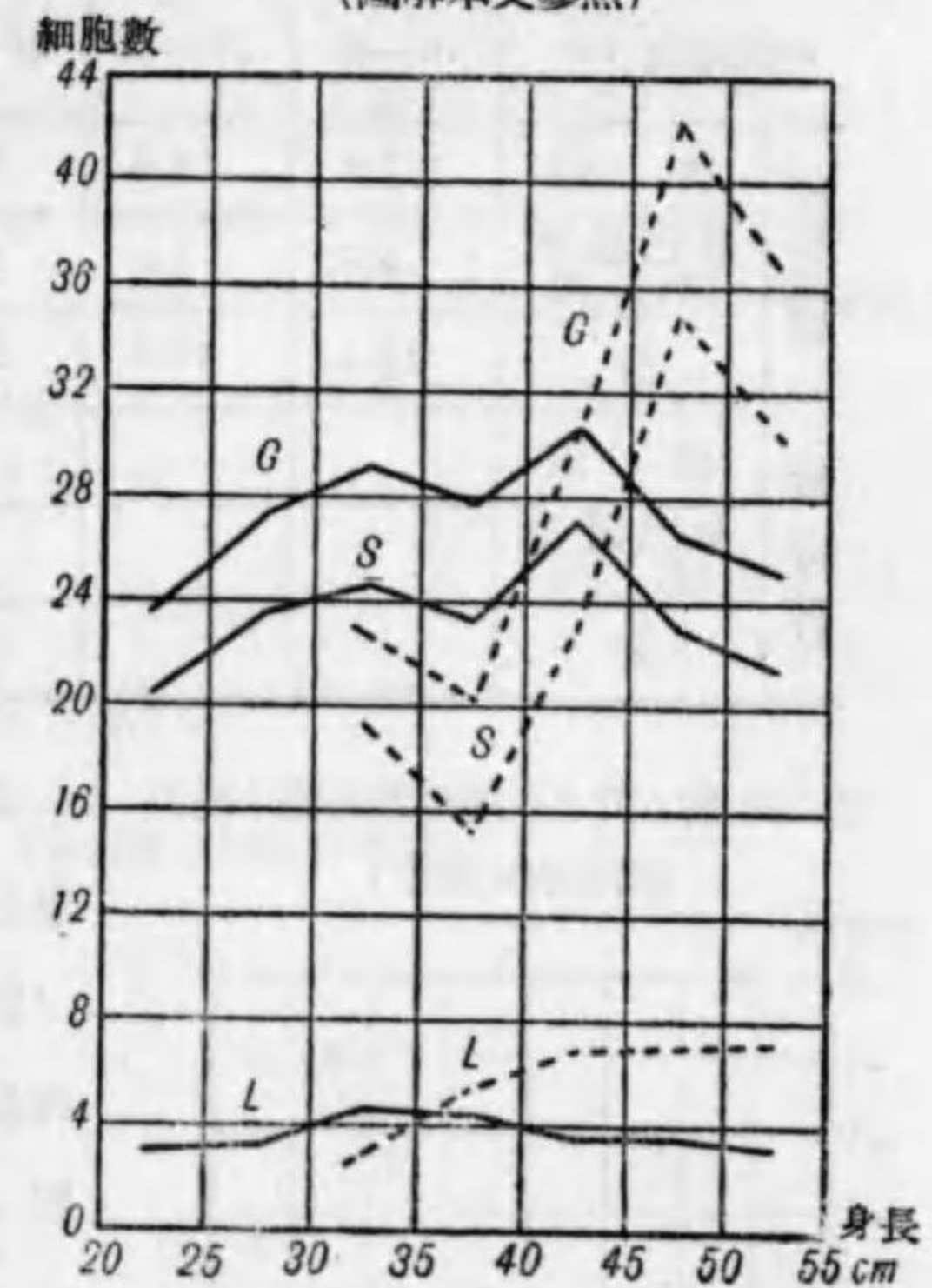
元ヨリ顆粒性細胞ノ消長ヲ目シテ、直チニ該細胞造成ノ全貌ヲ其ノ儘示スト看做スハ早計ノ謬ヲ免カレズ、或ハ尠ク共 Glissonsche Scheideニ於ケル顆粒

性細胞全部ガ同所ニテ新生セリトハ思考シ難ク、一部ハ肝小葉内ニテ造成セラレタル該細胞ガ Dissesche Räumeヲ通ジテ、同所ニ到達セルモノモ有ルナラン。故ニ數コソ少ケレ、肝小葉内ノ顆粒性細胞數ガ寧ロ有意義ナリ。又普通染色下ニ見ラル、造血像ト顆粒性細胞數ノ増減トハ必ズシモ平行ストハ限ラザル可ク、或ハ後者ガ遅ル、場合多カラシ。斯カル關係ニ有レド、胎兒ニテハ一般ニ顆粒性細胞 (白血球)ノ浸潤乃至抑留ヲ惹起スルガ如キ要約少キ故、顆粒性細胞數ノ増減ガ顆粒性細胞造成ノ一端ヲ指示スト認定スルモ不可ナラザル可シ。

以上ノ如キ觀點ヨリ前述ノ所見ヲ總括センニ、微毒兒ニ於ケル顆粒性細胞造成ハ正常ナレバ最盛ナル可キ時期ニ強ク抑制、阻害セラレ (即チ發育不全)、夫レヨリ後ニ反撥性ニ急劇ニ亢進シ、且ツ胎生ノ末期迄亢進状態ヲ持續ス。故ニ微毒胎兒肝ニテ屢々遭遇スル造血像ハ單ナル胎殘ニ非ズ、尠ク共胎生後半期ニテハ造血機能亢進ニ依ルモノナリ。猶此ノ機能亢進ハ増田博士ノ所說ニ從ヘバ、微毒性貧血ニ對スル代償性機轉ナリ。

脾臟 肝ニ於ケルト同ジク、身長階級別ニ顆粒性細胞數ノ平均値ヲ求メ、第 3 表及ビ第 2 圖ヲ作製セリ。圖ニテ曲線 P ハ脾髓内細胞數、F ハ淋巴濾胞周圍ノ細胞數、G ハ兩者ノ合計ニシテ、實線及ビ點線ノ別ハ第 1 圖ニ同ジ。曲線 G ハ其ノ内容ニ淋巴濾胞自體内及ビ梁材内ノ細胞數ヲ

第 1 圖 肝ニ於ケル顆粒性細胞ノ消長 (圖解本文参照)

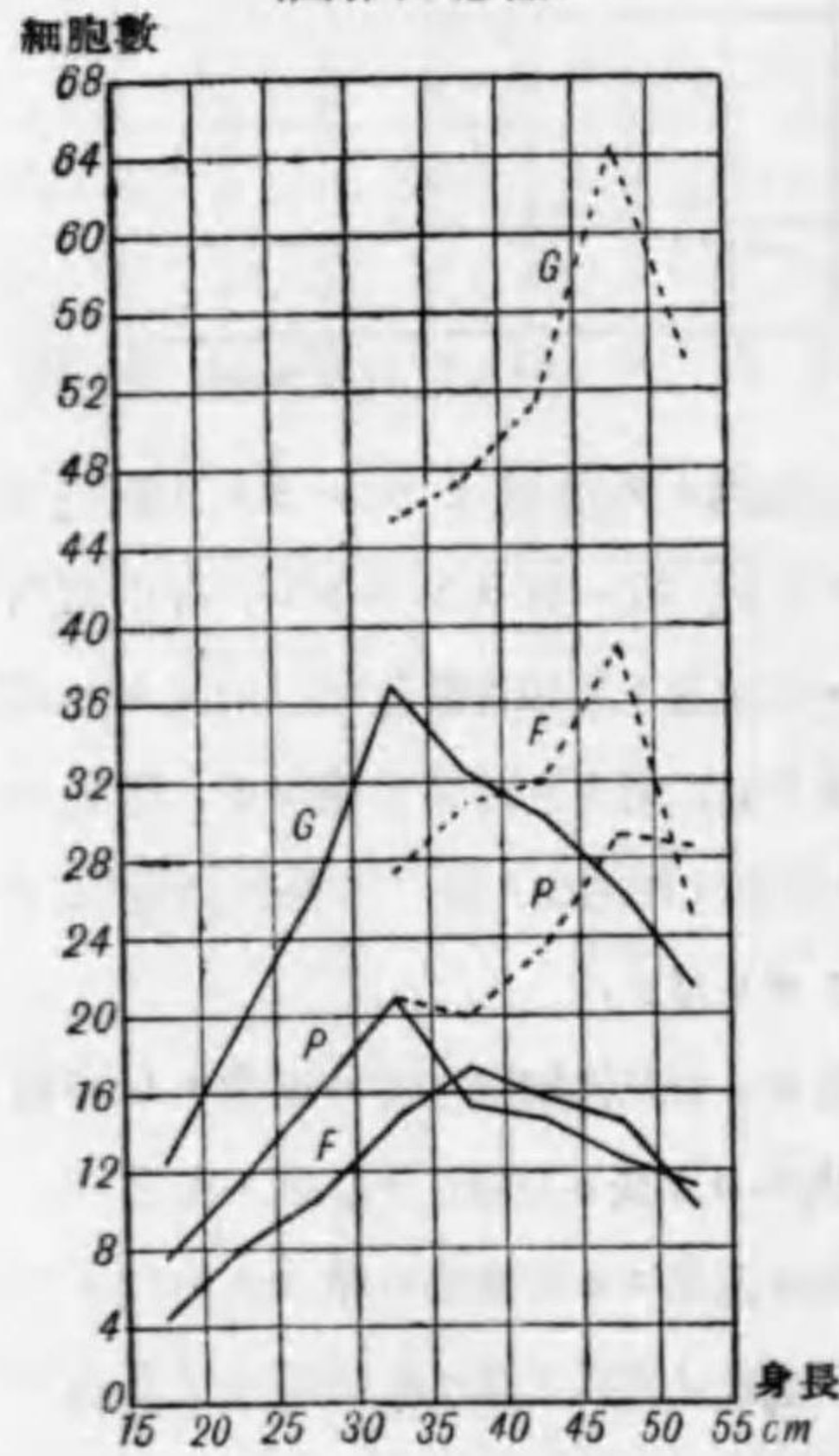


含マザル故、價格ナル意味ニテハ脾全般ノ細胞數ノ消長ヲ代表スト看做シ難キモ、大體ニ於テ然ルヲ認定スルモ大過ナカル可シ。

第3表 脾ニ於ケル顆粒性細胞數ノ身長階級別平均値

身長階級 cm		16—20	21—25	26—30	31—35	36—40	41—45	46—50	51—55
非 微 毒 脾	脾 髓	7.9	11.5	16.2	21.5	15.3	14.2	12.6	11.5
	淋巴濾胞 周 圍	4.5	8.0	10.5	15.4	17.2	16.2	14.0	10.0
	計	12.4	19.5	26.7	36.9	32.5	30.4	26.6	21.5
微 毒 脾	脾 髓				21.8	20.6	23.6	29.2	29.3
	淋巴濾胞 周 圍				23.5	26.7	28.1	35.1	24.4
	計				45.3	47.3	51.7	64.3	53.7

第2圖 脾ニ於ケル顆粒性細胞ノ消長
(圖解本文参照)



ニハ著シク減衰ス。即チ微毒脾ニ認メラル、造血竈ハ正常造血組織ノ胎殘ニ非ズ、造血機能亢進ノ示現ナリ、且ツ其ノ機能亢進ノ由ツテ來ル所ハ肝ニ於ケルト同様ナリ。

正常脾ニ於ケル顆粒性細胞數(曲線 G)ハ身長 15 cm ヨリ急激ニ増加シ、31~35 cm 間ニテ頂點ニ達シ、15~20 cm ノ數値ノ約 3 倍ニ及ビ、以後ハ再ビ遞減ス。脾髓ニ於ケル細胞數(曲線 P)モ略々同様ノ經過ヲ示セ共、淋巴濾胞周圍ノ夫レ(曲線 F)ハ稍々異ナリ、36~40 cm 間ニテ極期ニ達ス。

顆粒性細胞數ハ微毒脾ニテ身長 31~35 cm 期ニ既ニ正常脾ヨリ遙カ高値ヲ示シ、以後モ急激ニ増加シ、46~50 cm、即チ胎内生活ノ末期ニ頂點(正常ノ約 2 倍半)ニ達ス(曲線 G)。脾髓内(曲線 P)及ビ淋巴濾胞周圍(曲線 F)ニ於ケル細胞數モ亦、例數寡キ關係上稍々不規則トナレル憾アレド、同上ノ事實ヲ示唆ス。

以上ノ成績ヨリ吾人ハ次ノ推定ニ到達ス。微毒兒ニテハ早期ヨリ顆粒性細胞造成ガ強ク亢進シ、然モ胎生末期ニ近ヅクヤ、更ニ急劇ニ增強ス。是ニ反シ、正常脾ノ顆粒性細胞造成ハ尠ク共身長 40 cm 以前ニ極期ニ到達シ、胎生末期

結 論

- 1) Glissonsche Scheide = 於ケル顆粒性細胞數ハ肝小葉内ノ夫レニ比シ著シク多シ。
- 2) 正常肝ニ於ケル顆粒性細胞造成ハ尠ク共身長 45 cm 以前ニ極期ニ達シ、成熟胎兒ニテハ明カニ減退ス。然ルニ微毒肝ニテハ該細胞造成ハ 31~40 cm 期ニ著シク阻害、抑壓セラレ、後急激ニ亢進シ、正常ヲ凌駕シ、胎生末期ニ至リテ頂點ニ到達ス。即チ最初發育不全ニ陥リ、後反撥性ニ機能亢進ヲ來ス。
- 3) 顆粒性細胞造成ハ正常脾ニテハ身長 40 cm 以前ニ最盛期ヲ了ヘ、爾後ハ減衰ス。微毒脾ニテハ最初ヨリ著明ナル機能亢進ヲ示シ、然モ妊娠月ノ經過ト共ニ愈々增強シ、胎生末期ニテ初メテ極期ニ達ス。
- 4) 先天性微毒胎兒ノ肝及ビ脾ニ發見セラル、造血竈ハ正常造血組織ノ單ナル胎殘ニ非ズ、其ノ機能亢進ノ示現ナリ。又機能亢進ハ微毒性貧血ニ對スル代償性機轉ト解セラル。

圖筆ニ臨ミ、恩師木村教授及ビ増田恒一博士ノ御指導並ビニ御教示ニ深謝シ奉ル。

人屍肺壞疽病竈ニ於ケル細菌ノ分布ニ就テ

(挿入表 5)

東北帝國大學醫學部病理學教室 (主任 木村教授)

學生 山崎 正志

Stud. med. Masasi Yamazaki

研究方針, 材料並ビニ方法

竈ニ參木博士ハ肺壞疽ガ Mundspirochäten bzw. Spirochaeta dentium, fusiforme Bazillen (參木氏第2型) 及ビ Cladothrix putridogenes ノ3者ノ共生寄生ニ因リ惹起サル、事實ヲ實驗的ニ立證セリ。是ニ關聯シ、余ハ人屍肺壞疽病竈ニ於ケル前記3種ノ病原體及ビ諸種ノ雜菌ノ分布状態ヲ bakterioskopisch = 檢索セント企圖セリ。材料ハ吾教室創始以來貯藏セラレシ 54 例ニシテ、組織標本ハ各種ノ細菌染色法並ビニ吾教室標準鍍銀法 (Levaditische Versilberung ノ變法) = 依リ處理セラレタリ。特ニ後者ハ單ニ Spirochäten ノミナラズ、全ベテノ細菌ヲ明瞭ニ表現シ得ル故、本研究ニ至便ナリ。猶毎常同一病竈ノ Hämatoxylin-Eosin-Präparat ヲ作製シ、鍍銀標本ト比較檢鏡セリ。

研究成績

1) 肺壞疽病竈ニ於ケル細菌ノ bakterioskopische Einteilung. 鍍銀法ニ依リ肺壞疽病竈ニ極メテ種々雜多ノ細菌ガ發見セラル。是等ヲ形態學的ニ正確ニ分類スルハ、蓋シ不可能ナリ。故ニ余ハ便宜上以下ノ5群ニ大別シ (A~E)、觀察セリ。A) Spirochäten (表ニテハ Sp)。培養成績ニ依レバ、肺壞疽病原體ノ一種タル Spirochäten ハ Spirochaeta dentium ナリ (參木博士)。然ルニ鏡下ニ認メラル、Spirochäten ハ單一ノモノニ非ズシテ、其ノ長さ、幅、屈曲數等ニ相違アリ、形態上ヨリ Sp. dentium ナル限定的名稱ヲ附ス能ハズ、故ニ單ニ Spirochäten トシテ記載セリ。

B) fusiforme Bazillen (F) ニ顯著ナ多形性 (Polymorphismus 或ハ Pleomorphie) ヲ示シ、就中參木氏ノ第2型及ビ第3型ガ頻數ナリ。前者ハ肺壞疽病因ニ對シ重大ナル意義ヲ有スルヲ以テ (參木博士)、余ハ是ニ特ニ注意ヲ傾倒セリ。

C) Cladothrix putridogenes (Cl) ノ典型的形態ハ紐狀ニシテ、菌體內ニ一定ノ間隔ヲ以テ染色

液ニ濃染スル部ヲ有シ、恰カモ地圖ニ於ケル鐵道ノ如キ觀ヲ呈ス。然レドモ又多形性ヲ示スコトアルハ、純粹培養上ノ成績ニテ識ラル。即チ嫌氣性血液平板培養基上ニテ甚ダシク變形シ、其ノ長さハ短縮シ、幅員ハ増加シ、斯クテ矩形乃至正方形ニ近キ形態ヲ示スニ至ル (參木博士)。鍍銀標本ニテモ主トシテ紐狀ノモノ或ハ斷裂形ノモノヲ認メ、余ハ特ニ後者ニ注意ヲ拂ヘリ。

D) 球菌屬 (K)。肺壞疽病竈、喀痰等ヨリ嫌氣性連鎖狀球菌、白色葡萄狀球菌、gram-negative Kokken, Streptococcus viridans, 双球菌屬等諸種ノ球菌屬ヲ分離培養シ得タレド (都竹好彦學士)、是等ヲ bakterioskopisch = 正確ニ鑑別スルハ殆ンド不可能ニシテ、高々連鎖ト双球菌トヲ區別シ得ル事アルノミ。故ニ余ハ一括シテ球菌屬トシテ述ブ。

E) Kommabazillen (Kb) = 關シ未ダ吾人ノ識ル所寡シ、然レ共本菌ハ極メテ多數例ニ見ラレタルヲ以テ、是ガ分布ヲモ調査セリ。

2) 肺壞疽病竈ニ於ケル細菌ノ檢出率。檢索例 54 中、細菌ヲ全ク認メ得ザリシモノ 5 例アリ、中 2 例ハ肺結核ニ壞疽ガ併發セルモノナリ。爾餘ノ 49 例ニ於ケル各種細菌ノ檢出率ハ第1表ニセルガ如ク、球菌屬ハ最頻數ニシテ、次イデ fusiforme Bazillen, Kommabazillen, Cladothrix,

第1表 細菌ノ檢出率

細菌	Sp	F	Cl	K	Kb	計
例數	36	48	39	49	44	54
%	66.66	88.88	74.07	90.73	81.48	

Spirochäten ノ順ナリ。此ノ事實ハ一見、肺壞疽病原體トシテ Spirochäten, fusiforme Bazillen, Cladothrix ヲ指摘スル學說ニ背馳スルカノ如ク思惟セラルレド、本表ヨリ肺壞疽ノ

病原ニ關シ云々スルハ無謀、早計モ甚シ。寧ロ余ハ永年ニ亙ル標本貯藏ニモ拘ラズ、猶3種ノ病原體ガ 67% 以上ノ高率ニテ證明セラレタルハ驚嘆ニ値スト思考ス。因ミニ細菌ノ種類ニヨリ固定及ビ貯藏ニ因ル染色度ノ低下ニ差違アルハ吾人ノ日常經驗スル所ナリ。

3) 肺壞疽病竈及ビ其ノ附近ニ於ケル細菌ノ分布状態。肺壞疽ノ病竈ハ病理組織學的ニ特有ナル層狀病變像ヲ呈シ、學者ニヨリ其ノ區分法ヲ異ニスルモ、1886年 Bonome ノ發表セシ區分法ハ廣ク認容セラル。即チ氏ハ病竈ヲ分チテ4層トナシ、最モ中心部ニシテ完全ニ壞死物質ニ變ゼル部ヲ壞死層 (nekrotische Zone)、之ニ接シ帶狀ヲナセル肉芽組織ヲ肉芽層 (Granulationszone)、其ノ外層ノ出血ヲ伴フ部ヲ出血層 (hämorrhagische Zone)、最外層ノ分葉核白血球浸潤ヲ伴フ部ヲ加答兒層 (katarrhalische Zone) ト稱セリ。然ルニ余ガ 54 例ニ就キ精査セル成績ニテハ (Hämatoxylin-Eosin-Färbung)、Bonome ノ4層ヲ確然ト區別シ得タルハ極メテ稀ナルノミ。故ニ余ハ氏ノ分類法ヲ採用セズ、恩師木村教授ノ御教示ニ則リ、病竈ヲ以下ノ3層ニ區分セリ。即チ最内部ノ壞死層 (nekrotische Zone)、次イデ壞死ヲ伴ヒ、然モ未ダ肺胞壁等ヲ充分陰影トシテ認メ得ル組織陰影層 (Zone der Gewebsschatten) 及ビ之ヲ圍繞スル比較的健康層 (relativ

scharf begrenzte gesunde Zone) ナリ (詳細ハ參木博士並ビニ塚學士ノ原著參照). 但シ本研究ニ當リテハ, 便宜上壞死層及ビ組織陰影層ヲ一括シ, 壞死部ト看做セリ.

余ハ壞死部, 比較的健康部及ビ血管腔内ニ於ケル微生物ノ分布状態ヲ精細ニ調査セル結果, 第2表及ビ第3表ヲ得タリ. 即チ全ベテノ細菌ハ壞死部ニテ他部ト比較シ得ザル程頻回且ツ多量ニ證明セラレ, 次イデ比較的健康部ナリ. サレド又血管腔内檢出率モ必ズシモ渺シトセズ.

第2表 肺壞疽病竈及ビ其ノ附近ニ於ケル細菌ノ分布 (其ノ1)

Table with 15 columns: 研究番號, 解剖番號, 比較的健康部 (Sp, F, Cl, K, Kb), 壞死部 (Sp, F, Cl, K, Kb), 血管腔内 (Sp, F, Cl, K, Kb). Rows 1-34.

第2表 肺壞疽病竈及ビ其ノ附近ニ於ケル細菌ノ分布 (其ノ2)

Table with 15 columns: 研究番號, 解剖番號, 比較的健康部 (Sp, F, Cl, K, Kb), 壞死部 (Sp, F, Cl, K, Kb), 血管腔内 (Sp, F, Cl, K, Kb). Rows 35-54.

第3表 前表ノ總括

Summary table with 15 columns: 部位, 比較的健康部 (Sp, F, Cl, K, Kb), 壞死部 (Sp, F, Cl, K, Kb), 血管腔内 (Sp, F, Cl, K, Kb), 計. Rows for 細菌, 例數, and %.

壞死部ニテハ球菌屬最多數ヲ示シ (91%), 次イデ fusiforme Bazillen, Kommabazillen, Cladothrix, Spirochäten ノ順次ナリ. 是等ノ中, 球菌及ビ fusiforme Bazillen ハ壞死部ノ中央, 即チ肺組織ノ全ク崩壞セル部ニ特ニ多數集存シ, Spirochäten ハ中央部ヨリ寧ロ離レタル健康部ニ近キ部分ニ多數ヲ算セリ. Kommabazillen ハ中央部並ビニ組織陰影層ニ多シ.

比較的健康部ニ於テハ Spirochäten (43%) 及ビ fusiforme Bazillen (39%) ガ最多數ニシテ, 球菌屬之ニ次ギ, Cladothrix 及ビ Kommabazillen ノ出現ハ僅カニ 10% ヲ超ユルノミ.

血管腔内ニ細菌ヲ證明セシハ 19 例ニシテ, 球菌ハ最モ多ク, fusiforme Bazillen 及ビ Spirochäten 是ニ次ギ, Cladothrix 及ビ Kommabazillen ハ同數ノ 6 例ナリ. 猶細菌性栓塞ヲ認メシ例寡カラズ, 又 Spirochäten ガ血管腔内ヨリ管壁ヲ通ジ, 血管外ニ游出スル像ニ接セル事モ稀

ナラス。是等ハ寒ニ興味深ク且ツ重要ナル所見ナリ。

4) 肺壞疽ノ病型ト細菌ノ分布。前項ニ説述セル如ク、典型的ノ肺壞疽病竈ニテハ3層ヲ區別シ得。然レ共、壞疽機轉ガ急劇ニ進行スル際ニハ、比較的健康層ガ明瞭ナラス、壞死部ガ直接健康ナル肺組織ニ接ス。是ニ反シ慢性ニ經過セバ、比較的健康層ニ一致シ肉芽増殖ガ行ハレ、此處ニ分界線(Demarkationslinie)ガ生ズルニ至ル。余ノ54例中、斯カル慢性型ハ20例アリ、爾余ノ34例ハ急性型ト看做シ得。

第4表 肺壞疽ノ病型ト細菌ノ分布(例數ニテ示ス)

細菌		Sp	F	Cl	K	Kb	計
急性型	比較的健康部	17	18	5	12	6	34
	壞死部	22	31	23	31	29	
慢性型	比較的健康部	6	3	2	0	0	20
	壞死部	14	17	16	18	15	

慎重ニ調査セル成績ハ第4表ノ如シ。

表示ノ如ク、細菌ノ検出度ハ急性型ニテハ慢性型ニ比シ著明ニ高ク、且ツ個々ノ例ニ於ケル菌量モ多シ。特ニ注目ニ値スルハ、急性型ニテ比較的健康部内ニ細菌ヲ発見スル例多キ事ナリ。即チ急性型ニテハ全ベテノ細菌ガ健康部ニ向ツテ侵入スル傾向大ナルヲ識ル。又個々ノ菌種ニ就テハ、Spirochäten及ビfusiforme Bazillenハ急性、慢性兩型ヲ通ジ、健康部ニ侵入スル程度大ナリ。就中Spirochätenハ屢々壞死部ト健康部トノ境界ヲナス肉芽層ヲ通過シテ外方ニ進出スル像ヲ鏡下ニ示セリ。是等ニ反シ球菌及ビKommabazillenハ慢性型ノ壞死部ニ多量ニ發現セルニ拘ラズ、健康部ニ侵入セルモノ皆無ナリ。

總括的考按

文獻上肺壞疽剖検屍ニ就キ鍍銀標本等ニヨリ系統的ニ病原微生物ノ分布状態ヲ調査セル學者ハ極メテ少ク、本邦ニテハ華岡(1931年、11例)、歐米ニテハBudy(1910年、35例)ノ報告ヲ見ルノミ。仍テ余ハ茲ニ余自身ノ成績ト氏等ノ成績トヲ比較考察セントス。猶兩氏ハ壞疽病竈ニ認メタル絲狀微生物ヲ絲狀菌或ハFadenpilz, Fadenbakterien杯ト記載スレド、參木博士ノ純粹培養成績ニ徴シ、斯カル絲狀菌ハCladothrix putridogenesナラント推定セラル。故ニ余ハ比較ニ當リ之等ヲCladothrixノ項目ニ算入セリ。又兩氏ハBonomeノ病竈區分法ヲ採用ス、故ニ余等ノ分類ト異ナレド、Bonomeノ壞死層以外ノ3層ハ略々余等ノ比較的健康層ニ該當スト看做シテ可ナリ。以上ノ如キ想定下ニ、氏等並ビニ余ノ成績ヲ總括セバ、第5表ノ如シ。

第5表 肺壞疽病竈ニ於ケル細菌検出率ノ比較

部位	細菌	壞死部					比較的健康部					計 檢 索 例 數
		Sp	F	Cl	K	Kb	Sp	F	Cl	K	Kb	
Budy 1910	例數	18	27	24	29	24	26	26	6	17	24	35
	%	51.42	77.12	65.71	82.85	65.71	74.28	74.28	17.14	48.57	65.71	
華岡 1931	例數	2	4	1	11	7	9	2	0	8	3	11
	%	18.18	36.36	9.09	100.00	63.63	81.81	18.18	0	72.72	27.27	
山崎 1938	例數	36	48	39	49	44	23	21	7	12	6	54
	%	66.66	88.88	74.07	90.73	81.48	42.59	38.88	12.96	22.22	11.11	

華岡ノ報告ハ檢出例數ノ寡キニ鑑ミ暫ク置キ、Budy及ビ余ノ成績ヲ對比センニ、兩者ハ良ク合致シ、唯Budyニテ比較的健康部ニ於ケル各種細菌ノ検出率高シ。3者ヲ通ジ、Spirochäten及ビfusiforme Bazillenガ他菌ニ比シ著シキ高率ニテ比較的健康部ニ發現スルヲ見ル。Spirochätenニ關シテハ、其ノ自家運動ニ依リ健康組織間隙ニ侵入セルモノト解セラル可ク、斯カル事實ハ既ニFeldmann, Budy, Arnheim, 華岡, Smith等ノ承認セル所ナリ。是ニ反シ、運動性能ヲ有セザルfusiforme Bazillenモ比較的健康部ニSpirochätenト略々同等ノ高率ニテ證明セラレシハ奇異ニシテ且ツ等閑視スベカラザル事實ニシテ、其ノ解説ハ大ニ今後ノ研究ニ俟ツ所アラム。Cladothrix putridogenesハ壞死部ト比較的健康部トニ於ケル發現頻度ニ大ナル差アリ、即チ本菌ハ大多數壞死部ニ存在スルト看做シテ可ナリ。

恩師木村教授及ビ參木博士ハ肺壞疽ノ發生病理ニ關シ、以下ノ如キ見解ヲ披瀝セラレタリ。先ヅSpirochaeta dentiumガ健康組織内ニ侵入シ、炎症及ビ一程度ノ組織損傷ヲ惹起シ、次イデBacillus fusiformisガ組織ヲ分解シ、種々ノ分解産物ヲ產生ス。是ニCladothrix putridogenesノ共同作用ガ加ハリテ、始メテ腐敗性軟化組織、即チ典型的壞疽病竈ガ形成セラル。此ノ所説ニ余並ビニBudy、華岡ノ研究成績、就中病原體ノ分布状態ハ完全ニ適合ス。

肺壞疽ガ血行性ニ發生シ得ル事ハ周知ノ如シ(栓塞性肺壞疽 embolische Lungengangrän)。Feldmannハ種々ノ誘發原因ニヨル肺壞疽7例ヲ報告シ、全例ニテSpirochäten及ビfusiforme Bazillenガ血管ヲ介シ、轉移性病竈ヲ惹起シ居ル像ヲ認メ、血管腔内ニ於ケル病原體ノ意義ヲ重大視セリ。又渡邊ニヨレバ、肺壞疽例ニテ屢々Spirochäten, fusiforme Bazillen, 球菌等ガ腦血管ヲ栓塞シ、轉移性病竈ヲ招来スト。即チSpirochäten及ビfusiforme Bazillenガ血管内ニ侵入スル機會ガ然ク稀ナラザルヲ識ル。余ノ調査ニテモ血管腔内ニ細菌ヲ発見セルモノ19例アリ、中11例ニテSpirochäten、12例ニテfusiforme Bazillenヲ認メタリ(第3表参照)。更ニSpirochätenガ血管腔ヨリ管壁及ビ血管外膜ヲ通過シ、周圍ノ肺組織ニ進出スル所見ニモ接セリ。

是ヲ以テ直チニ、當該肺壞疽ガ遠隔臓器ノ壞疽ヨリ轉移性ニ發生セル證左ト看做ス可キニ非ズ、余ハ寧ロ肺内ニ於ケル壞疽機轉ノ蔓延ニ對シ血管ガ重大ナル意義ヲ有スヲ示唆スト思考ス。

從來肺壞疽ノ臨床診斷ニ當リ、喀痰ノ量及ビ性質ノミガ重視セラル。余ハ自己ノ研究成績ニ鑑ミ、更ニ喀痰ノ細菌學的検査ノ必要ナルヲ提唱ス。然ラバ、喀痰内ノ細菌ノ種類及ビ多寡ヲ以テ病勢ノ強弱判定或ハ豫後判斷ノ補助トナスヲ得ン。但シ喀痰中ニ Spirochäten ヲ見出ス能ハザル場合ト雖モ、肺壞疽ノ診斷ヲ否定スル根據トナラズ、是本菌ガ深ク健康組織内ニ潛入シ、壞死部ニ多數出ヅ來ラザル場合アレバナリ。

結 論

1) 肺壞疽剖検屍 54 例ニテ、鍍銀法ニヨリ病竈内ニ Spirochäten ヲ 67%, Bacillus fusiformis ヲ 89%, Cladothrix putridogenes ヲ 74% 檢出セリ。

2) 肺壞疽病竈ノ中心層、即チ壞死部ニ於テハ各種ノ細菌ガ極メテ多量ナリ (球菌屬, Bacillus fusiformis, Kommabazillen, Cladothrix putridogenes, Spirochäten)。病竈ノ周邊部、即チ比較的健全層(木村教授)ニ移行スルニ從ヒ、菌數ハ著明ニ減少ス、サレド Spirochäten 及ビ fusiforme Bazillen ハ猶多數發見セラル。

3) 急性型肺壞疽ニアリテハ、細菌ノ發現頻度及ビ健康肺組織ニ侵入スル程度ハ慢性型ニ比シ大ナリ。

4) 急性慢性兩型ヲ通ジ Spirochäten 及ビ fusiforme Bazillen (特ニ前者) ハ他菌ニ比シ健康部ニ侵入スル傾向大ナリ。此ノ事實ハ肺壞疽ノ發生病理ニ關スル木村教授及ビ參木博士ノ所説ニ符合ス。

5) 血管腔内ニ細菌ヲ證明スルハ稀ナラズ (19 例; Spirochäten 11 例, fusiforme Bazillen 12 例)。更ニ余ハ Spirochäten ガ血管腔ヨリ管壁及ビ血管外膜ヲ通ジ、周圍ノ肺組織ニ進出スル所見ヲ得タリ。

稿ヲ終ルニ臨ミ、御指導並ビニ御教示ヲ辱フセル恩師木村教授及ビ參木博士ニ謹ミテ感謝ス。

文 献

- | | |
|--|---|
| 1) Arnheim, G., Ztbl. f. Bakteriologie, Orig., Bd. 59, 1911, S. 20. | 5) Smith, D. T., Oral Spirochetes and Related Organisms in Fusospirochetal Disease, 1932. |
| 2) Bonome, A., Dtsch. med. Wschr., Jg. 12, 1886, S. 932. | 6) Veszprémi, D., Ztbl. f. Bakteriologie, Orig., Bd. 44, 1907, S. 332, 408, 515 u. 648. |
| 3) Budy, K., Beitr. z. pathol. Anat. u. z. allg. Pathol., Bd. 48, 1910, S. 70. | 7) Zinserling, W. D., Ztbl. f. allg. Pathol. |
| 4) Feldmann, I., Wien. klin. Wschr., Jg. | |

u. pathol. Anat., Bd. 35, 1924, S. 71.

- | | |
|--|--|
| 8) 華岡陽之助, 十全會雜誌, 第 38 卷, 昭和 8 年, 1719 頁. | 12) 仲谷實, 十全會雜誌, 第 38 卷, 昭和 8 年, 3178 頁. |
| 9) 角田俊吉, 臨床醫學, 第 2 卷, 大正 3 年, 37 頁. | 13) 庄司又三郎, 東京顯微鏡學會雜誌, 第 32 卷, 大正 14 年, 17 頁. |
| 10) 木村男也, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 42 卷, 昭和 12 年, 213 頁. | 14) 渡邊信吉, 實地醫家ト臨床, 第 5 卷, 昭和 3 年, 593 頁. |
| 11) 參木錦司, 日本病理學會會誌, 第 27 卷, 昭和 | |

肺壞疽ノ統計的研究

附、壞疽病竈ノ組織學的區分ニ就テ

(挿入表7)

東北帝國大學醫學部病理學教室(主任 木村教授)

學生 堺 鶴二郎

Stud. med. Turuzirô Sakai

研究方針並ビニ方法

肺壞疽ノ統計ニ關シテハ、從來臨牀方面ヨリノ報告ハ多數アルガ、剖檢上ヨリノ調査報告ハ極メテ寡ク、余ノ文献調査ニヨル範圍内デハ我國ニ於テハ僅カニ華岡氏ノ報告、歐米デハ Hensel ノ報告ガアルニ過ギナイ。

吾教室ニ於テ 1916 年ヨリ 1936 年ニ至ル 21 ケ年間ニ剖檢セラレタ肺壞疽 57 例ハ蓋シ該疾患ノ剖檢例數トシテ決シテ寡シトセヌ。仍テ余ハ上記 57 例ニ就キ主トシテ統計的ニ、1) 肺壞疽ノ發生ノ原因又ハ誘因、2) 年齢トノ關係、3) 性別、4) 感染経路上ヨリ見タ病竈ノ好發部位等ニ關シテ研究ヲ行ツタ。猶併セテ肺壞疽病竈ノ組織學的檢索ヲモ試ミ、特ニ Bonome ノ病竈區分法ノ妥當性ヲ吟味シタ(但シ本編デハ記載ノ都合上、先ヅ組織學的所見ヲ述べ、次イデ統計的事項ヲ説述スル)。本研究ニ供シタ組織片ハ可及的病竈ノ各部ヨリ採取スルコトニ努メ、病竈部ヨリ比較的健康部ニカケテ肺組織ヲ切り出シ、凡ベテ Paraffinschnitte トナシ、Hämatoxylin-Eosin-Färbung, van Gieson-Färbung ヲ施シ、鏡檢シタ。尙必要ニ應ジテハ同一箇所ノ鍍銀標本ヲモ製作シ、照應檢索ノ補助トシタ。

研究成績及ビ考按

1. 肺壞疽病竈ノ組織學的所見、57 例ノ所見ヲ逐一詳述スルヲ避ケ、一括一覽トナシ、表示スル(第1表)。

肺壞疽ノ病竈ハ病理組織學的ニ特有ナ所見ヲ示シ、從來一般ニ Bonome (1886) ノ分類ニ從ヒ、之ヲ次ノ4層ニ區分シテ居ル。即チ 1) 病竈ノ最中心部ヲ占メ、全ク無構造ナ細胞廢頽物ヲ以テ充サレタ壞死層(nekrotische Zone)、2) 前者ヲ圍繞スル肉芽層(Granulationszone)、3) 更ニ外方ノ部デ、血管ニ富ミ且ツ出血ヲ伴フ出血層(hämorrhagische Zone)、4) 最外層デ、分葉核白血

第1表 肺壞疽病竈ノ組織學的所見(其ノ1)

研究 番號	解 剖 號	姓	性 別	年 齡	罹 患 葉	白 浸 血 球 潤	纖 折 維 素 出	肺 炎	膿 瘍	壞 疽	血 形 栓 成	分 界 線	於 球 浸 潤 部 ニ 分 界 線 部 ニ 分 界 線 部 ニ
1	102 '16	遠藤	女	40	右 下	+	+	+	-	++	-	-	-
2	11 '18	熊谷	男	33	左 全	+	++	-	+	++	-	++	++
3	85 '19	松崎	女	63	左 下	+	+	++	-	++	-	±	±
4	132 '19	伊藤	男	43	左 上	+	++	+	-	+	-	±	-
5	38 '20	齊藤	男	43	右 上	+	++	+	-	+	-	+++	++
6	126 '20	吉田	男	21	左 下	-	+	+	+	+++	-	-	-
7	169 '20	菅原	女	26	右 下	+	+	+	+	++	-	-	-
8	76 '21	柴田	男	16	左 下	+	+	+	-	++	-	+++	++
9	8 '22	佐藤	男	45	左 下	+	++	+	-	+	-	-	-
10	36 '22	荻原	男	50	右 全	+	+	++	+	+++	-	-	-
11	104 '22	白鳥	男	47	左 下	+	+	+	-	+++	-	-	-
12	122 '23	中川	男	51	右 上	+	+	+	-	+	-	+	+
13	127 '23	小塚	男	47	右 上	±	+	+	-	+++	+	-	-
14	113 '24	中村	男	51	右 全	+	+	+	+	+	-	-	-
15	35 '25	阿部	男	42	左 全	+	-	+	+	+++	-	-	-
16	50 '25	鈴木	男	40	右 全	+	++	+	-	++	-	++	+
17	56 '25	阿部	男	10年10月	左 全	+	+	+	-	++	-	-	-
18	60 '25	清水	女	140日	左 上	++	+	+	-	++	-	-	-
19	63 '25	渡邊	男	54	右 上	+	+	+	-	+++	-	-	-
20	67 '25	舟澤	女	23	右 全	+	++	+	-	+++	-	+	++
21	27 '26	田中	男	18	右 下	+	±	-	-	+++	-	++	+++
22	132 '27	伊藤	女	29	右 上	+	++	+	-	++	-	±	+
23	147 '27	中村	男	61	右 上	+	+	-	-	++	-	-	-
24	18 '28	並邊	男	55	右 全	+	+	+	+	++	-	-	-
25	60 '28	渡邊	男	59	右 上	+	+	+	+	+	-	++	+
26	84 '28	江口	男	36	左 上	+	++	++	+	++	-	±	-
27	92 '29	小泉	男	57	左 全	+	+	+	-	+	-	++	+++
28	189 '29	川内	男	33	右 下	+	+	++	-	++	-	-	-
29	98 '30	星	女	44	右 下	+	++	+	-	+++	+	-	-
30	138 '30	小坂	男	44	右 上	+	+	+	-	+	-	-	-
31	61 '31	吉田	女	130日	右 下	+	±	+	-	+	-	-	-
32	99 '31	佐藤	女	26	右 側	+	±	+	+	+	-	-	-
33	218 '31	穗高	女	13	左 上	+	±	+	+	+	-	+	+
34	49 '32	三浦	女	18	左 上	+	+	+	+	++	-	-	-
35	96 '32	林	男	3	右 側	+	+	+	-	++	-	+++	+++
36	111 '32	後藤	男	53	右 中	+	±	+	+	+++	-	-	-
37	117 '33	遠藤	女	17	右 全	+	+	++	-	+++	-	-	-
38	126 '33	相田	男	31	右 上	++	+	+	-	+++	-	+++	+++
39	166 '33	田中	男	56	右 全	+	+	+	+	++	-	-	-
40	180 '33	堀籠	男	51	右 中	+	+	+	+	++	-	+++	++
41	140 '34	山田	女	11	右 上	+	+	+	-	+	-	+++	++

第 1 表 肺壞疽病竈ノ組織學的所見 (其ノ2)

研究 番 號	解 剖 號	姓 名	性 別	年 齡	罹 患 肺 葉	白 浸 血 球 潤	纖 維 素 出	肺 炎	膿 瘍	壞 疽	血 形 栓 成	分 界 線	分 界 線 部 白 血
42	32 '35	多田	女	20	左下	+	±	+	-	+++	++	-	-
43	35 '35	高城	女	2	右下	+	-	+	-	+++	-	-	-
44	78 '35	鈴木	男	18	右下,左上	+	+	++	+	+	-	+	+
45	216 '35	庄子	男	30	左下,右下	+	+	+	+	++	-	±	+
46	1 '36	高久	男	37	左上	+	+	+	+	++	++	+	-
47	19 '36	加藤	男	30	左上,右下	+	+	+	+	+	++	-	-
48	24 '36	武田	男	60	右全	+	+	+	-	+++	-	-	-
49	28 '36	阿部	男	36	左下,右下	++	+	++	-	+++	-	-	-
50	34 '36	立花	男	57	左下,右上	+	±	+	+	+++	-	-	-
51	57 '36	尾形	女	36	左上	+	-	+	-	++	-	-	-
52	42 '36	伊藤	女	22	右上下	++	++	+++	-	+++	-	-	-
53	64 '36	門岡	男	48	左下,右下	+	+	+	+	++	-	-	-
54	87 '36	菅野	女	40	左下	+	+	+	-	+	-	++	++
55	121 '36	工藤	男	15	右下	++	+	+++	-	++	-	-	-
56	124 '36	小島	男	53	右上	+	+	+	+	++	-	+	+
57	127 '36	菱谷	男	35	右上下	++	+	++	-	+++	-	-	-

球ノ浸潤ヲ伴ヒ、健康肺組織ト境界スル加答兒層 (katarrhalische Zone) ノ4者デアル。

然ルニ余ノ57例ニ於ケル成績デハ、斯カル4層ヲ確然ト區別シ得ルノハ少数例ノミデアツテ、多クノ場合區別ハ非常ニ困難デアル。換言スレバ、Bonomeノ分類法ニ無理ガアルト認メザルヲ得ス。又氏ノ分類法デハ病變ノ進行ノ遲速ニ考慮ガ拂ハレテキナイ。斯様ナ理由カラ余ハ Bonomeノ區分法ヲ排シ、自驗例ノ所見ニ立脚シ、且ツ恩師木村教授ノ御教示ニ基ヅキ、次ノ如ク區分スルノガ妥當ト信ズル。即チ病竈ヲ3層ニ分チ、中心ノ完全ニ壞死ニ陥リ、細胞廢棄物ノ充滿スル部ヲ壞死層、之ニ接シテ未ダ肺胞壁ヲ陰影像トシテ認メ得ルガ、肺胞内容ニハ壞死性變化ノ著明ナ部ヲ組織陰影層、之ヲ圍繞シテ比較的健康肺組織ヲ保有スル部ヲ比較的健康層トスル。

一般ニ最外層、即チ比較的健康層ニハ反應性炎衝トシテ分葉核白血球ノ浸潤ヲ來スモノデアルガ、此ノ浸潤ハ病變進行ノ遲速ニ大ナル關係ガアリ、進行ノ甚ダ迅速ナモノデハ病竈ハ直チニ健康肺組織ニ接シ、其ノ境界ハ鮮明デ、反應性白血球浸潤ヲ缺ク場合ガ多イ。之ニ反シ進行ノ緩慢ナモノニアツテハ境界ハ鮮明デ、第3層ニ反應性白血球浸潤及ビ出血竈ガ認メラレル。次イデ病勢ノ進行ガ停止スルト、所謂分界線 (Demarkationslinie) ガ此ノ部ニ出現シ、更ニ肉芽組織ノ増殖ガ開始スル。余ハ特ニ上述ノ所見ノ有無ヲ精査シ、第3層ニ於テ分界線ノ形成セラレタモノヲ病勢ノ進行阻止セラレタ慢性型トシ、分界線ヲ認メズ、病竈ガ直チニ健康肺組織ニ移行スルガ如キ所見ヲ呈スルモノヲ急性型トシタ。余ノ57例中急性型ハ35例、慢性型ハ22例デアル(第1表参照)。

2. 肺壞疽發生ノ原因又ハ誘因。由來濕性壞疽 (feuchte Gangrän) トハ壞死ニ陥レル組織ニ Fäulnisreger ガ繁殖シ、組織ヲ溶解シ、蛋白質、脂肪等ノ分解産物ヲ產生シ、甚ダシキ惡臭ヲ放ツヲ言フノデアルガ、從來其ノ Fäulnisreger, 特ニ肺壞疽ノ病原菌ニ關シテハ諸説異論ガ多カツタ。然シ現在デハ概ネ fusiforme Bazillen 及ビ Spirochäten (bes. Sp. dentium) ヲ指摘スルガ、參木博士ノ研究ニヨリ是等ニ更ニ Cladothrix putridogenes (Veszprémi) ガ加ハリ、3者ノ共生寄生ニヨリ初メテ肺壞疽ガ惹起サル、コトガ確認サレタ。從ツテ肺壞疽ノ成立ニハ當然上述ノ病原菌ガ何等カノ方法ニヨリ肺内ニ輸入サレネバナラス。古來其ノ發生機轉ニ關シテハ、Traube, Kissling, Lauche 等ノ見解ガ披瀝セラレテキルガ、余ハ以下ノ如ク考フルコトガ理論上最モ妥當ト思考スル。

1) 吸引性發生(氣道感染)。氣道ヲ通ジテ病原體ガ肺ニ到達スルモノデ、氣道自身、其ノ他ニ腐敗性變化ガ存スル場合(腐敗性氣管炎乃至氣管支炎、口腔咽頭部ニ於ケル腐敗性潰瘍、水瘡等)或ハ病原菌ヲ含シテ物質ヲ誤ツテ吸引スル場合(意識濁濁、泥醉、延髓麻痺、Diphtherie 等ニ於ケル咽頭麻痺、腦疾患、例ヘバ腦腫瘍、麻痺性癱瘓等ノ際、食道痛、縱隔竇瘻等ニ由リ嚥下障礙ノアル際)ニ見ラレル。2) 血行性發生。病原菌ガ血行ヲ介シテ肺ニ輸入セラレ、所謂栓塞性肺壞疽ヲ起スモノデ、其ノ原發疾患トナリ得ルモノニハ腐敗性壞疽性子宮內膜炎、其ノ他女性生殖器ノ疾患、蟲樣突起炎、褥瘡、腐敗性中耳炎、腐敗性潰瘍性腸疾患等ガアリ、之等ノ場合ハ主ニ全身敗血症ノ一隨伴現象ト見做サレルコトガ多イ。3) 直達性發生。是ハ胸部ニ於ケル外傷(例ヘバ貫通銃創、刺創等)ノ腐敗性化膿性感染、食道痛及ビ其ノ附近ノ腫瘍ノ穿孔セル場合、肺ニ先驅的疾患(肺炎、氣管枝擴張症、肺結核等)ヲ有シ、二次的ニ本症ヲ續發スル場合等デアル。

以上ノ觀點ヨリ余ノ調査セル57例ニ就テ肺壞疽ノ誘因疾患別頻度ヲ表示シ、Henselノ73例、華岡ノ11例ト比較對照スレバ、第2表ガ得ラレル。余ノ成績ハ本體ニ於テ Henselノ夫レニ近

第 2 表 肺壞疽ノ誘因疾患

誘 因 疾 患	肺 炎	壞 疽 性 口 腔 炎	壞 疽 性 起 膿 樣 炎	胸 打 部 撲	胸 部 刺 創	敗 血 症	腦 腫 瘍 並 ビ 患	食 道 痛 及 ビ 胃 瘻	壞 內 疽 性 膜 子 宮 炎	肺 結 核	氣 管 枝 擴 張 症	原 不 因 明	計
Hensel 1887	例數 14	10	0	6	0	10	2	11	2	12	5	1	73
	% 19.0	13.7	0	8.2	0	13.7	2.7	15.1	2.7	16.4	6.8	1.4	
華岡 1931	例數 3	4	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	11
	% 27.3	36.4	0	9.1	0	0	0	9.1	0	0	18.1	0	
堺 1938	例數 11	11	3	1	1	3	9	6	2	2	1	7	57
	% 19.3	19.3	5.3	1.8	1.8	5.3	15.4	10.5	3.5	3.5	1.8	12.3	

似スルガ、仔細ナ點デハ多少趣ヲ異ニシ、余デハ肺炎後及ヒ壞疽性口腔炎(及ヒ扁桃腺炎)ニ續發スルモノガ最も多ク、次イデ第3位ハ腦腫瘍乃至腦疾患、第4位ハ食道癌及ヒ胃癌ナルガ、Henselデハ肺炎後、肺結核、食道癌及ヒ胃癌ノ順序デ、第4位ガ口腔炎及ヒ敗血症ナル。又前記ノ發生機轉ヨリ大別スレバ、57例中胸部或ハ肺自身ノ疾患ニ續發シタト思考サレルモノハ22例(38.6%)、吸引性20例(35.1%)、血行性8例(14.0%)デアツテ、肺壞疽ハ胸部疾患ニ續發スルモノガ最も頻回デ、次イデ吸引性ニ發生シ、血行性ニ發生スルモノハ前2者ニ比較スレバ、遙カニ寡イノガ識ラレル。

3. 肺壞疽ノ病型ト誘因疾患、既ニ第1項ニ述ベタ所ニヨリ自驗例ヲ急性、慢性ノ兩型ニ別テ、病型ト誘因疾患トノ關係ヲ觀察シ、第3表ニ示スガ如キ成績ヲ得タ。之ニ依ルト慢性型肺壞疽ノ

第3表 肺壞疽ノ病型ト誘因疾患 (例數ニテ示ス)

誘因疾患	肺炎	壞疽性炎症	壞疽性起蟲樣炎	胸打撲	胸刺創	敗血症	腦腫瘍及ヒ腦疾患	食道癌及ヒ胃癌	壞疽性膜子宮炎	肺結核	氣管擴張症	原因不明	計
急性型	7	10	2	1	1	1	4	4	2	0	1	2	35
慢性型	4	1	1	0	0	2	5	2	0	2	0	5	22

誘因疾患トシテハ腦腫瘍及ヒ腦疾患、肺結核等ノ慢性疾患ガ多ク、又急性型肺壞疽ハ壞疽性口腔炎、壞疽性子宮內膜炎等ノ急性疾患ニ關聯シテ惹起サレル傾向ガアル。斯様ニ誘因疾患ノ種別ガ肺壞疽病竈ノ病變進行ノ程度ニ或程度ノ關係ヲ持ツ事實ハ興味深ク感ゼラレル。

4. 肺壞疽ノ好發年齡、調査例數57例ノ寡キニ鑑ミ、年齢ヲ幼年期(1~15歳)、青年期(16~25歳)、壯年期(26~50歳)、老年期(51~70歳)ノ4期ニ大別シ、Henselノ成績ト比較觀察スルニ、兩者ハ略々一致スル。即チ壯年期ニ於テ最高ノ罹患率ヲ示シ、老年期之ニ次ギ、一般ニ高年齢者ノ罹患シ易イコトガ判明スル。然シHenselノ成績デハ15歳未満ノ小兒ニ罹患ガ無イガ、余デハ8例ヲ算シ、此ノ點デ兩者ハ趣ヲ異ニスル。

第4表 肺壞疽剖檢例ノ年齢別區分 (例數ニテ示ス)

年齢	幼年期		青年期	壯年期	老年期		不明	計
	1歳以下	1-15歳	16-25歳	26-50歳	51-70歳	70歳以上		
Hensel 1887	0	0	6	41	16	7	3	73
堀 1938	2	6	9	26	14	0	0	57

5. 性別、第5表ニ示ス如ク、男子ノ肺壞疽罹患率ハ剖檢上、臨牀上共ニ女子ノ夫レヨリ2~3

第5表 肺壞疽ノ性別

報告者	年次	調査資料	總數	男	女	男:女
Smith	1932	臨牀例	604	426	178	3:1
佐藤	1938	"	276	229	47	5:1
Hensel	1887	剖檢例	73	51	22	2:1
堀	1938	"	57	39	18	2:1

倍丈大ナル。是ハ恐ラク職業並ビニ嗜好關係(例ヘバ喫煙、飲酒等)ガ大イニ影響シテ居ルノデアラウ。

6. 好發部位、余ノ調査例57例デハ病竈ハ右肺ニ頻發シ、此ノ關係ハ特ニ吸引性及ヒ胸部疾患ニ續發スル様ナ場合ニ顯現スル(第6表)。肺葉中、左右兩肺ノ下葉ガ好シク胃サレ、次イデ上

第6表 感染経路ト病竈ノ好發部位 (例數ニテ示ス)

感染経路	吸引性	血行性	胸部疾患ニ續發	不明	計
右肺	10	2	14	4	30
左肺	3	5	5	2	15
兩肺	7	1	3	1	12
計	20	8	22	7	57

葉ナル。是ニ反シ、佐藤及ヒ篠井氏ハ肺壞疽ハ臨牀統計上デハ上葉ニ好發スルト述ベル(患者244例中56%)。然シ氏等モ亦、剖檢上デハ病竈ガ斷然下葉ニ多イ事ヲ認メ、是ヲ下葉ノ肺壞疽ハ豫後不良デ、死ノ轉歸ヲ採ル事ガ多イ事實ヲ以テ説明シテ居ル。余等ハ併シ是ノミトハ限ラズ、下葉ノ肺壞疽ガ臨牀上早期ニ發見サレ難イノデハナカラウカト考ヘル。夫レ故ニ又豫後ガ不良トナル譯ナル。

次ギニ肺壞疽ノ病型ト罹患側及ヒ罹患肺葉トノ關係ヲ調査シタガ、第7表ニ示ス如ク、其ノ間ニ特殊ノ關係ヲ見出シ得ナカツタ。

第7表 肺壞疽ノ病型ト罹患肺葉 (例數ニテ示ス)

肺葉	上葉	中葉	下葉	上下葉	中下葉	上中葉	全葉	計	肺葉	上葉	中葉	下葉	上下葉	中下葉	上中葉	全葉	計
	急慢性型	慢性型	急性型	慢性型	急性型	慢性型	急性型			慢性型	急性型	慢性型	急性型	慢性型	急性型	慢性型	
右肺	2	0	6	3	2	0	6	19	慢性型	4	0	1	1	1	1	3	11
左肺	3		4	1			1	9	急性型	2		3	0			1	6
兩肺	1		2	2	0	0	2	7	慢性型	0		1	3	0	0	1	5
計	6	0	12	6	2	0	9	35	急性型	6	0	5	4	1	1	5	22

結 論

- 1) 病理組織學的ニ肺壞疽ノ病竈ヲ4層トナス Bonome ノ區分法ハ多クノ例デ實際ノ所見ニ適合シナイ。故ニ余ハ恩師木村教授ニ從ヒ、壞死層、組織陰影層、比較的健康層ノ3層ニ區分スルノガ妥當ト信ズル。
- 2) 肺壞疽ハ其ノ發生機轉上、胸部疾患ニ續發スル事最モ多ク、吸引性發生ハ是ニ亞ギ、血行性發生ハ前2者ニ比スレバ遙カニ寡イ。誘因疾患トシテハ肺炎及ビ壞疽性口腔疾患ガ最モ頻回デアル。
- 3) 肺壞疽ハ其ノ誘因疾患ノ急性或ハ慢性ノ種別ニ從ヒ、急性型或ハ慢性型ヲ示ス傾向ガアル。
- 4) 高年者ハ肺壞疽ニ罹患スル事多ク、又男性ハ女性ノ約2倍ノ罹患率ヲ示ス。
- 5) 剖檢上壞疽ノ最好發部位ハ左右兩肺ノ下葉デ、次イデ上葉ニ多イ、特ニ吸引性及ビ胸部疾患ニ續發スル様ナ場合ニハ右肺下葉ヲ胃ス。

稿ヲ終ルニ臨ミ、御校閱ヲ賜リタル木村教授並ビニ御教示ヲ辱フセル參木錦司博士ニ深謝ヲ捧グル。

主要引用文献

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1) Bonome, A., Dtsch. med. Wschr., Jg. 12, 1886, S. 932. 2) Fränkel, Spezielle Pathologie u. Therapie d. Lungenkrankheiten, 1904. 3) Hensel, P., Dtsch. Arch. f. klin. Med., Bd. 41, 1887, S. 185. 4) Kissling, Ergebn. d. inn. Med. u. Kinderheilk., Bd. 5, 1910, S. 38. 5) Lauche, A., Handb. d. speziell. pathol. Anat. u. Histol. v. Henke u. Lubarsch, Bd. 3, Tl. 1, 1928, S. 701. | <ol style="list-style-type: none"> 6) Traube, zit. n. Fränkel. 7) 華岡陽之助, 十全會雜誌, 第36卷, 昭和6年, 1634頁. 8) 木村男也, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第42卷, 昭和12年, 213頁. 9) 參木錦司, 日本病理學會會誌, 第27卷, 昭和12年, 144頁. 10) 佐藤清一郎及ビ篠井金吾, 臨床畫報, 第8卷, 第9號, 昭和13年, 1頁. 11) 同人等, 日本醫事新報, 第818號, 昭和13年, 1655頁. |
|---|---|

胎兒臟器ノ重量統計

(挿入表14及ビ挿入圖8)

東北帝國大學醫學部病理學教室 (主任 木村教授)

學生 栗 田 豊

Stud. med. Yutaka Kurita

緒 言

從來ノ胎兒ニ於ケル臟器ノ重量統計ヲ見ルニ、統計材料ハ或ハ胎兒ノ體重、或ハ妊娠月ヲ基準トシテ區分セラル (Cruickshank u. Miller, Wetzel). サレド體重ハ種々ノ要約下ニ極メテ容易ニ變動ヲ來スモノナル故、基準トシテ甚ダ不適當ナリ。又所謂妊娠月ノ信憑度渺キハ言ヲ俟タズ。以茲、余ハ胎兒ノ發育ト最モ良ク平行シ且ツ外部的條件ニ依リ左右サレ難キ胎兒ノ身長ヲ區分ノ標準トセル重量統計ヲ企圖セリ。

先天性微毒胎兒ニテ各種ノ臟器實質ニ發育不全ヲ證明スルハ萬人ノ識ル所ナリ。然ルニ吾人ハ2, 3ノ臟器ニテハ却テ外見上腫大セルモノニ遭遇ス。即チ先天性微毒ニ際シ、各種ノ臟器重量ハ正常値ヨリ正又ハ負ノ偏倚ヲ示ス機會多シ。此ノ間ノ消息ヲ正確ナル正常値ヲ以テ對比、闡明スルハ、蓋シ意義大ナリト謂フ可ク、余ハ是ヲモ併セ研究セリ。

實驗材料並ビニ方法

材料ハ1916年ヨリ1936年ニ解屍セラレタル胎兒身長5cmヨリ60cmニ至ル808例ニシテ、腦、肝、腎(左右)、脾、胸腺及ビ脾ノ重量ヲ剖檢記録ヨリ蒐録セリ。材料ヲ間隔5cmノ身長階級別ニ整理シ、其ノ算術平均ヲ求メ、表示ス。猶毎常男女別觀察ヲモ行ヒ、又半對數圖ヲ以テ各臟器ノ生長率ヲ比較セリ。

次ギニ1931年以降ノ322例ニ就テ(總屍數356例ヨリ微毒例ヲ控除)、身長ト臟器重量トノ相關表ヲ作製シ、相關係數ヲ求ム。公式ヨリ

$$r = \frac{\sum f d_x d_y}{n \sigma_x \sigma_y}$$

ナレド (f ハ各級ノ例數、 d_x 及ビ d_y ハ各級ノ偏差、 σ_x 及ビ σ_y ハ標準偏差)、實際ノ計算ニハ

$$r = \frac{\sum f d'_x d'_y - n \omega_x \omega_y}{n \sigma'_x \sigma'_y}$$

ヲ以テセバ、簡便ナリ。但シ d'_x 、 d'_y 、 σ'_x 、 σ'_y ハ夫レ夫レ級間單位ヲ以テスル偏差及ビ標準偏差ニシ

テ、 ω 及 σ' ハ次式ニヨリ與ヘラル、

$$\omega = \frac{\sum fd'}{n}$$

$$\sigma' = \sqrt{\frac{\sum fd'^2}{n} - \omega^2}$$

又相関係数ノ平均誤差 m_r ハ

$$m_r = \frac{1-r^2}{\sqrt{n}}$$

ナリ。以上ノ公式ニ依リ r 及 m_r ヲ算出セリ。

最後ニ前記平均値ヲ曲線ニ描キ、是ニ 1931 年以降ニ剖檢セラレ、諸種ノ檢索上先天性嚙毒胎兒タルコト確定セル例 (34) ノ臟器重量ヲ配シ、比較觀察ス。

實驗成績及ビ考按

1. 平均重量。腦、肝、腎 (兩側)、脾、胸腺及ビ脾ノ身長階級別平均重量ハ第 1~6 表ニ示ス如

第 1 表 腦ノ平均重量

身長階級 cm	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	例數計
腦重量 g	男 8.1	3.8	16.5	34.6	63.8	106.5	146.5	237.7	344.7	399.1	285.0	367
	女 1.7	11.6	23.1	38.5	56.7	95.2	164.8	238.8	328.6	359.8	451.7	344
	計 5.9	9.3	19.1	36.5	60.7	100.3	154.8	238.2	336.1	384.2	396.1	711

第 2 表 肝ノ平均重量

身長階級 cm	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	例數計
肝重量 g	男 1.4	2.6	7.4	12.6	21.1	32.8	49.7	79.4	106.2	130.0	45.0	381
	女 1.0	3.3	8.3	14.0	21.3	37.7	47.4	89.1	118.6	152.3	171.0	358
	計 1.2	3.1	7.8	13.3	21.2	35.4	48.7	84.4	112.5	138.5	129.0	739

第 3 表 腎ノ平均重量

身長階級 cm	11-15	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	例數計		
腎重量 g	男	左		0.54	0.97	1.89	3.44	5.58	8.07	10.50	12.61	375	
		右		0.56	0.94	1.86	3.27	5.47	7.72	10.45	12.41	373	
	女	左	0.11	0.64	1.19	1.72	3.60	4.97	7.93	10.82	11.20	357	
		右	0.09	0.69	1.19	1.62	3.54	4.80	8.11	10.50	11.17	357	
	計	左	0.11	0.58	1.08	1.81	3.52	5.30	8.01	10.66	12.07	15.00	732
		右	0.09	0.61	1.08	1.76	3.41	5.16	7.93	10.47	11.92	14.75	730

第 4 表 脾ノ平均重量

身長階級 cm	11-15	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	例數計	
脾重量 g	男		0.16	0.33	0.97	1.85	4.27	8.33	8.67	10.11	3.50	364
	女	0.20	0.12	0.77	0.79	2.56	2.94	8.62	8.79	10.02	13.75	342
	計	0.20	0.13	0.56	0.89	2.24	3.66	8.48	8.73	10.01	10.33	706

第 5 表 胸腺ノ平均重量

身長階級 cm	11-15	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	例數計	
胸腺重量 g	男		0.20	0.32	0.96	1.98	3.43	5.23	9.57	9.67	9.00	379
	女	0.18	0.32	0.70	1.06	2.06	2.84	5.27	8.86	11.43	11.50	351
	計	0.18	0.25	0.52	1.00	2.03	3.16	5.25	9.22	10.29	10.66	730

第 6 表 脾ノ平均重量

身長階級 cm	11-15	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	例數計	
脾重量 g	男		0.16	0.32	0.69	0.84	1.57	1.92	2.28	3.20	1.00	333
	女	0.10	0.10	0.28	0.49	1.05	1.38	2.05	2.66	3.24	4.75	319
	計	0.10	0.15	0.30	0.60	0.96	1.48	1.99	2.47	3.22	3.50	652

シ。勿論當然ノ事ナレド、各臟器ノ重量ハ身長ノ増加ニ伴ヒ増大シ、其ノ状態ハ後記ノ第 2~8 圖ノ平均重量曲線ニテ明瞭ニ看取シ得。即チ脾ノ曲線ヲ除キ、兩餘ノ曲線ハ豫期以上ニ規則正シク上行シ、且ツ一般ニ凸面ヲ右下ニ向ケ彎曲スル傾向アリ (就中胸腺)、即チ胎生後半期ニ急劇ニ重量ノ増加スルヲ識ル。斯クテ胎生ノ末期ニハ腦ハ 390 g 内外、肝ハ 130 g 内外、腎ハ 13 g 内外、脾及ビ胸腺ハ約 10 g、脾ハ約 3.5 g ニ達ス。

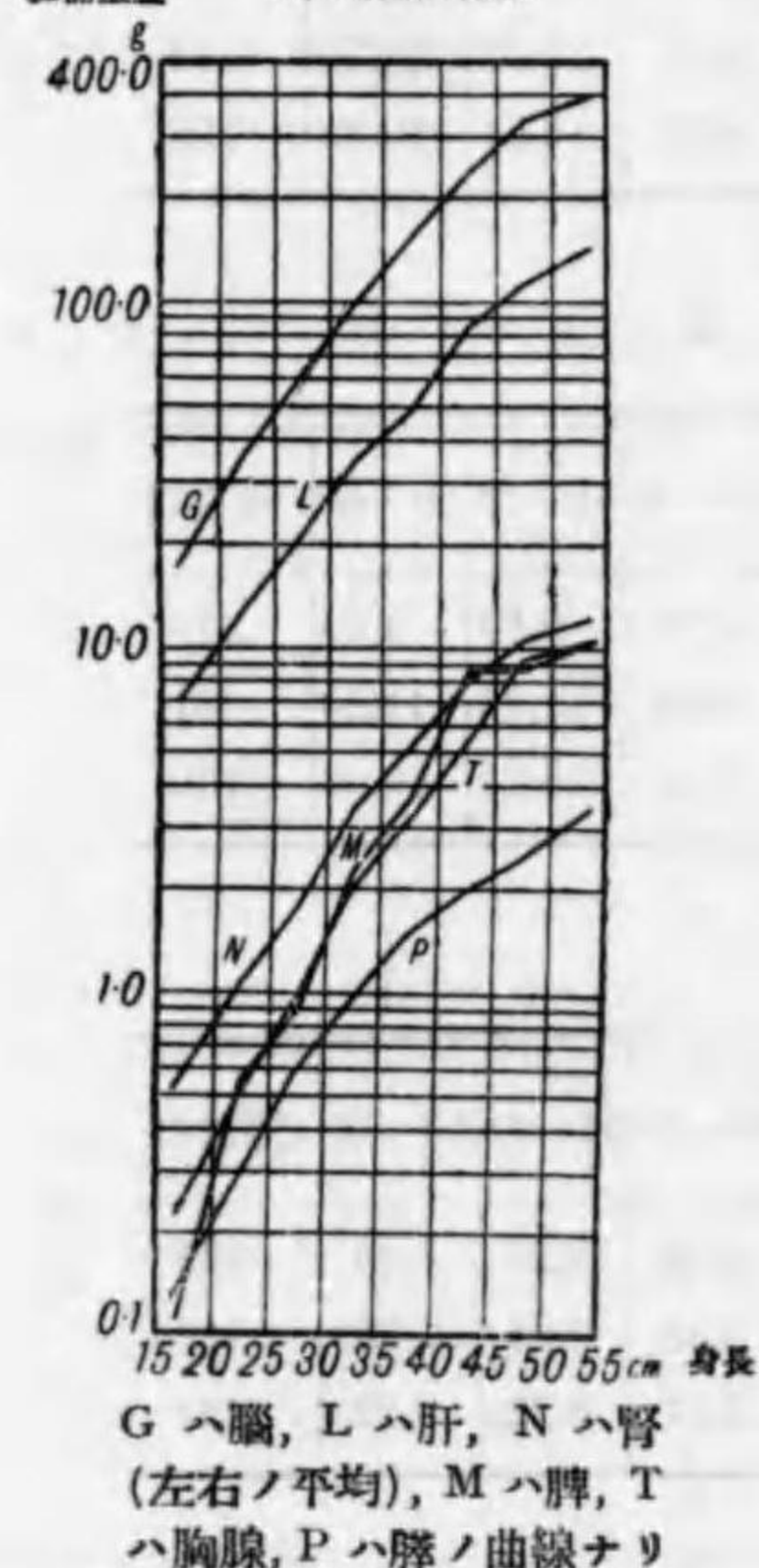
男女別ニテハ、腦、腎、脾、脾ハ兩者略々同等ニシテ、肝及ビ胸腺ハ女兒ニテ僅カニ重量大ナリ。サレド此ノ事實ハ、未ダ各身長階級ニ於ケル例數ガ充分大ナラザルニ鑑ミ、斷定的ニ主張セラザル可シ。

2. 生長率。各臟器ノ本來ノ重量間ニ絶大ナル差アリ、例ヘバ胎生末期ニテ腦重ハ 390 g ナルニ、脾重ハ 3.5 g ナリ。故ニ各臟器ノ生長ノ度合ヲ普通ノ方眼紙ニ描ケル傾向線ヲ以テ識リ得ズ、須ク半對數度標上ニ於ケル傾向線ヲ以テスベキナリ。斯クテ描ケルモノガ第 1 圖ニシテ、茲ニ生長率ト稱スハ、最初ノ臟器重量ヲ基 (分母) トセル臟器重量ノ増加ノ比率ナリ。

圖ニテ各曲線ハ略々近似セル傾斜ヲ示シ、只脾ニテ傾斜ガ稍々緩カナリ。即チ腦ガ 19 g (身長 16

~20 cm) ヨリ 384 g (51~55 cm) = 生長スル率モ、腎ガ 0.6 g (16~20 cm) ヨリ 12 g (51~55 cm)

第 1 圖
各臓器ノ成長率
(半對數度標)



= 生長スル率モ略々同等ナルヲ識ル (共ニ約 20 倍). 故ニ一般ニハ各臓器ハ胎兒ノ生育ニ伴ヒ、概ネ同等ノ生長率ヲ以テ生長スト稱シ得.

各曲線ハ凸面ヲ左上ニ向ケテ僅カニ彎曲シ、其ノ狀ハ特ニ脾及ビ腎ニテ明瞭ナリ. 是ハ各臓器ハ胎生ノ後半期ニテ急劇ニ重量ヲ増セド (前項記述), 増加率 (生長率) 自身ハ漸減ノ傾向ヲ有スヲ示唆ス.

3. 身長ト臓器重量トノ相關々係. 前述ノ如ク、身長ノ增加 (即チ胎兒ノ生長) = 伴ヒ、臓器ノ重量モ増加ス、即チ胎兒ノ身長ト臓器ノ重量間ニ順相關ガ成立ス. 是ヲ更ニ精密ニ吟味センガ爲メニ、1931 年以降ノ胎兒 322 例 (微毒兒ヲ除外) = 就テ第 7~13 表ノ相關表ヲ作製セリ. 表ヨリ既ニ (特ニ第 7~10 表) 相當高度ノ順相關ノ存スルヲ察知スルニ難カラズ. 更ニ表ヲ利用シ、既記ノ計算法ニ從ヒ、相關係數 r 及ビ其ノ平均誤差 m , ヲ算出セバ、第 14 表ノ如シ. 相關係數ハ全ベテ平均誤差ノ 19~68 倍ニ達ス、即チ其ノ信頼度甚ダ高シト看做シテ可ナリ.

第 7 表 身長ト腦重量トノ相關表

cm \ g	11-15	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	Σ
1-50	1	6	28	13	2	2					52
51-100			2	30	26						58
101-150			1		14	17		3	1		36
151-200						22	4	2			28
201-250				1		1	13	2			17
251-300						3	12	5	3		23
301-350						1	1	9	3		14
351-400					1		2	14	8		25
401-450								8	7		15
451-500								1	3	1	5
Σ	1	6	31	44	43	46	32	44	25	1	273

第 8 表 身長ト肝重量トノ相關表

cm \ g	11-15	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	Σ
1-20	1	7	28	19	2	1					58
21-40			2	23	36	12	2	1			76
41-60			1		5	34	3	2	2		47
61-80						1	19	5			25
81-100							9	7			16
101-120								13	7		20
121-140							3	9	4		16
141-160							1	3	4		8
161-180								2	5		7
181-200								3	2	1	6
201-220									2		2
Σ	1	7	31	42	43	48	37	45	26	1	281

第 9 表 身長ト左腎重量トノ相關表

cm \ g	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	Σ
0.1-2.0	7	29	29	7						72
2.1-4.0		2	15	26	15					58
4.1-6.0			1	9	23	6	1			40
6.1-8.0				2	9	14	5	2		32
8.1-10.0						7	12	3		22
10.1-12.0					2	5	8	7		22
12.1-14.0					1	1	7	6	1	16
14.1-16.0				1			6	6		13
16.1-18.0							2	1		3
18.1-20.0							2	1		3
20.1-22.0					1	1				2
Σ	7	31	45	45	51	34	43	26	1	283

第 10 表 身長ト右腎重量トノ相關表

cm \ g	cm									Σ
	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	
0.1-2.0	7	28	28	10						73
2.1-4.0		3	5	24	16					58
4.1-6.0			1	8	21	7	2			39
6.1-8.0				2	9	10	5	1		27
8.1-10.0						11	12	4		27
10.1-12.0					3	3	9	7		22
12.1-14.0				1	1	1	10	6	1	20
14.1-16.0						1	3	5		9
16.1-18.0							2	3		5
18.1-20.0							2			2
Σ	7	31	34	45	50	33	45	26	1	282

第 11 表 身長ト脾重量トノ相關表

cm \ g	cm									Σ
	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	
0.1-2.0	7	29	39	38	22	2				137
2.1-4.0		2	2	3	20	13	5			45
4.1-6.0				2	8	6	10	2		28
6.1-8.0						8	12	11		31
8.1-10.0						1	3	2		6
10.1-12.0						2	9	5		16
12.1-14.0						1	3	3	1	8
14.1-16.0							2	2		4
16.1-18.0							1			1
18.1-20.0										0
20.1-22.0										0
22.1-24.0										0
24.1-26.0								1		1
Σ	7	31	41	43	50	33	45	26	1	277

第 12 表 身長ト胸腺重量トノ相關表

cm \ g	cm									Σ
	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	
0.1-2.0	7	28	40	22	12	1	2	1		113
2.1-4.0		2	3	19	23	6	1			54
4.1-6.0				3	11	7	2			23
6.1-8.0			1		2	6	4	4		17
8.1-10.0					2	7	8	8	1	26
10.1-12.0						5	7	6		18
12.1-14.0							11	5		16
14.1-16.0							3	2		5
16.1-18.0										0
18.1-20.0						1	2			3
20.1-22.0						1	1			2
22.1-24.0							2	1		3
Σ	7	30	44	44	50	34	43	27	1	280

第 13 表 身長ト脾重量トノ相關表

cm \ g	cm									Σ
	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	
0.1-0.5	4	20	24	10	4	1				63
0.6-1.0		4	9	17	15					45
1.1-1.5				7	15	6	6	2		36
1.6-2.0			3	2	5	7	12	2		31
2.1-2.5			1	2	1	3	10	3		20
2.6-3.0			1		2	4	6	4		17
3.1-3.5						1	4	4		9
3.6-4.0						2				2
4.1-4.5					2		6	4		12
4.6-5.0								1		1
5.1-5.5				1	1		2	4		8
5.6-6.0										0
6.1-6.5					1				1	2
6.6-7.0					1					1
7.1-7.5										0
7.6-8.0										0
8.1-8.5								1		1
Σ	4	24	38	39	47	24	46	25	1	248

第 14 表
相 關 係 數 及 び 平 均 誤 差

臓 器	r	m _r
腦	+0.885	0.013
肝	+0.848	0.017
左 腎	+0.836	0.018
右 腎	+0.843	0.017
脾	+0.748	0.026
胸 腺	+0.749	0.026
膀	+0.674	0.035

身長ト臓器重量間ニ大ナル順相關係數ガ算出セラル、事ハ、該臓器ガ身長ノ増加ニ伴ヒ、高度ノ規則正シサヲ以テ(略言スレバ、殆ンド例外ナク)且ツ身長ノ増加ニ對シ一定セル比率ニ於テ増大スルヲ意味ス。故ニ茲ニテハ重量増加ノ程度、即チ生長率ノ如何ハ問題ノ埒外ニ置カル(生長率低キ臓器ト雖、夫レガ胎兒ノ生育ニ伴ヒ、例外無ク一定ノ比率ニ於テ増大スルナレバ、高度ノ順相關係數ガ成立ス)。

第 14 表ヨリ、各臓器ハ身長ト相當高度ノ順相關係ヲ有シ、就中腦、肝及ビ腎ニテ其ノ傾向大ナリ。即チ是等ノ臓器ハ身長ノ増加ニ平行シテ、規則正シク増大スルヲ識ル。是ニ反シ、脾ハ腦、肝等ニ比シ相關係程度著シク低シ。然レ共是ヲ以テ直チニ、脾ガ身長ノ増加、即チ胎兒ノ生長ニ比例シテ、規則正シク増大スルモノニ非ズト結論スルハ甚ダ早計ナリ。表ニテ明カナル如ク、臓器本來ノ重量ガ大ナルモノ程、相關係數ハ大ナリ。是ハ重量ノ小ナル臓器ニ於ケル程、臓器ヲ摘出スル際ニ生ズル誤差(Technikfehler、即チ臓器ノ一部ヲ殘存セシメ、或ハ餘分ノ組織ヲ臓器ニ附着セシメタ儘秤量スル事等)ガ相關係數ニ大ナル影響ヲ及ボスヲ意味ス。上述ノ誤差ハ又臓器ノ周圍ニ對スル關係ニ依リ左右セラル。例ヘバ胸腺及ビ膀ノ如ク、周圍組織ト廣ク癒着シ、臓器ノ境界ガ明確ナラザルモノニテハ Technikfehler ヲ來ス危險多ク、是ニ反シ腦、肝、脾等ニテハ臓器ノ計量以前ニ起リ得ル誤差ハ寡シ(或ハ略々同等ト看做シ得ルナラム)。

斯カル關係ヨリ、余ハ胸腺及ビ膀ニテ相關係數ノ小ナルハ本質的ナモノニ非ズ、主トシテ計量以前ノ誤差ニ歸因スト思考ス。然ルニ計量以前ノ誤差ガ略々同等ト看做サレ得ル腦及ビ脾ノ兩者ニテ、相關係數ノ差ハ稍々顯著ナリ。其ノ差ノ由テ來タル所ヲ検討スルニ當リ、先ヅ生物測定學的ニ差ノ有意性ヲ判定スル必要アリ。此ノ目的ニハ

$$\alpha = \frac{r_1 - r_2}{\sqrt{m_1^2 + m_2^2}}$$

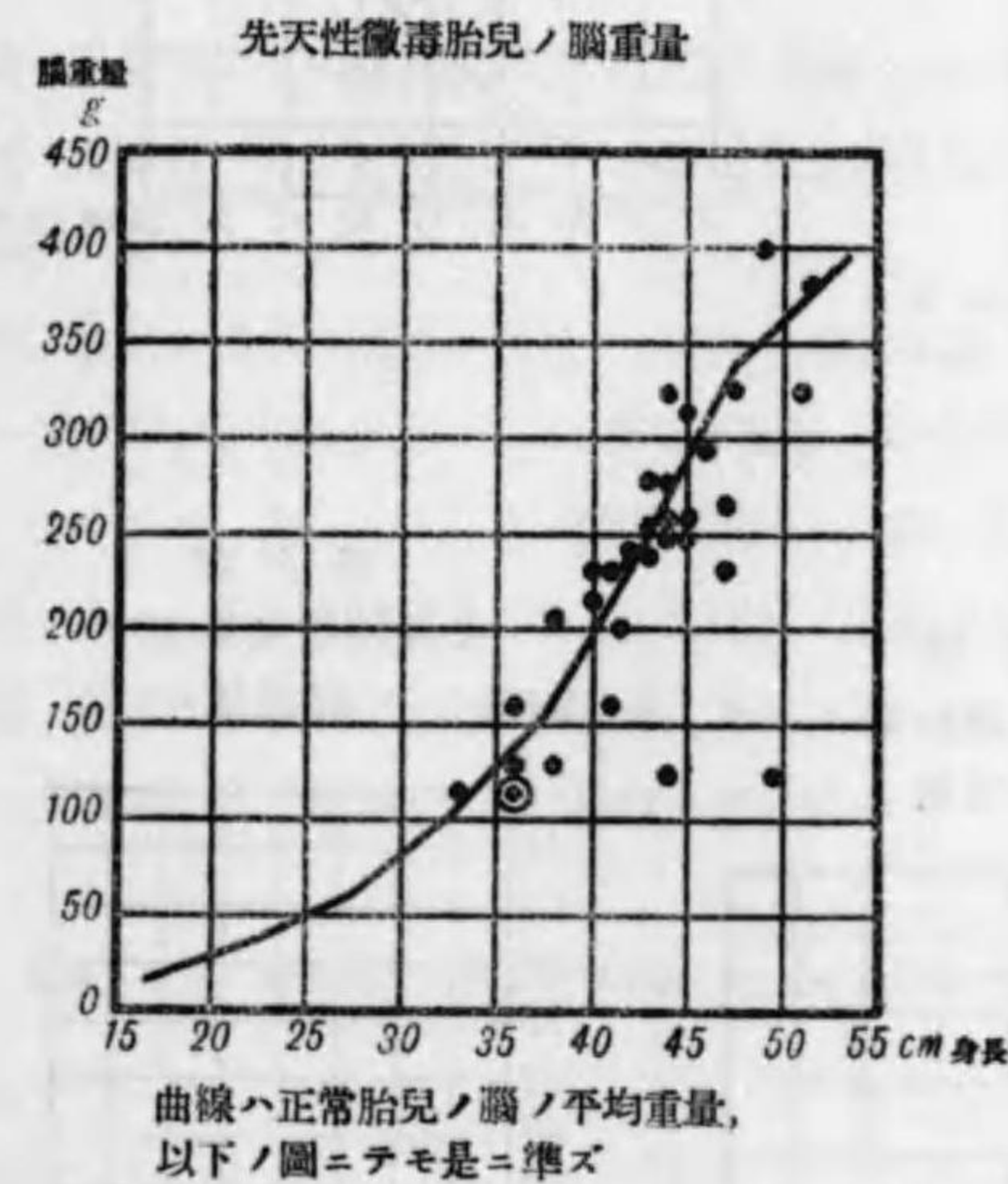
ノ α ヲ求メ、若シ是ガ 3 ヨリ大ナレバ、差ハ有意、若シ小ナレバ無意、即チ偶然誤差ト認ム。計算ニヨリ腦及ビ脾ニテ α=4.7 ヲ得。即チ兩者間ニ於ケル相關係數ノ差ハ有意ニシテ、單ナル偶然誤差(Technikfehlerニ非ズ、主トシテ sampling error)ニ由來セズ、ヨリ本質的ナ因子ニ基ヅクモノナリ。具體的ニ云ヘバ、脾ハ腦ノ如ク規則正シク、身長ノ増加ニ伴ヒ増大スルモノニ非ズ。周知ノ如ク、脾ハ常時搏動ヲ營ミ、又其ノ容積及ビ重量ハ種々ノ要約下ニ容易ニ變動ヲ來ス。是等ノ理由ニ因リ脾重ガ身長ト、腦ニ於ケルガ如キ良好ナル相關係ヲ示サマルニ至ルナラン。

腎ノ重量ハ略々脾ニ匹敵ス、然モ前者ハ後者ニ比シ遙カニ高キ相關係傾向ヲ示セリ。是腎ニテハ

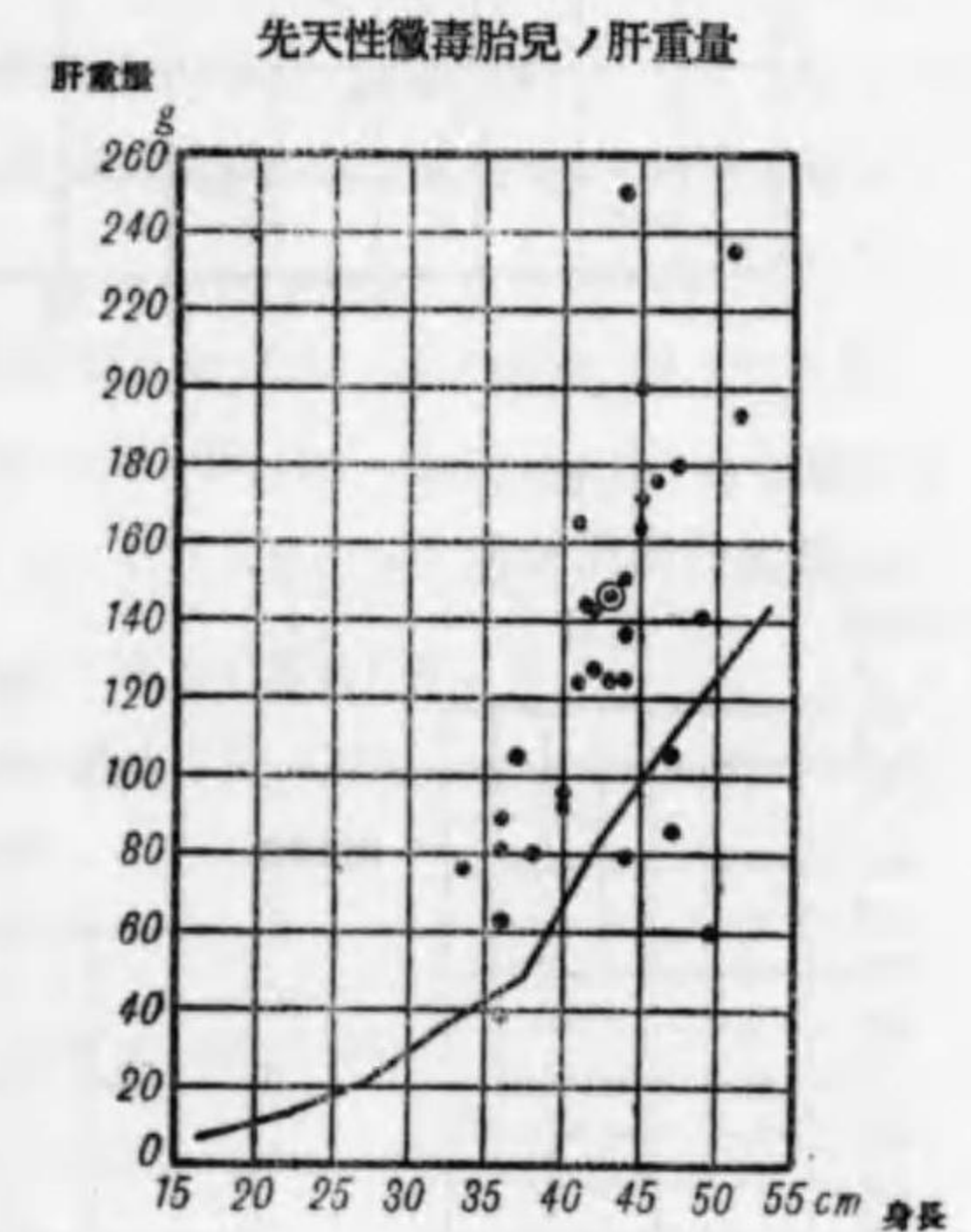
其ノ重量ニ變動ヲ來スガ如キ外的因子少キニ由ル。又左右兩腎ハ略々同等ノ相關係數ヲ與ヘ、其ノ差 0.007 ハ生物測定學的ニ無意義ナリ(α=0.3)、即チ相關係傾向ハ全然同一ト認定シ得。是理ノ當然ノ事實ナレド、又脾ノ相關係傾向ト對比スレバ、意義大ナリ(兩腎及ビ脾ノ Technikfehler 等ニ基ヅク誤差ハ同等ニシテ、且ツ兩腎ハ同様ノ相關係數ヲ與フ、是ニ反シ、脾ノミハ相關係數明カニ小ナリ、是脾ニテハ相關係傾向不良ナラシムル因子ガ内在スルヲ示唆ス、猶右腎及ビ脾ニ於テ α=3.1 ニシテ、相關係數ノ差ハ有意ナリ)。

4. 先天性微毒胎兒ノ臓器重量。第 1~6 表ニ於ケル各臓器ノ平均重量ヲ曲線ニ描キ、是ニ先天性微毒胎兒ノ臓器重量ヲ配セバ、第 2~8 圖ヲ得。第 2 圖ニテ先天性微毒胎兒ノ腦重ハ正常胎兒ノ平

第 2 圖



第 3 圖

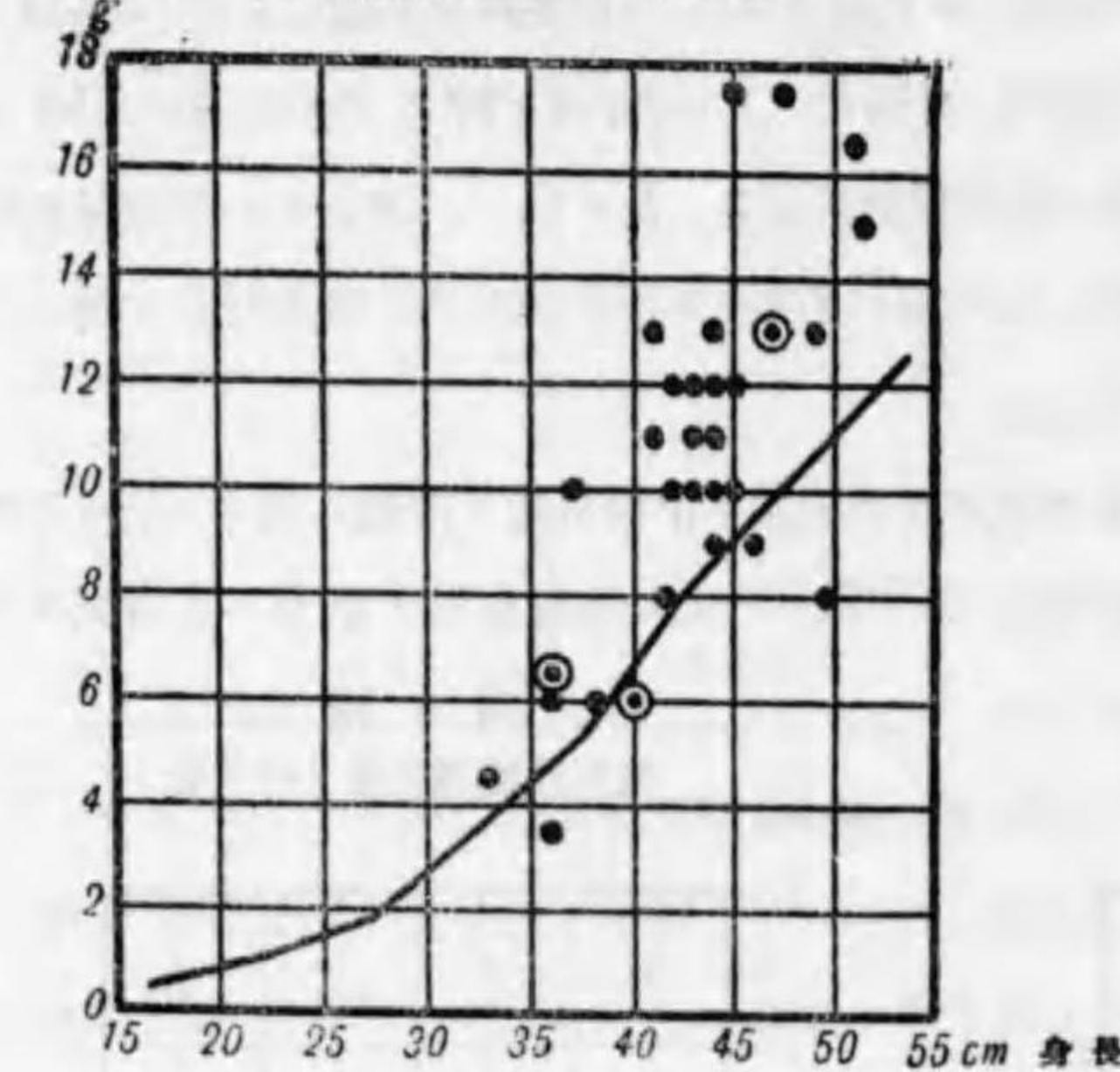


均腦重曲線ノ周圍ニ蟻集シテ分布シ、即チ先天性微毒ニ際シ、腦重ハ何等影響ヲ蒙ラザルヲ示ス。

然ルニ微毒胎兒ノ肝、腎、脾及ビ膀ノ重量ハ大多數正常胎兒ノ平均重量曲線ノ上位ニ在リ(第 3, 4, 5, 6 及ビ 8 圖)、其ノ傾向ハ肝及ビ脾ニテ顯著ニシテ、平均重量ノ 2~3 倍ナルモノ然ク稀ナラズ。即チ是等ノ臓器ハ先天性微毒ノ際腫大ヲ來ス。サレド周知ノ如ク、本病ニテハ是等ノ臓器ノ實質組織モ發育不全ニ陥ルヲ常トシ、從ツテ其ノ腫大ノ原因ニ關シテハ不明ノ點多々有リ、古來醫血ガ重視セラル。吾教室ニ於ケル恩師木村教授、増田博士、釜薙及ビ長田學士ノ研究成績ニ從ヘバ、醫血ハ脾及ビ肝ニテハ稍々顯著ナレド、其ノ他ニテハ高度ナラズ、是ヲ以テ腫大ノ成立ヲ説明スルハ不當ニシテ、腫大ノ原因ハ主トシテ Syphilisspirochäten ノ毒素ノ作用ニヨル mesenchymale Elemente ノ反應性増殖(或ハ間質性炎)及ビ造血管ノ胎殘乃至機能亢進(微毒性貧血ニ對スル代

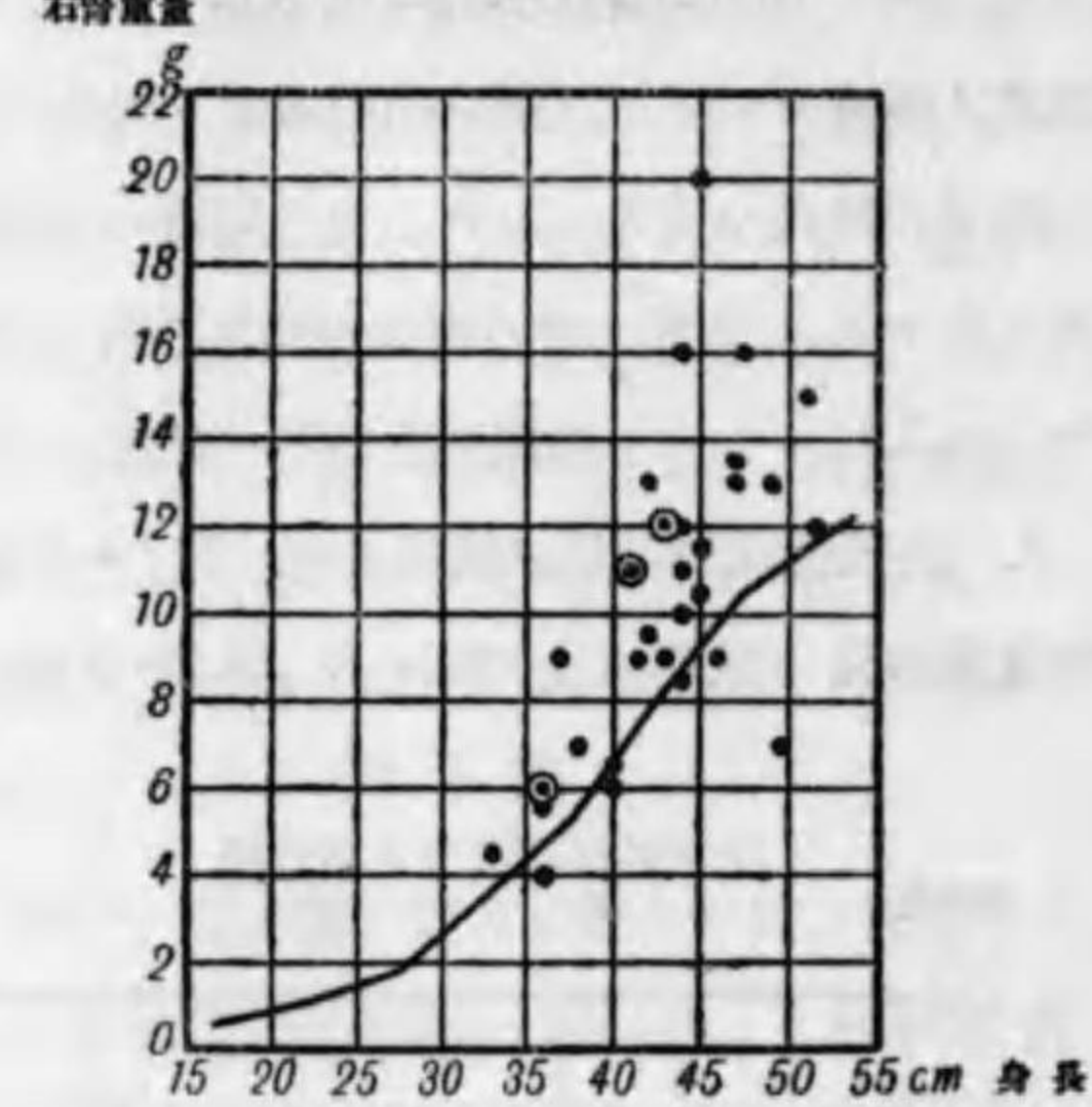
第4圖

先天性微毒胎兒ノ左腎重量



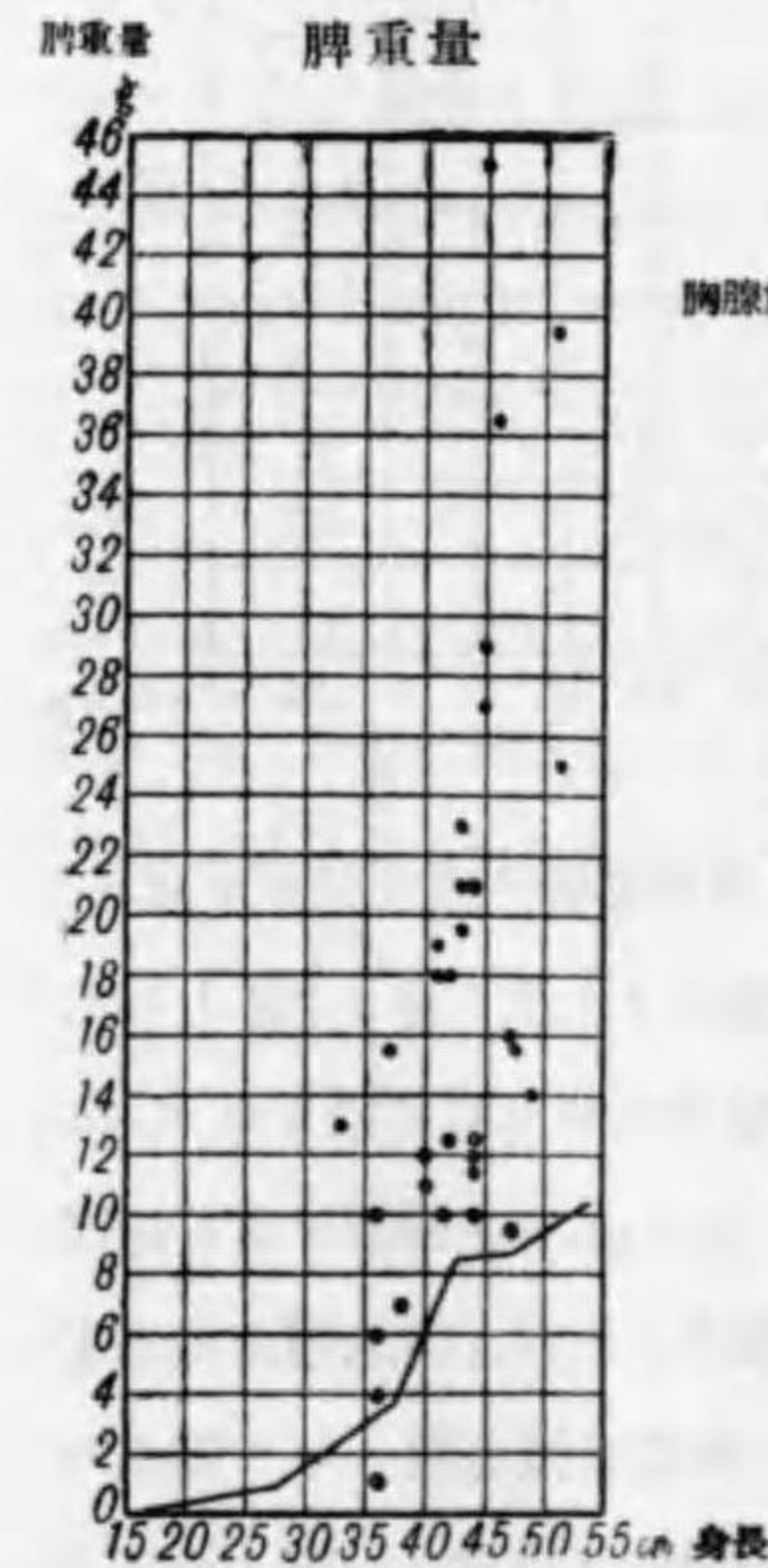
第5圖

先天性微毒胎兒ノ右腎重量



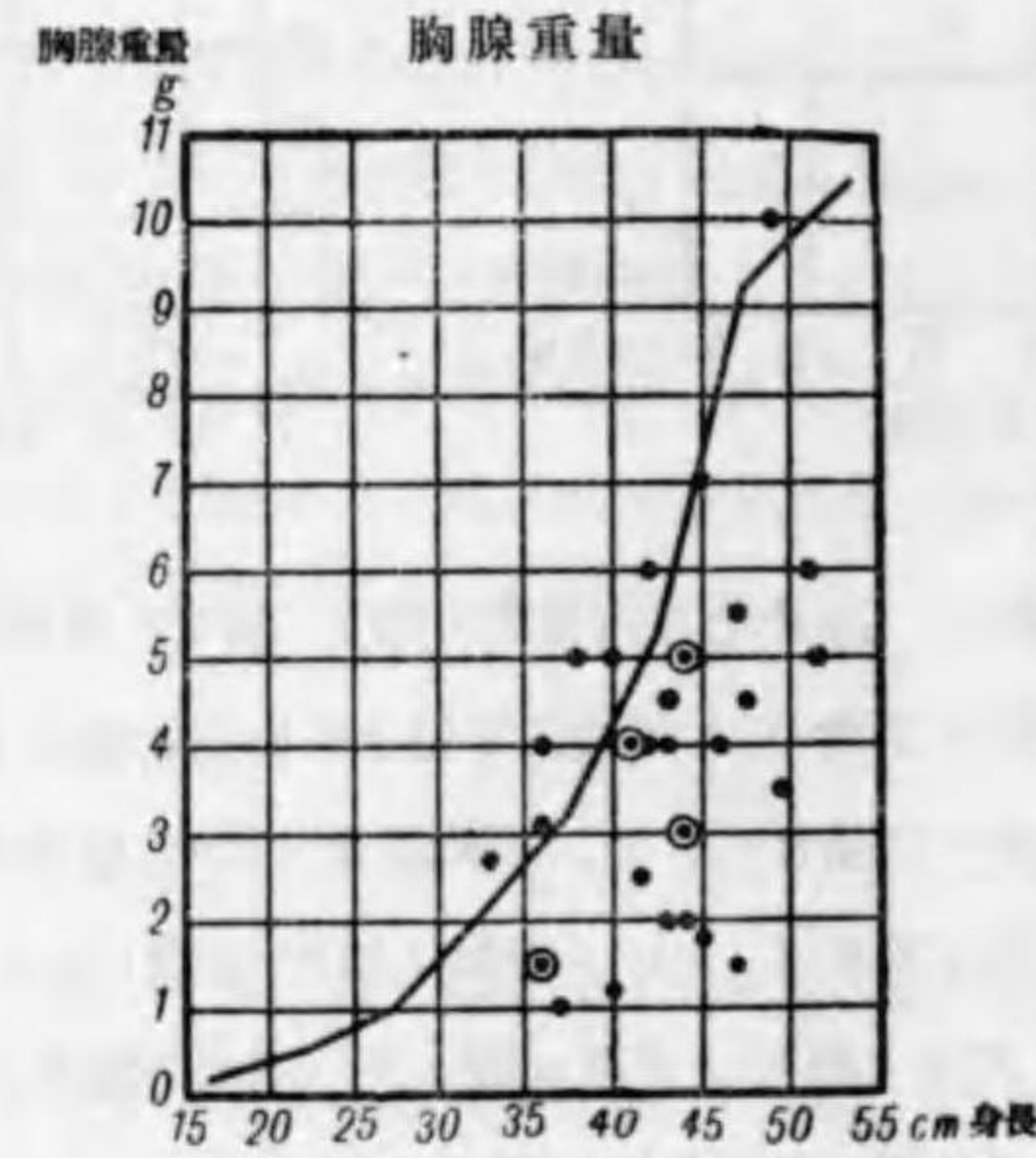
第6圖

先天性微毒胎兒ノ脾重量



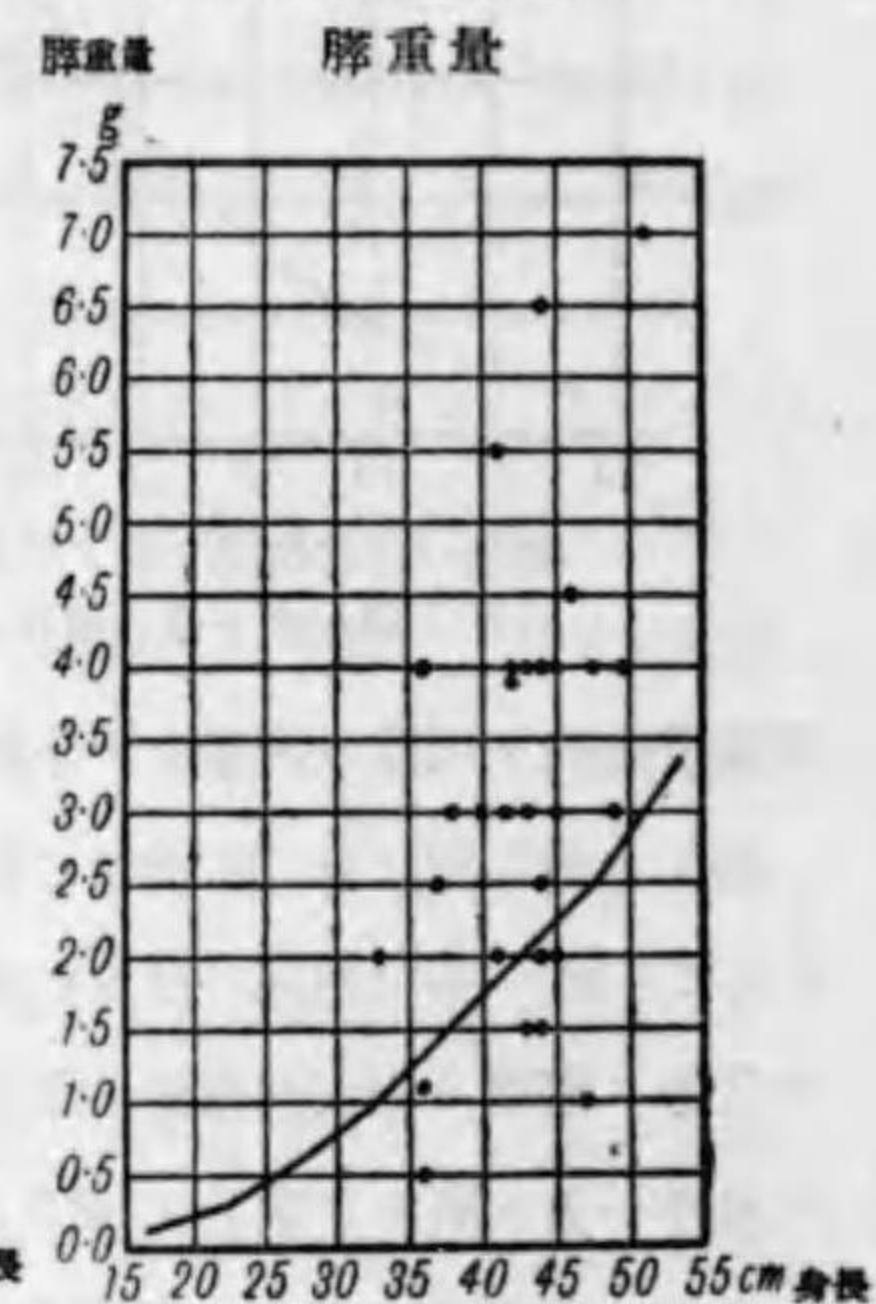
第7圖

先天性微毒胎兒ノ胸腺重量



第8圖

先天性微毒胎兒ノ肺重量



償換轉) = 求メラル可キナリ。兩者ハ特ニ肝及ヒ脾(脾ニ於ケル mesenchymale Wucherung ハ所謂髓増殖 Pulpahyperplasie) ニテ高度ニシテ、從ツテ兩臟器ノ腫大ハ顯著ナリ。

肝, 脾等ニ反シ, 微毒胎兒ノ胸腺重量ハ概ネ正常胎兒ノ夫レヨリ小ナリ(第7圖)。胸腺ニテモ間質ノ増生及ヒ Granulopoese (特ニ eosinophile Zellen) ヲ認ムレド, 其ハ概シテ輕度ニシテ, 是ニ反シ實質ノ發育不全或ハ退行性變化ガ顯現ス(増田博士)。斯カル理由ニ基ツキ, 胸腺ハ腫大セズ, 萎縮ニ陥ルナリ。

結論

- 1) 胎兒ノ腦, 肝, 腎(左右), 脾, 胸腺及ヒ脾ハ胎兒ノ生育ニ伴ヒ増大シ, 胎生ノ末期ニハ夫レ夫レ 390 g, 130 g, 13 g, 10 g, 10 g 及ビ 3.5 g ニ達ス。
- 2) 男女ニテ臟器ノ重量ニ著差無シ。
- 3) 各臟器ノ生長率(最初ノ臟器重量ヲ基礎トスル重量増加ノ比率)ハ概ネ近似ス。
- 4) 各臟器ハ胎生ノ後半期ニテ急激ニ重量ヲ増加スレ共(絶對値), 其ノ生長率ハ寧ロ漸次遞減ノ傾向ヲ有ス。
- 5) 胎兒ノ身長ト臟器ノ重量トノ間ニハ相當高度ノ順相關ガ成立ス。其ノ係數ハ腦ニテ 0.89, 肝ニテ 0.85, 腎(兩側)ニテ 0.84, 脾及ヒ胸腺ニテ 0.75, 脾ニテ 0.67 ナリ。胸腺及ヒ脾ニテ相關係數ノ小ナルハ, 主トシテ是等ノ臟器ヲ摘出スル際ニ發生セル誤差ニ基ヅク。又脾ニテ相關傾向ガ不良ナルハ, 脾ガ常時搏動ヲ營ミ, 又諸種ノ要約下ニ其ノ容積及ビ重量ヲ變ジ易キニ因ル。
- 6) 先天性微毒胎兒ニテ腦重ニ變化無ケレ共, 脾, 肝, 脾及ヒ腎ハ腫大シ, 其ノ狀ハ特ニ前2者ニテ顯著ナリ。是等ニ反シ, 胸腺ハ概ネ縮小ス。

撰筆ニ當リ, 恩師木村教授及ビ増田榎一博士ノ御指導並ビニ御叱正ニ深謝シ奉ル。

先天性早期微毒ニ於ケル肺病變

(挿入表 2)

東北帝國大學醫學部病理學教室 (主任 木村教授)

學生 栗田 豊

Stud. med. Yutaka Kurita

緒 論

先天性微毒胎兒ニ於ケル肺病變ニ關シテハ、古來幾多ノ學者ニヨリ論及セラレ、其ノ分類モ多岐ナリ。1例ヲ舉グレバ、Heller ハ護謨腫、白色肺炎及ビ間質性肺炎ノ3者ニ大別ス。サレド是等ハ概ネ比較ノ高度ナル、或ハ肉眼的ニ既ニ變化ヲ認知シ得ルガ如キ肺病變ノ分類ナリ。故ニ外見上何等ノ病變ヲ見出ス能ハザル先天性微毒胎兒ノ肺ヲモ顯微鏡下ニ併セ精査シ、茲ニ先天性早期微毒ニ於ケル肺病變ノ諸相ヲ闡明、確立スルハ、蓋シ徒爾ニ非ズ。

實驗材料並ビニ方法

1931年以降1936年ニ至ル6年間ニ吾教室ニテ剖檢ニ附セラレシ胎兒中、鍍銀法 (Spirochätenfärbung) ニ依リ全身ノ臟器ヲ檢索セル結果、明カニ先天性微毒胎兒ト斷定シ得ラルルモノハ34例アリ。此ノ中4例ハ浸蝕 (Maceration) 著シキ故除外シ、殘餘ノ30例ヲ實驗例トセリ。30例中5例ニテハ剖檢臺上ニテ既ニ病變ヲ證明シ得タレド (第3病型1例、第4病型4例)、爾他ノ25例ハ肉眼的ニ略々正常ナリ。確實ニ微毒ヲ否定シ得ル正常肺20例ヲ對照トシ、以テ前者ト比較觀察ス。微毒4例ヲ除キ、其ノ他ニテハ毎當普通染色以外ニ鍍銀法ヲ施シ、Spirochätenノ有無ヲモ檢セリ。

研究成績及ビ考按

1. 微毒性肺病變ノ頻度、微毒例30及ビ非微毒例20ノ組織學的所見ヲ一括シ、第1及ビ2表ニ掲グ。表ヨリ明カナル如ク、肺胞上皮ノ巨態細胞化、氣管支分枝内ノ纖維素析出及ビ肉芽侵入、間質ノ纖維性増殖、plasmazelluläre Infiltration 及ビ所謂造血性巨態細胞ノ出現、肋膜表面ノ纖維素析出及ビ細胞浸潤等ノ所見ハ先天性微毒胎兒ニ特有ニシテ、對照例ニテ遭遇セズ。兩餘ノ病變ハ或程度迄正常肺ニテモ證明セラルレド、出血以外ノ所見ハ概ネ微毒例ニテ遙カニ高度ナリ。

第1表 先天性微毒胎兒肺ノ鏡下所見

研究 番号	性別	身長 cm	肺 胞					氣管支分枝			間 質				肋 膜			病 型					
			殼 子 狀 上 皮 細 胞	上 皮 巨 態 細 胞	上 皮 細 胞 剝 離	細 胞 性 滲 出	纖 維 素 析 出	出 血	細 胞 性 滲 出	纖 維 素 析 出	肉 芽 組 織 侵 入	纖 維 性 増 殖	淋 巴 球	白 血 球	Plasmazellen	造 血 性 巨 態 細 胞	出 血		肥 厚	纖 維 素 析 出	細 胞 浸 潤	淋 巴 腔 擴 張	Spirochaeta pallida
1	18'34	女	33	+	-	+	-	++	+	-	-	+	+	+	-	+	-	-	-	+	+	I+IV	
2	57'32	男	36	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	I+IV	
3	33'33	女	36	+	-	+	-	-	++	-	-	++	+	++	+	-	-	-	-	-	+	+	IV
4	49'35	男	36	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	+	+	I	
5	28'36	女	37	+	-	+	+	-	+	-	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	I	
6	82'36	女	38	-	-	+	+	-	+	-	+	++	+	-	-	-	-	-	-	-	-	I+II	
7	2'35	女	40	+	-	++	++	+	-	++	+	++	++	++	+	+	-	-	+	-	+	I+IV	
8	3'35	男	40	-	-	++	++	-	+	++	-	+	++	+	++	-	+	-	+	-	+	I+II	
9	75'35	男	41	-	-	+	+	+	-	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	+	+	I	
10	76'36	男	41	++	++	+	+	+	++	+	++	+	++	+	-	++	-	-	+	+	+	I+III	
11	34'32	女	41.5	+	-	+	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	+	+	I	
12	44'36	男	42	-	+	+	+	+	-	++	+	++	+	+	+	-	+	+	-	+	+	IV	
13	71'36	女	42	-	-	+	+	+	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	+	+	+	I	
14	37'31	女	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	I	
15	60'31	男	43	+	-	+	+	+	-	+	-	-	+	+	-	-	-	-	+	+	+	I	
16	39'33	女	43	-	-	+	+	-	-	+	-	-	+	+	-	-	-	-	+	+	-	I	
17	8'31	女	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	++	I	
18	13'31	女	44	-	-	+	++	+	-	+	-	-	+	+	+	-	-	-	+	+	++	I	
19	1'35	男	44	-	-	+	+	-	+	+	-	+	++	-	++	-	-	-	-	+	+	I+II	
20	33'36	男	44	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	+	I	
21	7'31	女	45	-	-	+	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	+	I	
22	21'34	女	45	-	+	+	+	+	-	+	-	-	+	+	+	-	-	-	+	-	-	I	
23	18'36	男	45	-	-	++	++	-	+	++	+	-	+	+	+	-	+	++	-	++	+	I	
24	23'36	女	46	-	-	+	+	++	++	+	+	-	-	+	+	+	-	++	-	+	-	I	
25	39'34	男	47	+	-	+	+	+	-	+	-	+	++	++	+	-	-	-	+	+	-	I+II	
26	56'36	男	47	-	+	+	+	+	+	++	-	-	+	+	+	-	+	-	-	+	-	I	
27	11'36	女	47.5	-	-	+	+	-	+	+	-	+	+	++	+	-	+	++	-	++	-	I+IV	
28	7'36	女	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	I	
29	29'34	男	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	++	I	
30	36'35	男	51.5	-	-	+	+	-	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	+	I	
陽性例				10	4	23	22	12	10	21	5	3	10	26	21	15	3	12	4	1	13	15	23
%				33	13	77	73	40	33	70	17	10	33	87	70	50	10	40	13	3	43	50	88

第2表 非微毒胎兒肺ノ鏡下所見

研究番號	剖檢番號	性別	身長cm	肺 胞					氣管支分枝			間 質					肋 膜				Spirochaeta pallida			
				穀子狀上皮細胞	上皮性巨態細胞	上皮細胞剝離	細胞性滲出	纖維素析出	出血	細胞性滲出	纖維素析出	肉芽組織侵入	纖維性增殖	淋球	白血球	Plasmazellen	造血性巨態細胞	出血	肥厚	纖維素析出		細胞浸潤	淋巴腔擴張	
31	14'36	女	34	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-			
32	5'36	男	39	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
33	6'36	女	39.5	-	-	+	-	++	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
34	38'33	男	40.5	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
35	62'33	男	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
36	12'31	女	45	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
37	27'36	女	45	+	-	+	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
38	40'31	男	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
39	20'36	男	46	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
40	2'31	女	47	+	-	+	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
41	13'36	女	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
42	45'36	女	48.5	-	-	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-			
43	1'32	女	49	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
44	62'33	男	49	-	-	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
45	73'36	女	49	-	-	+	-	-	+	+	-	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-			
46	5'31	女	50	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
47	50'31	女	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
48	6'31	男	50.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
49	40'35	男	51.5	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-			
50	58'32	男	52	+	-	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
陽性例				5	0	12	3	2	9	3	0	0	0	0	1	1	0	0	4	1	0	0	0	0
%				25	0	60	15	10	45	15	0	0	0	0	5	5	0	0	20	5	0	0	0	0

他方個々ノ微毒胎兒肺ニ就キ觀察スルニ、30例中8例ハ殆ソ前記特有乃至非特有ノ變化ヲ示サズ(間質ニ輕微ナ淋巴球ノ浸潤ヲ見ルノミ)、全ク正常ナリ。是ニ反シ、殘餘ノ22例ニテハ表記ノ如ク多岐ニ渉ル病所見ガ確認セラレ、一見直チニ正常ナラザル事ガ明カナリ。即チ先天性微毒胎兒ノ約73%ガ肺ニ顯著ナル病變ヲ有ス。

2. Spirochaeta pallida ノ檢出率。勿論對照20例ニテ Spirochaeta pallida ヲ見ズ、微毒例26例(30例中4例ニテ鍍銀法ヲ行ハズ)中23例、即チ88%ニテ是ヲ證明ス。顯著ナル肺病變ヲ有セル18例(元來ハ22例ナルモ、中4例ニテ鍍銀法ヲ施サズ)中 Spirochäten ヲ發見セザリシ

ハ唯1例ノミニシテ(檢出率ハ94%)、就中病變ノ激烈ナル第4病型(後述)ニアリテハ每當是ヲ檢出セリ。他方組織學的ニモ全ク正常ト見ユル肺8例中6例(75%)ニテモ Spirochäten ガ發見セラレ、且ツ斯カル例ニテ特ニ Spirochäten ガ多量ナリ。此ノ事實ハ Spirochäten ノ Ansiedelung 及ビ Gedeihen ト病變ノ發現トノ間ニ一定ノ時間的經過 或ハ因子ガ必要ナルヲ示唆スト解セラル。

3. 肺實質ノ發育不全。先天性微毒ニ際シ、肺ニテモ實質組織ノ發育不全ニ陥レルヲ見ル、但シ其ノ狀ハ他臟器ニ於ケルガ如ク顯著ナラズ。小ナル氣管支分枝或ハ特ニ肺胞上皮ガ正常ヨリ永ク穀子狀ニ滯マリ、腺管狀乃至腺腫狀外觀ヲ呈シ(10例, 33%)、更ニ高度ノ發育障礙ヲ來セバ、肺胞上皮ハ多核巨態細胞若シクハ Synzytium ノ狀トナル(4例, 13%)。

4. 炎衝性病機。第1及ビ2表ニ掲ゲシ項目ノ大半ハ炎衝性病機ニ由來セル所見ニシテ、就中間質ノ細胞浸潤、肺胞内並ビニ氣管支分枝内細胞性滲出及ビ肺胞上皮ノ剝離ガ最モ恒常性且ツ顯著ナリ。又各例ニテハ表示ノ所見ガ複雜ニ組合セラレテ發現ス。然レ共、最モ顯現セル所見ヲ標準トセバ、肺病變像ヲ以下ノ4型ニ分チ得。

第1型。加答兒性滲出性變化ヲ主トセルモノニシテ、20例(67%)ニ證明セラル。正常肺ニテモ肺胞上皮ノ剝離ハ過半ニ認メラルレド(60%)、微毒兒ニテハ更ニ頻數ニ遭遇セラレ(77%)、特ニ本型ニテハ其ノ程度高シ。同時ニ肺胞内及ビ氣管支分枝腔内ニ炎性細胞滲出ヲ來シ、又特ニ前者ニハ纖維素ノ析出ヲ見ル事尠カラズ。間質ニハ殆ソ常ニ輕度ノ淋巴球及ビ分葉核白血球ノ浸潤アリ。

以上ノ所見ハ通常ノ加答兒性肺炎ト何等擇ブ所無ケレ共、後者ニ比スレバ炎衝像ハ穩和ニシテ、充血、液及ビ細胞滲出等モ著シカラズ。本病型ハ勿論微毒ニ固有乃至特有ニ非ザレド、機能ヲ營マザル胎兒肺ニハ他ニ炎性病變ヲ來ス原因ガ非常ニ稀ナル故、本病型ガ兩肺ニ廣ク蔓延セル際ニハ先ヅ微毒ヲ考フ可ク、或ハ是ヲ見テ微毒ノ診斷ヲ下ストモ大過無シ。

第2型。廣汎性滲出性間質炎ニシテ、4例アリ(13%)、所見ハ前者ニ稍々近似セルモ、間質ニ於ケル遊走細胞ノ浸潤ガ顯現シ、概ネ球狀單核細胞、淋巴球ヨリ成リ、是ニ分葉核白血球、酸性顆粒細胞、Plasmazellen 等ガ混在ス。勿論輕微ニテ中胚葉性要素ノ増殖ヲモ伴ヒ、又漿液ノ滲出、時ニハ纖維素ノ析出ヲモ見ル。同時ニ肺胞内及ビ氣管支分枝腔内ニハ上皮細胞ノ剝離及ビ炎性滲出アリ。

第3型。唯1例ノミニシテ(3%、研究番號10)、肉眼的ニ肺ハ輕度ニ腫大シ、硬度ハ増シ、表面及ビ割面ハ灰白調ヲ帶ビ、後者ハ特ニ肝樣實質性ナリ。即チ本病型ハ肉眼的ニ所謂白色肺炎ニ略々一致シ、其ノ組織學的病像ハ一言ニテ述ブレバ、廣汎性間質増殖炎ナリ。肺全般ニ互リ廣汎ナル中胚葉性細胞(間質、小葉間及ビ肺胞壁細胞等)ノ増殖アリ、其ノ特ニ高度ナル局所ニテハ肺胞腔

ハ形成セラレズ、不明ニシテ、所々ニ氣管支分枝ガ僅カニ腔ヲ保ツノミ。肺胞ニテハ稍々高度ノ上皮脱落、細胞滲出及ビ纖維素ノ析出ヲ認め、後二者ハ又氣管支分枝ニテモ顯著ナリ。

第4型。本型ハ前3者ト異ナリ、局所的ニ結節性病竈ヲ形成ス、故ニ病變部ハ概ネ肉眼ニテ容易ニ明視シ得、但シ病竈ノ猶小ナルモノハ鏡下ニ初メテ發見セラル(研究番號1)。本病型ハ5例アリ(17%)、其ノ中病竈ノ大ナルモノハ胡桃大ニ達シ、常ニ肺ノ表層部、即チ肋膜直下ニ占居シ、爲メニ肺表面ニ硬キ隆起ヲナス。概ネ球形ニシテ、表面及ビ剖面ハ白色或ハ黄白色ヲ呈シ、病竈ノ境界ハ稍々不鮮明ナリ。鏡下ニテハ、身長40cm以前ノモノハ主トシテ多數ノ長紡錘形細胞ヨリ成リ、纖維ノ分化ガ著明ナラズ、即チ mesenchymale Zellen ノ高度増殖ヲ示シ(研究番號1,3及ビ7)、身長40cm以上ノモノニテハ膠様纖維ヲ有スル結締織ガ主成分トナレリ(研究番號12及ビ27)。病竈ノ周邊部ニ於テハ肺組織ノ間質ノ増殖ガ強ク、前型ニ類似ノ所見ヲ示ス。

本病型ハ中胚葉性要素乃至 mesenchymale Elemente ヨリ成ル肉芽増殖ノ高度ナル點ヨリ謂ヘバ、肉芽腫ト稱セラル可シ。然シ病竈内ニ概ネ小ナル壞死竈ヲ有シ、3例ニテ真正粟粒護膜腫(Virchow)ヲ認め、2例ニテハ小膿瘍型壞死(Aschoff)ヲ發見セリ。斯カル觀點ヨリセバ、本型ハ又護膜腫ノ亞型トモ看做サレ得。

以上第2~4型ハ尠ク共胎兒ニテハ他ノ病因ニヨリ發見セズ、故ニ先天性微毒ニ pathognomisch ナリ。又各型ハ個々ノ例ニ單獨ニ現ハレルトハ限ラズ、2型ガ合併セルモノモ稀ナラズ(第1表参照)。猶恩師木村教授ノ命名セラレタル造血性巨態細胞ハ3例(10%)ニテ間質ニ出現セリ。肺自身ニテハ造血像ニ接セザル故、該細胞ハ他部(肝、脾、骨髓等)ニテ形成セラレ、血流ニ入り、肺胞壁乃至間質ニ至リ、此處ニテ毛細管ニ栓塞セルモノナラン。

5. 肋膜ノ病變。肺肋膜ニハ顯著ナル或ハ特有ノ病變ヲ來サズ。稀ニ高度ノ肥厚ヲ認め(4例, 13%)、又細胞浸潤(13例, 43%)及ビ淋巴腔ノ擴張(15例, 50%)ニ遭逢ス。

結 論

1) 先天性微毒胎兒ニテハ、肉眼の所見ノ有無ニ拘ハラズ、約73%(30例中22例)ニ於テ組織學的ニ顯著ナ肺病變ヲ證明ス。

2) 肺病變ノ主體ハ炎衛性病機ニシテ、極メテ複雑ナル所見ヲ呈スレド、是ヲ特ニ顯現セル病像ニ從ツテ以下ノ4病型ニ分チ得。

3) 第1型ハ加答兒性變化(肺胞上皮細胞ノ剝離)ヲ主トシ、是ニ輕度ノ炎衛性滲出(液並ビニ細胞)及ビ細胞浸潤ガ附加セルモノニシテ、最モ屢々遭遇スル病型ナリ(30例中20例, 67%)。微毒ニ固有ノ病變ニ非ザレド、胎兒ニテ廣汎ナ本病型ノ變化ヲ見レバ、先ヅ微毒ヲ疑フ可キナリ。

4) 第2型ハ前者ニ稍々近似シ、間質ニ於ケル遊走細胞ノ浸潤ガ特ニ顯現ス、即チ廣汎性滲出

性間質炎ニシテ、4例(13%)ニテ認めラレタリ。

5) 第3型ハ廣汎性間質増殖炎ニシテ、中胚葉性細胞ノ高度ナ増殖アリ、是ニ稍々著明ナ炎衛性滲出及ビ細胞浸潤ヲ伴フ。外觀上所謂白色肺炎ノ狀ヲ示シ、余ノ檢索例中唯1例(3%)アリタルノミ。

6) 第4型ニテハ mesenchymale Elemente 或ハ結締織性要素ヨリ成ル肉芽組織ガ局所的ニ強ク増殖シ、結節狀病竈ヲ形成ス。病竈ハ肋膜直下ニ占居シ、概ネ肉眼的ニ白色乃至黄白色ノ結節トシテ認めラル。肉芽腫ト解セラル、モ、又壞死ヲ來ス事稀ナラズ、然ラバ護膜腫ノ亞型トモ看做サレ得。5例、即チ17%ニテ見ラレタリ(1例ハ肉眼の結節不明)。猶第2~4型ハ先天性早期微毒ニ pathognomisch ナリ。

7) 肺實質ノ發育障礙ノ結果、肺胞上皮ハ永ク骰子狀ニ滯マリ(10例, 33%)、又稀ニハ巨態細胞ニ變ズ(4例, 13%)。

8) Spirochaeta pallida ハ先天性微毒胎兒ノ肺26例中23例(88%)ニ檢出セラレ、組織學的ニ病變ヲ認めシ肺ノ94%(18例中17例)、又病變ヲ缺ク肺ノ75%(8例中6例)ニ發見セラレタリ。

9) 肺肋膜ニハ顯著ナ病變無ク、時ニ肥厚、輕度ナ細胞浸潤等ヲ見ルノミナリ。

稿ヲ了ヘルニ當リ、御懇篤ナル御指導並ビニ御教示ヲ賜リタル恩師木村教授及ビ増田桓一博士ニ鳴謝シ奉ル。

萎縮腎ノ鐵反應

(挿入表5及ビ挿入圖5)

東北帝國大學醫學部病理學教室 (指導 木村教授)

學生 櫻田 章

Stud. med. Akira Sakurada

緒 言

萎縮腎ノ或ルモノニ鐵色素ノ沈著セル事ハ、日常ノ剖檢例ニ於テ往々遭遇スル所デアリ。余ハ一昨年恩師木村教授ノ御指導下ニ松岡助教授ト共ニ、強度ノ一次性及ビ二次性貧血ヲ伴ヘル31例ヲ檢索シ、其ノ際全身ノ各臟器ノ鐵反應ヲモ試ミタ。其ノ成績ニ徴スルニ、腎鐵症ハ意外ニ寡ク、惡性萎縮腎、骨髓性白血病、腎囊腫及ビ高度貧血ノ各1例ニ是ヲ認メタニ過ギヌ。又31例中萎縮腎ヲ有セルモノ4例アリ、3例ハ良性萎縮腎デ、總ベテ鐵反應陰性ナルニ反シ、前記惡性萎縮腎ノ1例ノミハ強陽性デアツタ。茲ニ於テ余ハ貧血例ニ限ラズ、一般ノ萎縮腎デ鐵反應ガ如何ニ現ハレルカ、興味ヲ抱クニ至ツタ。萎縮腎ノ鐵反應ニ關スル文獻ハ殆ンド無ク、唯 Lubarsch ガ其ノ叢書ニ於テ「Nierenhämosideroseニハ慢性腎疾患ノ眞性及ビ炎症性萎縮腎トシテノ説明ニ重要ナ意義ヲ附サネバナラス」ト一言シテアルノミデアリ。

研究 方法

吾教室ニ保存シアル萎縮腎全部及ビ萎縮腎ヲ伴ヘル疑ヒノアル腎炎及ビ腎囊腫等ヨリ、成ルベク大ナル切片ヲ切出シ、20 μ ノ凍結切片トナシ、數枚ツツ Berliner Blau-Reaktionヲ行ヒ、Alaunkarminデ後染色ヲ施シ、檢鏡シタ。材料ハ1916年ヨリ1937年ニ至ル390例ニ及ビ、其ノ中萎縮腎ノ確實ナモノ312例ヲ選擇シタ。更ニ特ニ興味アル所見ヲ有スルモノ30例デハ、Paraffineinbettungノ後、10 μ ノ連續標本50枚ヲ作製シ、同上ノ鐵反應及ビ普通染色(Hämatoxylin-Eosin及ビvan Gieson)ヲ施シ、特ニ精密ニ觀察シタ。

萎縮腎ハ木村教授及ビ鬼川博士ノ分類ニヨレバ、組織學的ニ萎縮型(良性)、増殖型(半惡性)及ビ壊死型(惡性)ノ3型トセラレル。鐵反應ノ結果モ此ノ3型ト深イ關係ノアルヲ認メルノデ、之ニ從ツテ分類表示シ、比較研究シタ。即チ萎縮腎312例中、萎縮型ハ208例、増殖型ハ73例、壊死型ハ31例デアリ。鐵反應ノ陽性度ハ弱陽性ヲ+、++強陽性ヲ+++、++++、例外的強陽性ヲ+++++デ區別シ、其ノ各型ニ於ケル陽性率ヲ算出シ、圖示シタ。弱鐵反應ト年齢及ビ性トノ關係モ當然考慮ニ入ルガ、是ハ他面萎縮腎ノ各型ト年齢及ビ性トノ問題ニ轉化スル故、鬼川博士ノ論文ニ讀リ、本編デハ此ノ問題ニ立入ラス事トシタ。

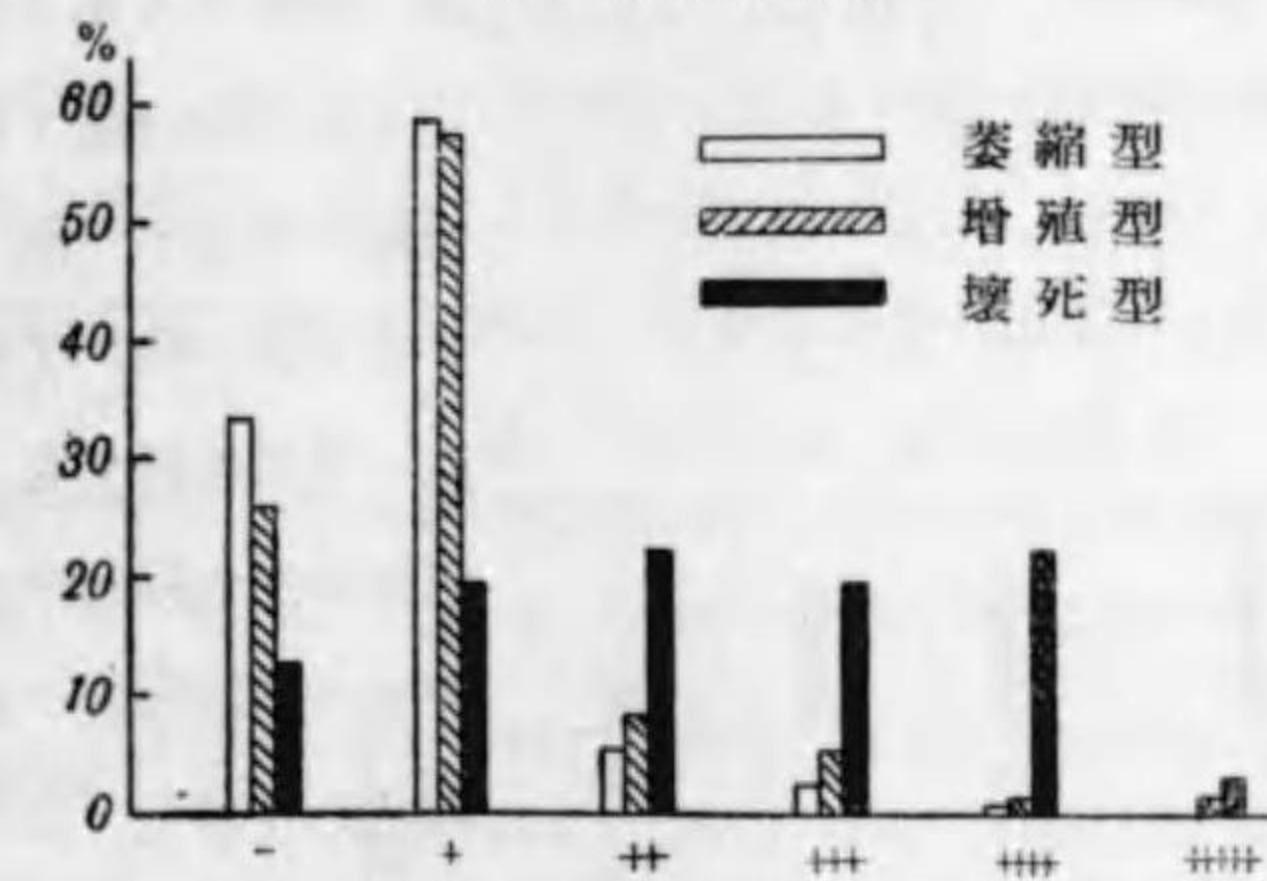
實 驗 成 績

1) 腎實質全體ノ鐵反應。腎實質ニ現ハレル鐵反應陽性物質ニハ Hämosiderinkörnchen 以外ニ、猶組織又ハ細胞ヲ瀰漫性ニ浸漬スルモノ、或ハ石灰ト共ニ存在スルモノ(sog. Eisenkalk)等ガアリ(後述)、概ネ細尿管上皮、糸毬體內、細尿管系ノ内腔、血管壁及ビ其ノ内腔、間質結締織等ニ出現スル。之等ヲ全部綜合シ、腎全體トシテノ鐵反應ヲ見ルニ、萎縮型、増殖型、壊死型ノ順ニ陽性率ガ増加スル(第1表)。又萎縮型及ビ増殖型ニ於テハ弱陽性程度(+)ノモノガ過半ヲ占メ、陽性度ヲ増スニ從ヒ、著シク其ノ率ヲ減ズル。是ニ反シ壊死型デハ弱陽性ノモノト強陽性ノモノト其ノ率ガ略々等シイ(第1圖)。即チ壊死型萎縮腎ニ於テハ鐵反應陽性率ガ甚ダ高ク(87

第 1 表 腎實質全體ノ鐵反應陽性率

鐵 反 應	-	+	++	+++	++++	陽性例計	計
萎縮型	例數 69 % 33.2	122 58.6	11 5.3	5 2.4	1 0.5	139 66.8	208
増殖型	例數 19 % 26.0	42 57.5	6 8.2	4 5.5	1 1.4	54 74.0	73
壊死型	例數 4 % 12.9	6 19.4	7 22.6	6 19.4	7 22.6	27 87.1	31

第 1 圖 萎縮腎各型ニ於ケル鐵反應ノ比較 (腎實質全體)



%)且ツ高度デアリ。

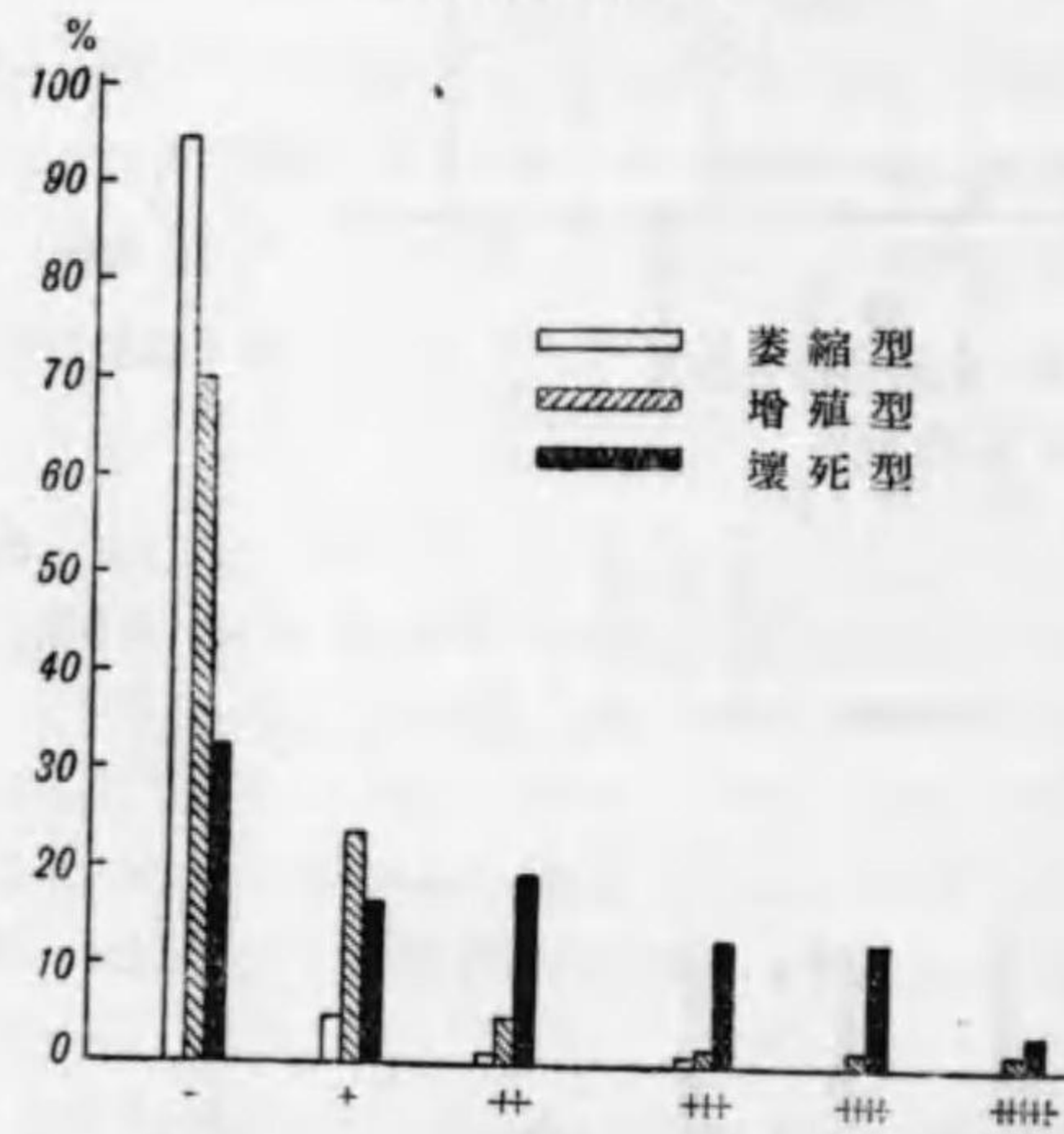
2) 細尿管上皮ノ鐵反應。一般ニ細尿管上皮ガ鐵反應陽性ナル場合ハ Hämosiderinkörnchenヲ含有スルカ、或ハ一部ハ上皮細胞全體ガ瀰漫性平等ニ青染スルカデアリ(後述)。萎縮型萎縮腎ニ於テハ上皮ニ鐵反應陽性ノモノハ甚ダ稀デアリ(6%)、増殖型(30%)、壊死型(68%)ノ順ニ其ノ

陽性率ヲ著明ニ増ス(第2表). 又萎縮型及ビ増殖型デハ弱陽性ガ多ク, 強陽性程例數ガ減少スルニ反シ, 壊死型デハ強陽性ト雖モ, 率ヲ減ジナイ(第2圖).

第2表 細尿管上皮ノ鐵反應陽性率

鐵反應	-	+	++	+++	++++	陽性例計	計
萎縮型	例數 196 % 94.2	9 4.3	1 0.5	2 0.9	0 0	12 5.8	208
増殖型	例數 51 % 69.9	17 23.3	3 4.1	1 1.4	0 0	1 1.4	22 30.1
壊死型	例數 10 % 32.3	5 16.1	6 19.4	4 12.9	6 19.4	0 0	21 67.7

第2圖 萎縮腎各型ニ於ケル鐵反應ノ比較 (細尿管上皮)



少クナイ. 是ハ多クハ所謂石灰圓嚢ガ鐵反應ヲ示スコトニ基因スル(後述). 管腔内ニHämosiderin-körnchenヲ認ムル事モ壊死型萎縮腎ガ最モ多ク, 其ノ大部分ハ管上皮内ノ同顆粒ガ管腔内ニ溢出遊離シタモノカ, 或ハ含鐵上皮ガ脱落シタ結果デアル.

Nephron全體ヲ綜合シタ成績モ第3表及ビ第3圖ニ示ス如ク, 鐵反應陽性率ハ壊死型ニ最モ

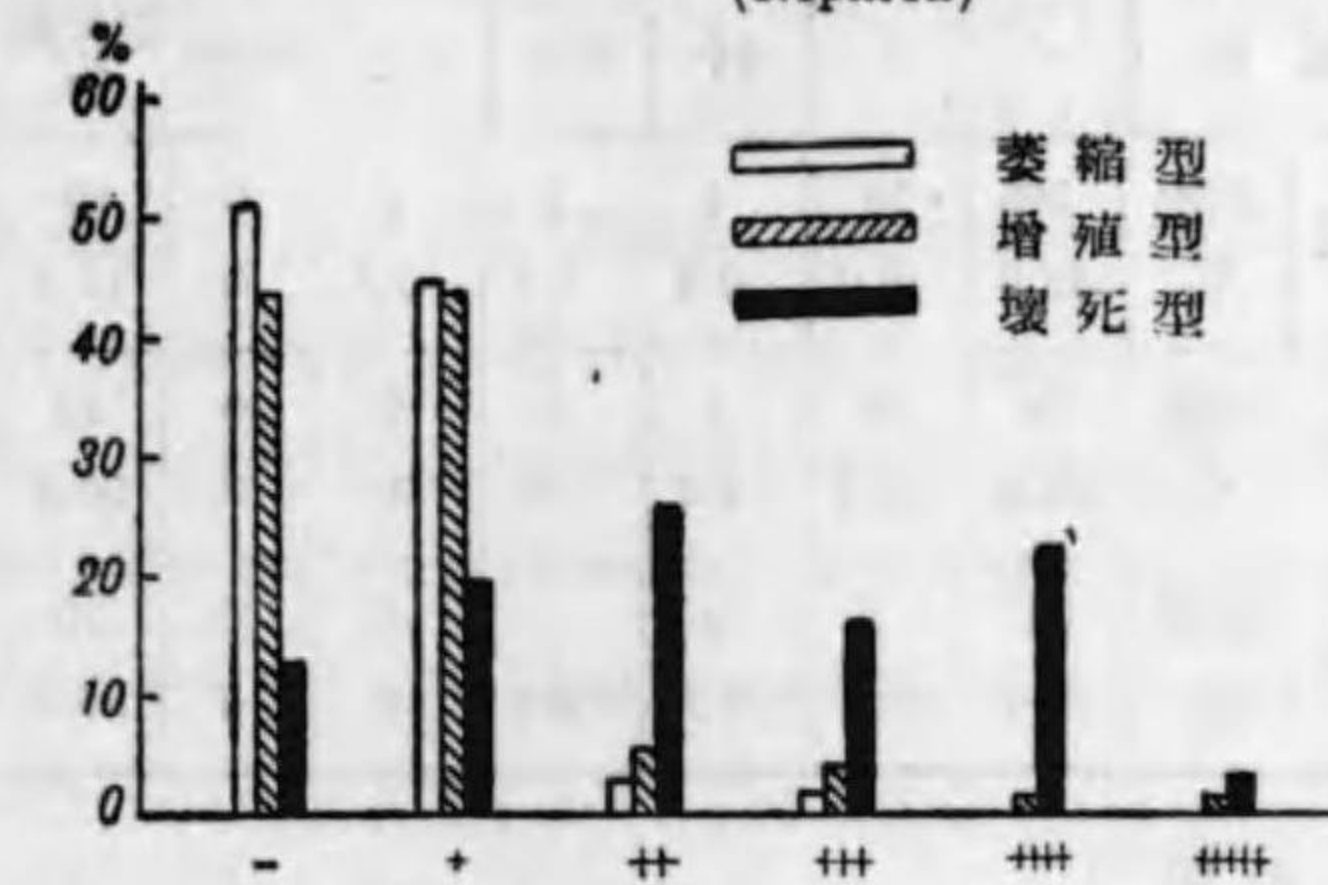
3) Nephron全體ノ鐵反應. Nephron即チ絲毬體, 細尿管上皮及ビ内容ヲ合テ通覽スルニ, 絲毬體內ノ鐵反應陽性率ハ壊死型ニ最モ高ク(56%), 増殖型或ハ特ニ萎縮型ニハ甚ダ低イ(33%及ビ10%). 此ノ現象ハ主トシテ鐵反應陽性物質ガ好シク絲毬體係蹄ノ壊死ニ陥ツタ個所ニ沈著スル事ニ由來スル(後述). 細尿管上皮ガ鐵反應ヲ陽性ニ示ス例ハ常ニ絲毬體モ陽性トハ限ラナイガ, 絲毬體ニ鐵ヲ含ム例ハ殆ンド常ニ細尿管又ハ其ノ管腔ニ含鐵物質ヲ有ス. 又細尿管上皮ガ鐵反應陽性ナ場合ハ其ノ程度ニ應ジテ管腔ニモ含鐵物質ヲ認メルガ, 同物質ガ管腔ノミニ存シ, 上皮ニ缺如シテ居ル例モ

高ク(87%), 増殖型, 萎縮型ノ順ニ低イ. 又陽性度ト萎縮腎各型トノ關係モ細尿管上皮ノ場合ト略々同様デアル.

第3表 Nephron全體ノ鐵反應陽性率

鐵反應	-	+	++	+++	++++	陽性例計	計
萎縮型	例數 106 % 51.0	93 44.7	6 2.9	3 1.4	0 0	102 49.0	208
増殖型	例數 32 % 43.8	32 43.8	4 5.5	3 4.1	1 1.4	1 1.4	41 56.2
壊死型	例數 4 % 12.9	6 19.4	8 25.8	5 16.1	7 22.6	1 3.2	27 87.1

第3圖 萎縮腎各型ニ於ケル鐵反應ノ比較 (Nephron)

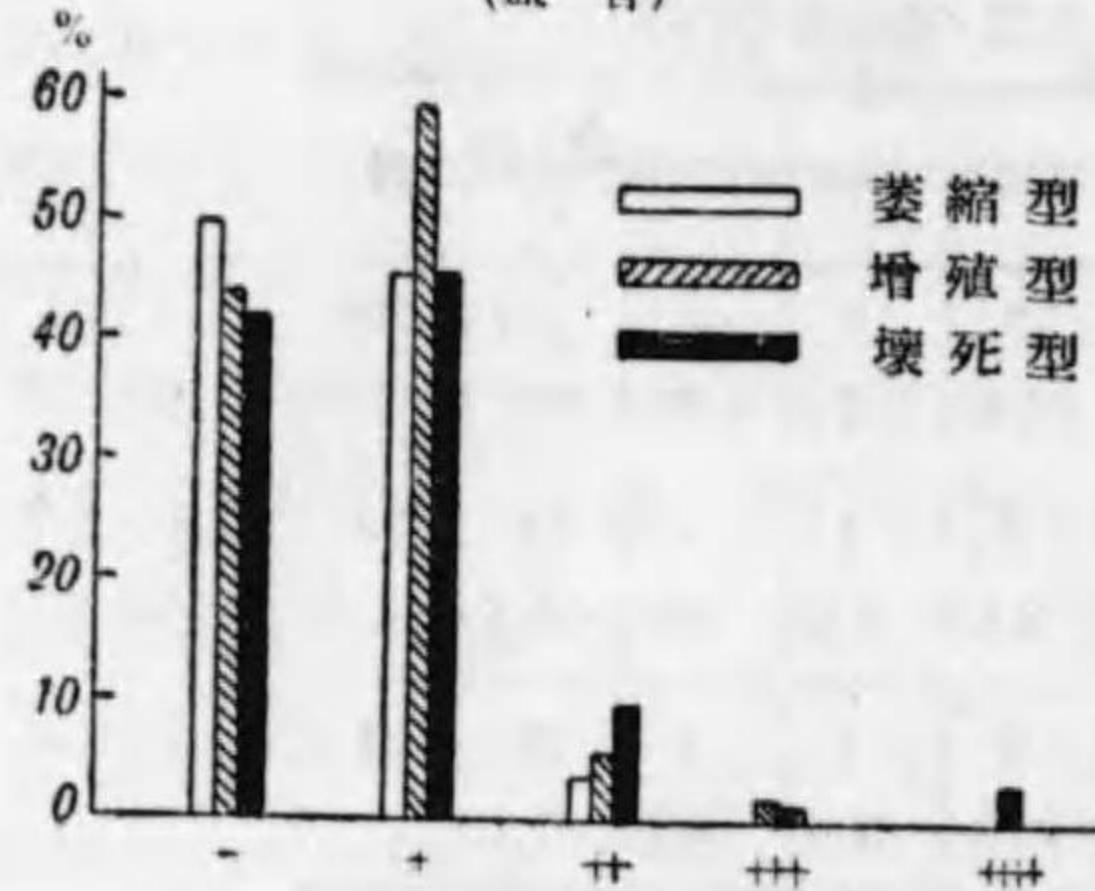


4) 腎内血管ノ鐵反應. 中等大又ハ小血管ノ管壁ノ硬化性病變ガ鐵反應ヲ示スコトガ最モ頻數デアルガ, 猶血管壁ガ瀰漫性ニ青染スル場合モアル(後述). 何レニシテモ血管壁及ビ其ノ内容ニ就テ通覽セバ, 萎縮腎各型ハ鐵反應陽性率ニ大ナル差違ヲ示サナイ(第4表及ビ第4圖).

第4表 腎内血管ノ鐵反應陽性率

鐵反應	-	+	++	+++	++++	陽性例計	計
萎縮型	例數 103 % 49.5	94 45.2	7 3.4	4 1.9	0 0	105 50.5	208
増殖型	例數 32 % 43.8	36 49.3	4 5.5	1 1.4	0 0	1 1.4	41 56.2
壊死型	例數 13 % 41.9	14 45.2	3 9.7	0 0	1 3.2	0 0	18 58.1

第4圖 萎縮腎各型ニ於ケル鐵反應ノ比較 (血管)



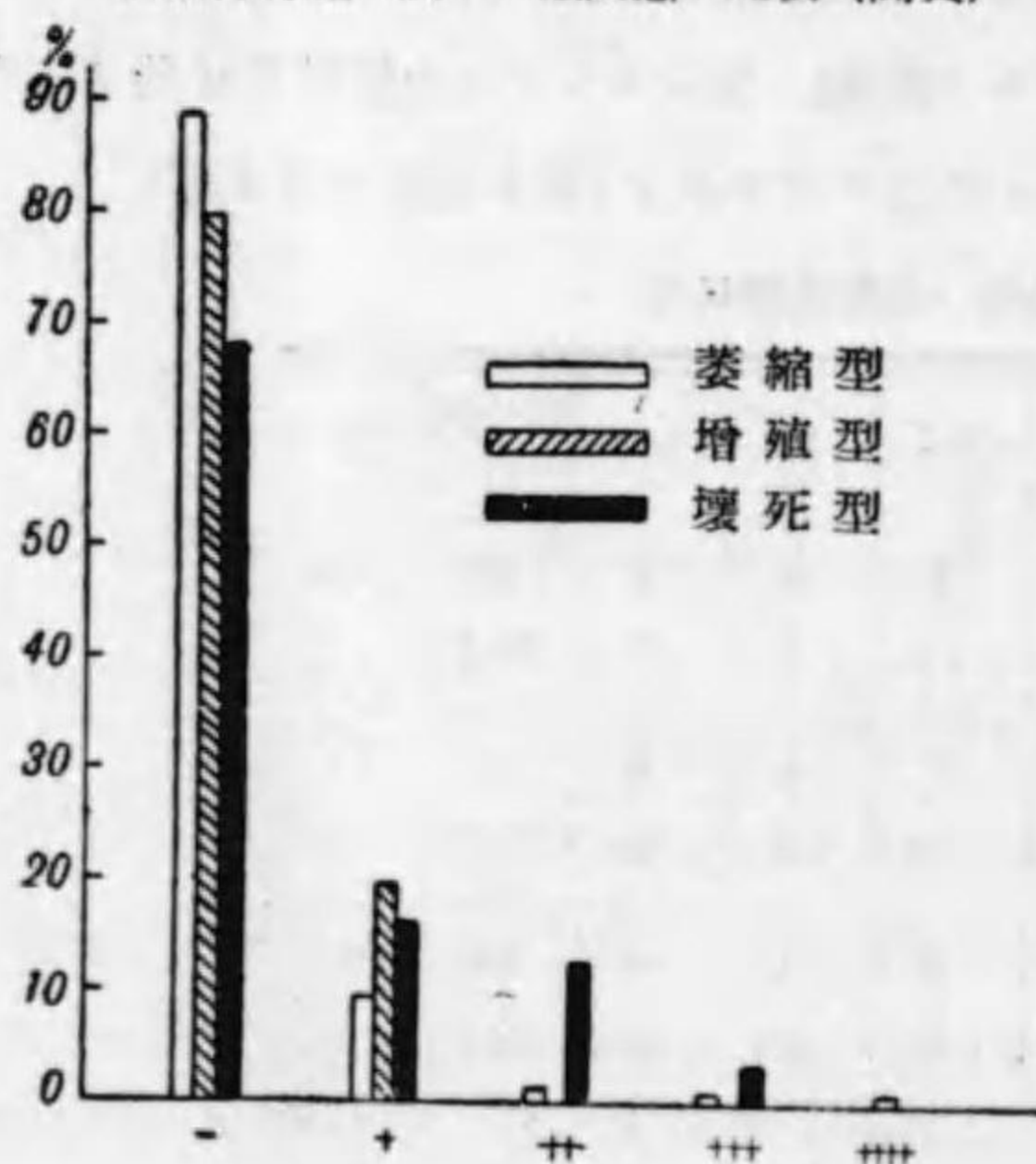
5) 間質ノ鐵反應. 間質ニ鐵反應陽性物質ヲ見ルハ他ノ場所ニ比シ比較的稀デアリガ, 萎縮型, 増殖型, 壊死型ノ順ニ其ノ陽性率ガ増加スル(第5表). 又其ノ強陽性ノモノモ萎縮型及ビ増殖型デハ急減スルニ反シ, 壊死型デハ漸減ヲ示ス(第5圖).

6) 鐵反應陽性物質ノ發現狀況. 絲毬體ニ見ラレル鐵反應陽性物質ハ鐵石灰及ビHämosiderinデ, 前者ガ後者ヨリ頻回ニ遭遇セラレル. 鐵石灰ハ係蹄ノ一部ガ壊死ニ陥ツタ部

第5表 間質ノ鐵反應陽性率

鐵反應		-	+	++	+++	++++	+++++	陽性例計	計
萎縮型	例數	185	20	1	1	1	0	23	208
	%	88.9	9.6	0.5	0.5	0.5	0	11.1	
増殖型	例數	58	14	1	0	0	0	15	73
	%	79.5	19.2	1.4	0	0	0	20.5	
壊死型	例數	21	5	4	1	0	0	10	31
	%	67.7	16.1	12.9	3.2	0	0	32.3	

第5圖 萎縮腎各型ニ於ケル鐵反應ノ比較 (間質)



分ニ, 多クハ球形ノ小滴狀ヲナシテ存在シ, Hämosiderinハ係蹄ノ内被細胞内ニ見ラレル. 又稀ニBowmansche Kapsel自身或ハ其ノ内腔ノ滲出液ガ瀰漫性ニ青色ニ染色サレルコトモアル.

細尿管上皮ニ於テハ前述ノ如ク2様ノ鐵反應ガ認めラレタ. 第1ハHämosiderinデ, 特有ノ濃染小顆粒ヲナシ, 上皮内鐵物質ノ大部分ヲ占メル. 第2ハ瀰漫性ニ青色スルモノデ, 好ンデHämosiderinヲ多量ニ含有スル上皮細胞ニ, 然シ又是ヲ缺ク上皮ニモ發現スル. 更ニ稀ニハ上皮細胞ノ輪廓ノミガ青染

スルヲ見ル事モアル. 鐵反應ヲ示ス上皮ハ殆ンド全部主部ニ限ラレ, 潤管及ビ集合管ノ上皮ニ是ヲ證明シタノハ1~2例ニ過ギズ, Henlesche Schleifeノ上皮ニハ一度モ發見シナカツタ.

連續切片ニヨリ檢索スルニ, Hämosiderinヲ有スル主部上皮ノ所屬絲毬體ハ略々正常ニ見エ, 良ク保タレテキル場合ガ最も多ク, 假令變化ガアツテモ, 一部ニ病變(就中極メテ輕微ナ部分的壊死)ヲ示スニ過ギナイ. 主部自身モ亦變性ヲ來サズ, 作用能力ノ十分ナルモノデアリ事ガ多イ. 即チHämosiderinハ比較的健康ナNephronノ上皮ニ好ンデ發現スルト稱シ得ル. 是ニ反シ, 青色浸漬ハ健全ナ上皮ニモ出現スルガ, 又變性ノ相當強イ上皮ニモ屢々認めラレル.

細尿管ノ内容ハ腎組織中最モ屢々鐵反應ヲ示ス箇所デアリ, 且ツ其ノ含鐵物質ノ大部分ヲ占メルモノハ鐵石灰デ, 粗大ノ顆粒狀圓嚢トシテ, 細尿管内ニ一定ノ場所ヲ定メズ發見セラレル. 然シ稍々乳頭ニ近イ部ニ多イ傾向ガアル. 時ニ細尿管内ニ破壞セラレツ、アル赤血球ノ集團ガ陽性ニ染出サレル事ガアルガ, 其ノ青染ノ度ハ極メテ弱ク, 同時ニ其ノ附近ノ上皮ガ屢々瀰漫性ニ青染シ, 或ハHämosiderinkörnchenヲ含有スル. 又稀ニ上皮内ノHämosiderinガ管腔内ニ溢出遊離シ, 或ハ含鐵上皮ガ脱落シテ腔内ニ存在スルコトハ前述ノ通りデアル.

血管ノ壁及ビ内容ハ前者ト共ニ最モ屢々鐵反應ノ陽性ナ場所デアル. 血管壁デハ青色浸漬及ビ鐵石灰ノ2種が見ラレ, 前者ハ靜脈デモ證明セラレルガ, 遙カニ屢々小葉間動脈及ビ小動脈ニ現ハレ, 瀰漫性ニ淡染シ, 一部ハ不定形ノ微細顆粒ヲナシテ全壁ヲ浸漬スル事ガアル. 又鐵石灰沈著ハ動脈内層ノ硬化性病竈ニ相當シテ認めラレル. 次ギニ血管内容ノ陽性物質ハ此ノ鐵石灰ノ離斷シタルガ如キモノ及ビ崩潰シツ、アル赤血球ノ一部デアル(即チ概ネ人工產物Artefaktト考ヘラレル). 萎縮腎ニ特有ノ變化タル細小血管, 就中輸入管ノ肥厚セル壁ニモ含鐵物質ガ沈著シ, 其ノ高度ナ壁肥厚ト相俟ツテ, 血管内腔ヲ明視シ得ズ, 恰カモ血管ガ含鐵物質ニ依リ充塞セラレタカノ如ク見ユル事モアル. 斯様ナ場合連續切片デ追及スルト, 該輸入管ニ連絡スル絲毬體係蹄ニモ鐵沈著ヲ證シ, 更ニ同一Nephronノ細尿管内ニ鐵石灰圓嚢ヲ屢々發見シタ.

間質結締織ニ於ケル鐵反應モ青色浸漬及ビHämosiderinノ2種デアリガ, 一般ニハ其ノ好發部位ヲ限定シ難イ. 但シ細尿管上皮ニ高度ノHämosiderinablagerungガ存スル場合, 該上皮ノ固有膜及ビ其ノ直グ周圍ノ結締織細胞ニ屢々之ヲ認ムルハ注目ニ價スル.

Hämosiderinニ就テ云ヘバ, 該物質ハ他ノ部ヨリモ細尿管上皮内ニ遙カニ高度ニ現ハレ, 且ツ夫レハ惡性萎縮腎ニ於テ甚ダ卓越シテ居ル. 故ニ萎縮腎各型ノ鐵反應陽性率ノ差ガ細尿管ニ於テ最モ著シイノハ(第2圖)主トシテHämosiderinノ含有量ノ著差ニ基ツクト解セラレル.

考 按

萎縮腎ニ發現スル鐵反應ハ前述ノ如ク多彩デ, 陽性物質ニモ種々アリ, 又出現スル場所モ異ナ

ル。此ノ事ハ該物質ノ生成ヲ單一的ニ考ヘルコトヲ困難ナラシメル。

所謂鐵石灰ノ沈著ハ今日デハ先ヅ溶液狀トナレル鐵(Fe-Ionen)ガ沈著シ、是ニCa-Ionenガ加ハツテ生ズルト解セラレル(Ehrlich)。腎ニ於テモ同様ノ機序ニ從ツテ沈著スルモノデアラウ。鐵石灰ノ沈著ハ壞死型萎縮腎デ他型ニ比シ著シク高度デ、其ノ好發部位ハ血管系(小動脈ヨリ絲體係蹄)及ビ細尿管内デアル。前者デハ硬化性病竈、sog. hyaline Degeneration der Arteriolen(Benda)及ビ所謂壞死ニ陥ツタ絲體係蹄ノ3者デ特ニ頻回且ツ高度ニ發現スル。就中、後2者ハ病理發生上ヨリハ略々同種ノモノト看做サレ、Hueckニ依レバ血漿中ノ或種ノ蛋白質ガ内被細胞層ヲ通過シテ外方ニ出デ、此處ニ凝固沈著シタモノデアル。余ハ是ト同様ニシテ、Fe-Ionen(或ハ赤血球自身)及ビCa-Ionenガ或ハ蛋白質ト同時ニ、或ハ蛋白質ノ沈著ヲ來シタ後ニ血管外ニ滲出シ、前記病變個所ニ鐵石灰沈著ヲ齎ラスト思考スル。細尿管内ノ鐵石灰圓嚢ハ既存ノ尿圓嚢ニ鐵及ビ石灰ガ沈著シタモノデ、實際ニ尿圓嚢ノ一部ニノミ鐵石灰ガ沈著セル像ヲ見ル事ガ尠ク無イ。猶此ノ際鐵及ビ石灰ノ由來並ビニ到達系路ヲ一元的或ハ斷定的ニ説明スルハ不可能デアル。

一般ニHämosiderinノ生成及ビ沈著ニ關シテハ、人體ニ於テモ動物實驗的ニモ多數ノ研究ガアリ、殆ンド枚擧ニ追ナシ。然シ腎ノHämosideroseニ就テハ貧血、溶血等ニ際シテノ研究ガ少數アルノミデ、而モ其ノ成績及ビ見解モ甚ダ區々デアル(Biondi, Henriques u. Okkels, Ulrich等)。Aschoffハ絲體腎炎ニ於ケルHämosiderinノ細尿管上皮沈著ヲ血液圓嚢ヨリノ再吸收ナリト解釋シ、之ニ反シLubarsch, Shimura一派ハHämoglobinノ靜脈注射ニヨツテ必ず主部上皮ニHämosiderinヲ認め、腎盂ヨリ注入スレバ之ヲ認めナイトイフ動物實驗の見地カラ、人體腎ノHämosiderinablagerungハ排泄ナリト主張スル。此ノ兩派ノ見解ハ尿生成ノ問題ト一脈ノ關聯ヲ持チ、他方尿生成ニ就テハ今日未ダ萬人ノ承認スルガ如キ定説ガ無イ(但シ一般ニハ再吸收説ガ有力デアル)。從ツテ茲ニ兩説ノ當否ヲ批判シ、或ハHämosiderinablagerungノ成因ヲ一方的ニ斷定シテ説述スル事ハ不可能デアル。

余ノ成績デハ細尿管上皮内ノHämosiderinノ量ハ壞死型萎縮腎デ壓倒的ニ多量デアル。他面恩師木村教授及ビ鬼川博士ガ再三注意ヲ喚起セラレタ如ク、壞死型即チ惡性萎縮腎デハ血尿ヲ見ル事必ズシモ稀デ無ク、爲メニ臨床診斷ヲ誤マラシメル事ガアル。更ニ本型ノ萎縮腎ヲ組織學的ニ精査スレバ、大多數デNephron内ニ多少共赤血球ノ存スルヲ證ス。是ニ反シ他型ノ萎縮腎デハ斯カル所見ハ非常ニ稀デアル。故ニ余ハ細尿管上皮ノHämosiderinablagerungヲ解説スルニ、先ヅ此ノ顯微鏡的血尿ト關聯セシメルノガ公正妥當デアルト信ズル。即チ微量ナリト雖、長期間ニ亘ル血尿ニ際シ、Nephron内ニ出デタ赤血球ノ一部ガ崩潰シ、遊離シタHämoglobinガ細尿管上皮ニ吸收セラレ、此處デHämosiderinニ轉化スルト解釋スルノデアル。Nephron内ノ

赤血球ノ發現トHämosiderinノ形成トノ間ニハ一定ノ時間的ノ距リガ有ル故、叙上ノ見解ヲ所見ノ實際ニ基ヅイテ立證スル事ハ甚ダ困難デアルガ、余ハ往々細尿管内ニ分解シツ、アル赤血球集團ノ傍ラノ上皮ガHämosiderinヲ有スルヲ認メタ。此ノ所見ハ或ハ上ノ見解ヲ支持スルモノト看做シ得ルデアラウ。又Hämosiderinablagerungハ常ニ或程度迄機能ヲ營爲セルNephronニノミ發見セラレタ。換言スレバ完全ニ荒廢シ、何等ノ機能ヲ有シナイ、從ツテ血尿ヲモ起シ得ナイ絲體係蹄ニ隸屬スルNephronニハHämosideroseガ發來セズ。是モ亦余ノ見解ニ有力ナ支持ヲ與ヘル事實デアル。

以上ハ假リニ再吸收説ニ準據シタモノデアルガ、今日猶此ノ説ヲ峻拒スル學者モアル故、以上ノ解釋ヲ直チニ最後の斷案トシテ強調シ得ナイ。然シ今日ノ知見ニ於テハ是ガ最も可能ナル且ツ最も妥當ナル見解デアルト考ヘル。孰レニセヨ、此ノ問題ハ尿生成ノ生理ガ確定シタ後、今一度再検討セラル可キモノデアラウ。

Berliner Blau-Reaktionデ青色浸漬ヲ示ス物質ノ本態ハ全然不明デアル。尠ク共蛋白質ト結合シタ鐵(例ヘバHämoglobin, sog. Kerneisen等)ガ斯様ニ反應ヲ呈シナイ。故ニ假リニ血色素ニ由來シタモノトスルモ、一應Hämosiderinニ迄變化シ、是ガ生前或ハ死後ニ分解シ、其ノ際遊離シタFe-Ionenト考ヘラレル。或ハ一部ハsog. Mitfärbungデアラウ。

第1圖デ見ル如ク、壞死型萎縮腎デハ腎實質全般ニ亘リ、鐵反應陽性物質ガ他ノ病型ト比較シ得ヌ程多量デアル。是ハ本病型デ細尿管上皮ノHämosiderose、血管系ニ於ケル鐵石灰沈著及ビ細尿管内ノ鐵石灰圓嚢ガ特ニ多量或ハ高度ナル事ニ基因スル。

結 論

1) Berliner Blau-Reaktionヲ施行シ、萎縮腎312例ノ鐵反應ヲ檢スルニ、腎全般ニ於ケル該反應ノ陽性率ハ萎縮型(檢索例208)、増殖型(73例)、壞死型(31例)ノ順ニ増加シ、又壞死型ニ強陽性ガ多イ。腎組織ノ各部、殊ニ細尿管上皮又ハNephronノミニ就キ通覽スルモ、同上ノ傾向ガ明瞭ニ看取サレル。

2) 鐵反應陽性物質ノ主體ハ鐵石灰及ビHämosiderinデ、兩者ハ共ニ壞死型萎縮腎デ他型ニ比シ著シク多量デアル。

3) 鐵石灰ハ血管系(小動脈ヨリ絲體係蹄)及ビ細尿管腔ニ好發シ、前者デハ硬化性病竈、細小動脈ガsog. hyaline Degenerationヲ來セル壁及ビ壞死ニ陥レル絲體係蹄ニ沈著スル。又後者デハ尿圓嚢ニ沈著シ、鐵石灰圓嚢ヲ形成スル。

4) Hämosiderinハ主トシテ細尿管主部ノ上皮細胞内ニ發現シ、壞死型萎縮腎デ特ニ多量ナル點ヨリ、其ノ成因ハ該病型ニ見ル顯微鏡的血尿ト密接ニ關係ヲ有スト思ハレル。

稿ヲ了ヘルニ臨ミ、恩師木村教授及ビ松岡助教授ノ御指導並ビニ御教示ニ深謝シ奉ル。

文 献

- 1) **Aschoff, L.**, Pathologische Anatomie, Bd. 2, 6. Aufl., 1923, S. 457.
- 2) **Biondi, C.**, Beitr. z. pathol. Anat. u. z. allg. Pathol., Bd. 18, 1895, S. 174.
- 3) **Henriques u. Okkels, H.**, Ztschr. f. Zellforschg., Bd. 12, 1930, S. 155.
- 4) **Kikawa, K.**, Mitteil. üb. allg. Pathol. u. pathol. Anat., Bd. 9, 1937, S. 201.
- 5) **Lubarsch, O.**, Handb. d. speziell. pathol. Anat. u. Histol. v. **Henke u. Lubarsch**, Bd. 6, Tl. 1, 1925, S. 547.
- 6) **Shimura, K.**, Virchows Arch., Bd. 251, 1924, S. 464.
- 7) **Ulrich, K.**, Frankf. Ztschr. f. Pathol., Bd. 9, 1912, S. 425.

昭和十三年十月五日印刷
昭和十三年十月十日發行

(非賣品)

東北帝國大學醫學部病理學教室內

振替口座(仙臺五八四六番)

發行所 男也會

仙臺市支倉通一番地

編輯者 松岡茂

仙臺市國分町八十八番地

印刷人 笹氣幸治

仙臺市國分町八十八番地

印刷所 笹氣印刷所

電話 三六一三番

381
448

終

